福岡市埋蔵文化財年報
VOL.19

— 平成 16（2004）年度版 —

2006

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、平成16年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。ここ数年来、開発事業に起因する事前審査及び緊急調査件数は相対的に減少する傾向がみられましたが、平成15年度から民間の個人・共同住宅建設等を中心に一転して増加に転じ、平成16年度は申請件数こそ前年度とほぼ同様でしたが、照会件数、緊急調査件数、調査面積は大幅な伸びをみせました。これは社会状況の変化を反映しているとともに、埋蔵文化財の周知化が進み、開発関係各位の文化財保護に対する理解が深められつつある状況を示していると思われます。なお、公共事業に伴う審査は減少の傾向が続いております。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　植木とみ子

例　言

・本書は、埋蔵文化財課が平成16年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
・本書に記載ある報告のうち、調査番号0402、0405、0406、0408、0409、0412、0424、0432、0443、0450、0456、0464、0465、0469、0470、0474、0478、0489、0491、0492の20調査は、この年報をもって、本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、既刊であり、刊行年度については各報告の文末に記載している。
・Ⅳの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
・本書は濱石哲也が編集した。

表紙写真：元岡・桑原遺跡群第42次調査（調査番号0451）調査風景

目　次

頁

Ⅰ　平成16年度文化財部の組織と分掌事務　2
Ⅱ　開発事前審査　3
Ⅲ　発掘調査　12
Ⅳ　平成16年度発掘調査概要および報告　19
Ⅴ　平成16年度刊行報告書一覧　151
Ⅵ　平成16年度福岡市新指定文化財　153

Ⅰ　平成16年度文化財部の組織と分掌事務

- 文化財部　53
  - 文化財整備課　12
    - 管理係（事６）　部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化施設の管理
    - 整備係（文２事２）　文化財指定、史跡の保存・整備
    - 主　査（学１）　文化財調査等
  - 課長（鴻臚館跡調査担当）　2
    - 主　査（文１）　鴻臚館跡の調査
  - 埋蔵文化財課　27
    - 調査第１係（文６）　課の庶務、早良区・城南区・西区に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - 主任文化財主事（文３）
    - 調査第２係（文８）　国庫補助事業及び中央区・博多区・東区・南区に係る埋蔵文化財の発掘調査
    - 主任文化財主事（文３）
    - 事前審査係（文４）　公共及び民間開発事業の埋蔵文化財に係る事前調査
    - 主任文化財主事（文１）
    - 主　査（文１）　文化財交流センター開設準備
  - 課長（大規模事業等担当）　5
    - 主　査（文４）　大規模事業埋蔵文化財の発掘調査
  - 埋蔵文化財センター　6
    - 運営係（文２事２）　施設の管理運営、考古学的資料の収集・保存・展示
    - 主任文化財主事（文１）

埋蔵文化財課の職員構成（職員はすべて文化財専門職）

◇埋蔵文化財課長	山口譲治
調査第１係長	田中壽夫
係員（文化財主事）	加藤良彦　田上勇一郎　松浦一之介　阿部泰之　木下博文
主任文化財主事	松村道博　杉山富雄　宮井善朗
調査第２係長	池崎譲二
係員（文化財主事）	荒牧宏行　長家　伸　中村啓太郎　大塚紀宜
	星野恵美　藏冨士寛　赤坂　亨
主任文化財主事	山崎龍雄　佐藤一郎　吉武　学
事前審査係長	濱石哲也
係員（文化財主事）	久住猛雄　本田浩二郎　井上繭子
主任文化財主事	吉留秀敏
主　　査	井澤洋一
◇課長（大規模事業等担当）	力武卓治
主　　査	米倉秀紀
係員(文化財主事)	池田祐司　屋山　洋　上角智希

Ⅱ 開発事前審査

概要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存についての協議等を行っている。分布地図には埋蔵文化財包蔵地の範囲を示し、その範囲内および隣接地（包蔵地範囲から外へ50mまで）の開発については埋蔵文化財確認の申請を求めている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を求めている。また個々の事業の実施にあたっては改めて申請を求めている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者、不動産取引関係者、一般市民等の文化財分布地図の閲覧や建築等の計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

審査内容

開発事業等に伴う事前審査件数は、公共事業774件（うち事業照会662件）、民間事業1,207件の計1,981件であった（表１）。審査件数は平成12年度をピークに減少傾向をみせ、15年度は一転して増加に転じたものの、16年度はやや減少した。これは公共事業が昨年度に比べ32件減少したことによるもので、民間事業は微増で件数としては昨年度に続き事前審査開始以来最高となった。

申請内容をみると、事業別では公共112件のうち上下水道が20件（18%）、道路17件（15%）、売却10件（９%）と続き、他は10件未満である。ちなみに事業照会では上下水道58%、道路17%、学校７%、他は３%未満である。民間は1,207件のうち、個人住宅515件（43%）、共同住宅359件（30%）、これにその他の住宅をあわせると全体の74%を住宅建築で占めることになる。その次は不動産取引等69件（６%）、店舗64件（５%）、事務所・社屋43件（４%）、他は１%内外ににとどまる。

申請地を区別に見ると（表２）、事業地はここ数年の傾向として都心部の博多区及び西部地区に偏る傾向がある。具体的には、博多区の349件（26.5%）が最も多く、西区の252件（19.1%）、早良区の235件（17.8%）、南区193件（14.6%）、城南区138件（10.5%）、東区120件（9.1%）、中央区が最も少なく32件（2.4%）となる。これはほぼ15年度と同様の傾向を示す。なお申請地のうち、約28%にあたる371件は埋蔵文化財包蔵地外（隣接地含む）である。

表1　平成7～16年度事前審査件数推移

事業	内訳	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
公共	事業照会審査件数	560	561	566	674	872	1,107	1,084	783	671	662
	申請件数									135	112
	審査件数計	560	561	566	674	872	1,107	1,084	783	806	774
民間	窓口照会件数					2,832	3,597	4,540	4,662	4,292	5,842
	FAX照会件数									524	1,499
	照会件数計					2,832	3,597	4,540	4,662	4,816	7,341
	申請（審査）件数	739	899	689	636	1,001	1,041	969	915	1,204	1,207
公・民審査件数計		1,299	1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053	1,698	2,010	1,981

継続および取り下げを除いた審査は書類（907件、70%）、試掘（367件、28%）、踏査（27件、2%）で行い、その結果、開発同意178件（14%）、慎重工事928件（71%）、工事立会72件（６%）、発掘調査104件（８%）、要協議（開発未定で遺跡有り）19件（１%）の指示を行った。

また、民間業者等による窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は5,842件、ファックスでの照会は1,499件（民間照会あわせて7,341件）で、前年度に比べ照会が136%、ファックスが286%と大幅な増加をみせた。これは宅地取引、土地評価等に際し、埋蔵文化財の有無の調査が浸透したことによるものと考えられる。ちなみに照会を区別の割合でみると、多い順に博多区22%、南区17%、中央区16.0%、東区13%、早良区13%、西区10%、城南区９%と15年度と同じ傾向を示し、博多区以外は必ずしも申請件数とつながらない。

試掘調査

試掘調査は公共42件、民間323件のあわせて365件（うち16年度申請分310件）について実施した（表３）。昨年度に比べ23件の減少となった。区別では博多区133件、西区68件、早良区58件、南区51件、城南区32件、東区26件、中央区７件と15年度の申請と同じ順であるが、その割合は博多区が全体の36%を占めるに至っている。これは申請数の多さもさることながら、博多、比恵、那珂遺跡群での共同住宅等の開発が多いことに起因していると考えられる。また包蔵地外での試掘は62件、約17%をしめたが、昨年度より割合、件数とも減少した。

埋蔵文化財包蔵地の改訂

試掘調査や踏査などに基づき、63遺跡（重複有り）で包蔵地の改訂を行った。新たに発見されたのは東区唐原稲葉遺跡、見直しや統合によりコノリ遺跡、元岡・桑原遺跡群、福岡城長土手跡を設定した。また開発が遺跡全体に及んだ小笹遺跡など９遺跡を申請不要地とし、他は包蔵地の一部除外、拡大･縮小、隣接地の解除を行った。

埋蔵文化財の周知化がいっそう進み、窓口照会件数は増加の一途をたどっている。

表2　平成16年度事前審査内訳

区名	事業	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）でみた判断指示の結果																	区別審査件数		照会件数(註)
		開発同意			慎重工事			工事立会			発掘調査			協　議			審査継続	取り下げ			
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘			公民別計	区計	
東	公共	2	0	0	7	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	120	99
	民間	20	1	3	60	0	11	2	0	5	2	0	2	1	0	0	0	1	108		956
博多	公共	2	0	1	18	0	4	4	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	33	349	147
	民間	11	0	12	136	1	58	12	0	18	17	0	33	2	1	8	1	6	316		1586
中央	公共	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4	32	66
	民間	1	0	1	17	0	5	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	28		1187
南	公共	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	193	67
	民間	34	15	4	82	0	34	3	0	2	2	0	10	0	0	3	0	0	189		1230
城南	公共	5	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	138	47
	民間	12	1	3	83	1	21	3	0	1	1	0	2	0	0	1	0	0	129		629
早良	公共	1	0	1	11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	17	235	83
	民間	17	2	2	136	1	35	4	0	2	5	0	12	0	0	0	2		218		923
西	公共	1	0	1	19	0	4	3	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	33	252	150
	民間	20	0	3	127	3	42	9	0	1	2	0	5	1	1	1	4		219		763
小計	公共	12	0	4	61	0	14	7	0	0	3	0	7	0	0	0	4	0	112	1319	662
	民間	115	19	28	641	6	206	35	0	30	29	0	65	4	2	13	7	7	1207		7341
合計		127	19	32	702	6	220	42	0	30	32	0	72	4	2	13	11	7			

（註）照会の公共は事業照会件数、小計には複数区にまたがる３件を含む。民間は窓口およびFAX照会の合計、小計には不明67件を含む。

表3　試掘調査一覧

凡例：受付番号は年度（平成）－申請者種別（1 公共　2　民間）－申請者種別ごとの受付通し番号。開発内容のその他は売買、土地取引など。有無は試掘で遺構、遺物が確認されたもの○、なし×。指示の要協議は遺跡があったものの開発計画が未定のもの。発掘調査の数字は平成 15 年度に調査に入った遺跡の調査番号。各区とも公共事業を先に置き、試掘調査日順で列べた。

東　区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-1-018	大字西戸崎	海の中道遺跡群隣接	国	公園	2004/06/02	×	慎重工事	267	
14-1-140	蒲田 2 丁目	蒲田部木原遺跡群	福岡市	公民館	2004/06/16	○	発掘調査	86	0469
16-1-034	馬出 1 丁目	包蔵地外	国	その他	2004/06/30	×	開発同意	106	
16-1-038	香椎 4 丁目	香椎宮遺跡	福岡県	その他	2004/07/08	×	慎重工事	115	
10-1-020	馬出 5 丁目	箱崎遺跡	福岡市	道路	2004/07/12	○	発掘調査	122	0437
07-1-050	馬出 1 丁目	箱崎遺跡	福岡市	区画整理	2004/07/21	×	慎重工事	130	
16-1-050	馬出 1 丁目	箱崎遺跡	福岡市	区画整理	2005/03/09	○	発掘調査	390	
15-2-1117	唐原 5 丁目	唐原稲葉遺跡	個人	共同住宅	2004/04/08	○	発掘調査	5	0427
15-2-1114	馬出 1 丁目	箱崎遺跡	個人	個人住宅	2004/04/09	×	慎重工事	10	
15-2-1183	多々良 1 丁目	顕孝寺址	個人	共同住宅	2004/05/10	○	慎重工事	39	
16-2-0099	馬出 5 丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2004/05/13	○	要協議	99	
16-2-0058	下原 1 丁目	包蔵地外	個人	共同住宅	2004/05/20	×	開発同意	212	
16-2-0134	香椎 2 丁目	香椎A遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/05/27	○	慎重工事	60	
16-2-0133	三苫 7 丁目	三苫遺跡群	個人	畑	2004/05/28	○	工事立会	66	
16-2-0298	蒲田 3 丁目	蒲田部木原遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/23	○	工事立会	96	0439
16-2-0315	三苫 6 丁目	三苫遺跡群	一般業者	宅地	2004/06/29	×	慎重工事	105	
16-2-0283	箱崎 3 丁目	元寇防塁隣接	一般業者	共同住宅	2004/06/30	×	開発同意	104	
16-2-0285	箱崎 1 丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2004/07/13	○	発掘調査	128	
16-2-0399	馬出 4 丁目	元寇防塁	一般業者	仮設テント	2004/08/05	×	慎重工事	157	
16-2-0549	箱崎 3 丁目	元寇防塁隣接	個人	個人住宅	2004/09/03	×	慎重工事	186	
16-2-0625	千早 2 丁目	名島城跡	個人	共同住宅	2004/11/04	○	慎重工事	253	
16-2-0782	蒲田 3 丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	倉庫	2004/11/25	○	工事立会	282	
16-2-0775	和白 1 丁目	唐原遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/07	×	慎重工事	291	
16-2-0875	唐原 6 丁目	唐原稲葉遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/22	○	慎重工事	310	
16-2-0929	箱崎 1 丁目	箱崎遺跡	個人	個人住宅	2005/01/27	○	慎重工事	347	
16-2-1083	千早 2 丁目	名島城跡	個人	診療所	2005/03/08	×	慎重工事	387	

博多区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
15-1-129	榎田 1 丁目	包蔵地外	空港周辺整備機構	騒音斉合施設	2004/04/14	○	要協議	20	
16-1-027	三筑 1 丁目	三筑遺跡	福岡市	中学校	2004/06/23	×	慎重工事	98	
15-1-089	山王 1 丁目	山王遺跡	福岡市	下水道	2004/06/30	○	発掘調査	109	0459
15-1-099	千代 1 丁目	堅粕遺跡群	福岡市	公民館	2004/07/12	×	慎重工事	116	
16-1-042	麦野 3 丁目	麦野A遺跡群	福岡県	住宅解体	2004/07/21	○	慎重工事	131	
16-1-052	博多駅前 1 丁目	博多遺跡群	福岡市	下水道	2004/08/25	×	慎重工事	173	
16-1-060	吉塚 6 丁目	吉塚本町遺跡群	福岡市	道路	2004/09/08	○	慎重工事	185	
16-1-067	那珂 3 丁目	那珂遺跡群	福岡市	小学校	2004/09/15	○	発掘調査	199	0456
16-1-057	三筑 2 丁目	三筑遺跡	福岡市	公民館	2005/02/01	○	発掘調査	354	
16-1-094	寿町 3 丁目	南八幡遺跡群	福岡市	その他	2005/02/09	×	慎重工事	353	
15-2-1113	堅粕 3 丁目	堅粕遺跡群	個人	店舗	2004/04/06	○	慎重工事	11	
15-2-1149	麦野 3 丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/06	×	慎重工事	13	
16-2-0003	堅粕 3 丁目	堅粕遺跡群	個人	店舗	2004/04/06	○	発掘調査	11	
16-2-0024	井尻 5 丁目	井尻B遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/12	○	慎重工事	14	
15-2-1124	那珂 2 丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/12	×	発掘調査	19	0408
15-2-1167	博多駅南 2 丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/04/15	○	慎重工事	16	
16-2-0001	那珂 6 丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2004/04/15	○	要協議	18	0421
15-2-1068	板付 4 丁目	板付遺跡	一般業者	その他	2004/04/22	○	要協議	30	
16-2-0037	板付 5 丁目	板付遺跡	一般業者	その他	2004/04/22	×	要協議	29	
15-2-1102	西月隈 5 丁目	板付東遺跡隣接	一般業者	店舗	2004/04/22	×	開発同意	27	
16-2-0035	博多駅南 5 丁目	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2004/04/28	○	発掘調査	33	
16-2-0088	博多駅南 6 丁目	比恵遺跡群	個人	その他	2004/05/07	×	慎重工事	40	
15-2-0406	祇園町	博多遺跡群	宗教法人	個人住宅兼寺院	2004/05/07	○	発掘調査	47	0426

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-2-0017	諸岡２丁目	諸岡B遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/12	○	発掘調査	59	
16-2-0069	諸岡６丁目	笹原遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/13	×	慎重工事	48	
16-2-0157	麦野５丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2004/05/13	×	慎重工事	49	
16-2-0031	千代１丁目	堅粕遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/20	○	工事立会	53	
16-2-0053	東那珂２丁目	東那珂、雀居遺跡隣接	個人	事務所	2004/05/25	○	慎重工事	58	
16-2-0212	御供所町	博多遺跡群	個人	個人住宅兼鍼灸院	2004/06/01	○	要協議	103	
16-2-0233	空港前２丁目	下臼井遺跡隣接	個人	共同住宅	2004/06/01	×	開発同意	63	
16-2-0143	三筑２丁目	麦野B遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/01	×	慎重工事	62	
15-2-1190	古門戸町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/06/15	×	工事立会	87	
16-2-0188	諸岡２丁目	諸岡B遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/17	×	慎重工事	90	
16-2-0165	下呉服町	博多遺跡群	一般業者	その他	2004/06/17	×	慎重工事	89	
16-2-0104	諸岡３丁目	諸岡A遺跡群隣接	一般業者	社屋	2004/06/17	×	開発同意	88	
16-2-0270	那珂１丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/23	○	工事立会	72	
16-2-0250	上呉服町	博多遺跡群	個人	その他	2004/06/29	○	要協議	107	
16-2-0251	上呉服町	博多遺跡群	個人	その他	2004/06/29	○	要協議	107	
16-2-0318	新和町１丁目	雑餉隈遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/07/06	○	発掘調査	114	0460
16-2-0312	諸岡５丁目	笹原遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/07	○	慎重工事	119	
16-2-0350	井相田３丁目	井相田A遺跡群	個人	診療所	2004/07/13	○	慎重工事	127	
16-2-0275	金の隈１丁目	金隈遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/20	×	慎重工事	136	
16-2-0337	竹下５丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/20	○	発掘調査	138	0455
16-2-0383	博多駅南５丁目	比恵遺跡群	個人	個人住宅	2004/07/20	○	発掘調査	147	0447
15-2-1151	住吉３丁目	住吉神社遺跡	一般業者	共同住宅	2004/07/21	○	発掘調査	137	0446
16-2-0346	吉塚２丁目	吉塚祝町遺跡	個人	共同住宅	2004/07/27	○	工事立会	142	
16-2-0234	板付４丁目	高畑遺跡	一般業者	共同住宅	2004/07/27	○	慎重工事	134	
16-2-0329	昭南町２丁目	雑餉隈遺跡群	個人	個人住宅	2004/07/27	○	発掘調査	135	0445
16-2-0276	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	個人	事務所	2004/08/03	○	発掘調査	150	0449
16-2-0395	東那珂２丁目	東那珂遺跡群	一般業者	工場	2004/08/03	×	慎重工事	156	
16-2-0274	中呉服町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/08/03	○	発掘調査	158	0479
16-2-0398	金の隈３丁目	持田ヶ浦遺跡	法律事務所	その他	2004/08/05	○	要協議	151	
16-2-0378	月隈６丁目	上月隈B遺跡	個人	共同住宅	2004/08/05	×	慎重工事	159	
16-2-0446	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	個人	個人住宅	2004/08/10	○	慎重工事	152	
16-2-0410	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2004/08/10	○	工事立会	153	
16-2-0442	月隈４丁目	立花寺B遺跡群	個人	店舗	2004/08/12	○	要協議	167	
16-2-0365	中呉服町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/08/17	○	工事立会	166	
16-2-0423	上川端１丁目	博多遺跡群	個人	共同住宅	2004/08/19	×	慎重工事	168	
16-2-0450	堅粕５丁目	吉塚遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2004/08/19	○	慎重工事	162	
16-2-0468	相生町２丁目	南八幡遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/08/24	×	慎重工事	175	
16-2-0420	諸岡４丁目	諸岡B遺跡群	個人	個人住宅	2004/08/24	×	慎重工事	176	
16-2-0458	千代１丁目	堅粕遺跡群	一般業者	その他	2004/08/26	○	要協議	178	
16-2-0451	吉塚２丁目	吉塚遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/08/26	×	開発同意	179	
16-2-0411	諸岡３丁目	諸岡A遺跡群	個人	共同住宅	2004/08/26	×	慎重工事	181	
16-2-0493	月隈６丁目	上月隈B遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/08/31	×	慎重工事	188	
16-2-0485	博多駅南６丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/09/09	○	発掘調査	207	
16-2-0529	麦野４丁目	麦野A遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/09/14	×	開発同意	200	
16-2-0379	昭南町１丁目	雑餉隈遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/09/14	○	工事立会	206	
16-2-0554	諸岡２丁目	諸岡B遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/14	○	工事立会	211	
16-2-0336	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	個人	個人住宅	2004/09/15	○	発掘調査	－	0450
16-2-0537	東光寺町２丁目	那珂遺跡群	一般業者	店舗	2004/09/21	○	発掘調査	208	0454
16-2-0589	堅粕４丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/22	○	工事立会	215	
16-2-0387	那珂３丁目	那珂遺跡群	一般業者	住宅兼診療所	2004/09/22	×	工事立会	216	
16-2-0343	山王１丁目	比恵遺跡群	一般業者	社屋	2004/09/22	○	発掘調査	160	0467
16-2-0569	板付４丁目	高畑遺跡	個人	共同住宅	2004/09/27	○	慎重工事	218	
16-2-0604	麦野３丁目	麦野A遺跡群	一般業者	店舗	2004/09/30	○	工事立会	219	
16-2-0611	寿町２丁目	南八幡遺跡群	個人	個人住宅兼医院	2004/09/30	○	慎重工事	223	
16-2-0610	住吉３丁目	住吉神社遺跡	一般業者	共同住宅	2004/10/05	×	工事立会	230	
16-2-0637	昭南町２丁目	雑餉隈遺跡群	個人	個人住宅	2004/10/07	○	慎重工事	224	
16-2-0019	大字下月隈	宝満尾東遺跡	一般業者	老人ホーム	2004/10/08	×	慎重工事	234	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-2-0616	博多駅南５丁目	比恵遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2004/10/12	○	慎重工事	236	
16-2-0652	麦野６丁目	麦野C遺跡群	一般業者	社屋	2004/10/12	×	慎重工事	242	
16-2-0595	井相田３丁目	麦野C・井相田遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/10/12	×	慎重工事	235	
16-2-0662	住吉３丁目	住吉神社遺跡隣接	個人	共同住宅	2004/10/19	×	開発同意	239	
16-2-0618	店屋町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/10/19	○	発掘調査	241	
16-2-0608	金の隈３丁目	持田ヶ浦古墳群	一般業者	宅地造成	2004/10/21	×	慎重工事	243	
16-2-0666	山王２丁目	山王遺跡	個人	共同住宅	2004/11/02	○	発掘調査	264	0468
16-2-0698	相生町２丁目	南八幡遺跡群	一般業者	店舗	2004/11/02	○	発掘調査	251	0465
16-2-0635	東雲町１丁目	麦野C遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/02	○	慎重工事	257	
16-2-0646	月隈３丁目	下月隈A遺跡群	一般業者	菜園造成	2004/11/05	×	慎重工事	268	
16-2-0519	竹下３丁目	那珂遺跡群	一般業者	工場	2004/11/09	○	発掘調査	260	0490
16-2-0700	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/09	○	発掘調査	262	0477
16-2-0737	博多駅南３丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/11/11	○	発掘調査	273	
16-2-0657	那珂２丁目	東那珂遺跡群	個人	個人住宅	2004/11/16	×	慎重工事	269	
16-2-0718	西月隈６丁目	井相田D遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/16	×	慎重工事	270	
16-2-0655	南本町２丁目	麦野B遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/30	×	慎重工事	273	
16-2-0723	吉塚３丁目	吉塚遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/11/30	○	慎重工事	284	
16-2-0780	東平尾２丁目	久保園遺跡	一般業者	その他	2004/11/30	○	要協議	285	
16-2-0739	西春町１丁目	中ノ原遺跡隣接	個人	共同住宅	2004/12/07	×	開発同意	290	
16-2-0596	東雲町２丁目	麦野C遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/09	○	発掘調査	340	
16-2-0799	博多駅南６丁目	比恵遺跡群	個人	集会所	2004/12/15	○	要協議	302	
16-2-0808	祇園町	博多遺跡群	一般業者	その他	2004/12/16	○	要協議	304	
16-2-0832	祇園町	博多遺跡群	一般業者	その他	2004/12/16	○	要協議	305	
16-2-0806	板付５丁目	板付遺跡	一般業者	その他	2004/12/16	○	要協議	306	
16-2-0738	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	個人	事務所	2004/12/22	○	慎重工事	309	
16-2-0027	博多駅南５丁目	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/24	○	発掘調査	316	0480
16-2-0678	上呉服町	博多遺跡群	一般業者	病院	2004/12/27	○	工事立会	312	
16-2-0903	山王２丁目	山王遺跡	一般業者	社屋	2005/01/05	○	発掘調査	320	
16-2-0851	竹丘町２丁目	麦野C遺跡群	個人	その他	2005/01/06	×	慎重工事	319	
16-2-0897	千代１丁目	堅粕遺跡群	一般業者	共同住宅	2005/01/06	×	工事立会	321	
16-2-0834	諸岡３丁目	諸岡A遺跡群	一般業者	その他	2005/01/11	○	慎重工事	331	
16-2-0879	吉塚本町	吉塚本町遺跡群	個人	共同住宅	2005/01/11	○	発掘調査	330	
16-2-0882	那珂１丁目	那珂遺跡群（那珂八幡古墳）	個人	個人住宅	2005/01/18	○	工事立会	334	
16-2-0948	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	一般業者	店舗	2005/01/20	○	工事立会	333	
16-2-0830	那珂１丁目	那珂遺跡群	一般業者	寄宿舎	2005/01/21	○	慎重工事	336	
16-2-0898	金の隈３丁目	持田ヶ浦遺跡	一般業者	その他	2005/01/26	×	慎重工事	341	
16-2-0900	金の隈２丁目	持田ヶ浦古墳群隣接	一般業者	その他	2005/01/26	×	開発同意	342	
16-2-0901	金の隈２丁目	影ヶ浦遺跡群隣接	一般業者	その他	2005/01/26	×	開発同意	343	
16-2-0951	麦野２丁目	高畑遺跡	個人	共同住宅	2005/02/01	○	慎重工事	351	
16-2-0925	井相田３丁目	井相田A遺跡群隣接	一般業者	その他	2005/02/03	×	開発同意	355	
16-2-0671	板付４丁目	板付遺跡	一般業者	共同住宅	2005/02/03	○	発掘調査	363	0491
16-2-0935	吉塚３丁目	吉塚遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005/02/03	×	開発同意	352	
16-2-1039	堅粕４丁目	吉塚遺跡群	個人	その他	2005/02/10	○	要協議	364	
16-2-0896	麦野２丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2005/02/10	○	慎重工事	365	
16-2-0796	冷泉町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2005/02/10	○	発掘調査	369	
16-2-0988	金の隈１丁目	立花寺遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2005/02/17	×	開発同意	373	
16-2-0977	吉塚１丁目	吉塚祝町遺跡	個人	共同住宅	2005/02/24	○	慎重工事	377	
16-2-1002	那珂６丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2005/02/24	○	慎重工事	400	
16-2-1003	那珂６丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2005/02/24	○	慎重工事	400	
16-2-1071	諸岡５丁目	笹原遺跡群隣接	個人	その他	2005/03/08	×	開発同意	389	
16-2-1055	麦野５丁目	麦野A遺跡群	個人	個人住宅	2005/03/10	○	発掘調査	392	
16-2-1099	吉塚１丁目	吉塚祝町遺跡	個人	その他	2005/03/15	○	要協議	401	
16-2-1087	那珂４丁目	那珂君休遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/17	○	発掘調査	408	

中央区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
15-2-0442	警固２丁目	警固丸山古墳	学校法人	学校グランド	2004/04/05	○	発掘調査	110	0443
16-2-0096	地行２丁目	元寇防塁	個人	宅地造成	2004/05/20	×	慎重工事	56	
16-2-0130	今川２丁目	鳥飼遺跡隣接	宗教法人	寺院	2004/05/25	×	慎重工事	55	
16-2-0095	唐人町２丁目	元寇防塁	一般業者	個人住宅	2004/06/08	×	慎重工事	71	
16-2-0304	大濠２丁目	福岡城跡	個人	個人住宅	2004/07/08	×	慎重工事	118	
16-2-0938	舞鶴１丁目	舞鶴遺跡隣接	一般業者	その他	2005/02/17	×	包蔵地外	371	
16-2-0976	舞鶴１丁目	舞鶴遺跡	一般業者	立体駐車場	2005/02/17	×	慎重工事	372	

南　区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
15-1-126	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	国	その他	2004/04/21	○	慎重工事	24	
15-1-125	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	国	その他	2004/04/21	○	慎重工事	24	
15-1-124	大橋団地	包蔵地外	都市基盤整備公社	共同住宅	2004/04/28	×	開発同意	34	
16-1-041	老司４丁目	老司古墳	国	災害復旧	2004/08/04	×	慎重工事	145	
15-2-1088	大橋２丁目	和田田蔵池遺跡	一般業者	その他	2004/04/06	○	要協議	6	
16-2-0013	井尻４丁目	井尻C遺跡群	宗教法人	寺院	2004/04/15	○	慎重工事	17	
16-2-0011	西長住３丁目	樋井川B遺跡群隣接	個人	その他	2004/04/28	×	開発同意	32	
15-2-0995	三宅２丁目	三宅B遺跡	個人	個人住宅	2004/04/28	○	慎重工事	35	
16-2-0129	井尻４丁目	井尻B遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/01	×	慎重工事	61	
16-2-0213	横手３丁目	横手遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/02	○	発掘調査	65	0430
16-2-0065	弥永５丁目	警弥郷B遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/02	○	要協議	75	
16-2-0192	大平寺２丁目	羽黒神社遺跡隣接	個人	その他	2004/06/10	×	開発同意	83	
16-2-0224	花畑３丁目	花畑B遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/10	×	慎重工事	84	
16-2-0034	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/15	○	発掘調査	125	
16-2-0444	野多目１丁目	野多目A遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/29	○	慎重工事	141	
16-2-0406	折立町	井尻B遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2004/08/12	○	工事立会	165	
16-2-0443	老司３丁目	野多目C遺跡群	個人	共同住宅	2004/08/19	×	慎重工事	169	
16-2-0417	花畑３丁目	花畑B遺跡群隣接	個人	個人住宅	2004/08/24	×	慎重工事	177	
16-2-0526	野多目１丁目	野多目A遺跡群	個人	個人住宅	2004/08/27	○	慎重工事	180	
16-2-0534	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/09	○	慎重工事	194	
16-2-0538	井尻１丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/09	○	工事立会	196	
16-2-0539	井尻１丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/09	○	工事立会	196	
16-2-0422	井尻４丁目	井尻C遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/30	×	慎重工事	220	
16-2-0607	大平寺２丁目	大平寺遺跡群	一般業者	老人ホーム	2004/10/28	×	慎重工事	255	
16-2-0600	横手３丁目	横手遺跡群	個人	倉庫	2004/11/01	×	慎重工事	250	
16-2-0686	野多目２丁目	野多目C遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/11/11	○	慎重工事	265	
16-2-0761	横手南町	寺島遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/16	○	慎重工事	274	
16-2-0750	野多目１丁目	野多目A遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/11/18	×	慎重工事	275	
16-2-0744	大平寺２丁目	大平寺遺跡群	個人	個人住宅	2004/11/18	×	慎重工事	280	
16-2-0751	三宅２丁目	三宅B遺跡	個人	その他	2004/11/18	○	要協議	279	
16-2-0752	三宅２丁目	三宅B遺跡	個人	その他	2004/11/18	○	要協議	279	
16-2-0781	野間３丁目	中村町遺跡	一般業者	共同住宅	2004/12/02	○	発掘調査	303	0473
16-2-0747	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/07	○	工事立会	292	
16-2-0807	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/07	○	発掘調査	293	0474
16-2-0790	井尻４丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/09	○	慎重工事	298	
16-2-0791	井尻４丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/09	×	慎重工事	298	
16-2-0792	井尻４丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/09	×	慎重工事	298	
16-2-0793	井尻４丁目	井尻B遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/12/09	×	慎重工事	298	
16-2-0794	井尻４丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/09	○	慎重工事	298	
15-2-1020	和田３丁目	三宅B遺跡隣接	個人	共同住宅	2004/12/28	×	開発同意	317	
16-2-0915	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2005/01/05	○	発掘調査	318	0489
16-2-0916	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2005/01/05	○	発掘調査	318	0489
16-2-0930	井尻５丁目	井尻B遺跡群	個人	共同住宅	2005/01/05	○	発掘調査	318	0489
16-2-0813	井尻５丁目	井尻B遺跡隣接	個人	個人住宅	2005/01/11	×	慎重工事	322	
16-2-0599	柳瀬１丁目	弥永原遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005/01/11	×	慎重工事	323	
16-2-1041	老司１丁目	包蔵地外	一般業者	宅地造成	2005/02/23	×	開発同意	378	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-2-0679	曰佐４丁目	上曰佐遺跡	個人	共同住宅	2005/02/24	×	工事立会	376	
16-2-0987	老司３丁目	野多目C遺跡群	一般業者	タクシー営業所	2005/03/03	×	慎重工事	386	
16-2-1005	弥永５丁目	警弥郷B遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/03	○	発掘調査	388	
16-2-0660	若久１丁目	中村町遺跡	個人	共同住宅	2005/03/08	×	慎重工事	394	
16-2-1149	曰佐４丁目	上曰佐遺跡	個人	共同住宅	2005/03/24	×	慎重工事	413	

城南区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
14-1-077	樋井川２丁目	長尾遺跡群	福岡市	共同住宅	2004/06/09	○	要協議	81	
14-1-078	樋井川２丁目	長尾遺跡群	福岡市	共同住宅	2004/06/09	×	慎重工事	82	
16-1-036	南片江４丁目	鳥越古墳群隣接	国	その他	2004/10/14	×	開発同意	228	
16-1-093	七隈６丁目	飯倉E遺跡群	福岡市	駐車場	2004/12/08	×	慎重工事	286	
15-2-1130	片江５丁目	西ノ堤遺跡	個人	個人住宅	2004/04/01	×	慎重工事	3	
15-2-1168	梅林３丁目	飯倉F遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/07	×	慎重工事	8	
15-2-0923	長尾４丁目	長尾遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/07	○	発掘調査	12	0424
16-2-0018	樋井川３丁目	樋井川A遺跡	個人	その他	2004/04/21	×	慎重工事	28	
16-2-0111	七隈５丁目	飯倉E遺跡群	個人	個人住宅	2004/05/17	○	慎重工事	44	
15-2-1096	梅林２丁目	梅林遺跡隣接	個人	個人住宅	2004/05/18	×	包蔵地外	50	
16-2-0097	神松寺３丁目	浄泉寺遺跡隣接	医療法人	宅地造成	2004/05/25	×	慎重工事	54	
16-2-0183	梅林５丁目	飯倉H遺跡	個人	個人住宅	2004/06/08	×	慎重工事	77	
16-2-0245	田島２丁目	田島小松浦遺跡	個人	共同住宅	2004/06/23	×	慎重工事	95	
16-2-0225	梅林３丁目	飯倉F遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/07/07	×	慎重工事	112	
16-2-0226	梅林３丁目	飯倉F遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/07/07	×	慎重工事	112	
16-2-0352	荒江１丁目	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2004/07/15	×	慎重工事	133	
16-2-0174	茶山６丁目	茶山遺跡	町内会	町内会館	2004/07/22	×	慎重工事	140	
16-2-0340	七隈６丁目	飯倉E遺跡群	個人	個人住宅	2004/08/31	×	慎重工事	189	
16-2-0532	片江３丁目	片江A遺跡群隣接	個人	その他	2004/09/09	×	慎重工事	193	
16-2-0586	田島１丁目	田島A遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/09/28	○	発掘調査	296	0472
16-2-0575	梅林４丁目	梅林遺跡	個人	その他	2004/10/05	×	慎重工事	221	
16-2-0576	梅林４丁目	梅林遺跡隣接	個人	その他	2004/10/05	×	開発同意	222	
16-2-0592	梅林３丁目	干隈古墳群D群	一般業者	宅地造成	2004/10/05	○	発掘調査	281	0471
16-2-0688	長尾５丁目	長尾遺跡群	個人	共同住宅	2004/10/14	×	慎重工事	238	
16-2-0667	梅林２丁目	七隈古墳群隣接	個人	共同住宅	2004/10/26	×	慎重工事	248	
16-2-0730	七隈１丁目	飯倉B遺跡群	一般業者	宅地造成	2004/11/02	×	慎重工事	254	
16-2-0778	七隈３丁目	飯倉C遺跡群	一般業者	宅地造成	2004/11/22	×	慎重工事	278	
16-2-0809	長尾５丁目	長尾遺跡群隣接	個人	個人住宅	2004/12/13	×	慎重工事	295	
16-2-0803	干隈２丁目	飯倉E遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/14	×	慎重工事	300	
16-2-0884	七隈１丁目	飯倉B遺跡群	個人	個人住宅	2005/03/01	○	要協議	383	
16-2-1014	田島１丁目	田島A遺跡群	一般業者	その他	2005/03/01	○	要協議	379	
16-2-1077	田島１丁目	田島A遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/29	○	発掘調査	417	

早良区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
15-1-127	重留２丁目	浦田甕棺遺跡	国	その他	2004/04/21	○	慎重工事	25	
16-1-011	百道２丁目	元寇防塁隣接	国	拘置所	2004/05/12	×	開発同意	42	
16-1-058	東入部７丁目	東入部遺跡群	福岡市	消防署	2004/09/08	○	慎重工事	184	
13-1-820	次郎丸６丁目	次郎丸高石遺跡群隣接	福岡市	道路	2004/11/11	×	開発同意	261	
15-2-0962	西新２丁目	西新町遺跡隣接	一般業者	共同住宅	2004/04/01	×	慎重工事	1	
15-2-1139	四箇６丁目	四箇大町遺跡	一般業者	その他	2004/04/07	×	慎重工事	7	
15-2-1140	有田１丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2004/04/13	○	発掘調査	419	0417
15-2-1119	西新３丁目	西新町遺跡	個人	個人住宅	2004/04/20	×	慎重工事	22	
15-2-1142	田村１丁目	田村遺跡群	個人	共同住宅	2004/04/27	×	慎重工事	31	
15-2-1161	田村１丁目	田村遺跡群	個人	共同住宅	2004/04/27	×	慎重工事	36	
15-2-1158	小田部５丁目	有田遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/04/27	○	発掘調査	161	0428
15-2-1003	賀茂３丁目	免遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/06	○	慎重工事	38	
15-2-1204	原５丁目	原遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/06	×	慎重工事	37	
16-2-0046	有田２丁目	有田遺跡群	一般業者	宅地造成	2004/05/06	○	発掘調査	45	0429

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-2-0047	有田２丁目	有田遺跡群	一般業者	宅地造成	2004/05/06	○	発掘調査	45	0429
16-2-0043	小田部３丁目	有田遺跡群	個人	その他	2004/05/18	○	慎重工事	51	
16-2-0057	原６丁目	原遺跡群	個人	個人住宅	2004/05/18	○	慎重工事	52	
16-2-0162	次郎丸３丁目	次郎丸遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/10	×	慎重工事	79	
16-2-0272	田村２丁目	田村遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/22	×	慎重工事	93	
16-2-0295	次郎丸１丁目	次郎丸高石遺跡	個人	その他	2004/06/22	×	慎重工事	94	
16-2-0305	四箇６丁目	四箇東遺跡群	個人	店舗	2004/07/01	×	慎重工事	102	
16-2-0227	小田部５丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2004/07/05	○	発掘調査	171	0438
16-2-0141	梅林６丁目	梅林八幡古墳隣接	個人	宅地造成	2004/07/07	×	開発同意	111	
16-2-0334	重留１丁目	重留村下遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/15	○	発掘調査	126	0453
16-2-0348	野芥３丁目	野芥遺跡群隣接	個人	個人住宅兼店舗	2004/07/15	×	慎重工事	129	
15-2-0847	次郎丸２丁目	次郎丸遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/22	×	慎重工事	143	
16-2-0367	次郎丸４丁目	次郎丸遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/29	×	慎重工事	149	
16-2-0436	梅林７丁目	クエゾノ遺跡	個人	個人住宅	2004/08/10	×	慎重工事	154	
16-2-0435	藤崎１丁目	藤崎遺跡	一般業者	共同住宅	2004/08/17	○	発掘調査	172	0461
16-2-0511	重留４丁目	重留村下遺跡	一般業者	共同住宅	2004/08/17	×	慎重工事	164	
16-2-0492	梅林６丁目	クエゾノ遺跡	個人	個人住宅	2004/09/13	○	工事立会	210	
16-2-0562	早良２丁目	内野隈山遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/09/16	○	慎重工事	201	
16-2-0632	有田７丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2004/10/08	×	慎重工事	233	
16-2-0389	小田部１丁目	有田遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/10/12	×	慎重工事	231	
16-2-0480	賀茂４丁目	次郎丸高石遺跡群	個人	店舗	2004/10/12	×	慎重工事	237	
16-2-0405	賀茂４丁目	次郎丸高石遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004/10/26	×	慎重工事	247	
16-2-0674	飯倉２丁目	飯倉A遺跡群	個人	共同住宅	2004/11/04	×	慎重工事	252	
16-2-0695	小田部２丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2004/12/02	○	発掘調査	338	0484
16-2-0772	東入部２丁目	ヒワタシ遺跡群	個人	個人住宅	2004/12/14	×	慎重工事	299	
16-2-0583	野芥４丁目	野芥遺跡群隣接	個人	個人住宅	2004/12/24	×	慎重工事	315	
16-2-0816	田村５丁目	四箇遺跡群	一般業者	宅地造成	2004/12/24	×	慎重工事	314	
16-2-0840	高取２丁目	藤崎遺跡	個人	共同住宅	2005/01/11	○	発掘調査	339	0488
16-2-0853	賀茂２丁目	野芥大藪遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005/01/12	×	慎重工事	328	
16-2-0867	東入部３丁目	熊本、重留遺跡群隣接	個人	共同住宅	2005/01/13	×	慎重工事	329	
16-2-0968	東入部１丁目	熊本遺跡群	個人	個人住宅	2005/01/20	○	要協議	382	
16-2-0870	飯倉４丁目	原東遺跡群隣接	個人	個人住宅	2005/01/27	×	慎重工事	346	
16-2-0865	西新２丁目	西新町遺跡	一般業者	共同住宅	2005/02/01	×	慎重工事	349	
16-2-1021	次郎丸６丁目	次郎丸高石遺跡	生活協同組合	福祉施設	2005/02/08	×	慎重工事	357	
16-2-0981	賀茂４丁目	次郎丸高石遺跡	個人	共同住宅	2005/03/01	×	慎重工事	381	
16-2-0868	飯倉４丁目	原東遺跡	個人	共同住宅	2005/03/04	○	発掘調査	421	0492
16-2-1007	有田３丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/10	×	慎重工事	385	
16-2-1131	田村３丁目	田村遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/15	×	慎重工事	395	
16-2-1145	荒江２丁目	飯倉A遺跡群隣接	一般業者	その他	2005/03/15	×	慎重工事	396	
16-2-1158	野芥１丁目	野芥遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/15	×	慎重工事	397	
16-2-1103	南庄３丁目	有田遺跡群	個人	店舗	2005/03/22	×	慎重工事	407	
16-2-1105	田村７丁目	包蔵地外	個人	共同住宅	2005/03/24	×	開発同意	410	
16-2-1143	野芥２丁目	野芥遺跡群	個人	共同住宅	2005/03/29	○	発掘調査	423	
16-2-1180	有田１丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2005/03/29	○	発掘調査	418	

西　区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
13-1-233	今宿町	今宿五郎江、谷遺跡群	福岡市	区画整理	2004/04/19	○	発掘調査	421	0420
14-1-616	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	福岡市	道路	2004/05/12	○	慎重工事	57	
16-1-033	大字飯氏	飯氏遺跡群	土地開発公社	公民館用地造成	2004/07/28	○	発掘調査	139	
13-1-233	大字女原、徳永	徳永B遺跡、女原遺跡隣接	福岡市	区画整理	2004/08/18	×	慎重工事	170	
16-1-066	下山門３丁目	下山門乙女田遺跡隣接	福岡市	道路	2004/09/15	×	包蔵地外	198	
16-1-062	大字小呂島	神ノ下遺跡	福岡市	公園	2004/09/28	×	慎重工事	217	
16-1-084	今宿青木	青木遺跡群	福岡市	道路	2004/12/08	×	慎重工事	289	
16-1-088	大字宇田川原	千里遺跡群	福岡市	道路	2004/12/16	×	慎重工事	297	
13-1-233	大字女原	女原遺跡隣接	福岡市	区画整理	2004/12/20	×	包蔵地外	305	
16-1-096	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	土地開発公社	消防署用地造成	2004/12/22	○	発掘調査	311	0486

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘番号	発掘調査
16-1-090	大字元岡	元岡瓜尾貝塚	福岡市	溜池護岸	2004/12/22	×	慎重工事	307	
16-1-100	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	福岡市	道路	2005/01/17	○	発掘調査	420	
16-1-107	拾六町３丁目	コノリ遺跡群	福岡市	小学校	2005/03/09	○	発掘調査	391	
10-1-142	大字吉武	都地遺跡・都地泉水遺跡	土地改良組合	圃場整備	2005/03/15	○	発掘調査	414	
15-2-1085	今宿駅前１丁目	元寇防塁	個人	個人住宅	2004/04/01	×	慎重工事	2	
15-2-1207	大字吉武	都地遺跡	個人	個人住宅	2004/04/07	○	慎重工事	9	
15-2-1104	野方２丁目	野方久保遺跡	個人	個人住宅	2004/04/13	×	慎重工事	15	
15-2-1141	大字吉武	都地遺跡	個人	店舗	2004/04/13	○	慎重工事	4	
15-2-1202	周船寺２丁目	周船寺遺跡	個人	個人住宅兼店舗	2004/04/20	×	慎重工事	21	
16-2-0062	大字吉武	都地遺跡	一般業者	広告塔	2004/04/20	×	慎重工事	23	
15-2-1206	拾六町３丁目	湯納遺跡	個人	個人住宅	2004/05/13	×	慎重工事	43	
16-2-0144	上山門２丁目	城ノ原遺跡群	個人	共同住宅	2004/05/17	×	慎重工事	46	
16-2-0150	上山門２丁目	城ノ原遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/05/17	×	慎重工事	46	
16-2-0179	上山門２丁目	城ノ原遺跡群	個人	個人住宅	2004/05/17	○	慎重工事	46	
16-2-0142	大字千里	周船寺遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/03	○	発掘調査	132	0431
16-2-0137	石丸３丁目	石丸古川B遺跡近接	一般業者	共同住宅	2004/06/03	×	開発同意	69	
16-2-0138	大字飯氏	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2004/06/03	○	発掘調査	70	0442
16-2-0173	今宿青木	青木遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/08	○	慎重工事	78	
16-2-0155	今津字上塚	大原古墳群F群	一般業者	電波塔	2004/06/09	×	慎重工事	80	
16-2-0168	大字徳永	徳永B遺跡群	個人	個人住宅	2004/06/22	×	慎重工事	92	
16-2-0263	姪浜６丁目	姪浜遺跡群隣接	農業協同組合	店舗	2004/07/01	○	慎重工事	100	
16-2-0291	拾六町１丁目	橋本一丁田遺跡	一般業者	老人ホーム	2004/07/01	×	包蔵地外	101	
16-2-0297	能古字浦谷	北浦A遺跡	一般業者	宅地造成	2004/07/06	×	慎重工事	113	
16-2-0332	大字飯氏	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2004/07/08	×	慎重工事	121	
16-2-0349	小戸１丁目	元寇防塁	一般業者	店舗	2004/07/08	○	慎重工事	120	
16-2-0392	大字羽根戸	羽根戸原A遺跡群	一般業者	電波塔	2004/07/22	×	慎重工事	144	
16-2-0412	田尻１丁目	今宿田尻遺跡	個人	共同住宅	2004/07/29	○	慎重工事	155	
16-2-0390	拾六町５丁目	大林遺跡群	個人	共同住宅	2004/09/09	○	工事立会	195	
16-2-0527	大字飯盛	飯盛谷B遺跡	個人	個人住宅	2004/09/09	○	慎重工事	204	
16-2-0552	大字羽根戸	羽根戸原C遺跡隣接	一般業者	店舗	2004/09/09	×	慎重工事	197	
16-2-0327	今宿青木	青木遺跡群	個人	個人住宅	2004/09/16	○	慎重工事	203	
16-2-0568	姪浜６丁目	姪浜遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/09/16	○	慎重工事	209	
16-2-0574	下山門４丁目	下山門北小路遺跡	個人	宅地造成	2004/09/28	○	慎重工事	337	
16-2-0567	福重３丁目	福重稲木遺跡群	個人	個人住宅	2004/10/07	○	慎重工事	225	
16-2-0598	野方２丁目	戸切遺跡	個人	共同住宅	2004/10/07	×	慎重工事	226	
16-2-0515	泉３丁目	周船寺遺跡群	個人	個人住宅	2004/10/22	×	慎重工事	244	
16-2-0209	拾六町２丁目	拾六町亀田遺跡群	個人	共同住宅	2004/10/26	×	慎重工事	246	
16-2-0606	橋本１丁目	橋本辻遺跡隣接	個人	整骨院	2004/10/26	×	慎重工事	245	
16-2-0732	野方２丁目	野方勧進原古墳群	一般業者	宅地造成	2004/11/02	×	慎重工事	249	
16-2-0719	大字元岡	元岡・桑原遺跡群	個人	倉庫	2004/11/05	×	慎重工事	256	
16-2-0717	野方７丁目	野方岩名隈遺跡	一般業者	駐車場	2004/11/18	×	慎重工事	272	
16-2-0743	大字飯盛	飯盛谷B遺跡	個人	個人住宅	2004/11/22	×	慎重工事	276	
16-2-0756	石丸４丁目	拾六町平田遺跡隣接	一般業者	店舗	2004/11/22	×	慎重工事	277	
16-2-0802	今宿駅前１丁目	今宿遺跡群	個人	店舗	2004/12/09	×	慎重工事	294	
16-2-0825	今宿町	大塚遺跡	個人	個人住宅	2004/12/14	×	慎重工事	301	
16-2-0826	今宿町	大塚遺跡	個人	個人住宅	2004/12/14	○	慎重工事	301	
16-2-0839	姪浜６丁目	姪浜遺跡群	一般業者	共同住宅	2004/12/27	×	慎重工事	313	
16-2-0815	大字金武	都地遺跡群	個人	個人住宅	2005/01/13	○	発掘調査	326	
16-2-0852	大字金武	都地遺跡群	個人	宅地造成	2005/01/13	○	発掘調査	327	
16-2-0924	野方５丁目	野方中原遺跡	個人	共同住宅	2005/01/18	×	慎重工事	332	
16-2-0842	戸切２丁目	戸切巡町遺跡	個人	倉庫	2005/01/27	×	慎重工事	345	
16-2-0969	野方４丁目	野方塚原西遺跡	個人	個人住宅	2005/01/28	×	慎重工事	348	
16-2-0911	姪浜６丁目	姪浜遺跡群	個人	共同住宅	2005/02/15	×	慎重工事	366	
16-2-1056	大字飯氏	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2005/02/15	×	慎重工事	367	
16-2-1065	大字桑原	元岡・桑原遺跡群	個人	区画整理	2005/03/03	×	保留	422	
16-2-1076	横浜１丁目	今宿遺跡群	一般業者	共同住宅	2005/03/22	×	慎重工事	403	
16-2-1101	大字女原	女原笠掛遺跡	一般業者	その他	2005/03/22	×	慎重工事	404	
16-2-1167	今宿町	大塚遺跡	個人	個人住宅	2005/03/22	×	慎重工事	409	

Ⅲ 発掘調査

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第１係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第２係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転用地については、別途大規模事業等担当課を置き調査を実施している。また史跡整備にともなう確認調査を文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課が実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「埋蔵文化財資料の整理・収蔵要項」（昭和62年）に基づき、個々の遺跡に調査番号を付け、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下２桁と年度中の番号を組み合わせた４桁で表している。１遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡ごとに調査番号を付している。

平成16年度の概要

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は、表７に示したように14～15年度からの継続事業が６件、16年度新規事業が93件の計99件である（表４）。このうち12件が平成17年度に継続した。この調査件数中には記録作製を行った試掘調査３件（調査番号0439・0491・0492）および詳細分布調査１件（0493）も含まれる。民間事業に伴う発掘調査の件数がここ数年で最も多く、前年度に比べても20件も増加している。

表４　発掘調査件数の推移　（　）前年度からの継続件数

事　業	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
民　間	54 (2)	43 (4)	37 (0)	43 (0)	47 (0)	67 (1)
圃場整備	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (3)	2 (0)	4 (0)
公　共	33 (3)	34 (4)	22 (0)	18 (1)	27 (4)	28 (5)
合　計	88 (5)	78 (9)	61 (0)	62 (4)	76 (4)	99 (6)

表５　発掘調査面積の推移（㎡）

事　業	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
民　間	19,842	28,474	11,465	12,421	13,281	24,556
圃場整備	7,843	399	6,200	39,799	23,937	42,152
公　共	73,849	71,055	32,663	36,914	37,919	43,568
合　計	101,534	99,928	50,328	89,134	75,137	110,276

表６　平成16年度発掘調査総括表

区名	事業別	令達	受託	補助事業			市単費	小計	県教委	総計	調査主体別内訳					
				補助	補助＋民受	補助＋令達			民　間		埋蔵文化財課	大規模事業	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡県教委	民間調査機関
東	公共	4		1				5		10	5					
	民間		2	1	2			5			5					
博多	公共	2	2	1			1	6		39	6					
	民間		14	9	7		2	32	1		32					1
中央	公共			1				1		2			1			
	民間		1					1			1					
南	公共	2						2		7	2					
	民間		1	4				5			5					
城南	公共							0		3						
	民間		2	1				3			3					
早良	公共	3		1		2		6		18	6					
	民間		1	7	4			12			12					
西	公共	2	7	3		2	1	15		20	6	8		1		
	民間			4	1			5			5					
小計	公共	13	9	7	0	4	2	35	0	99	25	8	1	1	0	0
	民間	0	21	26	14	0	2	63	1		63	0	0	0	0	1
合　計		13	30	33	14	4	4	98	1	99	88	8	1	1	0	1

※補助事業には調査番号を付与した試掘3件を含む（東・博多・早良区の民間各１件）

今宿地区古墳群の詳細分布調査を除いた98件の平成16年度の発掘調査総面積は110,276㎡(古墳10基を含む)で、前年度に比べ約35,000㎡も増加した。事業別でも圃場整備が約18,200㎡、民間が約11,300㎡、さらに公共も5,600㎡とすべて増加している（表５）。個々の発掘調査の面積は、100㎡以下が26件、101～300㎡が24件、301～500㎡が17件、501～1,000㎡が11件、1,001～5,000㎡が15件、5001㎡～10,000㎡が３件、10,001㎡以上が２件となる。最も少ないのは那珂遺跡群第103次(調査番号0432)の６㎡、最も多いのが圃場整備に伴う乙石遺跡群第２次(0411)の24,241.6㎡である。平均発掘調査面積は1,125㎡（15年度1,015㎡）であるが、事業別では民間366㎡、圃場整備10,5380㎡、公共1,613㎡と差が大きい。

調査地点を区別に見ると、博多区が最も多く39件（15年度30件)、西区20件(19件)、早良区18件(10件)、東区10件（８件)、南区７件（４件)、城南区３件(３件)、中央区２件（１件）と続く。城南区以外では件数が増加し、とくに博多区の増加が著しい。博多区では博多遺跡群（５件)、那珂遺跡群（14件)、比恵遺跡群（７件）の３遺跡に集中し、区の調査の３分の２を占める。また、早良区では有田遺跡群（９件)、西区では九州大学移転用地及びその周辺にあたる元岡・桑原遺跡群（９件）での発掘調査が顕著である。

調査主体別では埋蔵文化財課が88件、大規模事業担当課による九州大学移転用地の調査が８件、文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課の史跡指定地の確認調査が各１件である。また民間調査機関が１件の調査を行った。この調査については、事業者、調査機関、教育委員会の三者で協定を結んだうえで発掘調査を実施した。

予算別では、国庫補助事業が51件（国補26件〈試掘含む〉、国補＋民間受託14件、国補＋令達４件)、公共受託事業が９件、民間受託事業が21件、令達事業が13件、市単費事業が４件である。国庫補助事業の増加が目立つが、これは補助の対象を平成16年度から個人事業者、零細企業まで拡大したことによるところが大きい。

表7　平成16年度調査一覧　（前年度からの継続含む）

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0242	元岡・桑原遺跡群	31		西	大字元岡字峯	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	公受	2,750,000	5,000.00		2002.10.01 継続	上角	14-1-18	MOT
0340	元岡・桑原遺跡群	35	元岡石ヶ原古墳	西	大字元岡字石ヶ原	大学移転用地造成 福岡市土地開発公社	公受	2,750,000	1,853.00 (1,853.00)	1	2003.05.20 2005.01.12	菅波 池田		MOT
0341	元岡・桑原遺跡群	36	経塚古墳	西	大字桑原字牛坂	大学移転用地造成 福岡市土地開発公社	公受	2,750,000	5,780.00 (8,000.00)	1	2003.09.01 2005.03.31	屋山		MOT
0362	吉塚祝町遺跡	2		博多	吉塚1丁目551、2丁目588	共同住宅建築 都市再生機構	公受	5,422	1,860.00 (2,160.00)		2004.02.03 2004.09.27	星野	14-1-774	YZI
0370	四箇船石遺跡群	7	（支石墓）	早良	四箇5丁目10	確認調査（保存） 福岡市教育委員会	国補		16.00 (56.00)		2004.03.10 2004.04.14	藏冨士		SHF
0371	元岡・桑原遺跡群	38	水崎城跡	西	大字元岡字大久保、金屎	大学移転用地造成 福岡市土地開発公社	公受	2,750,000	1,676.00 (1,816.00)		2004.03.08 2005.01.17	菅波 池田		MOT
0401	比恵遺跡群	91		博多	博多駅南4丁目168-1、168-2	共同住宅建築 個人	民受 国補	792	378.00		2004.04.01 2004.06.04	山崎龍	15-2-380	HIE
0402	中ノ原遺跡	1		博多	光丘3丁目21	個人住宅建築 個人	国補	331	230.44		2004.04.02 2004.04.19	本田	15-2-1178 15-2-1179	NNH
0403	南八幡遺跡群	12		博多	寿町3丁目28-1	共同住宅建築 一般企業	民受	2,089	1,253.00		2004.04.01 2004.06.15	中村	15-2-301	MHM
0404	元岡・桑原遺跡群	39		西	大字元岡字中ノ下2791、2792-1、2793-1、2794	幼稚園建設 学校法人	国補	7,057	880.00		2004.04.05 2004.04.16	松浦	15-2-301	MOT
0405	名子遺跡	1		東	名子3丁目716-1	共同住宅建築 一般企業	民受	4,283	342.00		2004.04.05 2004.04.28	荒牧	15-2-777	NAO
0406	立花寺遺跡群	7		博多	立花寺2丁目12-6	保育園増築 社会福祉法人	国補	1,528	71.60		2004.04.05 2004.04.16	大塚	15-2-1043	RGG
0407	五十川遺跡群	12		南	五十川1丁目629-1	個人住宅建築 個人	国補	210	149.70		2004.04.05 2004.05.10	赤坂	15-2-978	GJK
0408	那珂遺跡群	95		博多	那珂2丁目39-3、39-2の一部	個人住宅建築 個人	国補	135	82.50		2004.04.16 2004.04.27	藏冨士	15-2-1124	NAK
0409	香椎B遺跡群	7		東	香椎3丁目1446の一部、1447、1448の一部	宅地造成 個人	民受	1,458	227.20		2004.04.12 2004.04.30	阿部	15-2-917	KSB
0410	元岡・桑原遺跡群	40		西	大字桑原地内	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	民受	2,750,000	1,250.00		2004.04.07 2004.04.28	米倉	14-1-18	MOT
0411	乙石遺跡群	2		西	大字金武字乙石地内	金武地区圃場整備 金武吉武土地改良区	令達 国補	70,000	24,241.60		2004.04.05 2004.10.28	池田	10-1-142	OTA
0412	有田遺跡群	208		早良	小田部5丁目87-2、87-3	道路建設（南庄小田部線） 福岡市土木局	令達	4,000	91.00		2004.05.10 2004.06.07	田上	13-1-921	ART
0413	那珂遺跡群	96		博多	竹下5丁目452-1	消防分団車庫建築 福岡市消防局	令達	154	90.00		2004.04.05 2004.04.19	長家	15-1-21	NAK
0414	那珂遺跡群	97		博多	竹下5丁目地内	確認調査（保存） 福岡市教育委員会	国補	13,466	965.60		2004.04.20 2004.05.31	長家		NAK
0415	福岡城跡	51	鴻臚館22次	中央	城内1	確認調査（史跡） 福岡市教育委員会	国補		2,110.00		2004.04.01 2004.03.31	大庭		FUE
0416	有田遺跡群	209		早良	小田部5丁目49-2、50-1、51-2、54-1	共同住宅建築 個人	国補	603	67.00		2004.05.10 2004.05.21	田上	16-2-75	ART
0417	有田遺跡群	210		早良	有田1丁目12-9	個人住宅建築 個人	国補	218	40.00		2004.04.30 2004.05.21	松浦	15-2-1140	ART
0418	上広瀬遺跡群	1		早良	大字西字広瀬地内	石釜地区圃場整備 広瀬石釜土地改良区	令達 国補		10,800.00		2004.04.01 2004.11.12	加藤良	13-1-557	KHI
0419	広瀬遺跡	3		早良	内野8丁目1716	道路拡幅（荒平古賀線） 福岡市土木局	令達	2,500	87.00		2004.05.06 2004.06.07	加藤良	15-1-32	HRS
0420	今宿五郎江遺跡	10		西	今宿町172-1外4筆	伊都区画整理 福岡市都市整備局	令達	10,000	2,828.00 (2,998.00)		2004.04.04 2005.07.06	杉山	13-1-233	IZG

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0421	那珂遺跡群	98		博多	那珂6丁目67	共同住宅建築 個人	国補	250	65.00		2004.05.10 2004.06.11	荒牧	16-2-1	NAK
0422	那珂遺跡群	99		博多	東光寺町1丁目357-1	共同住宅建築 個人	民受 国補	1,741	1,049.00		2004.05.14 2004.07.30	吉武	15-2-960	NAK
0423	金武古墳群	7	乙石H群 (夫婦塚古墳2次)	西	大字金武1661～1663、1665～1668	確認調査(保存) 福岡市教育委員会	国補	2,800	4,031.90	2	2004.04.05 2004.10.28	池田		KOK-H
0424	長尾遺跡群	2		城南	長尾4丁目210	個人住宅建築 個人	国補	295	125.00		2004.05.24 2004.06.16	阿部	16-2-83	NGO
0425	那珂遺跡群	100		博多	竹下3丁目1-1	工場建設 一般企業	民受	111,519	447.00		2004.06.01 2004.07.30	長家	15-2-1013	NAK
0426	博多遺跡群	147		博多	祇園町4-9	寺社兼個人住宅建築 宗教法人・個人	民受 国補	2,322	588.60		2004.06.04 2004.12.16	大塚	15-2-406	HKT
0427	唐原稲葉遺跡	1		東	唐原5丁目154-1～4	共同住宅建築 個人	民受 国補	1,399	225.00		2004.06.08 2004.07.05	藏冨士	15-2-1117	THI
0428	有田遺跡群	211		早良	小田部5丁目193	共同住宅建築 個人	民受	1,576	433.00		2004.06.07 2004.07.23	松浦	15-2-1158	ART
0429	有田遺跡群	212		早良	有田2丁目20-10	個人住宅建築 個人	国補	264	195.00		2004.06.18 2004.07.23	田上	16-2-252 16-2-253	ART
0430	横手遺跡群	1		南	横手3丁目273-6	個人住宅建築 個人	国補	260	103.00		2004.06.18 2004.07.13	山崎龍	16-2-213	YKT
0431	周船寺遺跡群	16		西	大字千里447-4	個人住宅建築 個人	国補	179	97.00		2004.06.25 2004.07.30	阿部	16-2-142	SSJ
0432	那珂遺跡群	101		博多	竹下5丁目494、495の一部	共同住宅建築 個人	国補	339	6.00		2004.06.29 2004.06.30	中村	15-2-1095	NAK
0433	名島城跡	2	本丸跡	東	名島1丁目2405外	公園整備 福岡市都市整備局	令達	7,173	571.00		2004.07.01 2004.09.01	荒牧	14-1-11	NZE
0434	箱崎遺跡	46	20区、21区	東	箱崎1丁目4地内 馬出1丁目30	筥崎区画整理 福岡市土木局	令達		4,268.16		2004.07.01 2005.03.31	佐藤 赤坂	7-1-50	HKZ
0435	元岡・桑原遺跡群	41		西	大字元岡字峯	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	民受	2,750,000	2,000.00		2004.05.06 継続中	米倉	14-1-18	MOT
0436	博多遺跡群	148		博多	冷泉町482－2	共同住宅建築 一般企業	民受	258	204.00		2004.07.20 2004.09.28	藏冨士	15-2-769	HKT
0437	箱崎遺跡	47		東	馬出5丁目地内	道路建設(馬出東浜線) 福岡市土木局	令達	1,400	1,000.00 (1,071.00)		2004.07.20 2005.04.15	中村	10-1-20	HKZ
0438	有田遺跡群	213		早良	小田部5丁目170-1	個人住宅建築 個人	国補	201	106.00		2004.07.27 2004.08.12	田上	16-2-227	ART
0439	蒲田部木原遺跡群	8		東	蒲田3丁目522-1、523-1、512-1	個人住宅建築 個人	(試掘)	1,336	108.74		2004.07.27 2004.07.28	赤坂	16-2-298	KHH
0440	羽根戸古墳群	9	N群16号	西	大字羽根戸字大原734-1、735	農業用倉庫建設 個人	国補	1,601	333.00	1	2004.08.02 2004.09.16	松浦	16-2-457	HDK-N
0441	羽根戸古墳群	10	N群20・21号	西	大字羽根戸字大原733-1	個人資材置場建設 個人	国補	1,004	369.00	2	2004.08.23 2004.11.19	松浦	16-2-384	HDK-N
0442	周船寺遺跡群	17		西	大字飯氏968-1・970-1外2筆	共同住宅建築 個人	民受 国補	2,148	306.80		2004.08.04 2004.09.03	阿部	16-2-138	SSJ
0443	警固丸山古墳	1	前方部周溝	中央	警固2丁目2-1、5、2-2	学校グランド造成 学校法人	民受	9,162	112.00	1	2004.08.02 2004.10.07	山崎龍	15-2-442	KMY
0444	五十川遺跡群	13		南	五十川2丁目地内	道路建設(御供所井尻線) 福岡市土木局	令達		129.00		2004.08.02 2004.08.31	吉武	13-1-77	GJK
0445	雑餉隈遺跡群	16		博多	昭南町2丁目13	個人住宅建築 個人	国補	217	92.00		2004.08.03 2004.08.06	長家	16-2-329	ZSK
0446	住吉神社遺跡	1		博多	住吉3丁目44-1外3筆	共同住宅建築 一般企業	民受	681	381.00		2004.08.09 2004.09.27	長家	15-2-1151	SYJ
0447	比恵遺跡群	92		博多	博多駅南5丁目108-4	個人住宅建築 個人	国補	106	74.90		2004.08.03 2004.09.03	赤坂	16-2-383	HIE

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0448	有田遺跡群	214		早良	小田部5丁目60の一部	分譲住宅建築 零細企業	国補	158	128.00		2004.09.02 2004.09.16	田上	16-2-510	ART
0449	比恵遺跡群	93		博多	博多駅南4丁目217-1、217-4	貸事務所建築 個人	国補	232	89.00		2004.09.15 2004.10.07	荒牧	16-2-276	HIE
0450	比恵遺跡群	94		博多	博多駅南4丁目220の一部	個人住宅建築 個人	単費	323	36.00		2004.09.15 2004.09.22	荒牧	16-2-336	HIE
0451	元岡・桑原遺跡群	42		西	大字元岡字二又	大学移転用地造成 国立大学法人九州大学	民受	2,750,000	1,000.00		2004.10.01 継続中	米倉	14-1-18	MOT
0452	席田大谷遺跡群	7		博多	東平尾3丁目地内	道路建設(福岡空港線) 福岡市土木局	令達		363.00		2004.10.05 2004.11.19	吉武	10-1-273	OTN
0453	重留村下遺跡群	4		早良	重留1丁目500-1	店舗付共同住宅建築 個人	民受 国補	464	241.00		2004.10.04 2004.11.12	田上	16-2-334	SGM
0454	那珂遺跡群	102		博多	東光寺町2丁目23～26	大型複合店舗建築 一般業者	(民間)	11,050	7,000.00		2004.10.15 2005.04.15	岡三リビック株式会社 掘苑孝志	16-2-537	NAK
0455	那珂遺跡群	103		博多	竹下5丁目425	共同住宅建築 個人	民受 国補	749	350.00		2004.10.18 2004.11.25	長家	16-2-337	NAK
0456	那珂遺跡群	104		博多	那珂3丁目10-1	那珂小学校施設増築 福岡市保健福祉局	単費	18,520	19.40		2004.10.18 2004.10.25	藏冨士	16-1-67	NAK
0457	那珂遺跡群	105		博多	竹下5丁目59-1	共同住宅建築 一般企業	民受	872	745.00		2004.10.18 2005.01.17	山崎龍	16-2-631	NAK
0458	都地泉水遺跡	1		西	大字吉武地内	金武地区圃場整備 金武吉武土地改良区	令達 国補	20,000	5,760.00		2004.12.01 継続中	宮井 木下	10-1-142	TZS
0459	山王遺跡	2		博多	山王1丁目9	浸水対策施設建設 福岡市下水道局	公受		2,835.00		2004.11.01 2005.03.30	荒牧	15-1-89	SNN
0460	雑餉隈遺跡群	17		博多	新和町1丁目102-1	共同住宅建築 一般企業	民受	1,235	487.44		2004.11.01 2004.11.30	赤坂	16-2-318	ZSK
0461	藤崎遺跡	34		早良	藤崎1丁目64	共同住宅建築 個人	民受 国補	380	203.90		2004.11.01 2004.11.30	阿部	16-2-536	FUA
0462	三苫遺跡群	6		東	三苫6丁目1268	共同住宅建築 個人	民受 国補	542	194.60		2004.11.02 2004.11.19	藏冨士	16-2-617	MTM
0463	コノリ遺跡群	4		西	拾六町団地	共同住宅建築 福岡市建築局	令達	16,300	2,025.00		2004.11.17 2005.03.31	田上	13-1-66	KNR
0464	箱崎遺跡	48		東	馬出5丁目461-1	確認調査 福岡市教育委員会	国補	195	39.00		2004.11.18 2004.11.22	池崎 吉留		HKZ
0465	南八幡遺跡群	13		博多	相生町2丁目28	店舗建設(看板工事) 一般企業	単費	154	6.60		2004.11.22	久住	16-2-698	MHM
0466	有田遺跡群	215		早良	小田部5丁目60の一部	個人住宅建築 個人	国補	118	48.00		2004.12.01 2004.12.09	松浦	16-2-749	ART
0467	比恵遺跡群	95		博多	山王1丁目10-31	社屋建設 一般企業	民受	464	315.00		2004.12.01 2004.12.16	藏冨士	16-2-343	HIE
0468	山王遺跡	3		博多	山王2丁目13-3	共同住宅建築 個人	民受 国補	430	274.00		2004.12.01 2005.01.12	吉武	16-2-666	SNN
0469	蒲田部木原遺跡群	9		東	蒲田2丁目1084-1	公民館建築 福岡市環境局	令達	950	450.00		2004.11.26 2005.01.06	長家	14-1-140	KHH
0470	脇山A遺跡群	8		早良	大字脇山1729、1730	道路拡幅 早良区役所	令達		78.00		2004.12.08 2004.12.18	加藤	13-1-193	WAK
0471	干隈古墳群	3	D-1号墳	城南	梅林3丁目120-10、120-12、120-9	宅地造成 一般企業	民受	1,958	428.20	1	2004.12.13 2005.01.31	阿部	16-2-592	HSK-D
0472	田島A遺跡群	7		城南	田島1丁目443	共同住宅建築 一般企業	民受	2,249	147.00		2005.01.17 2005.02.17	松浦	16-2-586	TZA
0473	中村町遺跡	3		南	野間3丁目117、118	共同住宅建築 一般企業	民受	5,088	844.00		2005.01.11 2005.02.28	長家	16-2-781	NMM
0474	井尻B遺跡群	23		南	井尻5丁目163-3	共同住宅建築 個人	国補	227	21.80		2005.01.11 2005.01.14	藏冨士	16-2-931	IGB

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因 事業者	予算種別	申請面積（㎡）	調査面積（㎡）	古墳	調査開始 調査終了	担当者	審査番号	遺跡略号
0475	博多遺跡群	149		博多	上呉服町116、117、118	共同住宅建築 一般企業	民受	314	75.00 (110.00)		2005.01.11 2005.04.28	星野	15-2-1191	HKT
0476	那珂遺跡群	106		博多	那珂1丁目837-1	共同住宅建築 一般企業	民受	509	333.00		2005.01.11 2005.02.16	山崎龍	16-2-478	NAK
0477	那珂遺跡群	107		博多	東光寺町1丁目11の一部	共同住宅建築 個人	民受 国補	307	158.90		2005.01.17 2005.02.09	赤坂	16-2-700	NAK
0478	比恵遺跡群	96		博多	博多駅南4丁目43～48	店舗看板設置 一般企業	民受	7,659	42.00		2005.01.17 2005.01.21	大塚	16-2-837	HIE
0479	博多遺跡群	150		博多	中呉服町66	共同住宅建築 一般企業	民受	271	119.80		2005.01.17 2005.03.29	藏冨士	16-2-274	HKT
0480	比恵遺跡群	97		博多	博多駅南5丁目133、134	個人兼共同住宅建築 個人	民受 国補	451	242.00		2005.02.01 2005.03.08	荒牧	16-2-27	HIE
0481	五十川遺跡群	14		南	五十川2丁目地内	道路建設(御供所井尻線) 福岡市土木局	令達		480.00 (960.00)		2005.01.24 2005.06.03	吉武	13-1-77	GJK
0482	博多遺跡群	151		博多	上呉服町85、86	共同住宅建築 零細企業	民受 国補	275	162.80		2005.02.07 2005.03.23	大塚	15-2-1079	HKT
0483	吉武遺跡群	18		西	吉武183外	確認調査(史跡) 福岡市教育委員会	国補		720.00		2005.01.26 2005.03.09	宮井		YST
0484	有田遺跡群	216		早良	小田部2丁目 91,92-1,92-2	共同住宅建築 個人	民受 国補	1,915	937.00 (1,405.30)		2005.02.01 2005.04.26	阿部	16-2-695	ART
0485	上広瀬遺跡群	2		早良	大字西字広瀬地内	石釜地区圃場整備 広瀬石釜土地改良区	令達 国補	43,000	1,350.00		2005.01.11 継続	加藤良	13-1-557	KHI
0486	元岡・桑原遺跡群	43		西	大字元岡634-2外	消防署用地造成 福岡市土地開発公社	単費	529	38.87	1	2005.02.07 2005.03.08	池田	16-1-96	MOT
0487	那珂君休遺跡群	9		博多	那珂4丁目240	共同住宅建築 一般企業	民受	1,554	700.00		2005.02.10 2005.03.31	山崎龍	16-2-850	NKF
0488	藤崎遺跡	35	西皿山	早良	高取2丁目219-2外9筆	共同住宅建築 個人	民受 国補	3,599	200.00 (412.00)		2005.02.17 2005.05.17	松浦	16-2-840	FUA
0489	井尻B遺跡群	24		南	井尻5丁目163-4、163-5、163-6	共同住宅建築 個人(複数)	国補	436	66.00		2005.02.15 2005.02.25	吉武	16-2-972 16-2-973 16-2-931	IGB
0490	那珂遺跡群	108		博多	竹下3丁目1-1	工場建設 一般企業	民受	111,519	454.00		2005.03.08 2005.03.18	長家	16-2-519	NAK
0491	板付遺跡	70		博多	板付4丁目6-4	共同住宅建築 個人	(試掘)	1,906	240.80		2005.02.09 2005.02.10	吉留	16-2-671	ITZ
0492	原東遺跡群	3		早良	飯倉4丁目267-7	共同住宅建築 個人	(試掘)	529	36.00		2005.03.04	本田 吉留	16-2-868	HRH
0493	今宿地区古墳群		飯氏古墳群	西	西区大字飯氏地内	詳細分布 福岡市教育委員会	国補		－		2005.03.15 2005.03.28	加藤良		

※調査面積：年度をまたいで調査を実施した遺跡については平成16年度の調査面積。そのうち平成16年度または平成17年度前半期に調査が終了したものについては(　　)内に総調査面積を記した。

平成16年度発掘調査地点位置図

（●番号は19頁の発掘遺跡索引の位置番号と一致する）

Ⅳ　平成16年度発掘調査概要および報告

調査概要および報告は前年度からの継続分も含め表７の調査番号順に掲載している。ただし調査番号 0362 吉塚祝町遺跡２次および 0370 四箇船石遺跡群７次調査は昨年度の年報に掲載済みなので割愛した。下に五十音順順の索引をつけたが、このうち太字のものが報告である。各概要・報告中の図「1. 調査地点の位置」の（　　）内は、左から福岡市都市計画地図図幅番号・図幅名称・遺跡番号・地図の縮尺である。調査地点は地図中央に黒塗りで示した。

発掘遺跡索引

	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
あ	**有田遺跡群 208 次**	0412	1	43
	有田遺跡群 209 次	0416	1	48
	有田遺跡群 210 次	0417	1	49
	有田遺跡群 211 次	0428	1	63
	有田遺跡群 212 次	0429	1	64
	有田遺跡群 213 次	0438	1	75
	有田遺跡群 214 次	0448	1	92
	有田遺跡群 215 次	0466	1	114
	有田遺跡群 216 次	0484	1	137
	飯氏古墳群（今宿地区古墳群）	0493	2	150
	井尻Ｂ遺跡群 23 次	0474	3	126
	井尻Ｂ遺跡群 24 次	0489	3	142
	板付遺跡 70 次	0491	4	145
	今宿五郎江遺跡 10 次	0420	5	52
	乙石遺跡群２次	0411	6	42
か	**香椎Ｂ遺跡群７次**	0409	7	36
	金武古墳群７次	0423	8	55
	蒲田部木原遺跡群８次	0439	9	76
	蒲田部木原遺跡群９次	0469	9	117
	上広瀬遺跡群１次	0418	10	50
	上広瀬遺跡群２次	0485	10	138
	警固丸山古墳１次	0443	11	80
	五十川遺跡群 12 次	0407	12	33
	五十川遺跡群 13 次	0444	12	88
	五十川遺跡群 14 次	0481	12	134
	コノリ遺跡群４次	0463	13	110
さ	雑餉隈遺跡群 16 次	0445	14	89
	雑餉隈遺跡群 17 次	0460	14	107
	山王遺跡２次	0459	15	106
	山王遺跡３次	0468	15	116
	重留村下遺跡群４次	0453	16	98
	周船寺遺跡群 16 次	0431	17	66
	周船寺遺跡群 17 次	0442	17	79
	住吉神社遺跡１次	0446	18	90
た	田島Ａ遺跡群７次	0472	19	124
	唐原稲葉遺跡１次	0427	20	62
	都地泉水遺跡１次	0458	21	105
な	**那珂遺跡群 95 次**	0408	22	34
	那珂遺跡群 96 次	0413	22	45
	那珂遺跡群 97 次	0414	22	46
	那珂遺跡群 98 次	0421	22	53
	那珂遺跡群 99 次	0422	22	54
	那珂遺跡群 100 次	0425	22	60
	那珂遺跡群 101 次	0432	22	67
	那珂遺跡群 102 次	0454	22	99
	那珂遺跡群 103 次	0455	22	100
	那珂遺跡群 104 次	0456	22	101
	那珂遺跡群 105 次	0457	22	104
	那珂遺跡群 106 次	0476	22	128
な	那珂遺跡群 107 次	0477	22	129
	那珂遺跡群 108 次	0490	22	144
	長尾遺跡群２次	0424	23	56
	那珂君休遺跡群９次	0487	24	140
	中ノ原遺跡１次	0402	25	25
	中村町遺跡３次	0473	26	125
	名子遺跡１次	0405	27	29
	名島城跡２次	0433	28	69
は	博多遺跡群 147 次	0426	29	61
	博多遺跡群 148 次	0436	29	73
	博多遺跡群 149 次	0475	29	127
	博多遺跡群 150 次	0479	29	132
	博多遺跡群 151 次	0482	29	135
	箱崎遺跡 46 次	0434	30	70/71
	箱崎遺跡 47 次	0437	30	74
	箱崎遺跡 48 次	0464	30	111
	羽根戸古墳群９次	0440	31	77
	羽根戸古墳群 10 次	0441	31	78
	原東遺跡群３次	0492	32	146
	比恵遺跡群 91 次	0401	33	24
	比恵遺跡群 92 次	0447	33	91
	比恵遺跡群 93 次	0449	33	93
	比恵遺跡群 94 次	0450	33	94
	比恵遺跡群 95 次	0467	33	115
	比恵遺跡群 96 次	0478	33	130
	比恵遺跡群 97 次	0480	33	133
	広瀬遺跡３次	0419	34	51
	福岡城跡 51 次（鴻臚館跡）	0415	35	47
	藤崎遺跡 34 次	0461	36	108
	藤崎遺跡 35 次	0488	36	141
	干隈古墳群３次	0471	37	123
み	三苫遺跡群６次	0462	38	109
	南八幡遺跡群 12 次	0403	39	27
	南八幡遺跡群 13 次	0465	39	112
	席田大谷遺跡群７次	0452	40	97
	元岡・桑原遺跡群 31 次	0242	41	20
	元岡・桑原遺跡群 35 次	0340	41	21
	元岡・桑原遺跡群 36 次	0341	41	22
	元岡・桑原遺跡群 38 次	0371	41	23
	元岡・桑原遺跡群 39 次	0404	41	28
	元岡・桑原遺跡群 40 次	0410	41	41
	元岡・桑原遺跡群 41 次	0435	41	72
	元岡・桑原遺跡群 42 次	0451	41	96
	元岡・桑原遺跡群 43 次	0486	41	139
よ	横手遺跡群１次	0430	42	65
	吉武遺跡群 18 次	0483	43	136
ら	**立花寺遺跡群７次**	0406	44	31
わ	**脇山Ａ遺跡群８次**	0470	45	120

0242 元岡・桑原遺跡群第31次調査(MOT-31)

所在地	西区大字元岡字峯	調査面積	5,000㎡
調査原因	大学移転用地造成	担当者	上角 智希
調査期間	2000.10.1～継続中	処置	調査中

位置と環境　元岡・桑原遺跡群は玄界灘に突出する糸島半島の丘陵地帯に位置する。31次調査区は丘陵南側に開析する谷のひとつである。丘陵の南には水田が広がっているが、古代には丘陵の麓まで古今津湾が入り込んでいた。

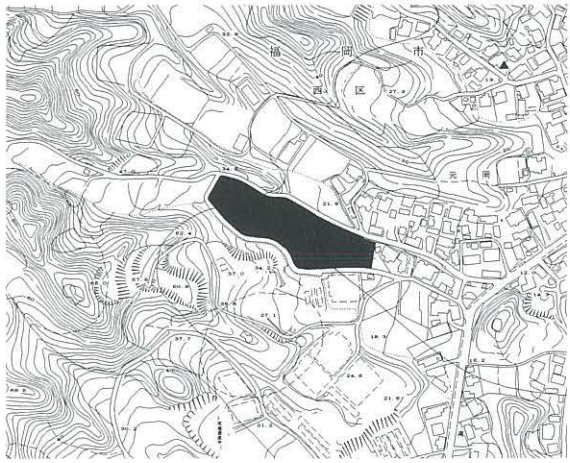
検出遺構　谷の包含層は大きく古代と古墳時代に分けられる。昨年度までに古代遺構面の調査を終了し、瓦窯址1基、瓦溜り、鍛冶炉・廃滓土壙・焼土壙などの鍛冶関連遺構30基程度などを検出した。

本年度は、谷底にあたる古墳時代の包含層の調査を行ない、全体の約2／3の範囲を終了した。谷の北側斜面上で数軒の竪穴住居跡を検出した。また、下流域の谷底の黒褐色粘土層からは、谷底面に完形のまま置かれた状況を示す土器群とともに、滑石製の子持勾玉2、臼玉多数が出土した。これらの遺物および出土状況から、ここで水に関する祭祀が行われたのではと推測する。

出土遺物　上述の滑石製子持勾玉、臼玉のほかに、古墳時代中後期の土師器、須恵器が出土している。谷両斜面上で検出した生活遺構がそれほど多くないので、出土する遺物の量もそれほど多くはない。ただ、完形に復元できる遺物の割合が相当に高い。また、中流域では土師器高坏が集中して出土する地点があった。弥生時代の黒曜石石鏃や今山産の石斧も少数ながら出土した。

まとめ　古墳時代については、住居跡などの生活関連遺構は少ない。谷底で出土した土器群や子持勾玉は、谷での祭祀に関連するものと考えている。

報告書は平成19年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(140　元岡　2782　1:8000)

2. 調査区下流部全景（南東から）

3. 子持勾玉出土状況

0340 元岡・桑原遺跡群第35次調査(MOT-35)

所在地	西区大字元岡字石ヶ原	調査面積	1,853㎡（古墳1基）
調査原因	大学移転用地造成	担当者	菅波 正人・池田 祐司
調査期間	2004.5.20～2005.1.12	処置	記録保存

位置と環境　元岡石ヶ原古墳は、水崎山から西北に向かって派生する標高70m前後の尾根頂部に築かれた前方後円墳である。

平成８年に墳丘規模、内部主体の調査を行い、15年度には墳丘上の調査をほぼ終えていた。本年度は墳丘のボーリング、土層断面の剥ぎ取り後に、墳丘盛土の掘削、地山成形面の調査、石室石材の移築等を行った。

検出遺構　新たに確認したものをあげる。後円部北側の前方部との間と、後円部南側の墳裾から１ｍほど内側に弧状に巡る溝を確認した。削平で失われた部分はあるが後円部を一周すると考えられる。

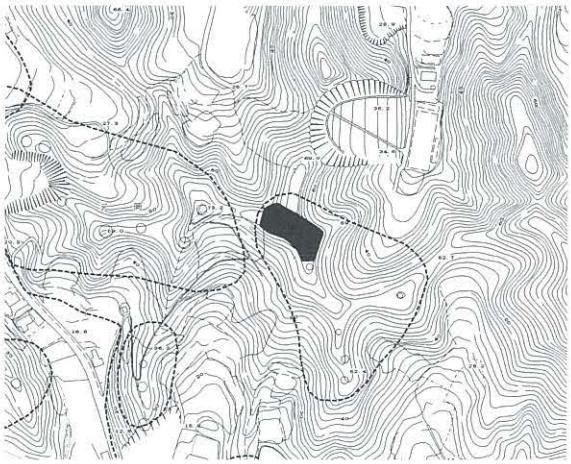
地山整形面は、旧表土が前方部の後円部側を除いてよく残り、旧地形を利用して築造されていることを追認した。

石室堀方は600×380cmほどの長方形で、旧表土面からの深さ25cmほどである。腰石を据える部分は幅80cmほどを掘り窪め、深さは石材に合わせて10cmから30cmを測る。

出土遺物　盛土中より須恵器が少量出土した。後円部北側にやや多い。また、旧表土中より黒曜石が出土している。

まとめ　石ヶ原古墳は、出土土器などからみて６世紀中頃に築造され、６世紀後半頃まで追葬されたと考えられ、元岡・桑原地域ではもっとも新しい前方後円墳として位置づけられる。自然の地形をうまく利用して築かれたこの古墳は、元岡地区のみならず糸島平野一帯からも望むことができる。

報告書は平成17年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(129　桑原　2782　1:8000)

2. 地山整形面全景（西側上空から）

3. 石室（西から）

0341 元岡・桑原遺跡群第36次調査(MOT-36)

所 在 地 西区大字桑原字牛坂
調査原因 大学移転用地造成
調査期間 2003.9.1～2005.3.31
調査面積 5,780㎡(古墳1基、総調査面積8,000㎡)
担 当 者 屋山　洋
処　　置 現地保存

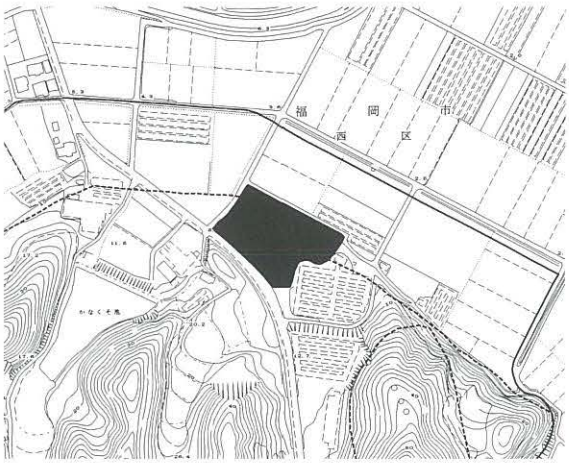
位置と環境　北東に延びる丘陵の先端に位置する。東側水田の古墳との高低差は12mを測り、古墳築造時は今津干潟に元岡川が注ぐ河口部であったと思われる。北側と南側に大きく谷が開いているため古墳がのる丘陵は干潟に突出していたと考えられる。調査地点は東側に傾斜する段々畑に造成されており、それをA～E区に分け、平成16年度はA区を中心に調査を行った。

検出遺構　A区では近代の盛土を除去した時点で約160基の近世墓基壇を検出した。近世墓は北側が破壊されており、もとは200基近いものと考えられた。その後墓域全体が盛土で下層に少なくとも２面の旧表土らしき面とそこからの墓の掘方を確認したため近世墓の総数は膨大な数になるものと思われる。埋葬施設は甕棺と木棺が主であり、昭和30年代頃から火葬に変わるものと思われる。副葬品は持たないものが多い。A区から少し離れて明治期の士族の墓を数基確認したが、副葬品に数珠をもつなどやや格差がみられた。A区の近世墓域では表土中やトレンチから細石刃や縄文土器片、古代須恵器、鉄滓、龍泉窯青磁など多時期の遺物が出土しており、盛り土下には古墳時代を含め各時期の遺構がある可能性が高い。経塚古墳は保存されるため一部掘り下げただけで調査が終了して遺物は少ないが、葺き石が良好な状態で出土している。2005年２月の福岡県西方沖地震で一部葺石等が崩れ落ちた。

出土遺物　古墳に伴うものとして須恵器器台、円筒埴輪片、家型埴輪片が出土した。

まとめ　葺石直上から埴輪片の他に青磁碗片も出土しており、古代末から中世にかけて墳頂部を削平したものと思われる。

報告書刊行予定は平成18年度である。



1. 調査地点の位置(129　桑原　2782　1:8000)

2. A区全体（西から）

3. 経塚古墳葺石出土状況（北東から）

0371 元岡・桑原遺跡群第38次調査(MOT-38)

所 在 地 西区大字元岡字大久保、金屎　　**調査面積** 1,676㎡（総調査面積1,816㎡）
調査原因 大学移転用地造成　　**担 当 者** 菅波 正人・池田 祐司
調査期間 2004.3.8～2005.1.17　　**処　　置** 記録保存

位置と環境　水崎城は標高95mの水崎山(標高95.4m)を本丸とする山城である。第38次調査は、この水崎山山頂から北へ、そしてさらに西へと延びる尾根を中心に調査を行った

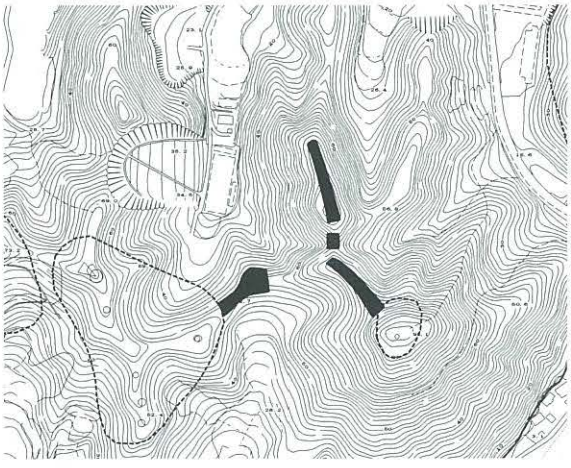
検出遺構　水崎山北側斜面と平坦な尾根(２区)との傾斜変換点で、丘陵を切断する竪堀と考えられる溝を検出した。頂部での深さ10cm、斜面では約１mを測る。幅は広いところで1.5m、底は10～20cm。斜面部分ではかなり急である。覆土は暗褐色から黒褐色の締まりない腐植土で底近くに礫が多く見られる。遺物は出土していない。

２区から北、西側に延びる尾根の鞍部でも丘陵を横断する溝を検出したが、１区ほど顕著ではない。城とは直接関係しないと考えられる。このほかに焼土坑を２基検出した以外に遺構は確認できなかった。

出土遺物　遺物はごく少なく、土師質の土器片がトレンチより数点出土したのみである。

まとめ　水崎山北側斜面に堀切を確認した以外に山城に直接関連する遺構は確認できなかった。水崎城の範囲は本丸を中心として急斜面の狭い範囲であったことが想定される

報告書は平成21年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(129　桑原　2782　1:8000)

2．調査区全景（上空から）

3．堀切（東から）

0401 比恵遺跡群第91次調査(HIE-91)

所在地	博多区博多駅南4丁目168-1、168-2	調査面積	378㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2004.4.1～2004.6.4	処置	記録保存

位置と環境　本調査区は比恵遺跡群の北側で、那珂川東岸沿いに細長く延びる低丘陵の先端部に位置し、標高は地表面で約6mを測る。調査区周辺では第7・13・39・81次調査区などがあり、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物が確認されている。周辺の調査や試掘成果によれば、調査区は北から浅い谷が入り込む地形上に立地する。

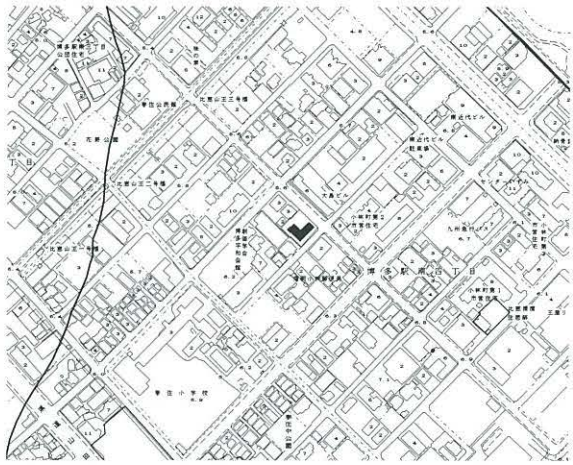
検出遺構　調査は試掘成果を基に行った。調査範囲は建物部分で、調査地を西側1区・東側2区に分割した。当初の予定は遺物包含層の調査で、遺構面は建物基礎で一部破壊を受けていたが、遺構の残りは意外に良く、遺物も多量出土した。

1区は台地から谷への落ち際で、深さ1.2m程の客土・現代水田土下に古墳時代後期の整地面と溝があり、その下に谷を埋める古墳時代前期以前の包含層がある。包含層上面で竪穴住居跡3棟と土坑3基を検出した。また谷底基盤面の八女粘土上面では、ピットなどを検出したが、残りは悪く上面からの掘り込みと思われる。2区は1区南側から東側の部分である。南側では竪穴住居跡の続き、東側では包含層を検出した。谷基盤面では土坑を1基検出した。

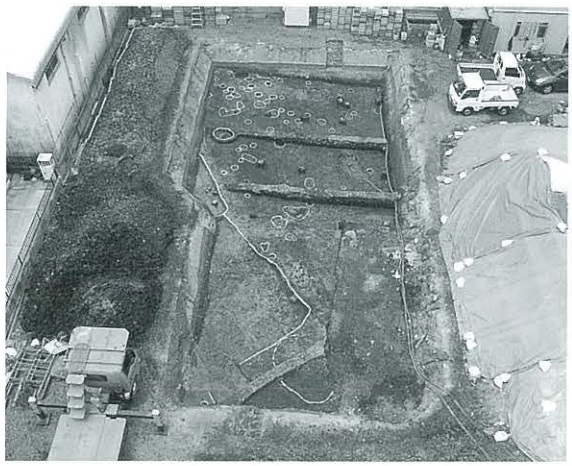
出土遺物　包含層や遺構からパンコンテナ391箱出土した。遺物の時期は弥生時代中期から古墳時代後期迄で、種類は弥生土器、古墳時代土師器・須恵器、石器などで、大半は弥生土器である。特筆すべきものとして、小形仿製鏡1面、鳥形土製品、朝鮮半島系土器、外来系土器などがある。

まとめ　調査での成果は弥生時代の鏡1面を検出したことと、古代谷部の浅い窪みを整地していたことである。周囲で検出されている大型建物跡群と関連するのであろうか。

本調査の成果は平成17年度報告予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)



2. 1区第3面遺構検出状況（南から）

3. 小形仿製鏡出土状況（西から）

0402 中ノ原遺跡第1次調査(NNH-1)

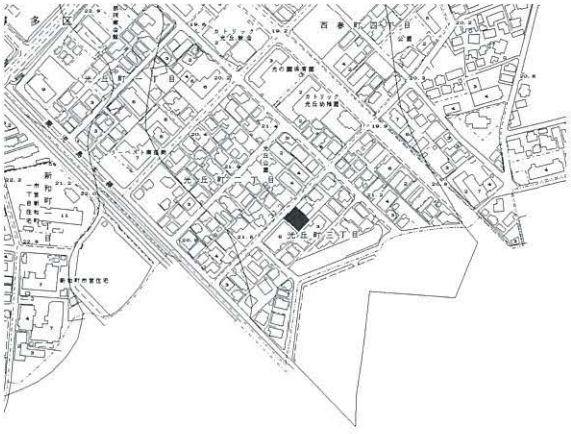
所在地	博多区光丘町３丁目21	調査面積	230.44㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	本田 浩二郎
調査期間	2004.4.2～2004.4.19	処置	記録保存

位置と環境　中ノ原遺跡は福岡市の南端部に位置し、標高22～23m前後の低丘陵上に広がる。遺跡北側には、麦野遺跡群・雑餉隈遺跡群・南八幡遺跡群などが存在するが、地形的な境界は判然としない。これらの遺跡群は八つ手状の丘陵端部に位置しており、弥生時代から古代にかけての遺構が見られる。本調査は福岡市内では第１次調査となるが、隣接する春日市でも調査が行われており古墳時代から古代にかけての集落が調査されている。

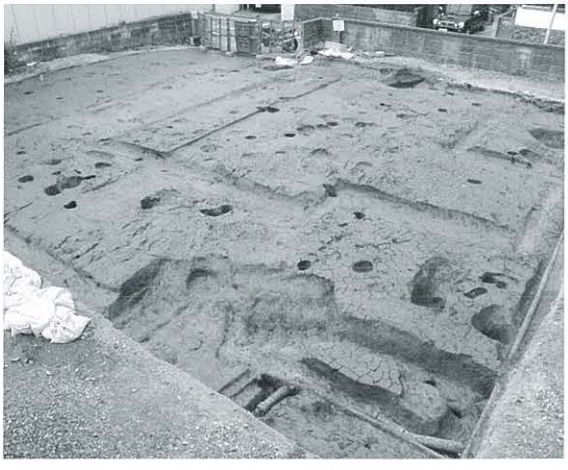
検出遺構　調査地点の現状は宅地で、現地表面の標高は23.5m前後を測り北側前面の道路面より１m程度高く残る地点である。遺構面は鳥栖ローム層土層面で設定し、遺構検出を行った。検出した遺構は落し穴遺構・ピット数基のみであった。過去の区画整理・土取工事により遺構面が大幅に削平されており、遺構の残存は浅く包含層も削平のため消滅している。落し穴遺構は形状が麦野・雑餉隈遺跡群などで検出されるものに類似しており、平面形が長方形を呈し底面に杭の痕跡を持つ。残存は10cm程度と浅く、付近が大きく削平され地形改変を受けたことが分かる。埋土からの遺物出土はないが、周辺の調査成果より古墳時代以前のものと考えられる。

出土遺物　遺物は土師器・須恵器・黒曜石などの細片資料がわずかに出土したのみである。

まとめ　本調査においては、遺構の検出はわずかであったが、隣接地内には包含層が観察されており遺跡内北側では遺構が残存している可能性が考えられる。検出された落し穴遺構から縄文時代には大規模な範囲で落し穴が設置される狩猟場であった可能性が考えられる。

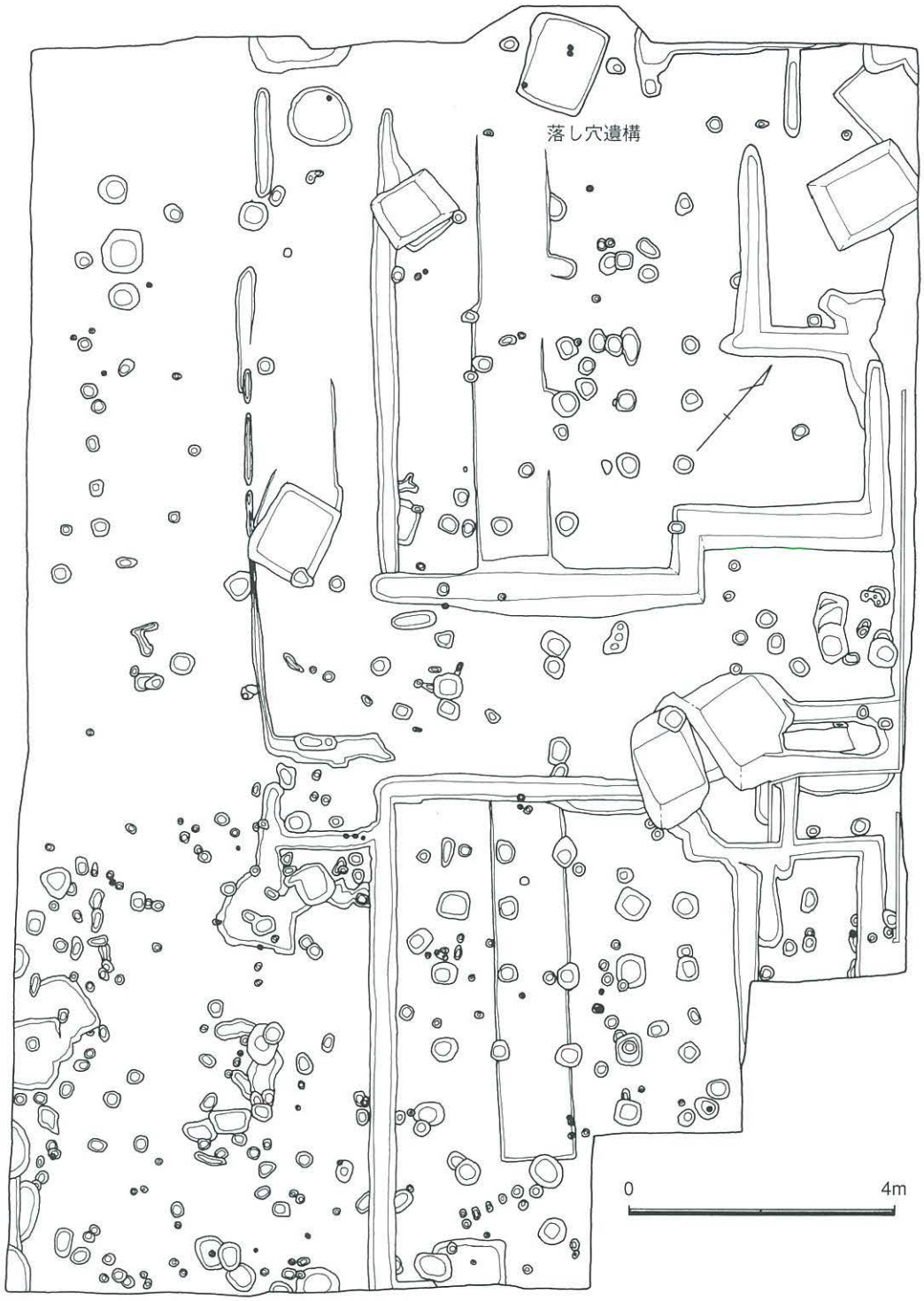


1．調査地点の位置(13　雑餉隈　2816　1:8000)



2．調査区北側完掘状況（南東から）

3．調査区南側完掘状況（東から）



4．調査区全体図（1：100）

0403 南八幡遺跡群第12次調査（MHM-12）

所　在　地　博多区寿町３丁目28-1　　調査面積　1,253㎡
調査原因　共同住宅建築　　担　当　者　中村 啓太郎
調査期間　2004.4.1～2004.6.15　　処　　置　記録保存

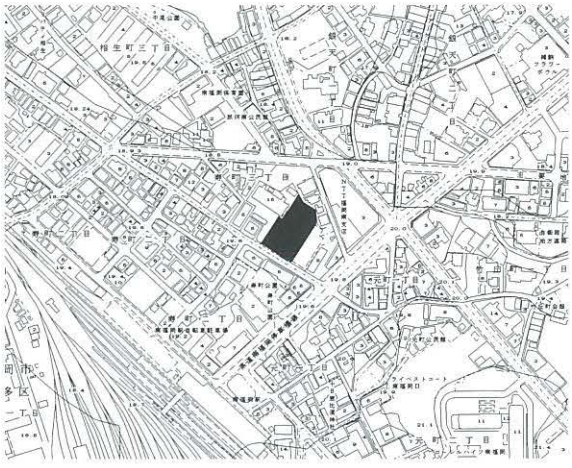
位置と環境　南八幡遺跡群は春日市と接した福岡市の南端、御笠川と那珂川の間を南北に延びる丘陵上に立地する。この丘陵には他に麦野A～C遺跡群、雑餉隈遺跡群が立地している。第12次調査地点は遺跡の南、丘陵北斜面に位置する。調査区北側で標高18m、南側で20mを測る。調査区の南には２・３次調査地点が、東には６・７次調査地点が位置する。

検出遺構　検出した遺構は新期ローム中で旧石器時代の遺物集中部６地点、土坑状の窪み（風倒木跡?）１基、弥生時代の竪穴住居１軒、時期不明の土坑、ピット等である。

出土遺物　遺物は旧石器時代のナイフ形石器、台形石器、核片、剥片等、弥生土器、古代の土師器、須恵器等がコンテナ２箱出土した。

まとめ　旧石器時代については約350点の石器、核片、剥片等の重要な資料が新期ローム中で６カ所の遺物集中部を伴い良好な包含状態で得られた。今後各ブロックの時期、関係等について検討したい。弥生時代については調査区南端で竪穴住居を確認したのみである。削平状況から考えるとこれより北側に住居が存在した可能性は低い。時期不明のピットの中に同時代のものが含まれる可能性があるがそれを含めても遺構密度は極めて低く南から続く集落の北限と考えられる。

報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（12　麦野　51　1:8000）

2．調査区北側全景（南から）

3．調査区南側全景（南から）

0404 元岡・桑原遺跡群第39次調査(MOT-39)

所 在 地 西区大字元岡字中ノ下2791外　**調査面積** 880㎡
調査原因 幼稚園建設　**担 当 者** 松浦 一之介
調査期間 2004.4.5～2004.4.16　**処　　置** 記録保存

位置と環境　元岡・桑原遺跡群は、縄文時代から中世にかけて形成された大規模な複合遺跡である。尾根上には前方後円墳７基を含む古墳群や中世山城が、また谷部には、古代の製鉄遺跡をはじめ集落遺跡が展開する。本調査地点は、その内南側に立地する旧元岡遺跡群B群に相当し、遺跡本体は北側から南東方向に延びる低丘陵上に立地している。調査前の現況は、水田であった。

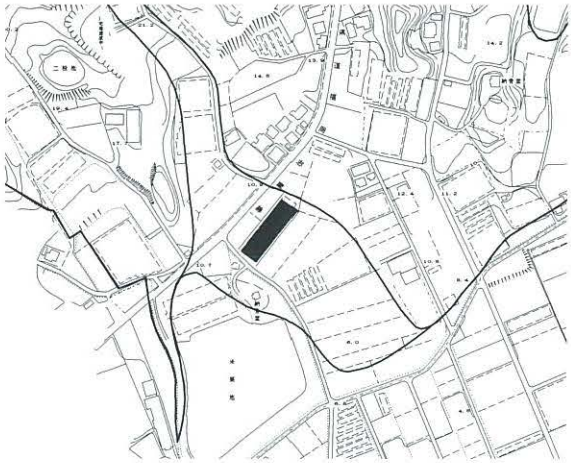
検出遺構　重機による表土除去後、人力による掘削を行った。遺構面は、現地表面から約1.7m掘削した標高6.0～7.0m付近で検出した。

検出した遺構は、弥生時代中期の土器溜りのみである。祭祀などの痕跡は認められず、使用後に廃棄したと考えられる。この土器溜りSX-01は、長さ16m以上×幅５m前後で、完形品を含む多量の土器片が廃棄されていた。このほか、数ヶ所で小規模な土器溜りが確認された。

出土遺物　完形品を含む弥生土器（甕・壺・蓋・支脚・鉢）片や、土製紡錘車、石斧などがあり、総量はコンテナケースに80箱である。

ま と め　先述のように、遺跡本体は調査地点の北側に立地しており、ここから多量の土器が廃棄されて、本調査で検出した土器溜りが形成されたと推定される。また、事前に行われた試掘調査では、「林山人」と墨書された須恵器が１点出土しており、周辺で調査された瓦窯跡や製鉄関連遺跡の職掌を示す遺物として注目に値する。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(140　元岡　2782　1:8000)

2．SX-01土器溜検出状況（東から）

3．SX-02遺物出土状況（北東から）

0405 名子遺跡第1次調査(NAO-1)

所在地	東区名子３丁目716-1	調査面積	342㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2004.4.5～2004.4.28	処置	記録保存

位置と環境　福岡市東部の粕屋平野に位置する。丘陵に挟まれた猪野川による狭い沖積地に立地する。

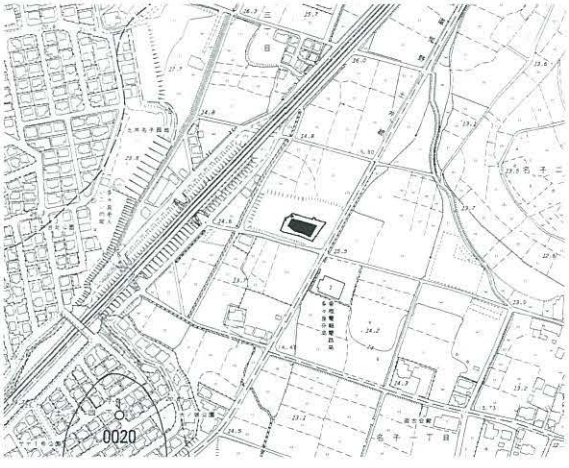
西側丘陵は石棺墓、古墳等が多く存在していたが現状では団地造成され消滅している。また、弥生の中細銅剣鋳型も出土し、弥生の集落遺構が存在していた可能性がある。周辺の天神森古墳周辺や江辻遺跡では弥生前期の遺物や遺構が出土している。本調査区を含めた周辺沖積地では、今回はじめて遺構の存在が確認され、名子遺跡群と称して登録された。

基本層序　現況は2.5～３ｍの客土で整地され、下部の土層は南東側に高く、西側の丘陵にむけて緩やかに低くなる。遺構面は２面が確認できた。上面は灰褐色粘質土で下面は明色となるが漸移的である。SD02以西の下面上の堆積土６層はグライ化している。

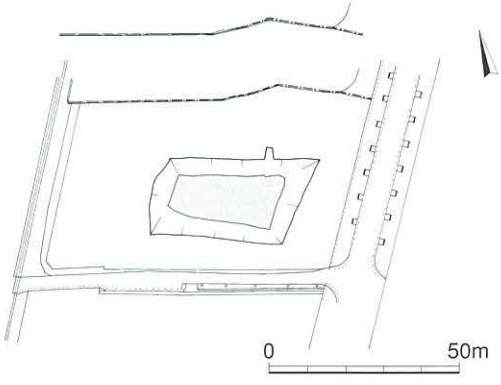
堆積時期は耕作土下の灰色土と酸化鉄層の互層（第２層）から１の弥生中期土器片や２の青磁椀が出土し、中世以降の堆積と考えられる。SD02より以西の第２層の下層となる５層からは須恵器が出土している。

遺構と遺物　上面の遺構面からは水路と考えられるSD03、01の２条が検出された。SD03は高くなった調査区東端で途切れている。埋土内から弥生土器片が１点出土したのみである。SD01は上端幅45cm、深さ45cmで壁は直に近い。下底のレベルは南側で３cmほど深くなる程度で調査区内ではほとんど変わらない。埋土から弥生土器、土師器片のほか鉄滓が１点出土。図示した３の弥生甕片は器厚が薄いが、内面はナデ調整である。

下面からは土壙１基、溝１条、柱穴が少数検出された。SD02はわずかに蛇行するが、SD01とほぼ同方向に走行する。埋土中に須恵器小片を若干含む。柱穴はSD01以東の下面から検出されたが、埋土からの遺物は無い。

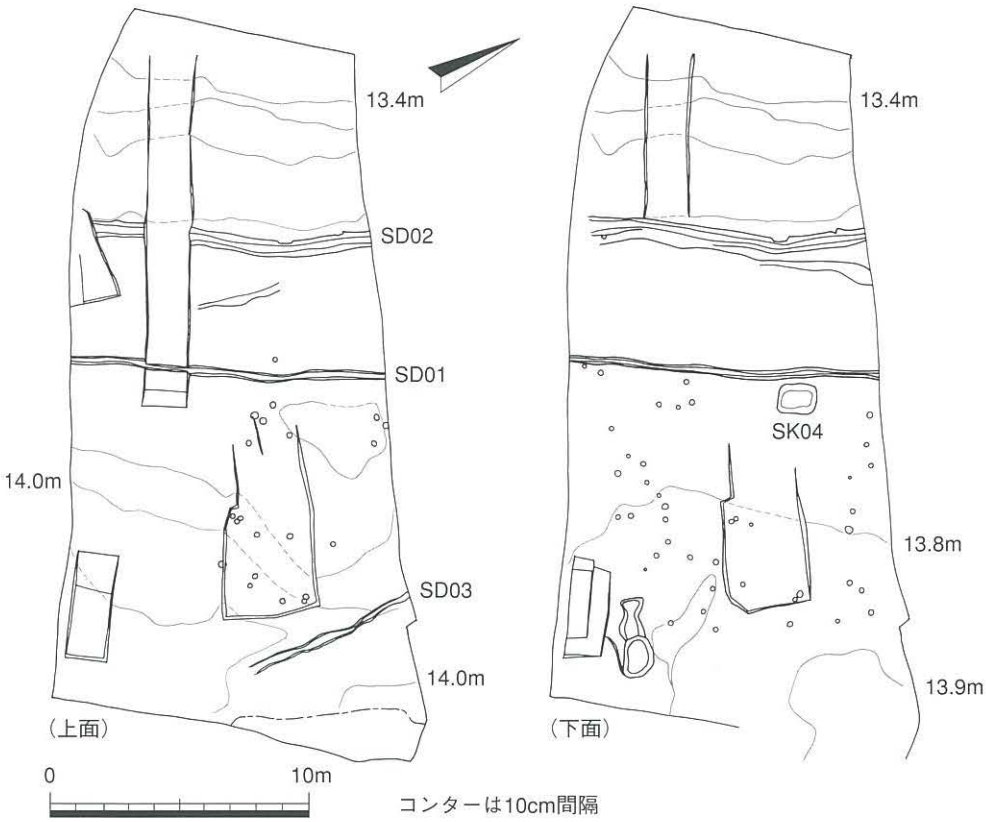


1．調査地点の位置(7　八田　2829　1:8000)



2．調査区位置図（1:2000）

3．上面遺構全景（西から）



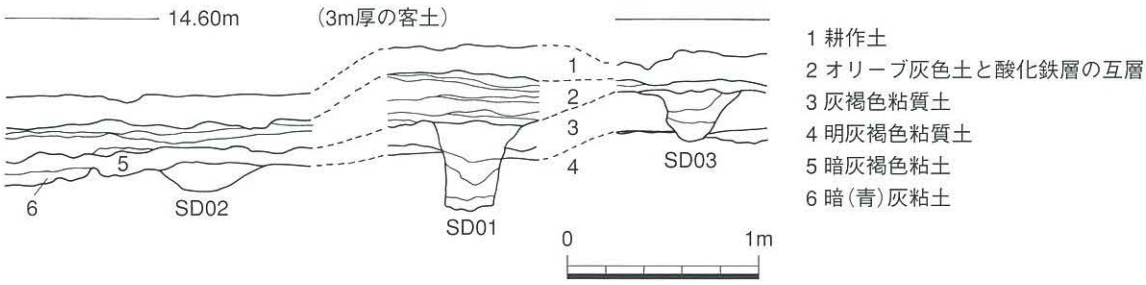
4．遺構全体図（1:300）

SK04は調査区中央部で検出された。主軸長150cm、幅100cmの長方形プランを呈し、深さ90cmを測る。埋土中から鉄滓1点が出土したのみである。

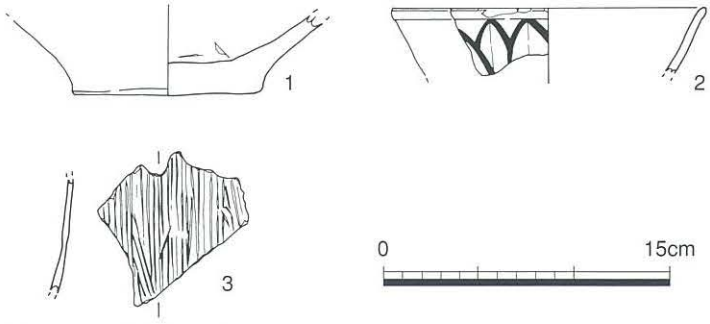
遺構の時期と性格

検出された水路と考えられる3条の溝は埋土中の遺物や検出面の時期から古墳後期以降の時期が考えられる。

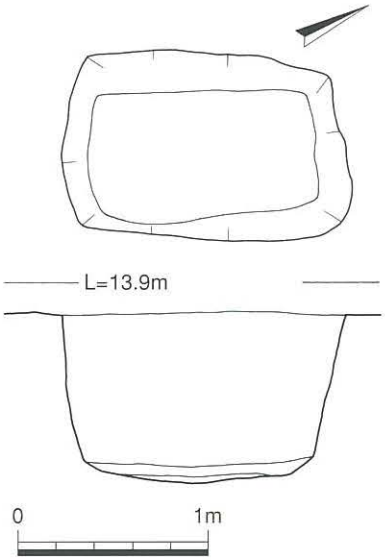
柱穴や土壙は高所の本調査区以東に分布し、弥生中期の集落が分布している可能性がある。



5．北壁土層図（1:40）



6．出土遺物（1:4）



7．SK04実測図（1:40）

0406 立花寺遺跡群第7次調査(RGG-7)

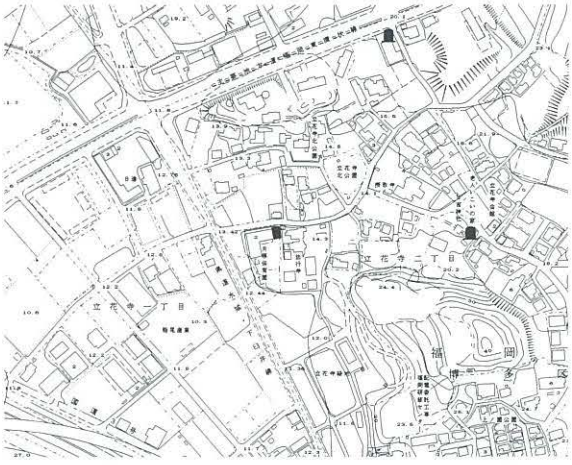
所　在　地　博多区立花寺２丁目12-6　　調査面積　71.6㎡
調査原因　保育園増築　　担　当　者　大塚 紀宜
調査期間　2004.4.5～2004.4.16　　処　　置　記録保存

位置と環境　立花寺遺跡群が分布する丘陵の西側端部に位置する。標高は14m前後で、周辺は早い段階に畑地として造成され、さらに近年の宅地造成によって本来舌状に延びていた丘陵が削平されており、調査地点はその尾根線の北側斜面に位置する。

検出遺構　厚さ１m前後の造成盛り土の下で旧耕作土層になり、その直下で礫混じり明褐色粘質土の遺構面に達する。遺構面は南から北に緩く傾斜している。遺構は調査区内全体に分布する。遺構の大部分は小ピットで、径20～30cm、深さ30cm前後のものが多い。各ピットからの遺物はほとんどなく、時期も不明。調査区北側に２本の溝状遺構が平行して東西方向に直線的に延びる。溝はピットを切っており、幅は40～60cm、深さは10～20cm程度で、両者の間隔は3.4mである。遺構内から土師器、須恵器の小片が出土しており、奈良時代以降の遺構と考えられる。溝の方向は条里方向とは一致しない。調査区北側で円形の土坑が１基検出されたが、覆土、出土遺物から近現代のものとみられる。

出土遺物　遺物の出土量は非常に少なく、総量でパンケース１箱相当である。いずれも小片で、器形が判明できるものはなく、遺物の多くが土師質の破片であること以外、詳細は不明である。

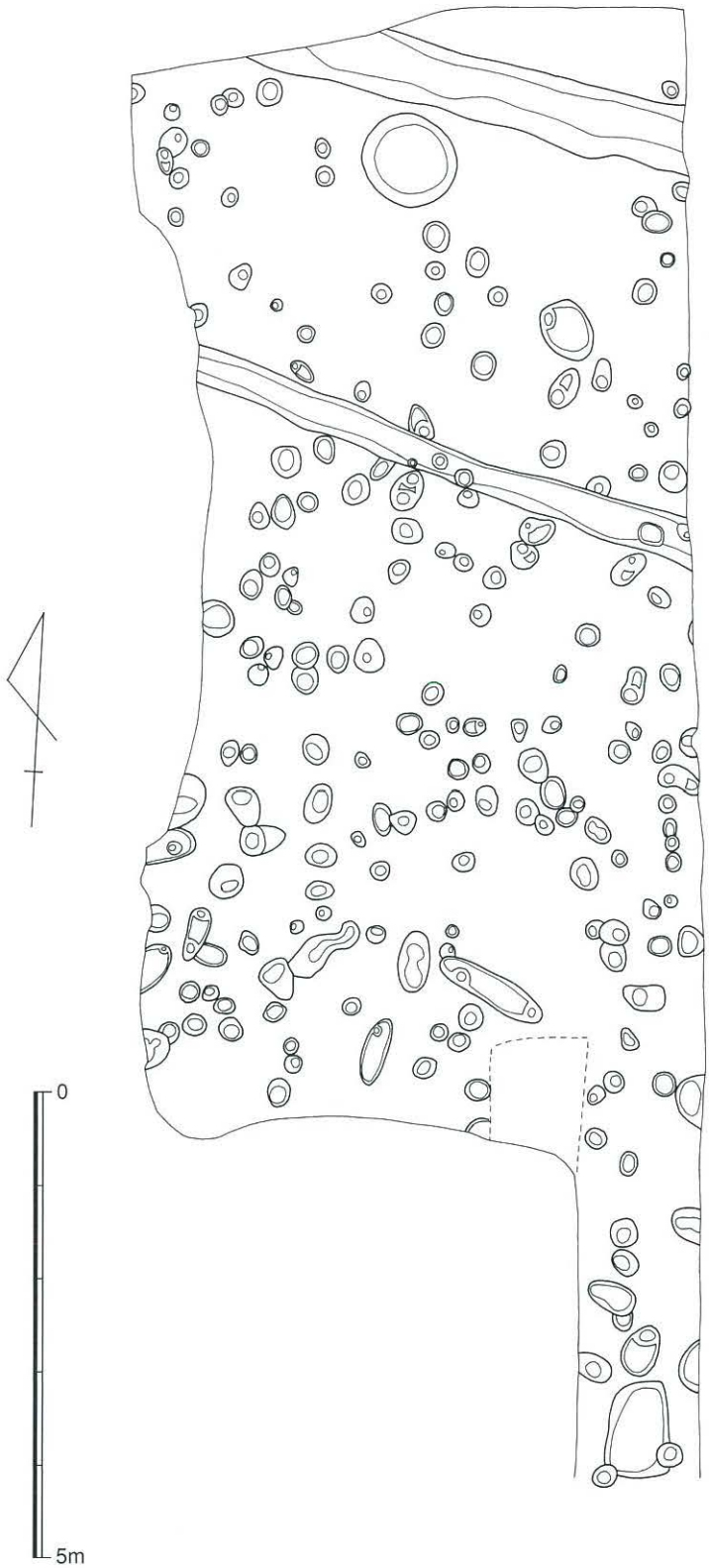
まとめ　遺物量がきわめて少なく、具体的な遺跡像は不明である。建物を構成する柱穴が確定できないが、溝の時期から考えて弥生～古墳時代に集落が形成されていたとみられる。２本の溝状遺構は道路遺構の可能性もある。



1．調査地点の位置(11　金隈　38　1:8000)

2．調査区全景（南から）

3．調査区東壁土層（北西から）



4．調査区全体図（1:80）

0407 五十川遺跡群第12次調査(GJK-12)

所在地	南区五十川1丁目629-1	調査面積	149.7㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	赤坂　亨
調査期間	2004.4.5～2004.5.10	処置	記録保存

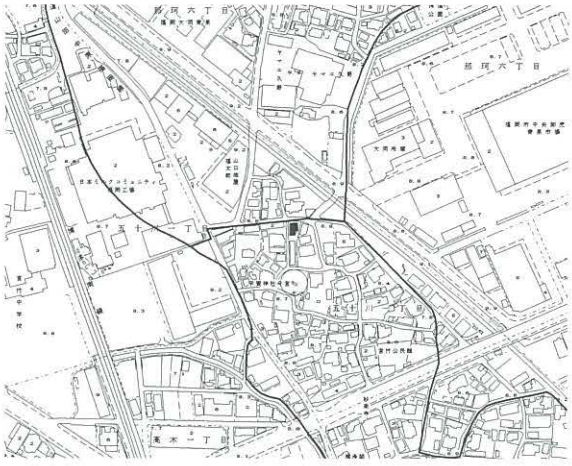
位置と環境　五十川遺跡群は那珂川と御笠川の間の春日丘陵と総称される洪積台地に位置し、北端にある比恵・那珂遺跡群とは緩やかな鞍部で連なっている。調査地点はその北端に位置し鞍部へ緩やかに傾斜している。調査地の南方約50mには今宮神社古墳が所在する。

検出遺構　古墳時代後期の土坑2、古代の布掘り溝1、S字状に蛇行する中世後期の溝1、近世以降の溝1、時期不明の掘立柱建物1棟・ピット10数基を検出した。遺構は大半が北半に集中し、南半ではピットが数基と、近世以降の溝が確認されたのみである。中世後期の溝は屋敷の区画に伴うものであろう。

出土遺物　古墳時代の土坑より須恵器短頸壺・蓋杯、土師器瓶・甕が、古代の布掘り溝より須恵器、瓦小片が、中世後期の溝より須恵器・瓦・青磁・土師器甕が出土した。また包含層、溝の埋土から黒曜石の剥片が出土している。遺物の総量はコンテナ4箱分である。

まとめ　五十川遺跡北部における初めての調査である。その結果遺跡南西部ほどの密度はないが、古墳時代後期、古代・中世と断続的に土地利用が行われていた事が確認できた。今宮神社古墳の遺構群の古墳時代の性格解明につながる遺構や遺物は検出されなかった。

調査報告書は平成18年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(38　塩原　88　1:8000)

2．調査区南半全景（南から）

3．SD-01遺物出土状況（南から）

0408 那珂遺跡群第95次調査(NAK-95)

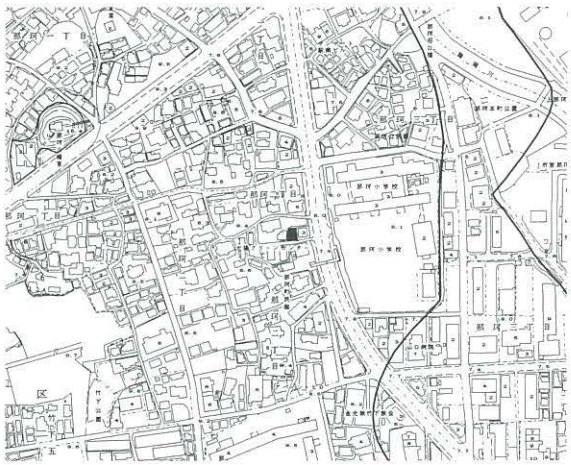
所在地	博多区那珂２丁目39-3外	調査面積	82.5㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2004.4.16～2004.4.27	処置	記録保存

位置と環境　調査地点は那珂丘陵の東側に位置する。北側では40次調査が行われており、弥生時代貯蔵穴、古墳時代竪穴住居、掘立柱建物、中世溝等が検出されている。遺構は表土下約１ｍの鳥栖ローム上で検出した。遺構面の標高は約７ｍである。

検出遺構　遺構は少なく、古墳時代掘立柱建物、中世以降の溝、そして土坑、ピットを検出したのみである。掘立柱建物はその一部を検出したに過ぎないが、おそらく２×２間の建物であろう。３棟存在し、そのうちの１棟は立て替えによるものである。出土遺物はごく少なく、時期の決め手に欠くが、SP102から須恵器蓋杯天井部の小片が出土しており、これら掘立柱建物が古墳時代に相当する可能性は高い。溝（SD01）は調査区南西隅で検出したもので、幅0.8～0.9m、深さ15～20cmを測る。溝は東西方向に向かって走り、底面は東側へ向かって傾斜している。立ち上がりは緩やかで、断面は幅広の逆台形を呈している。古墳～飛鳥時代に相当する遺物（２・３）も出土しているが、埋土が暗赤褐色を呈し、他遺構のそれ（黒褐色）と異なることや、白磁の細片が出土していることを考え合わせれば、この溝は中世以降に位置づけることができるだろう。

出土遺物　土師器、須恵器、陶磁器等、少量の出土をみた。１は須恵器蓋杯天井部片である。SP101より出土。２は須恵器瓹胴部片、３は須恵器甕肩部である。いずれもSD01出土。４は土師質の甕口縁部片である。口径（復元）20.2cmを測る。SK03より出土。

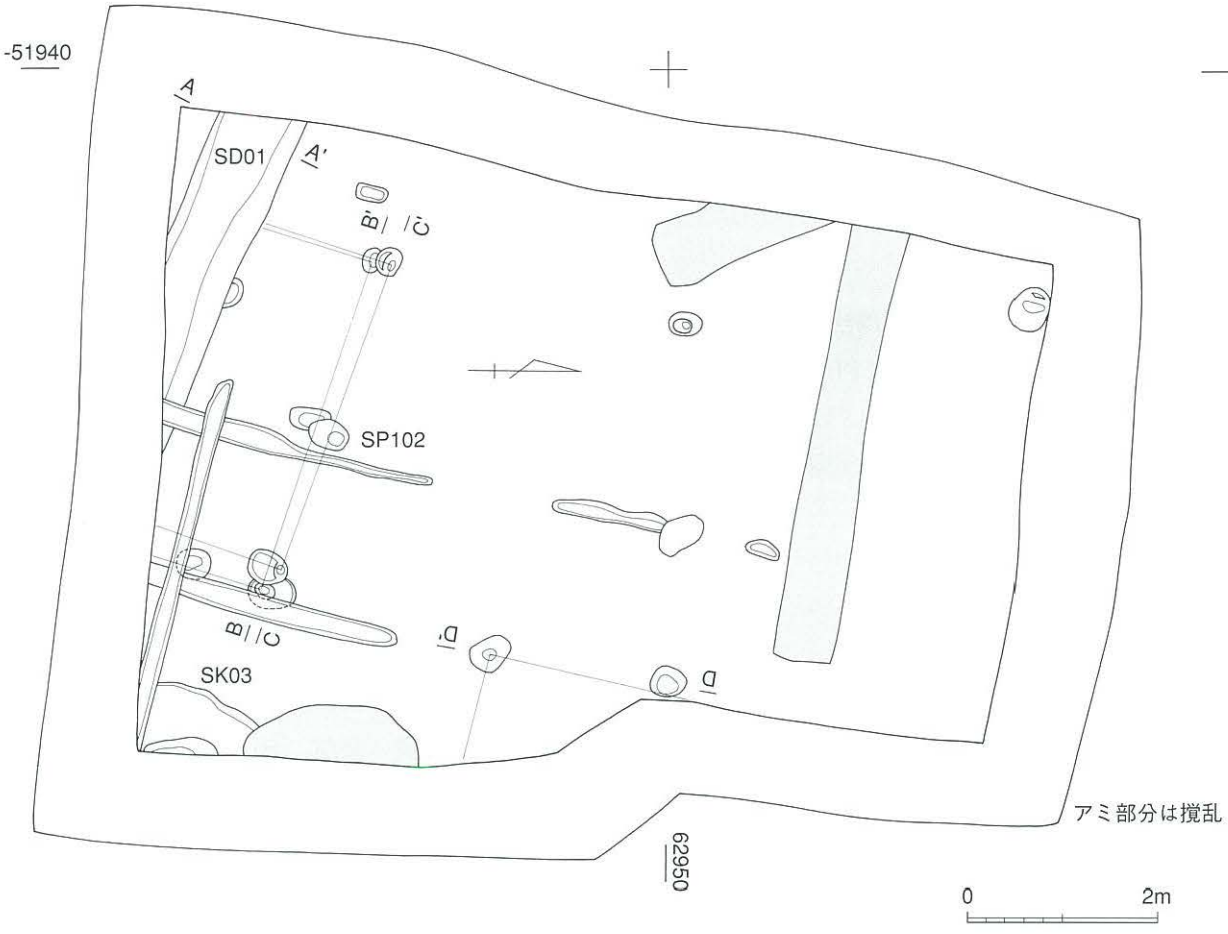
まとめ　小規模な範囲の発掘調査で、かつ遺構密度も薄いものであったが、掘立柱建物を検出したことで当地点における古墳時代集落の存在を確認することができた。



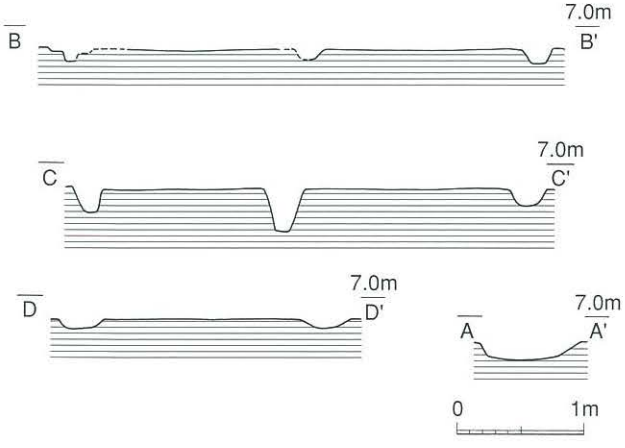
1．調査地点の位置(24　板付　85　1:8000)

2．調査区南西側完掘（北から）

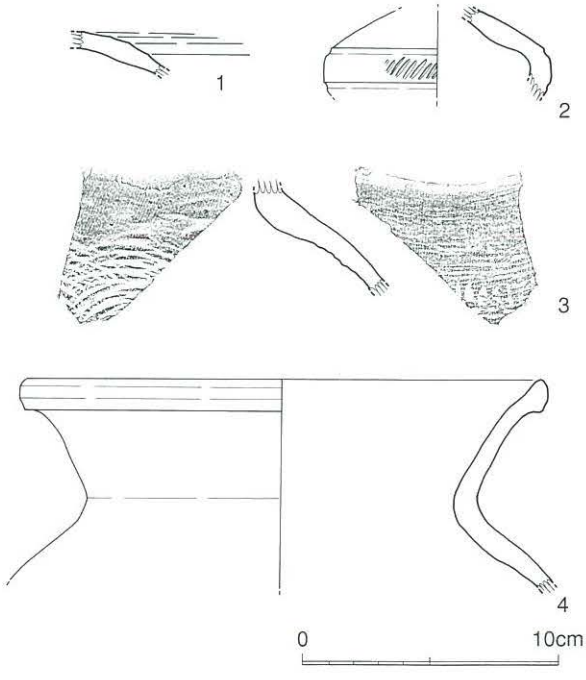
3．調査区南東側完掘（北西から）



4．遺構配置図（1:80）



5．各種断面（1:60）



6．出土遺物（1:3）

0409 香椎B遺跡第7次調査(KSB-7)

所在地	東区香椎３丁目1446の一部外	調査面積	227.2㎡
調査原因	分譲宅地造成	担当者	阿部 泰之
調査期間	2004.4.12～2004.4.30	処置	記録保存

1　位置と環境

香椎B遺跡は、粕屋平野北縁の丘陵部に位置する遺跡である。旧石器時代から中世に至る時期の遺構・遺物が検出され、古くから生活の場として利用されていたことがわかる。

香椎B遺跡が立地する丘陵部にはいくつかの谷が含まれる。丘陵部には「笈の山城」とされる中世山城が存在し、平成８年～11年にかけて発掘調査が実施されている。今回の調査区は前述の調査地の西側、笈の山城が存在した丘陵に隣接する谷部に位置する。

2　遺構と遺物

①掘立柱建物（SB）

SB51（図４・写真３）

調査区中央部で検出した。２間×２間の総柱建物である。配列がやや不揃いだが、径0.3～0.5m・深さ0.2～0.5mの柱穴が、間隔１～1.5mで並ぶ。柱穴底部に石を据えるものがあり、根石または礎石の可能性が考えられる。

出土遺物

柱穴から土師器・弥生土器・陶器細片が出土した。

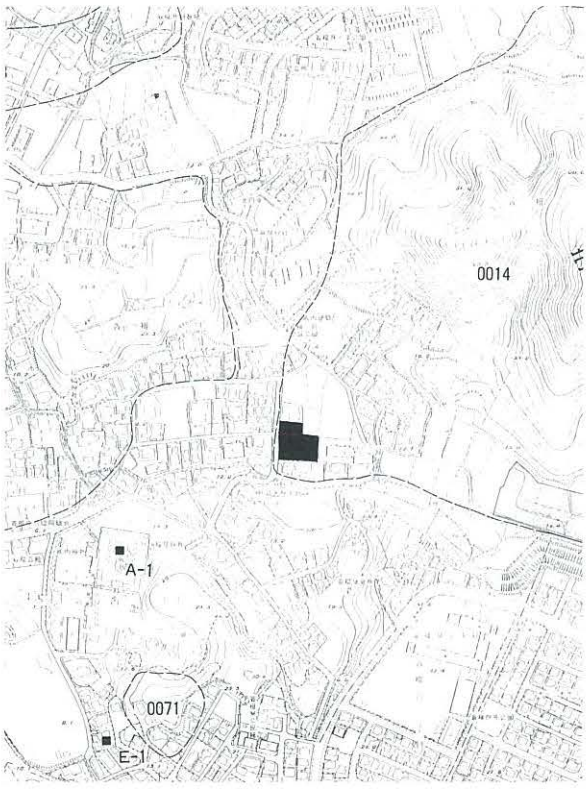


図１　調査区位置図①（17　浜男　14　1:8000）

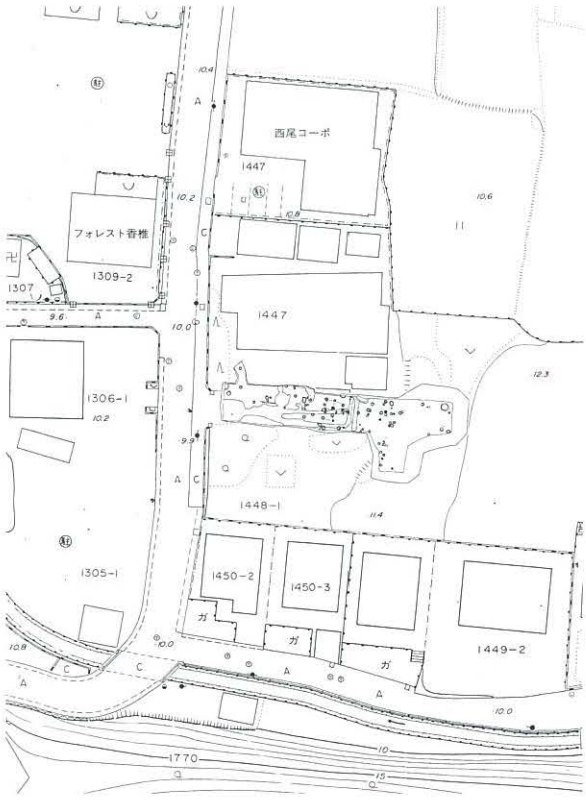


図２　調査区位置図②（1:1000）

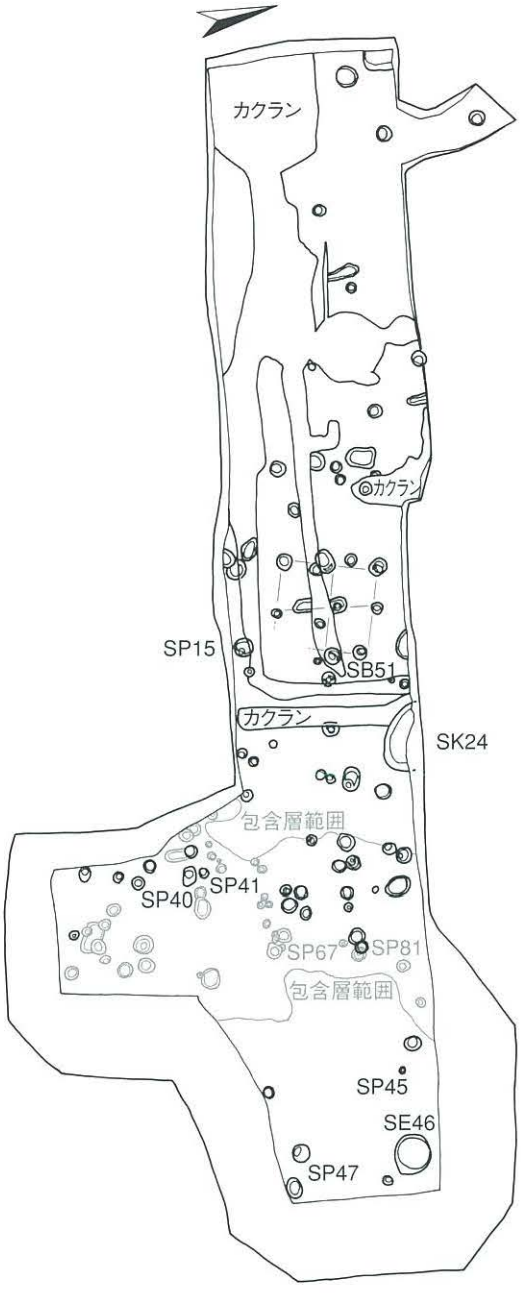


図３　調査区全体図（1:200）

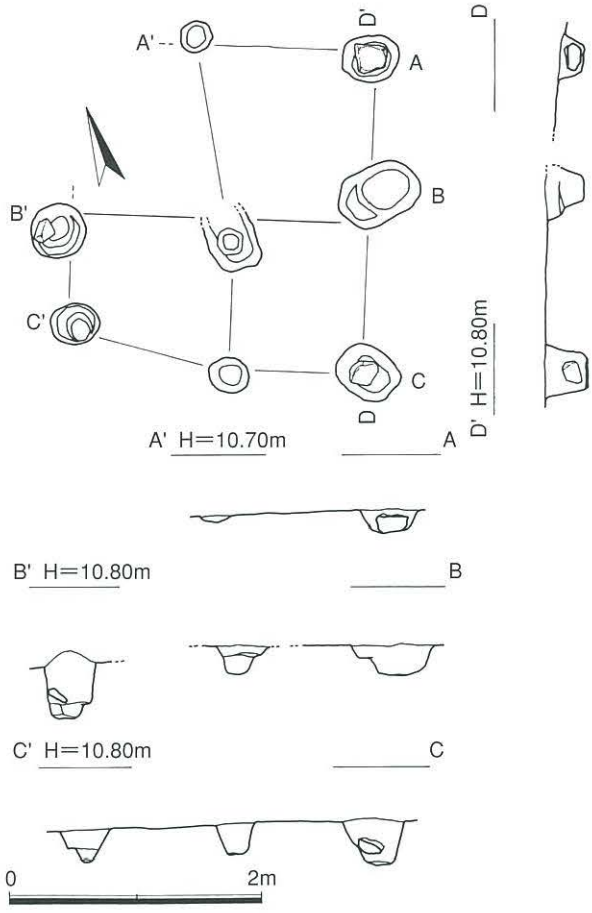


図４　SB51実測図（1:60）

②井戸（SE）

SE46（図５）

調査区東端部にて検出した。平面卵形を呈する井戸で、短径0.9m・長径1.1mを測る。断面は逆台形を呈し、残存深さ0.9mを測る。検出面から－0.8mで湧水する。底面から２/３ほど上まで木桶による井筒が残存していた。木桶は29枚の板材にて構成され、薄く割られた竹で胴を緊結している。井筒の遺存状況は良好である。

出土遺物（図６）

１・２は、瓦である。１は丸瓦の小片で、凸面に縄目叩き痕が観察される。２は平瓦の小片で、赤橙色を呈し、磨滅する。３は竜泉窯系青磁碗である。底部の小片で、内面見込みに片彫りによる文様が観察される。底径4.2cmを測る。

③土壙（SK）

SK24（図５・写真４）

調査区中央部にて検出した。北半は調査区外となるため検出できなかったが、南半を見る限り楕円形もしくは卵形の土壙となろうか。深さは0.5mを測り、底面には凹凸はすくない。断面からは底部より１/３程度まで人為的に埋めたことがわかる。

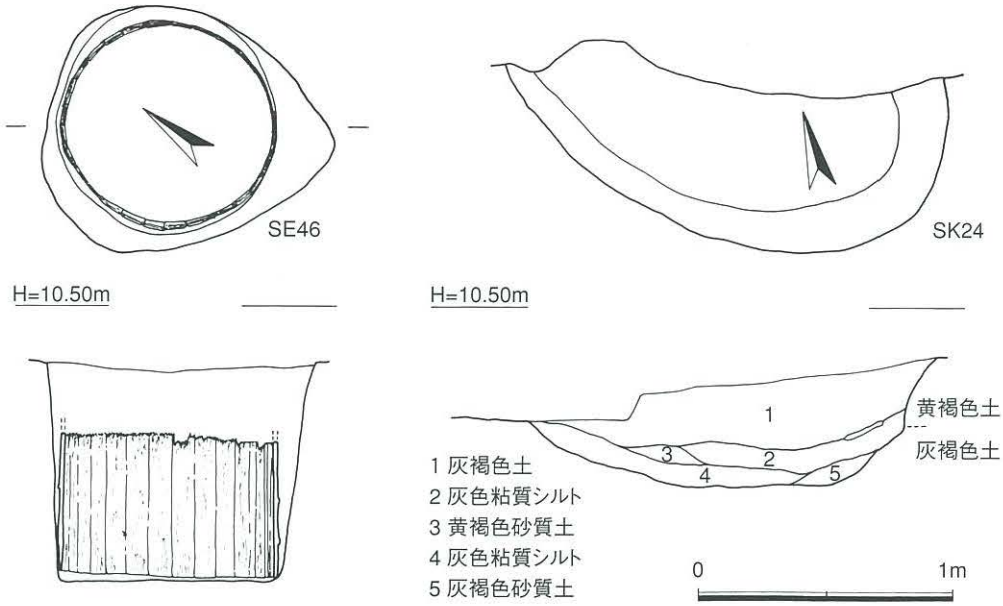


図５　SE46・SK24実測図（1:30）

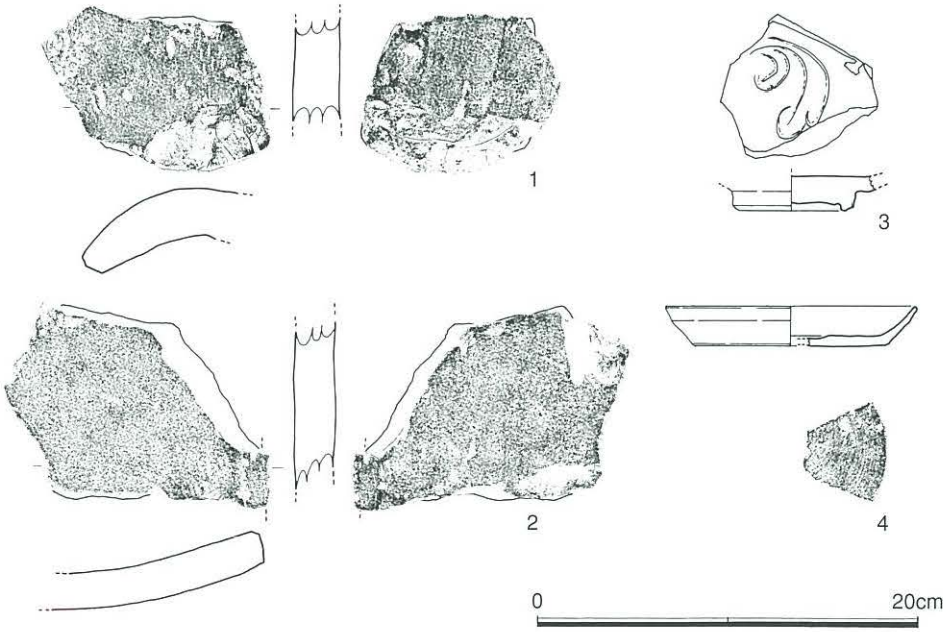


図６　SE46・SK24出土遺物実測図（1:4）

出土遺物（図６）

４は、土師器坏である。１/６個体ほどの小片である。口径9.8cm・器高1.6cm・底径7.6cmに復元でき、外底面には回転糸切り痕が観察される。胎土は精良で、焼成は良好である。その他、弥生土器、須恵器小片が出土した。

④ピット・その他の出土遺物（図７・８）

５は、平瓦である。SP47の底部から凸面を下にして出土した。隅角部を残す破片で、厚さ2.3cmを測る。全体に赤橙色を呈し、焼成は良好である。胎土は径３ミリ程度の砂粒を含み、精良である。６は、青磁である。口縁部の小片で、外面下部に段を有し、口唇部は輪花となる。釉は厚く灰緑色を呈する。SP15出土。

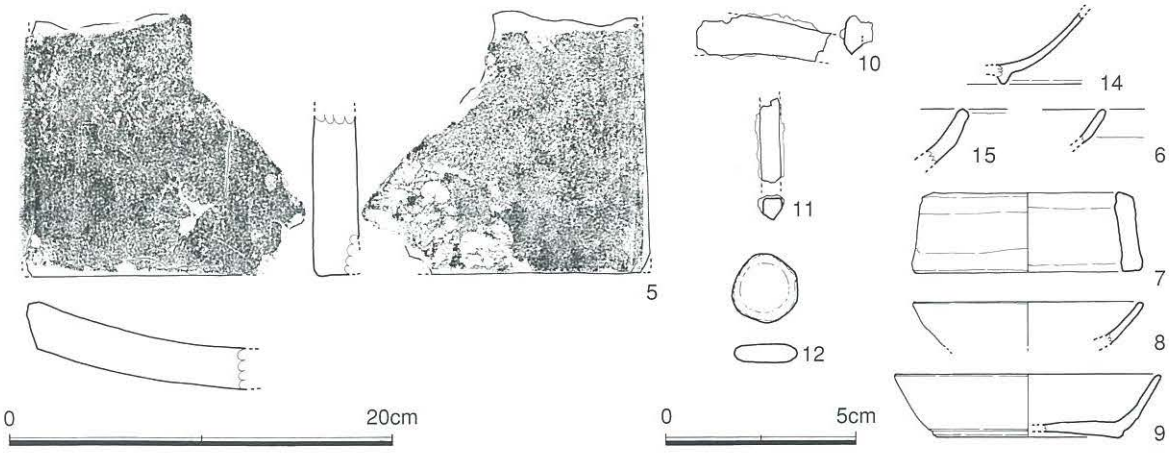


図７　ピットおよび表採遺物実測図（1:4・1:2）

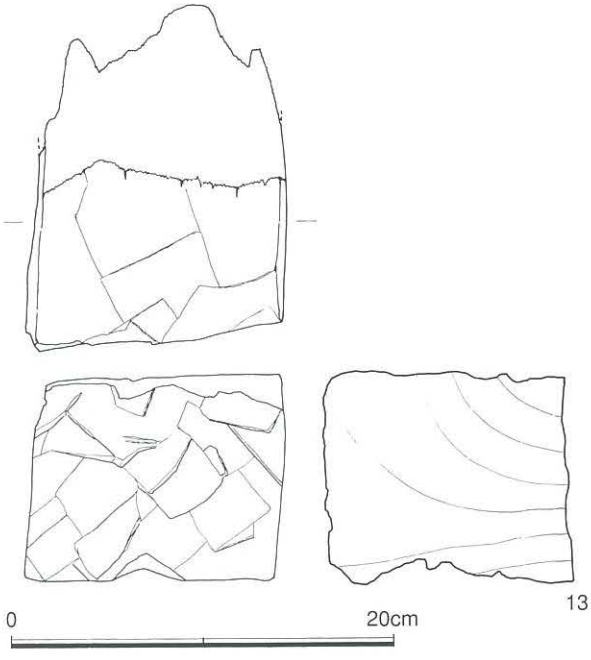


図８　SP80出土柱材実測図（1:4）

７は、SP69出土の土製品である。手づくねで成形され、復元すれば円筒形となり、器高4.2cm・底径10.8cmに復元できる。胎土は精良で、焼成は良好である。８・９は、土師器である。８は碗の口縁部の小片である。SP45出土。９はSP67出土の坏である。1/3個体程度の破片で、口径13.6cm・器高3.3cm・底径9.6cmに復元できる。外底面には回転糸切り痕が観察される。胎土は精良で、焼成は良好である。10・11は、鉄製品である。10はSP40出土の刀子である。11は釘か。SP41出土。いずれも小片である。12は、石製品である。灰色の砂岩質の石材を碁石形に作り出し、外表を磨いている。長径1.7cm・厚さ0.5cmを測る。13は、柱材である。SP80出土。推定24cm程度の角材を４分割して木取りし、10.9cm×12.7cmの角柱となしている。側面は手斧状、底面は鑿状の工具で調整される。表採遺物として、次の遺物を挙げる。14は、白磁である。底部の小片で、内面に型押しによる文様を持つ。15は、土師器である。坏の小片。そのほか、攪乱02より試し打ち痕のある黒曜石が出土した。

３　まとめ

本調査開始前の試掘調査において遺構面が２面存在する可能性が指摘されていたが、本調査によってそれが確認された。地山は黄褐色の砂礫層であるが、その上に須恵器・土師器細片を含む整地層がのり、その上面に第１面・砂礫層上に第２面が検出される。遺物が少ないこともあり双方の面に明確な時期差は見いだせないが、遺構の時期はおおよそ13～14世紀頃とみられる。字里城地区が近接しており、関連が考えられる。

写真１　第１面全景（東より）

写真２　第２面全景（東より）

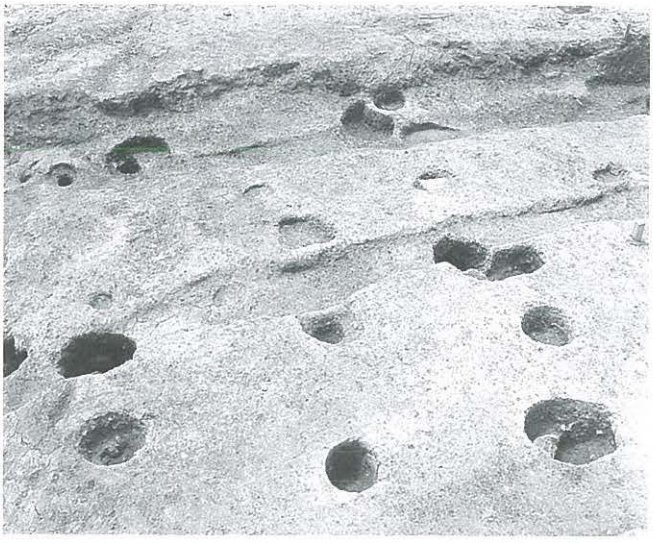


写真３　SB51（北より）

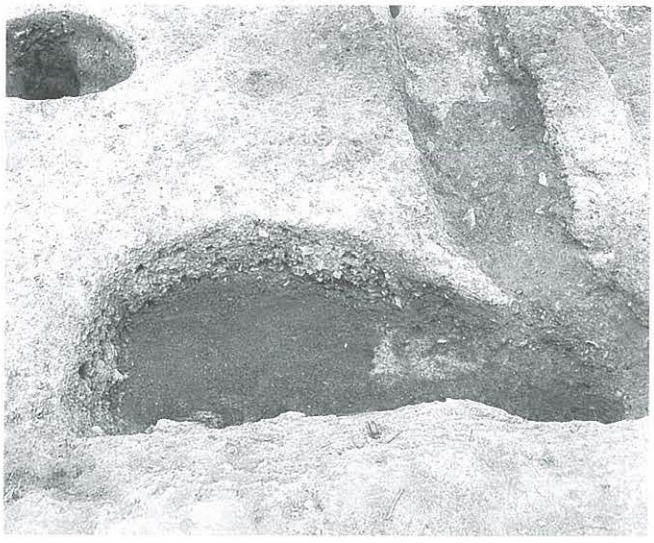


写真４　SK24（北より）

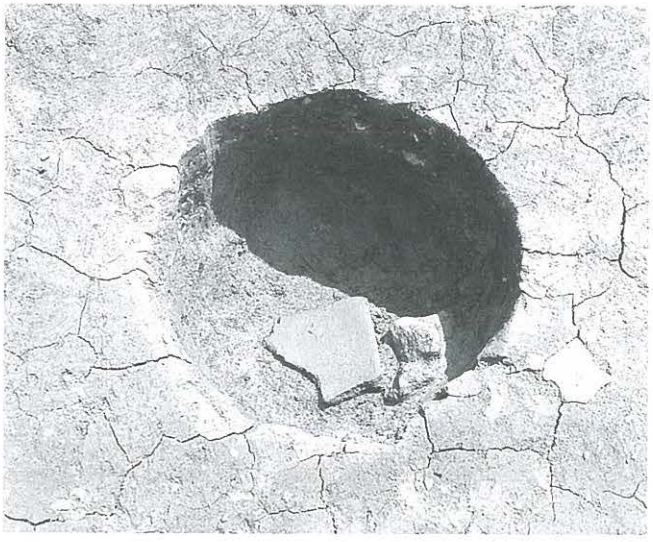


写真５　SP47（北より）

写真６　第２面SP80柱材出土状況（西より）

0410 元岡・桑原遺跡群第40次調査(MOT-40)

所　在　地　西区大字桑原地内
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2004.4.7～2004.4.28
調査面積　1,250㎡
担　当　者　米倉 秀紀
処　　置　記録保存

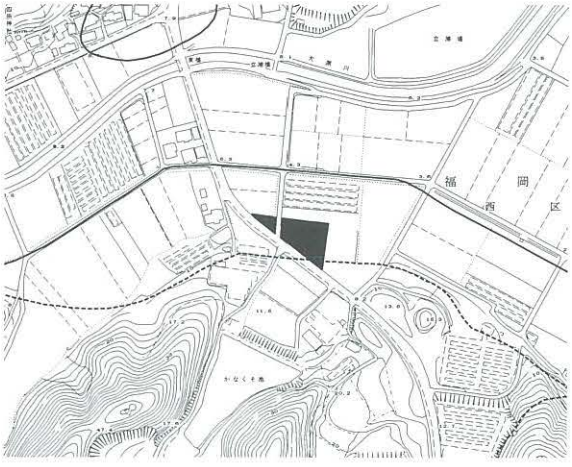
位置と環境　元岡桑原遺跡群は福岡市の北西端の糸島半島東側基部にある。全域丘陵地帯だが、狭い多くの丘陵と谷部からなっている。40次調査区は遺跡群の北西端に位置し、丘陵端部から丘陵下にかけて立地している。

検出遺構　丘陵部分はごくわずかで、大半が丘陵下に含まれ、検出した遺構はない。

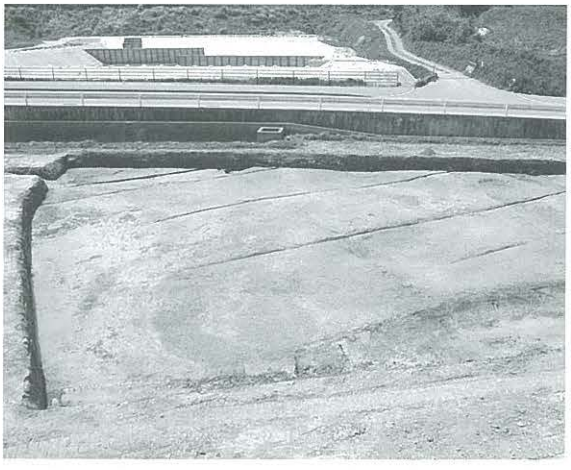
出土遺物　ビニール袋1袋の須恵器などが出土した。

まとめ　丘陵部分はすでに削平され、丘陵下にも包含層は存在せず、地山面から若干の遺物が出土しただけである。

調査報告書は平成18年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置(129　桑原　2782　1:8000)



2．調査区全景（北から）

0411 乙石遺跡群第2次調査(OTA-2)

所在地	西区大字金武字乙石地内	調査面積	24,241.6㎡
調査原因	圃場整備	担当者	池田 祐司
調査期間	2004.4.5～2004.10.28	処置	記録保存

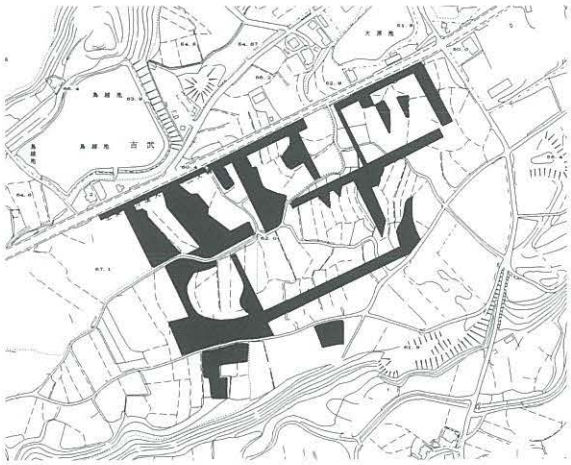
位置と環境　早良平野と糸島平野を結ぶ日向峠の東側斜面に位置する。斜面には小さな浅い谷が入り、低い２つの丘陵が走る。標高52mから65mを測る。

検出遺構　調査区中央、低い丘陵上の14区では掘立柱建物棟を中心とした集落域が広がる。丘陵南側の浅い谷状部にあたる18-４区では、溝、製鉄遺構を検出した。いずれも８世紀代と考えられる。西側の丘陵部18-１、19区では落とし穴と考えられる土坑を検出した。時期は不明である。製鉄遺構はいわゆる鉄アレイ型で調査区全体で９基を検出した。

出土遺物　遺物は土器類がコンテナ20箱程、鉄滓が100箱強ほど出土した。掘立柱建物、製鉄遺構に伴うものは８世紀代の遺物で須恵器、土師器、鉄滓等が出土した。全体にこの時期のものが主体を占める。遺構に伴うものではないが、旧石器時代ではナイフ形石器、台形石器が各１点、縄文時代では曽畑式土器片、石鏃、黒曜石と安山岩の剥片が出土している。また、龍泉窯系青磁片等の中世の遺物も少量出土している。

まとめ　当初古墳群の広がりが予想されたが、全く検出できなかった。遺構、遺物のほとんどが８世紀代に属し、遺構は製鉄とそれに関連した施設としての建物群という位置づけが考えられる。

報告書は平成17年度刊行予定である



1．調査地点の位置(94　乙石　422　1:8000)

2．14区全景（上空から）

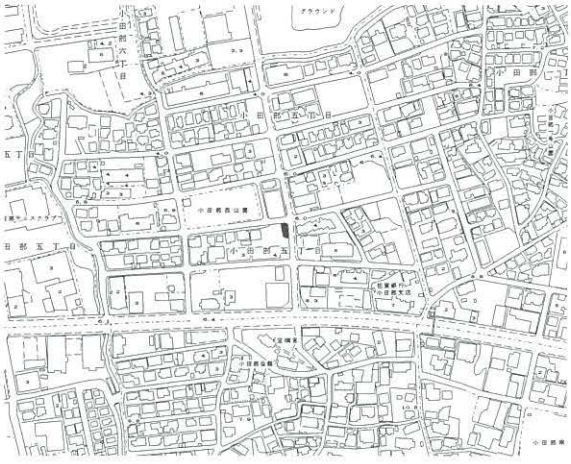
3．製鉄遺構062（北から）

0412 有田遺跡群第208次調査(ART-208)

所在地	早良区小田部５丁目87-2外	調査面積	91㎡
調査原因	市道拡幅	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.5.10～2004.6.7	処置	記録保存

位置と環境　平成14年１月22日付けで、福岡市土木局道路建設部西部建設第１課より、早良区小田部５・７丁目地内における市道南庄小田部線拡幅工事について、埋蔵文化財事前審査の依頼があった。一部が有田遺跡群にかかるため、確認調査を実施したところ、大部分が谷部に当たるか、削平を受けて、遺構が存在しなかったが、谷への落ち際に削平をのがれ、遺構が残っている部分があり、本調査を実施することになった。

遺跡がのる台地は北方向に向かって八つ手状に分岐し、その間は谷が深く切り込んでいる。調査地点は谷の一つの西側落ち際に位置する。



1．調査地点の位置(82　原　309　1:8000)

遺構と遺物　遺構検出面である鳥栖ロームは調査区南で南西側に急激に谷に向かって落ちてゆく。谷は昭和40年代の区画整理により埋まっている。谷が落ちているところまでを調査区とした。調査区北側は大部分が撹乱で、残っているところも削平により遺構が失われていた。

溝１条、土坑２基、ピットを検出した。

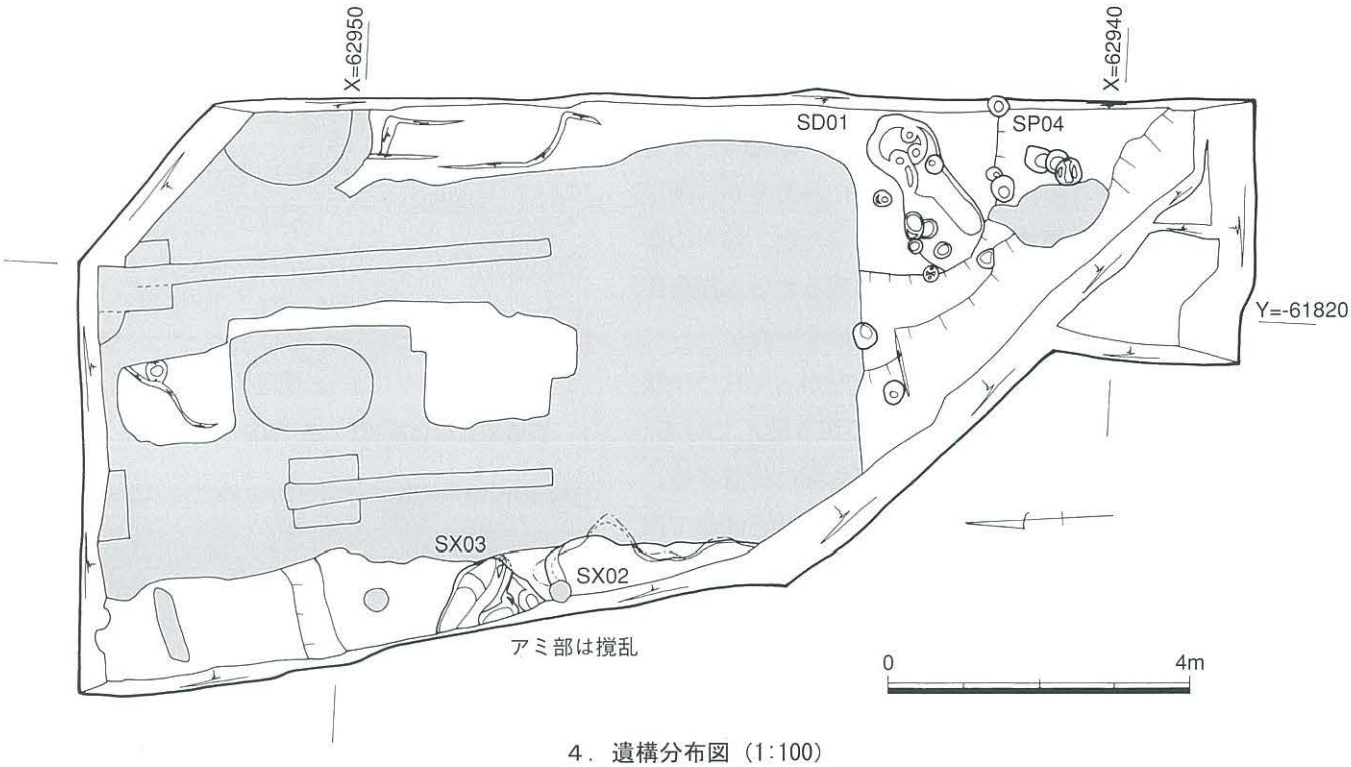
溝SD01は深さ10cmに満たない浅い溝。谷と直交方向に伸びる。須恵器の小破片が出土した。SX02は壁がオーバーハングする土坑で、西側と南側は調査区外に伸びる。確認できた規模は南北方向３m、東西１mである。SX03も壁がオーバーハングする土坑で、西側は発掘区外に伸びる。確認できた規模は南北方向1.5m、東西方向0.8m、残存壁高は55cmを測る。床面も凹凸が激しい。出土遺物はない。これらの不定形な土坑は地山の白色粘土部分を抉って掘り込んでおり、粘土採掘坑の可能性が考えられるが、湧水による自然の抉れかもしれない。ピットSP04は調査区南側の東壁際で検出した。直径30cm、検出面から底までの深さ68cmで、弥生時代中期後半の甕、鉢、器台が出土した。１は鉢である。

2．調査区南側全景（西から）

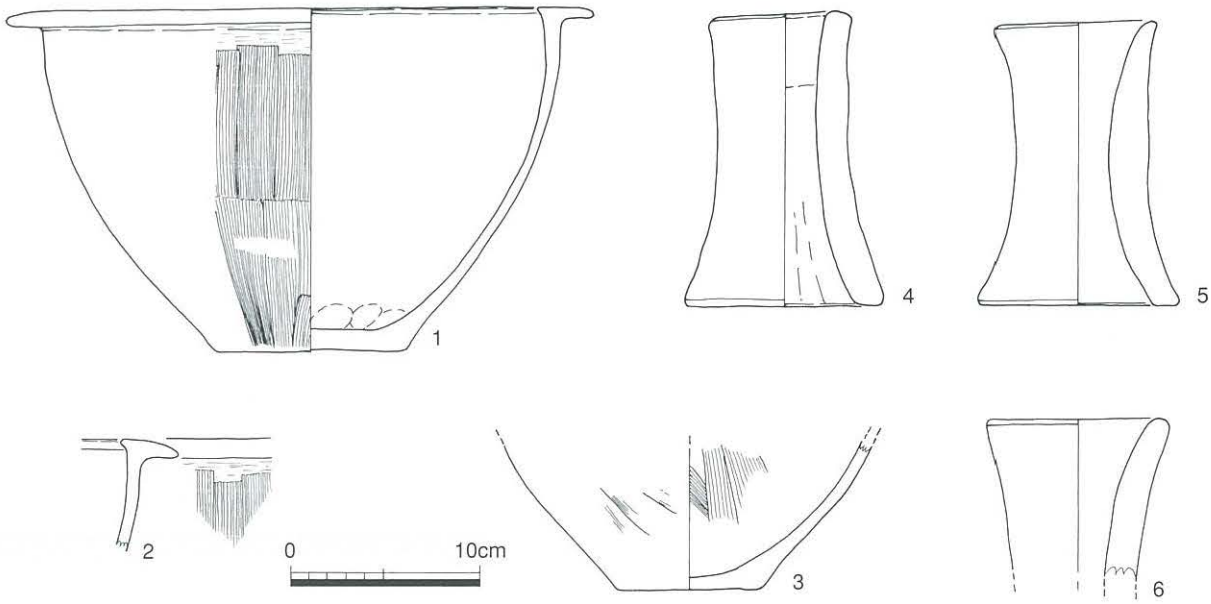
3．SX02・03（北から）

口縁は鋤先状で、外面にハケ調整を施す。２は甕もしくは鉢の口縁部である。１と同一個体の可能性もある。３は壺もしくは鉢の底部。４～６は器台である。遺物総量はコンテナケース１箱分であった。

ま と め　谷際の削平を免れた部分のみ遺構が確認された。時期は弥生時代～古墳時代である。古い地図をみると削平は２ｍ弱行われているようであり、本来は台地上全体に集落が広がっていたものと考えられる。



４．遺構分布図（1:100）



５．出土遺物実測図（1:4）

0413 那珂遺跡群第96次調査(NAK-96)

所在地	博多区竹下５丁目452-1	調査面積	90㎡
調査原因	消防分団車庫建築	担当者	長家　伸
調査期間	2004.4.5～2004.4.19	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する遺跡群である。丘陵の基盤層は花崗岩礫層で、この上面に阿蘇噴火火砕流・火山灰である八女粘土層・鳥栖ローム層・新期ローム層が堆積している。北側に隣接する比恵遺跡群とは一連の丘陵上の遺跡群を構成するものと考えられ、その範囲はあわせて南北2.4km、東西１kmに及ぶものと考えられる。

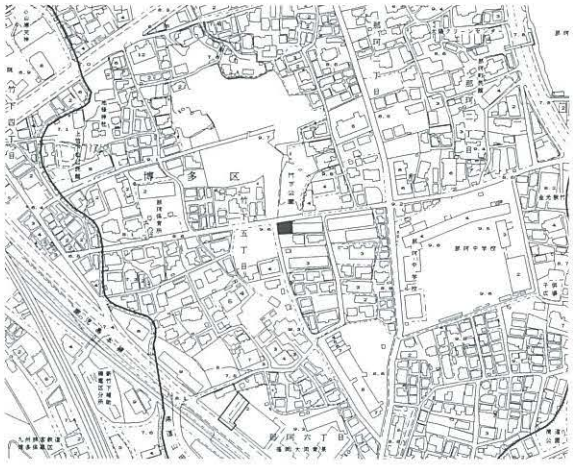
今回の調査対象地はこの丘陵の南側に位置する。以前レンタン工場の倉庫として使用されていたところであり、現況は建物解体後、標高9.8m前後の更地となっている。

検出遺構　検出遺構はピットのみで、古代に位置付けられる掘立柱建物３棟をまとめることができた。３棟は主軸方位・配置・埋土等の同一性より、時期的な差異の少ない一連の建物群である可能性が高いものと考えられる。

出土遺物　遺物は小破片であるため時期の明らかなものは少ないが、古墳時代後期～古代に位置付けられるものが主体を占める。

まとめ　今回の調査では８世紀代の建物群を確認することができた。３棟の建物はほぼ磁北に軸をそろえ、有機的関連を有するような配置となっている。また建物建設にあたっては面的な造成工事が行われた可能性も考えられる。この他ピット・包含層中から弥生時代中期後半～後期、古墳時代後期～古代、中世の各時代の遺物が出土している。

報告書は平成16年度に刊行済みである（福岡市埋蔵文化財調査報告書第844集）。



1．調査地点の位置（38　塩原　85　1:8000）

2．調査区東半部全景（北から）

3．調査区南西部全景（北から）

0414 那珂遺跡群第97次調査(NAK-97)

所　在　地　博多区竹下５丁目地内　　調査面積　965.6㎡
調査原因　確認調査　　担　当　者　長家　伸
調査期間　2004.4.20～2004.5.31　　処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　対象地は那珂遺跡群のほぼ中央部分にあたり、本来の丘陵高所尾根線上にあたる地点である。昭和初期作成地図に拠れば、対象地内は南側に10mコンタ、北端部分に８mコンタが巡り、全体に南側から北側に緩やかに傾斜する地形として表現されており、北西隅に60×40mの10mコンタによる高位部分が示されている。敷地現況はその後の削平により切り下げられている部分も一部に存在するが全体に9.8～9.4m前後のほぼ平坦な敷地となっている。

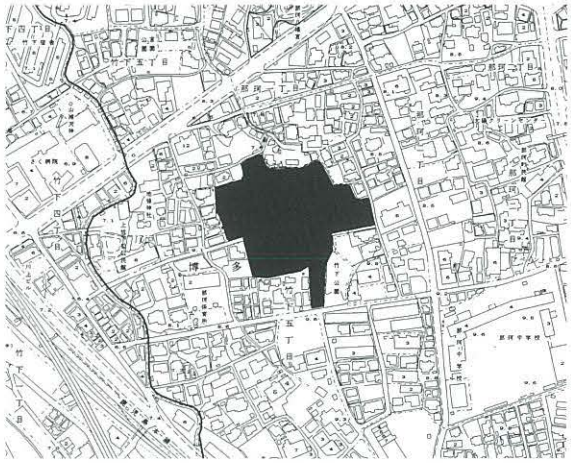
調査以前はレンタン工場・倉庫がほぼ全面に建築されており、工場建設以前は桑畑であったとのことである。今回この公園用地全面を対象に遺構の分布状況を確認する目的で試掘調査を行った。対象面積は13466.44㎡である。

検出遺構　遺構は弥生時代～近世に位置付けられるものを検出しており、竪穴住居跡・溝・土坑・甕棺墓等が確認できた。遺構は対象地のほぼ全面に広がっており、削平の程度を考えると、本来更に多くの遺構が存在していたものと考えられる。

出土遺物　一部掘り下げたものを含めて出土・採集遺物はコンテナ８箱である。

まとめ　今回の対象地では、工場建設による削平も認められたものの、建設以前の耕作土壌が残存する部分も多く認められる。昭和初期作成地図との比較からも、工場建設に伴う地形改変は小規模にとどまったものと考えられ、地下げの多くは工場建設以前の昭和初期の段階ですでに行われていたものと考えられる。とはいえ表土直下で遺構面である鳥栖ローム層が露出する部分では、特に工場建設･解体に伴う遺構面の傷みも進んでおり、狭い範囲の調査では遺構の性格等不明瞭な点も多い。

報告書は平成17年度以降刊行予定である



1．調査地点の位置（38　塩原　85　1:8000）

2．T－12検出甕棺墓（東から）

3．T－13検出溝土層（北から）

0415 福岡城跡第51次調査(FUE-51)

所　在　地　中央区城内1
調査原因　鴻臚館跡確認調査
調査期間　2004.4.1～2005.3.31
調査面積　2,110㎡
担　当　者　折尾　学・大庭 康時
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　史跡鴻臚館跡は、博多湾に面した丘陵突端に位置する。鴻臚館跡の発掘調査は、全容解明を目的とした確認調査で、平成16年度は平和台球場跡地南半部分の東側を対象に調査をおこなった。鴻臚館跡関連調査としては、第22次となる。

検出遺構　バックホーで平和台球場に関わる盛土を除去し、以下を人力で精査した。福岡城関連の遺構としては、三の丸を東西に通る道路の南側側溝を検出した。側面と底面に礫を敷き詰めた溝であるが、球場造成によって、ほとんどが削平され部分的に残っていたに過ぎない。また、三の丸南辺の入り隅部分の堀が、調査区にかかっていたが、同様に削平を受け、土塁などは完全に失われていた。

鴻臚館時代の遺構としては、南館と北館を隔てる東西の堀底から橋脚と思われる柱穴を検出した。平成15年度調査区の追加調査では、9世紀前半の梵鐘鋳造遺構を検出した。

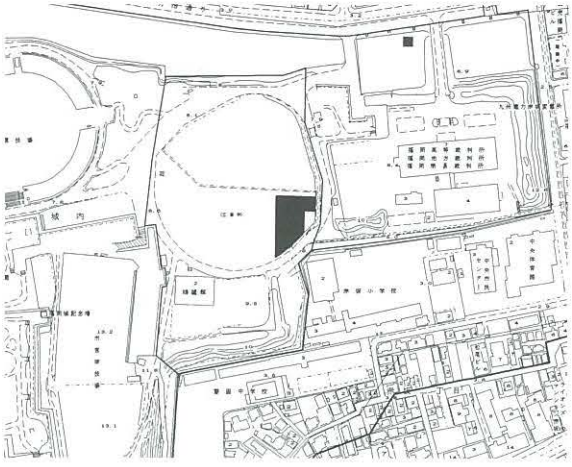
なお、北館東側の谷については、16年度内には谷の全容を調査するには至らなかった。この部分の調査は、平成17年度に継続する予定である。

出土遺物　鴻臚館関係瓦、初期貿易陶磁器、土師器、須恵器などがコンテナ120箱出土している。

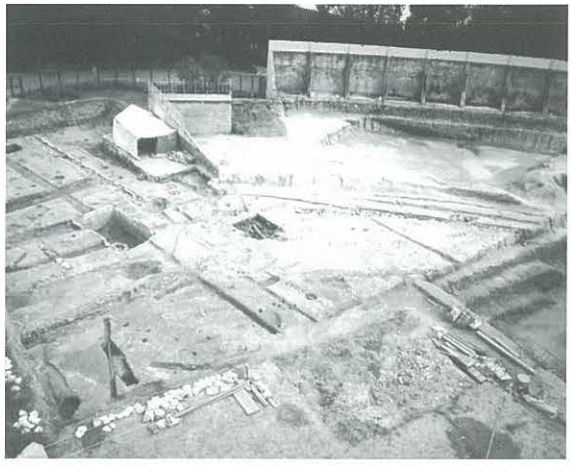
まとめ　鴻臚館の南館と北館を結んで堀に架けられた橋を検出した意義は大きい。これまでの発掘調査で、南館と北館は東にのみ門を構えていたことが明らかとなっていた。今回確認した橋は、南館と北館をその正面で結ぶもので、相互に橋で行き来できたことを示している。

また、鴻臚南館で梵鐘が鋳造されたことが明らかとなった。時刻を知らせる鐘と考えられる。鴻臚南館において時刻が計られ、鐘楼が設けられていたことが推測できる。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(60　舞鶴　193　1:8000)



2．調査区全景（北西より）

3．梵鐘鋳造遺構（西より）

0416 有田遺跡群第209次調査（ART-209）

所在地	早良区小田部５丁目49-2外	調査面積	67㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.5.10～2004.5.21	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は早良平野の北部にある最大標高15mを測る独立中位段丘上に立地している。台地には深く切り込んだ谷が幾つか存在し、台地は北方向に向かって八つ手状に分岐している。209次調査地点はこの谷の一つの西側落ち際に位置する。地山である鳥栖ローム面は調査区中央あたりから南西側に緩やかに下り始め、谷に向かって落ちてゆく。

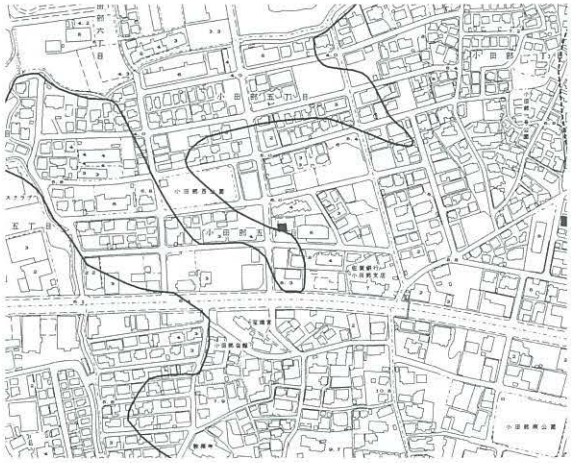
検出遺構　方形竪穴住居２軒、貯蔵穴と考えられる方形土坑２基、ピットを検出した。

竪穴住居SC02は15次調査で確認した２号住居跡の延長部分である。東北コーナー部分と東壁を確認した。西側は調査区外に伸びる。壁溝を持つ。SC03を切り、構築されている。残存壁高は50cmで、床面はSC03より深い。竪穴住居SC03はSC02に切られており、東コーナー部分のみ検出できた。壁溝を持つ。残存壁高25cm。貯蔵穴SU01は短辺２m、長辺２m以上、残存壁高80cmを測る。調査区北側へ伸びている。床面は平坦だが、南東部分だけ２cm程高くなっている。SU04に切られている。貯蔵穴SU04は発掘区北西部分でわずかに南コーナー部分を確認した。床面はSU01より若干低い。竪穴住居の可能性もあるが、SU01と同形態の方形貯蔵穴と考えられる。

出土遺物　遺物はコンテナケース１箱分と非常に少なく、時期を決めがたい。ピットの幾つかには須恵器がみられたが、竪穴住居、貯蔵穴からは須恵器は出土していない。

まとめ　谷の落ち際に住居、貯蔵穴を確認した。15次調査も同じような遺構の分布を示しているが、台地上はかなりの削平を受けているようで、本来は台地上全面に集落が展開していたものと考えられる。

報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（82　原　309　1:8000）

2．調査区全景（西から）

3．貯蔵穴SU01（南西から）

0417 有田遺跡群第210次調査(ART-210)

所在地	早良区有田1丁目12-9	調査面積	40㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2004.4.30～2004.5.21	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は、早良平野を北に流れる室見川下流右岸に位置する洪積世独立中位段丘上に展開する縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡である。台地の西側には室見川に、また東側は金屑川に解析されるが、本調査地点は、台地の東端部に位置する。調査前の現況は、宅地である。

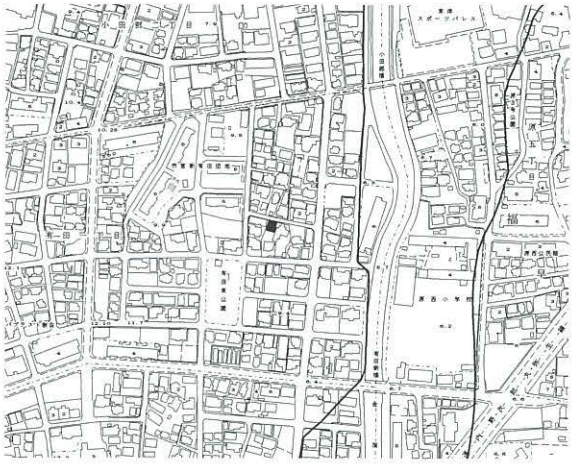
重機による表土除去後、人力による掘削を行った。遺構面は、現地表面から約40cm掘削した標高10.4m付近の鳥栖ローム層上で検出した。遺構面は、上面がやや削平されていると考えられるものの、保存状態は比較的良好であった。

検出遺構　検出した遺構は、古墳時代後期の竪穴住居址3棟、奈良時代の掘立柱建物址の一部と考えられる柱穴列、溝、ピットなどである。竪穴住居址は、いずれもその一部を検出したにすぎず、また削平などもあり、全体の規模や構造は明確でないが、いずれも隅丸方形と考えられ、この内2棟には壁溝が巡る。掘立柱建物址と考えられる柱穴群は、掘り方65cm前後の円形を呈し、柱痕が20cm前後、深いもので遺構検出面から深さ70cmを測る。

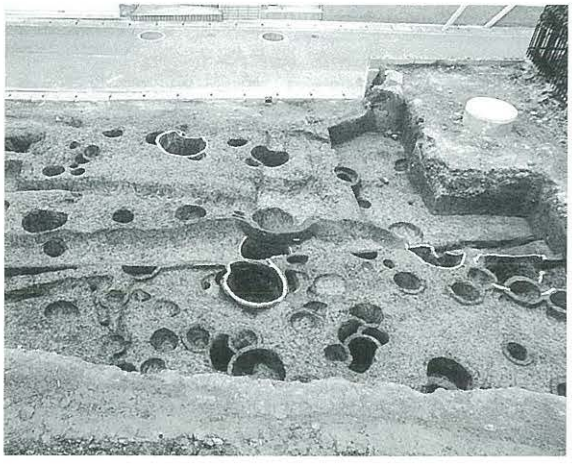
出土遺物　須恵器片、土師器片、灰釉陶器片などがある。また特筆すべき遺物として、SC-02竪穴住居址からミニチュア土器が1点出土している。総量はコンテナケース1箱分である。

まとめ　竪穴住居址SC-02は、出土遺物から7世紀前半代の所産と考えられる。このほかの住居址は、出土遺物が僅少で時期を明確にできない。掘立柱建物址は、8世紀後半代の所産と考えられる。

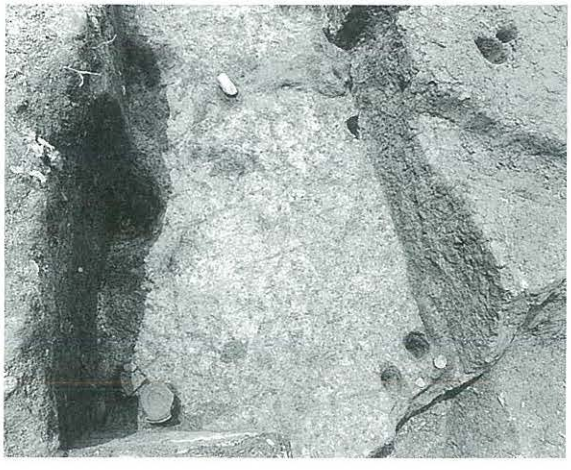
調査報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(82　原　309　1:8000)



2．調査区全景（南から）



3．SC-02遺物出土状況

0418 上広瀬遺跡群第1次調査(KHI-1)

所　在　地　早良区大字西字広瀬地内　　調査面積　10,800㎡
調査原因　圃場整備　　担　当　者　加藤 良彦
調査期間　2004.4.1～2004.11.12　　処　　置　記録保存

位置と環境　遺跡は福岡市西部の早良平野を貫流する室見川の上流部、南岸の河岸段丘上に立地する。北東に延びる舌状台地となっており、調査区はこの北東部に位置する。標高は109m～123m。遺構は耕作土下の赤橙色粘土上面で検出され、部分的に黄灰色シルトの縄文時代包含層が残る。

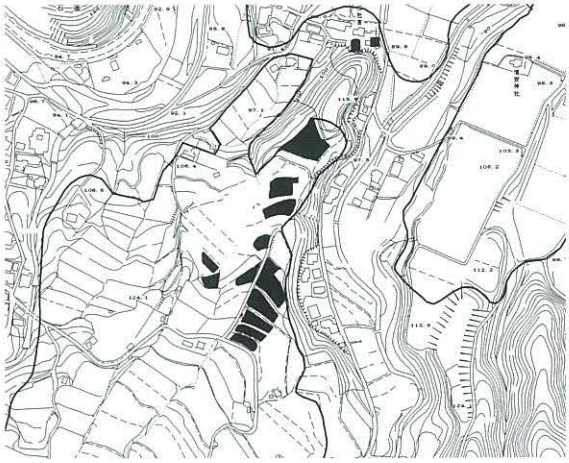
検出遺構　遺構は、縄文時代の土壙２基・柱穴・倒木痕89基・流路８条、中世溝17条・焼土壙47基・土壙27基・掘立柱建物29棟他柱穴多数・倒木痕５基、近世溝62条・土壙33基・水田開墾時の岩石埋め込み処理土壙14基・柱穴多数・倒木痕13基である。

出土遺物　遺物は、縄文時代早期押型文土器・石鏃・晩期土器・石器を、中世整地層・溝を中心に12～15世紀代の土師器坏・皿・貿易陶磁器等をコンテナ３箱分検出している。

まとめ　縄文時代は晩期を中心とするが明確な生活遺構は検出されない。倒木痕の多くは該期に属すると思われ、晩期に開かれた可能性をしめす。

中世は調査区先端近く、鞍部の焼土を多量に含む12世紀後半～13世紀初の整地層の上面で４面庇の２間×３間の掘立柱建物１棟、下面で一回り大型の２間×３間の掘立柱建物１棟を検出した。居館と考えられる500m程北に位置する広瀬遺跡１次調査と同時期である。遺物が集中するのはこの一角だけで、他の地点では建物は検出されるものの、遺物は殆ど伴わない。長期間居住した状況ではなく、短期間で廃絶したものとおもわれる。近世溝の多くは開田以前の畑の畝溝で等高線に並行に長さ６m前後５～６条程がまとまって検出される。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(早良18　西他　801　1:8000)

2．調査区遠景（西から）

3．炭の残る焼土壙SK14（西から）

0419 広瀬遺跡第3次調査(HRS-3)

所在地	早良区内野８丁目1716	調査面積	87㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	加藤 良彦
調査期間	2004.5.6～2004.6.7	処置	記録保存

位置と環境　遺跡は福岡市西部に位置する早良平野を貫流する室見川の上流部、東岸の河岸段丘上に立地する。南北を河川に開析され、北東に延びる舌状台地となっており、調査区は遺跡の北東部に位置する。検出面の標高は77.2mである。遺構は耕作土下の黒灰色シルトの上面で検出される。

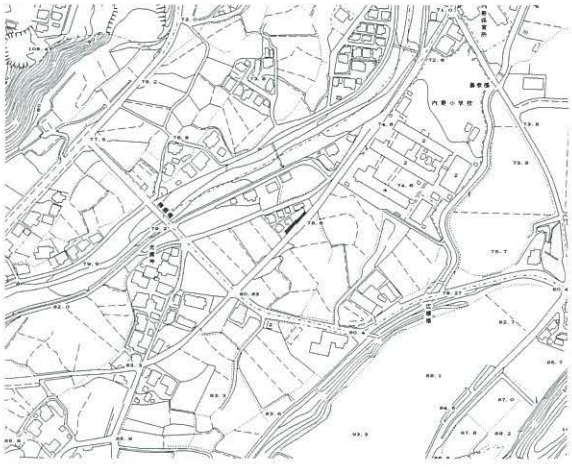
検出遺構　検出した遺構は、縄文時代の倒木痕４基、中世土壙１基・柱穴多数・中世整地層・中世耕作層、近世～現代水田を検出した。

出土遺物　遺物は、縄文時代黒耀石剥片、中世土師器坏・皿等コンテナ１箱分を検出している。

まとめ　中世に開墾が開始されており、縄文包含層の大部分を削平し北側の斜面に客土して整地を行い、遺構面を造成している。斜面の整地層中には開墾の支障となった岩石を大量に廃棄している。隣接する１次調査で検出した居館と同時期の12世紀後半～13世紀初頭と考えられる。

13～14世紀には畑地に転用され、近世には中世耕作層上に水田が開かれ、西の丘陵基部側では中世耕作層の大部分が削平されて開田している。この水田面が近年造成で埋め立てられるまで継続している。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(早良17　内野　800 1:8000)

2．１区遺構検出状況（西から）

3．２区整地層中廃石出土状況（東から）

0420 今宿五郎江遺跡第10次調査(IMJ-10)

所 在 地 西区大字今宿町172-1外　　**調査面積** 2,828㎡（総調査面積2,998㎡）
調査原因 区画整理　　**担 当 者** 杉山 富雄
調査期間 2004.4.4～2005.7.6　　**処　　置** 記録保存

位置と環境　遺跡は、高祖山山麓から北へ伸びる台地と周囲の広い谷の一部を含む。調査地点は、その東側裾部と谷部で、段丘面から２m低い標高５～６mの位置にある。調査区は、段丘裾部に沿って帯状に分布する遺物包含層の範囲に設定した。

検出遺構　包含層と下位の遺構面との２面について調査した。包含層は、台地際の削平部を除く全面に広がる。洗い出しにより、遺物が河原状に堆積する部分がある。流路の変更に伴い、複数枚に分層できる。上位で鎌倉時代の土壙を検出した。

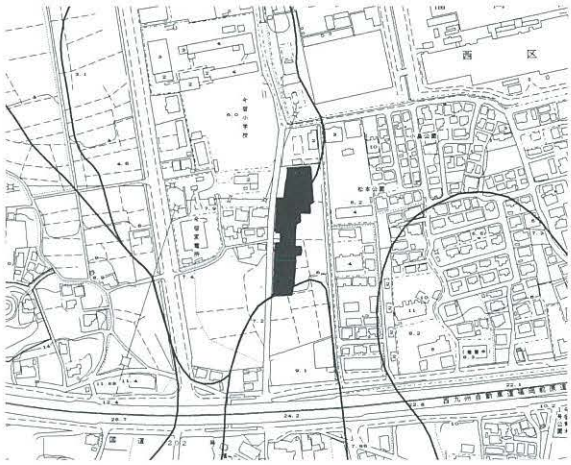
下位の遺構では、台地裾に沿って掘削された２条の溝を検出した。弥生時代のもので、一方は中期土器を出土し、やや高い位置で断続的に遺存する。他方は、谷の堆積と接する位置に掘削された大溝で、流水による堆積層中から後期弥生土器と、木器類、大量の割材が出土した。溝底の２箇所で、矢板を用いた堰を検出した。土壙は、大溝の走る位置を中心に分布する。弥生時代後期、平安時代、鎌倉時代のものがある。大溝埋没過程で掘削されものがある。

谷部では、杭列が重層的に出土した。全域に後世の出水による削剥を受けており、水田の田面等は遺存しない。

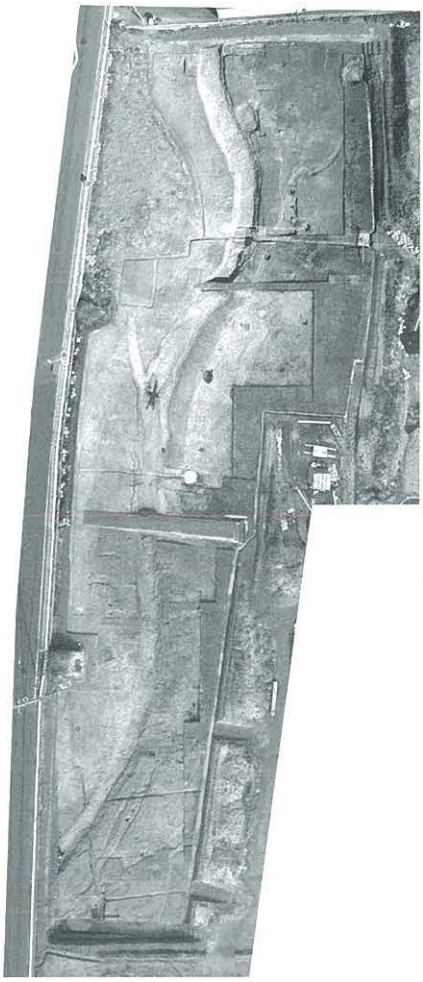
出土遺物　遺物は、木器類を含め、コンテナに換算して1,438箱ほどが出土した。包含層からは大量の後期弥生土器片に混じって、銅戈鋳型、鏡片、銅鏃、青銅製鋤先等が出土した。また、緑釉陶器・越州窯系青磁が多数含まれている。大溝からは、土器・木器類の他、銅鏃が出土した。埋没最終段階では土師器が投棄されている。

まとめ　本地点は、弥生時代後期、平安時代については、遺物量、内容からして遺跡の中核部に近接する位置にあるものと考えられる。

報告書は平成19年度以降刊行予定。



1．調査地点の位置(112 今宿 626 1:8000)



2．調査全景(鳥瞰・南から)

0421 那珂遺跡群第98次調査(NAK-98)

所　在　地　博多区那珂６丁目67　　調査面積　65㎡
調査原因　共同住宅建築　　担　当　者　荒牧 宏行
調査期間　2004.5.10～2004.6.11　　処　　置　記録保存

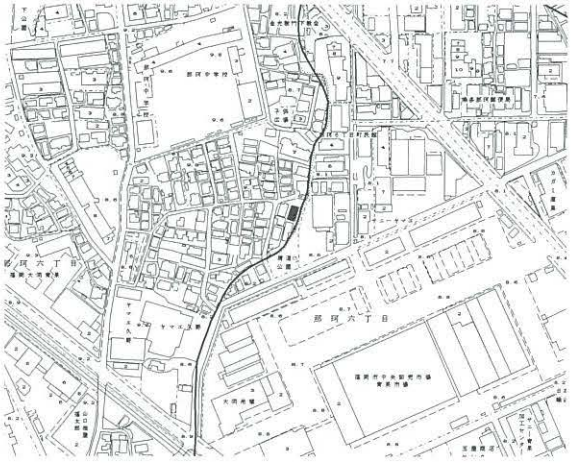
位置と環境　那珂遺跡群の南東際に位置する。現状では東側隣接地に水路が設けられ比高差1.2mの段落ちがみられる。しかし、調査により地山のローム層は緩やかに南東方向に下降していることが確認できた。この地山のロームの標高は65㎡の小規模な調査区内で標高8.6～8.2mを測る。

検出遺構　検出された遺構は柱穴のほか竪穴住居跡６棟以上、中世の溝１条、近世以降と思われる段落ちである。竪穴住居跡はとくに北側で多く切合って検出された。竪穴住居跡の埋土からの遺物は少ないが、古墳時代後期の遺物が主であり、大半はこの時期と考えられる。中世の溝が幅120cm、深さ約30cmの規模で、やや湾曲しながら台地の落ち際を巡る。

出土遺物　総量にしてコンテナ３箱分の遺物が出土した。内容は古墳後期の遺物のほか、若干ではあるが石包丁を含む弥生時代の遺物や７世紀後半以降の須恵器や竹状模骨痕のある瓦片が含まれ、当該時期の遺構が存在しているとみられる。

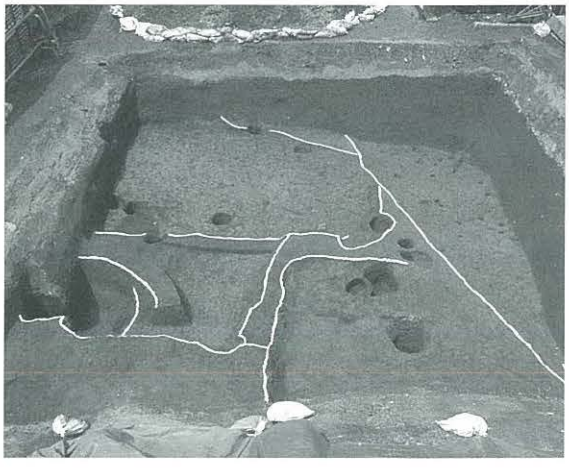
まとめ　弥生時代の遺構は中期の遺物が若干出土したが、検出されなかった。古墳時代後期になると北側50mの第38次調査から本調査区にかけての那珂遺跡群の台地際に竪穴住居跡が多く分布するようになる。また、古代においては那珂遺跡群20次、22次調査をはじめ６世紀末から７世紀代の初期瓦が多く出土しているが、本調査地点においても竹状模骨痕の瓦片が出土したことから更にその広がりを把握することができた。

調査報告書は平成17年度に刊行する予定である。



1．調査地点の位置(24 板付 85 1:8000)

2．調査区南半全景（北から）



3．調査区北半全景（南から）

0422 那珂遺跡群第99次調査(NAK-99)

所　在　地　博多区東光寺町１丁目357-1　　調査面積　1,049㎡
調査原因　共同住宅建築　　担当者　吉武　学
調査期間　2004.5.14～2005.7.30　　処　置　記録保存

位置と環境　調査地は東光寺剣塚古墳の北東側に位置する。周辺の調査事例から、東光寺剣塚古墳の三重の周濠及び弥生時代甕棺墓の存在が示唆された。調査区は「L」字形を呈し、20～30㎝の表土を除去すると鳥栖ロームないし八女粘土の基盤土となり、強い削平を受けている。現状は畑地で、遺構面の標高は８ｍ強。

検出遺構　弥生時代中期の甕棺墓１、古墳時代前期の溝４、東光寺剣塚古墳の第１～３周濠、弥生～古墳時代の掘立柱建物１、古代の溝１・土坑１、中世後期の溝３、及び時期不詳の土坑少数・小ピット、近世墓多数を検出。調査面積に比べ、遺構は少ない。

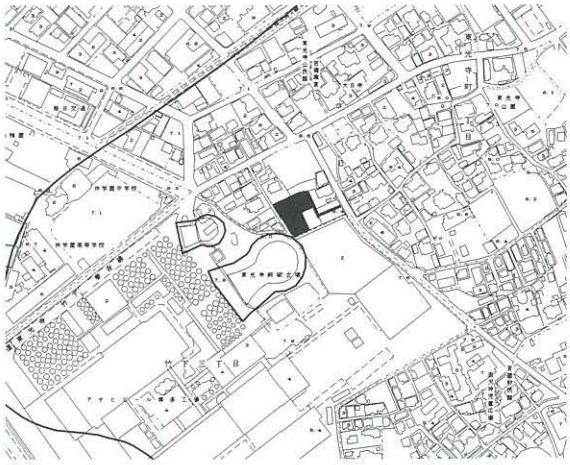
東光寺剣塚古墳の周濠のうち、最も内側の第１周濠は近世まで灌漑用ため池として用いられている。第２周濠は残りが悪かったが、幅約４ｍ、深さ約１ｍで、底面から30㎝程浮いた位置で埴輪・須恵器片が散漫に出土したほか、南端と北端では円筒埴輪がまとまって出土した。第３周濠は幅１ｍ前後、深さ0.3～0.5ｍを測り、遺物はあまり出土しない。

古墳時代前期の溝２条は東西方向に並行しており、磁北から東に80°偏し、内法で7.8ｍの幅がある。溝底面には著しい起伏があって、細長い土坑が連続しているような状況を呈する。比恵・那珂遺跡群では、弥生時代終末～古墳時代初頭の南北方向の並行溝が確認されており、今回の溝はこれに交差するものと考えられる。

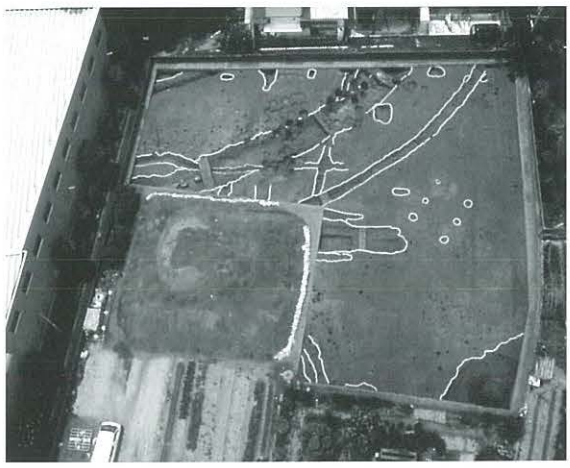
出土遺物　埴輪片を中心にコンテナ43箱。

まとめ　これまで推定によっていた東光寺剣塚古墳の北東部の形状と規模が明確になったこと、古墳時代前期の東西方向に伸びる並行溝（道路）を新たに発見したことの２点が、重要な調査成果としてあげられよう。

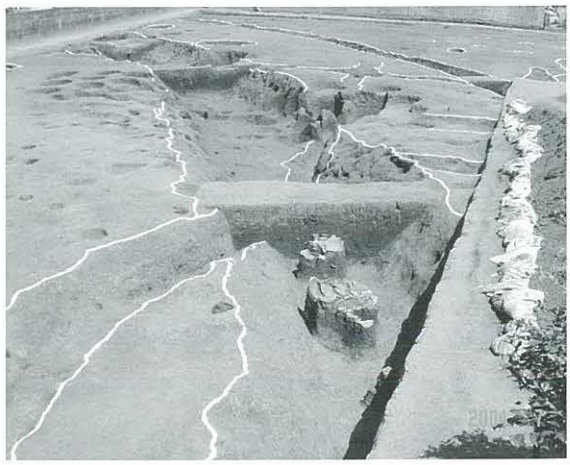
報告書は平成17年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（37　東光寺　85　1:8000）



2．全景（北東から）



3．東光寺剣塚古墳第2・3周濠（南東から）

0423 金武古墳群第7次調査(KOK-7)

所在地	西区大字金武1661外	調査面積	4,031.9㎡
調査原因	確認調査	担当者	池田 祐司
調査期間	2004.4.5～2004.10.28	処置	埋め戻し保存

位置と環境　早良平野と糸島平野を結ぶ日向峠の東側斜面に位置する。H群の２基は夫婦塚古墳として知られる。１号墳は明治期に墳丘が失われ、昭和53年に石室と墓道の一部が調査されている。２号墳は残存し、昭和53年に石室内の調査が行われた（３次調査)。現在、市の史跡に指定され、石室内を見学することができる。

検出遺構　今回の調査は、２号墳南側の現在の水田部分を対象に実施した。その結果、１号墳の全体、２号墳の周溝を検出した。

１号墳は石室掘方、墓道、周溝を検出した。石室は３次調査後に石材が抜かれていた。墓道は幅４m、深さ20㎝が丘陵の落ち際までの28mが直線的に延びる。周溝は削平により残りが悪いが、内側のプランが直線的である。墓道に平行に丘陵落ち際まで直線的に延びる。

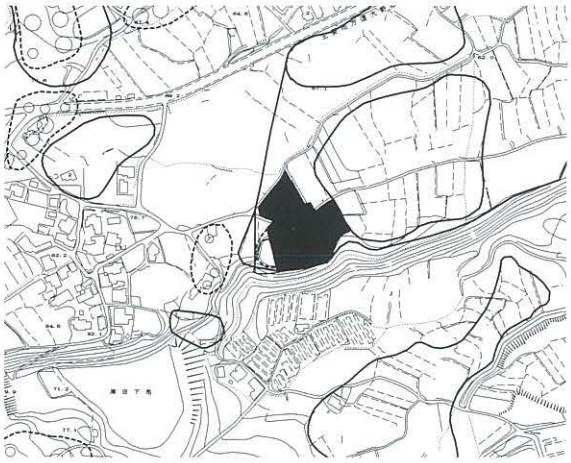
２号墳は東側、北側の周溝を検出した。削平により残りが悪く、北側については痕跡のみである。平面プランは直線的である。

規模は周溝内側で１号墳が約22m、２号墳は35m程に復元できる。このほかに、土坑墓４基、焼土坑、６世紀代の竪穴式住居等を検出した。

出土遺物　周溝、墓道より若干の須恵器、土師器が出土した。３次調査と同様６世紀末～７世紀初頭のものである。竪穴式住居からは須恵器、土師器が出土している。

まとめ　２基の古墳は周溝の形状から方墳と考えられる。現存する２号墳の墳丘も平面方形を呈し、原型をある程度留めていると考えられる。古墳が築造される以前には古墳時代の集落があったものと考えられる。

報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(94　金武　453　1:8000)

2．調査区全景（上空から）

3．１号墳墓道（南から）

0424 長尾遺跡群第2次調査(NGO-2)

所在地	城南区長尾４丁目210	調査面積	125㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	阿部 泰之
調査期間	2004.5.24～2004.6.16	処置	記録保存

1　位置と環境

本調査区は、油山から北に向けて伸びる丘陵地上に位置する。これらの丘陵上には弥生から古墳時代・中世にかけての遺跡が分布し、今回調査した長尾遺跡群もこれらの遺跡群の一角をなすものである。

2　調査概要

現地表面下約30cmにおいて遺構面を設定し、弥生時代の溝状遺構３条･炉跡１基の他、柱穴等を検出した。出土遺物は、弥生土器・土師器・黒曜石の剥片が出土している。また、炉跡から骨片が出土した。住居に伴う炉の可能性が考えられる。

3　遺構と遺物

①炉跡（SR）

SR01（図3）

調査区南西部にて検出した。上部をほとんど削平され、基底部のみ残存する。長軸を南北方向に持つ残存長1.0mの掘り込みを設け、ほぼ中央に炉壁を黄灰色粘土で構築している。平面形は長方形で長軸を掘り込みと直交させ、２個のL字を組み合わせたような形状である。掘り込み内部には焼土・炭化物粒が堆積し、炉壁には被熱痕跡が観察された。

なお、SR01の直近に溝SD12が検出されている。SR01の長軸に直交する方向に検出され、SR01を炉とする竪穴住居の壁溝である可能性も考えられるが、現場では確認できなかった。

出土遺物

弥生土器の細片が出土している。また、中央部から骨片がわずかに出土している。

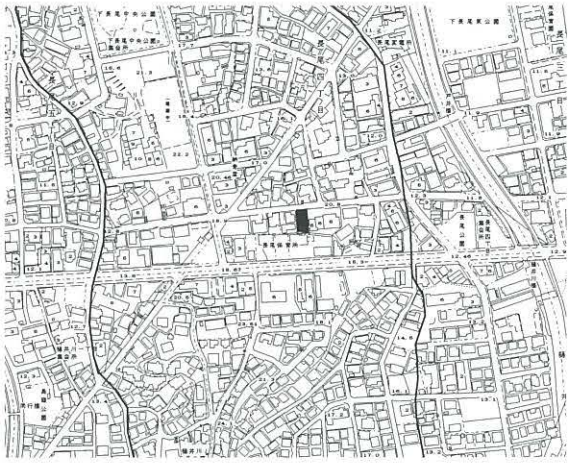


図１　調査地点の位置（63　長尾　203　1:8000）

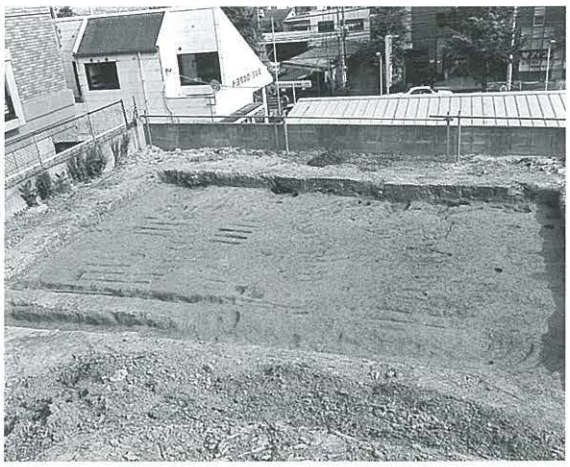


写真１　調査区南半全景（北より）

写真２　調査区北半全景（南より）

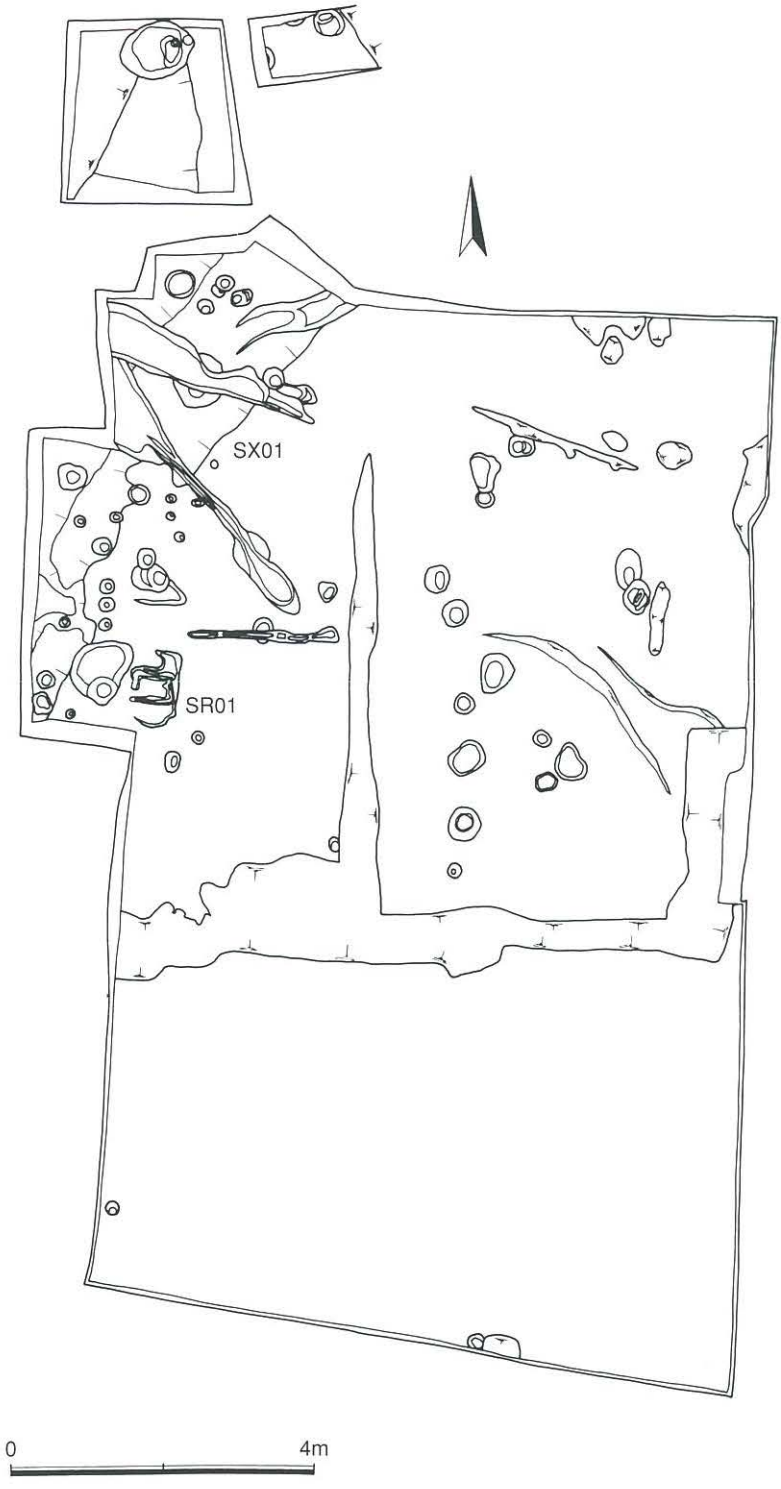


図２　調査区全体図（1:100）

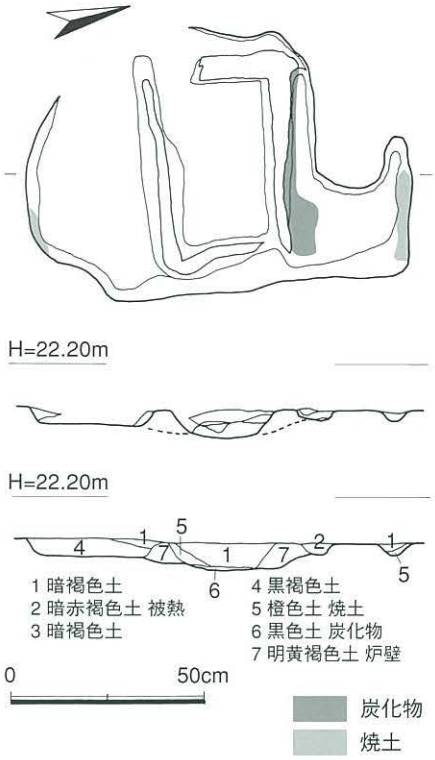


図３　SR01実測図（1:20）

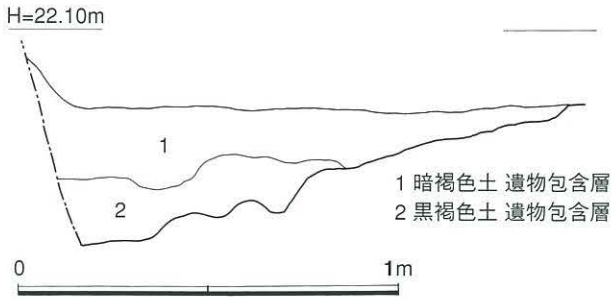


図４　SX01東西土層断面実測図（1:20）

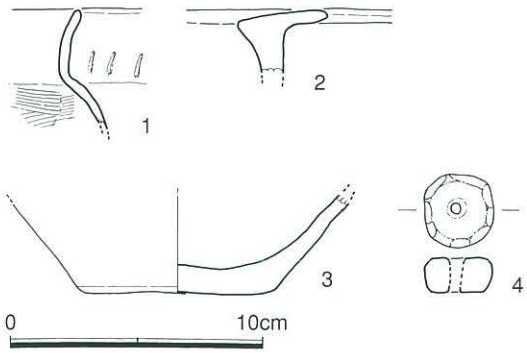


図５　SX01出土土器実測図（1:3）

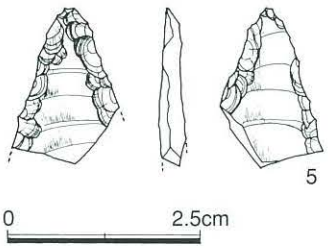


図６　SX01出土石鏃実測図（1:1）

②性格不明の遺構（SX）

SX01（図４）

調査区北西隅にて検出した。長尾遺跡群が乗る台地の落ち際を検出したものと思われるが、ここでは便宜的にSXに種別して報告する。北西方向に緩やかに標高を下げる。これに直交して溝が２条検出された。SX01の堆積土を切る形で、排水溝としての機能を考えるべきか。

出土遺物（図５・６）

土器はいずれも弥生土器である。図５の１は小型の甕である。４は土製紡錘車である。図６の５は黒曜石製打製石鏃である。脚部を欠損する。

ま と め

今回の調査で検出された遺構は、溝状遺構３条・炉跡１基の他、ピット多数である。また調査区北西部で谷状の落ちを検出した。台地上の微地形の一部を検出したものか。溝状遺構には竪穴住居の壁溝と思われるものと、後述する谷に向い直交する形に伸びるものがあり、後者は排水溝としての機能が推定される。炉跡には粘土で方形に焼成部を構築した痕跡が検出されたが、削平が著しく上部構造は不明。ピットには柱痕を残すものがあり、柱穴と思われる。遺物は弥生土器・黒曜石・サヌカイト片が出土しているが、いずれも細片であり、量も少ない。

いずれにせよ調査地周辺はすでに大きく切り下げられており、周囲の状況を推し量る上での一調査例となろう。

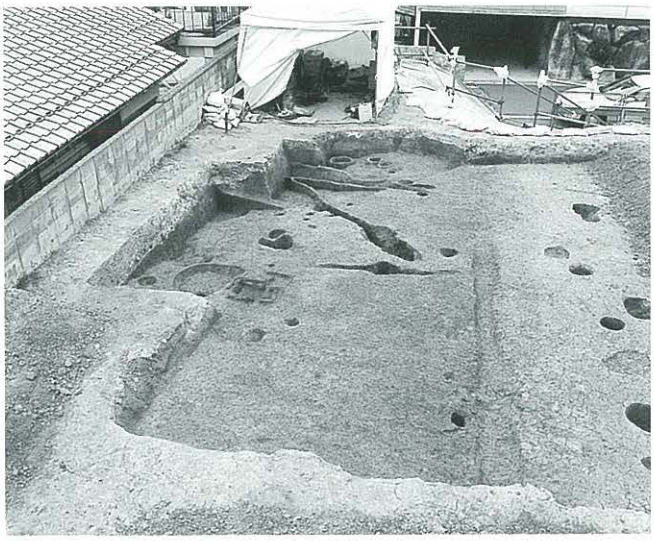


写真３　調査区北半拡張後全景（南より）

写真４　調査区北側拡張区全景（南より）

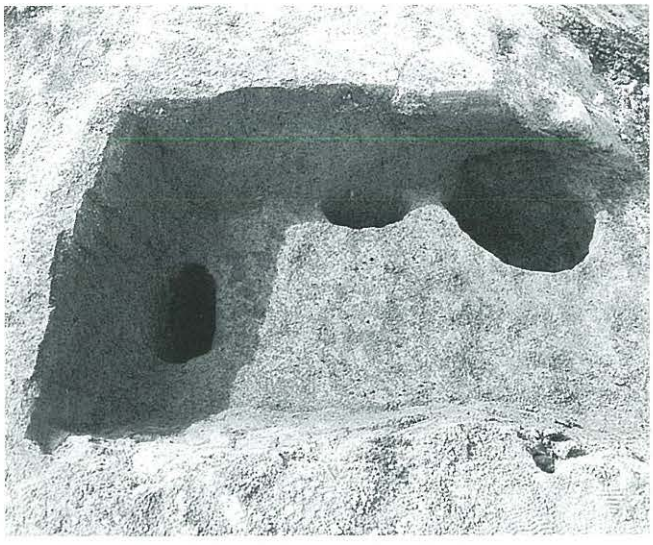


写真５　北側再拡張区全景（北より）

写真６　SR01（西より）

写真７　SX14遺物出土状況（東より）

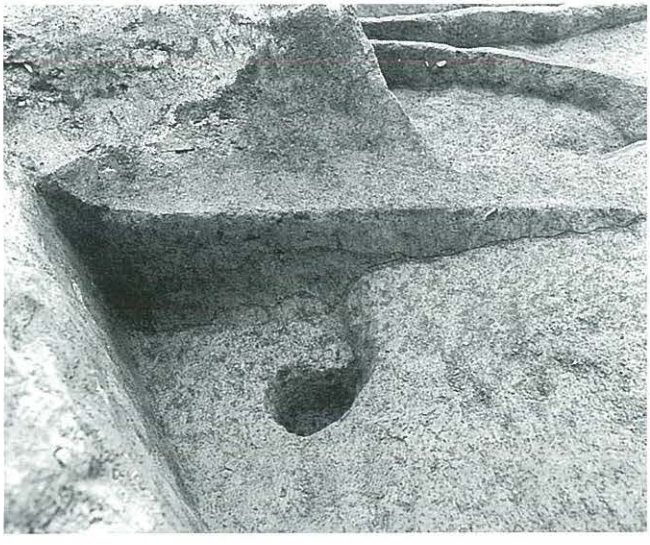


写真８　SX14東西土層（南より）

0425 那珂遺跡群第100次調査（NAK-100）

所在地	博多区竹下３丁目1-1	調査面積	447㎡
調査原因	工場建設	担当者	長家　伸
調査期間	2004.6.1～2004.7.30	処置	記録保存

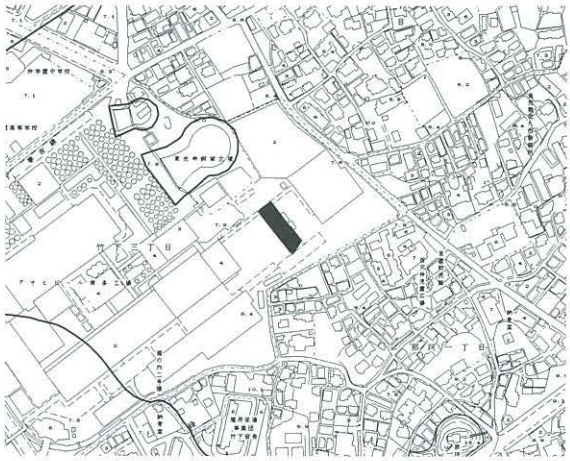
位置と環境　調査地点は那珂遺跡群の北西に位置する。本工場内調査においては、弥生時代貯蔵穴群や甕棺墓・土坑墓等の埋葬遺構群、前方後円墳である東光寺剣塚古墳、古代の地域内の政治的中心である官衙的遺構群、中世館を構成すると考えられる堀等、多種多様の遺構・遺物が確認されている。

検出遺構　遺構面は鳥栖ローム層上面で、遺構面標高は7.5m前後である。なお東側に隣接して昭和63年に行った第16次調査地点は、標高8.5mで今回より約１m高く、遺構（甕棺墓など）の残存状態が極めて良好であった。今回の調査地点は旧工場建設・解体等に伴い遺構面の地下げが進んでいるようである。確認した遺構の主体は弥生時代中期後半の甕棺墓39基、土坑墓２基のあわせて41基の埋葬遺構である。16次調査でもほぼ同じ時期の埋葬遺構が49基確認されており、あわせて90基の埋葬遺構が確認されたこととなる。この埋葬遺構群は更に帯状に北側に伸びるものと考えられ、100基を超える大規模な墓地が形成されていたものと考えられる。この他弥生時代の溝１条・土坑数基、古代の溝１条、中世後期の溝１条が確認されている。中世の溝は矩形に折れ曲がるものであり、館を取り囲む堀と考えられる。

出土遺物　コンテナ70箱分出土している。

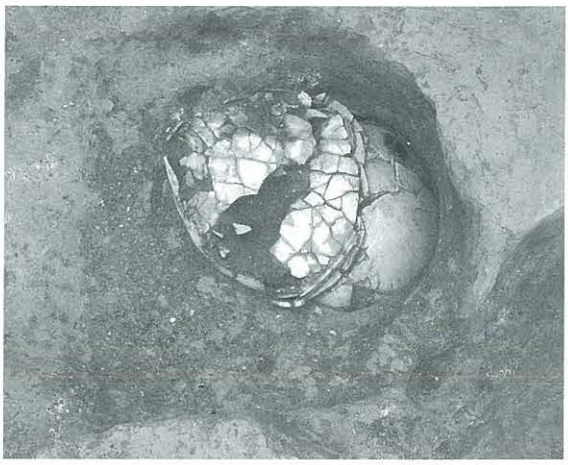
まとめ　今回の調査地点で、弥生時代の甕棺墓を中心とした大規模な墓地の一部を確認することができた。この墓域は更に北側に伸び、東光寺剣塚の東側に向かって広がっていくものと考えられる。この他甕棺墓は工場北西側の貯蔵タンク地点でも30基程が確認されている。これらの異なる墓域間の比較検討等も今後の課題である。

報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　85　1:8000）

2．調査区全景（北西から）



3．甕棺墓（西から）

0426 博多遺跡群第147次調査(HKT-147)

所在地	博多区祇園町4－9	調査面積	588.6㎡
調査原因	寺社兼個人住宅建築	担当者	大塚 紀宜
調査期間	2004.6.4～2004.12.16	処置	記録保存

位置と環境　博多遺跡群の南端部分に位置し、本調査地点南側に房州堀が位置する。南側砂丘列の後背部分と考えられる。現況標高は約６ｍである。

検出遺構　計４面の調査を実施した。第１面は暗褐色砂質土で、土坑などの遺構群が散漫に検出され、土壙墓が多い。調査区西側で検出した土器溜は幅２ｍの溝状遺構内に土師器皿を中心に60箱の遺物が出土する。13世紀の遺構面である。

第２面では12世紀中頃～後半の井戸、土坑、溝などの生活遺構を濃密に検出する。１基の井戸枠内から馬骨が１頭分完全な形で出土する。

第３面は暗褐色砂質土の遺構面で標高3.2m程度で、井戸、方形竪穴土坑、土坑など検出した。検出遺構は少なく、大部分の遺構は11世紀後半～12世紀前半とみられる。古代の遺物は少ない。

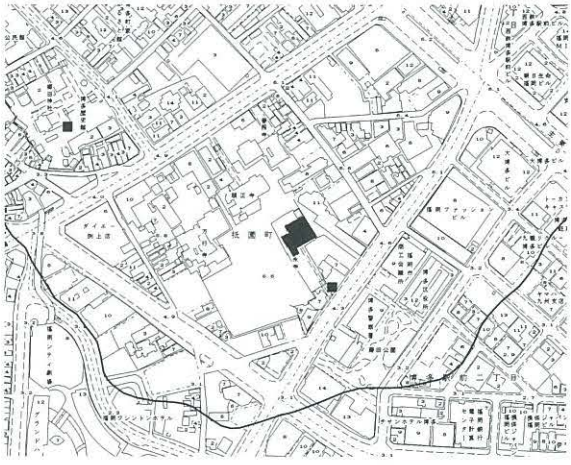
第４面では弥生時代～古墳時代の遺構を検出する。標高は2.4～3.0mで南に緩く傾斜する。

地山土質は明褐色風成砂で脆く崩れやすい。弥生時代の遺構は甕棺等で、甕棺は２基検出され、弥生前期後半～前期末に属する。甕棺周辺に板付Ⅱb式土器が散布する。古墳時代では竪穴住居を13基検出する。住居の年代は古墳時代初頭～前半で、柱穴を４本持ち、ベッド状遺構や壁溝、竈はない。住居床面直上で完形土器が多数出土し、台石と見られる長さ約50cmで上面が平滑な石材もみられる。

出土遺物　総出土量471箱。第３面遺構面上で後漢～三国の銅鏡破片が出土、また第４面遺構面上で五銖銭が２枚重なって出土する。第３面以下の包含層から鉄器、鉄片が大量に出土する。

まとめ　弥生時代の遺構は博多遺跡群の上限をさらに上げる証左である。古墳時代の鉄関連遺物は第50次調査と併せてこの地点に広範な鉄器生産集団が存在したことを伺わせる。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(49　天神　121　1:8000)

2．古墳時代前期住居SC-4009（東から）

3．弥生時代前期甕棺SC-4001（東から）

0427 唐原稲葉遺跡第1次調査(THI-1)

所在地	東区唐原５丁目154-1外	調査面積	225㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2004.6.8～2004.7.5	処置	記録保存

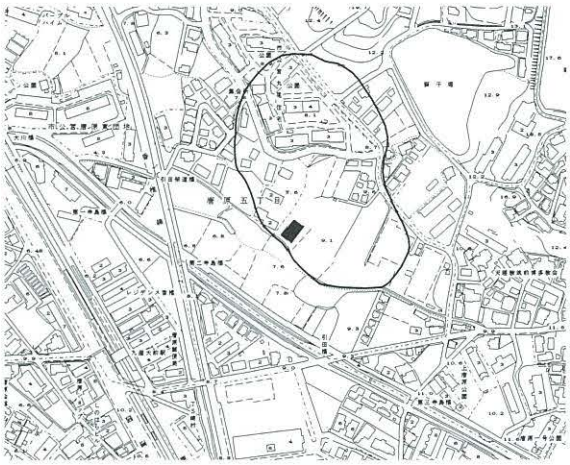
位置と環境　唐原稲葉遺跡は今回新たに発見された遺跡であり、現在の九州産業大学の北側に存在する。立花山からのびた低丘陵の裾付近に広がる遺跡で、調査地点の標高は７m程である。

検出遺構　幅1.2～2.7mの溝１条、そしてピット群を検出した。溝は南北方向に流れ、北側へ進むにつれて次第に深くなり、最深部では0.6mを測る。

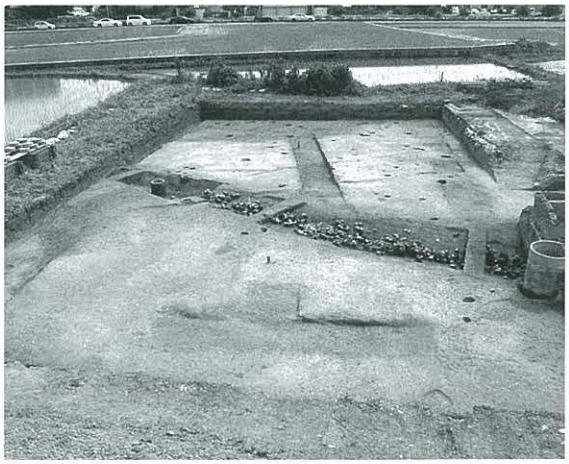
出土遺物　出土遺物の大半は溝中の出土である。溝の上層部分には、古墳時代中期に相当する土師器がまとまって出土している。そして溝の下層からは弥生時代中期の土器が検出された。出土量はコンテナ10箱ほどである。

まとめ　溝の下層からは、弥生土器のみが含まれており、土師器は出土していない。従って溝は弥生時代に属するものと考えて良いだろう。ピットからは弥生土器、土師器が若干量出土している。ピット群からは、有意な配列をみることはできず、建物等の復元はできなかったが、その時期は溝の使用期と関連するものであろう。

尚、報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(16　唐原　2830　1:8000)



2．調査区全景（北西から）

3．SD01（北から）

0428 有田遺跡群第211次調査（ART-211）

所在地	早良区小田部５丁目193	調査面積	433㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2004.6.7～2004.7.23	処置	記録保存

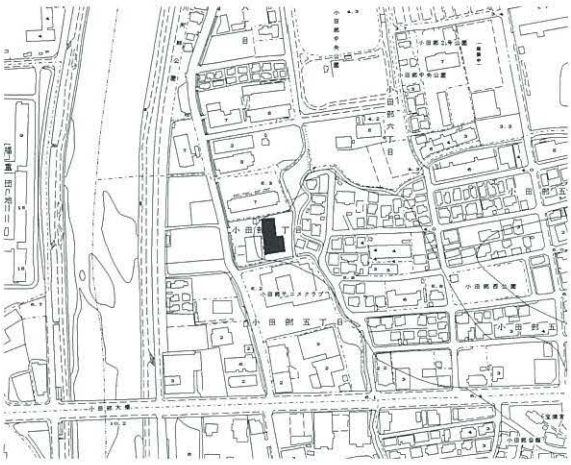
位置と環境　有田遺跡群は、早良平野を北に流れる室見川と金屑川に挟まれた洪積世独立段丘上に位置する。本遺跡が立地する台地は、かつて小丘陵とその間の谷部が八つ手状に展開していたが、現在は大規模な区画整理によって旧状が理解しにくい。本調査区は、有田遺跡群の北西端部に位置している。

検出遺構　重機による表土除去後、人力による掘削を行った。遺構面は、現地表面から約20cm程度掘削した標高4.0m付近の鳥栖ローム層面で検出した。本調査区の南側を流れる水路や、周辺の試掘調査の成果から、かつて蛇行して流れていた室見川が、調査区南東側の台地縁辺部にぶつかって突撃段丘を形成していたと考えられる。今回の調査では、この突撃段丘から西側に延びる台地の落ち際を確認した。調査区の西側大半は、河川性の砂礫層が堆積している。調査区東側の台地上では、小さなピットが数個検出されたのみで、遺構の密度は極めて低い。

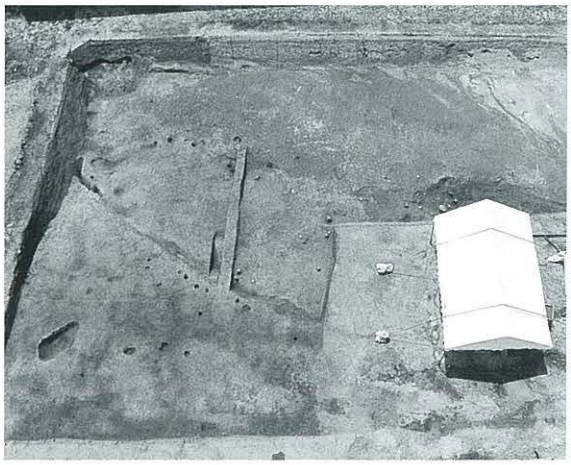
出土遺物　遺物の大半は、調査区西側の河川堆積層中から出土した。突帯文土器、黒曜石製石鏃、サヌカイト製石鏃、石包丁などがあり、総量はコンテナケースに５箱である。

まとめ　調査地点では、明確な遺構の検出に至っておらず、弥生時代早期には既に河原の状況を呈していたと推定される。本調査区から上流約1,000mの地点に位置する第62次地点（有田七田前遺跡）でも、川状遺構から当該期の遺物が出土しているが、これに伴う明確な生活遺構が今のところ確認されていない。本調査区での遺物の出土状況は、自然流路の砂礫層に疎らに遺物が含まれている程度であり、これに伴う生活遺構が明確でなく、遺物自体、上流から流れ込んだものの可能性が考えられる。

調査報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（90　石丸　309　1:8000）



2．調査区全景（東から）

3．遺物出土状況（北から）

0429 有田遺跡群第212次調査(ART-212)

所在地	早良区有田２丁目20-10	調査面積	195㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.6.18～2004.7.23	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は福岡市西南部に位置する早良平野の北部にある最大標高15mを測る独立中位段丘上に立地している。212次調査地点は台地のやや西よりに位置し、標高12.6mを測る。昭和43年、九州大学による有田遺跡群２次調査の17街区で一部調査が行われている。

検出遺構　竪穴住居２軒、溝６条、土坑７基、ピット多数を検出した。

竪穴住居SC02は九州大学の未調査分の調査を行った。5.4m以上×3.8mの方形でベッド状遺構を有する。古墳時代前期の住居。

竪穴住居SC14は7.8m×5.0mの大型方形住居でベッド状遺構を有する。古墳時代前期の住居。

溝SD01は九州大学が全掘している。188次調査のSD-02、55次調査の３号溝と接続。幅1.6m、深さ50cmで断面逆台形を呈する。古墳時代後期～奈良時代の溝。

溝SD12は181次調査のSD001に接続。幅90cm、深さ40cmで断面は逆台形。古墳時代後期～奈良時代の溝。

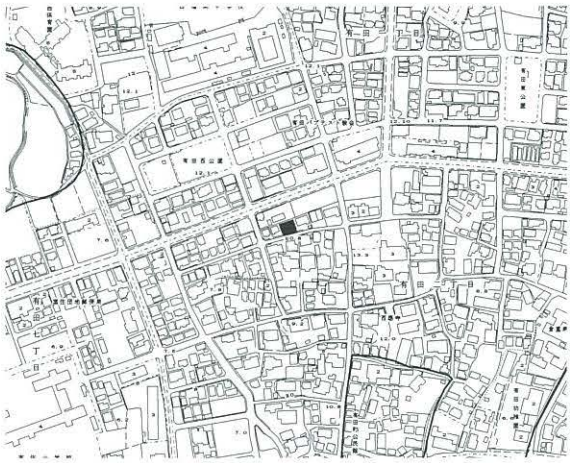
土坑SK06は4.5m×1.1mの平面長方形で、深さ70cm。古墳時代後期の土坑。総柱建物や３本柱柵の布掘りと類似するが、単独で存在する。

土坑SK11は径3.3m、深さ30cmの皿状を呈する。中国製青花皿が出土した。中世後期の土坑。

出土遺物　遺物は竪穴住居を中心にコンテナケース５箱分出土した。

まとめ　古墳時代前期、古墳時代後期～奈良時代、中世後期の３時期の生活痕跡が検出された。古墳時代前期の大型竪穴住居や古墳時代後期～奈良時代の溝の延長が発見されたことが特筆される。

報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(82　原　309　1:8000)

2．調査区西側（東から）

3．調査区東側（西から）

0430 横手遺跡群第1次調査(YKT-1)

所　在　地　南区横手３丁目273-6　　調査面積　103㎡
調査原因　個人住宅建築　　担　当　者　山崎 龍雄
調査期間　2004.6.18～2004.7.13　　処　　置　記録保存

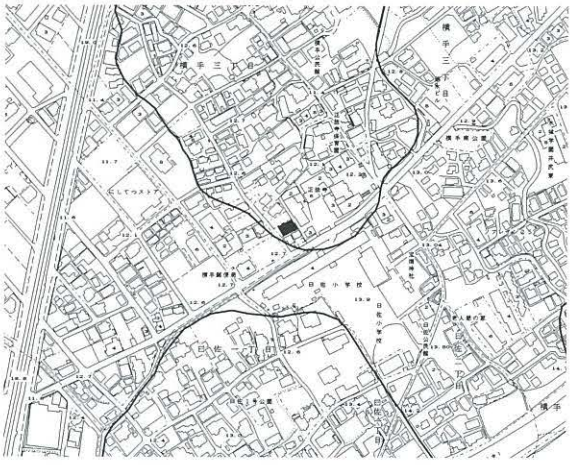
位置と環境　本調査区は那珂川中流域東岸の沖積微高地上に立地する横手遺跡群南端に位置する。本遺跡群の調査は今回が最初であるが、南に隣接する日佐遺跡群では外環状道路に伴う調査を初め、３次の調査が行われ、縄文時代後期の包含層や中世前期集落遺構が検出されている。日佐の地名は古代の通訳の遺称であり、歴史的にも由緒のある地域である。横手は日佐の北側に位置するが、旧日佐村の範囲に入る。

検出遺構　本調査区の標高は地表で13m前後を測る。調査は建物範囲について行った。廃土処理の関係から東西二分割して調査を行った。遺構は地表から－30～40cmの黄褐色シルト細砂・オリーブ褐色土上面で検出した。検出遺構は溝跡８条、焼土坑１基、土坑２基、ピットなどである。遺構面にわずかであるが遺物が混ざっていたので、更に30～50cm掘下げて下部遺構の確認を行ったが、上面での未確認ピット・落込みと摩滅した土器細片を少数検出したのみであった。遺構の時期は遺物から、古代から中世前期である。

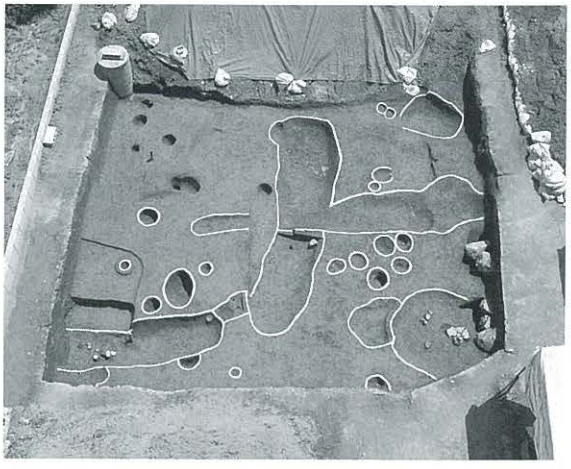
出土遺物　出土遺物は少なく、パンコンテナ３箱である。遺物の種類は弥生土器と石鏃、古墳時代から古代の土師器・須恵器、中世の土師器、中国産陶磁器などがある。

まとめ　横手遺跡群での初めての調査であったが、遺跡の時期が古代から中世にかけてであることが確認出来た。弥生時代の遺物が少量出土しているので、周辺では今後弥生時代の遺構も確認される可能性がある。

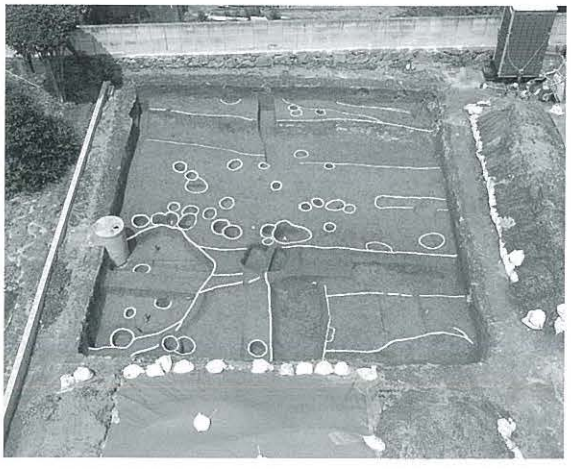
本調査の成果は平成18年度以降刊行の予定である。



1．調査地点の位置(39　三宅　99　1:8000)



2．東側調査区全景（西から）



3．西側調査区全景（西から）

0431 周船寺遺跡群第16次調査(SSJ-16)

所在地	西区大字千里447-4	調査面積	97㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	阿部 泰之
調査期間	2004.6.25～2004.7.30	処置	記録保存

位置と環境　本調査区は、糸島平野の東部、周船寺川によって形成された沖積微高地上に位置する。この微高地上には縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡が分布し、今回の16次調査においても当該期の遺構・遺物が検出された。

検出遺構　今回の調査で検出された遺構は、甕棺墓6基・ピットである。６基の甕棺墓のうち５基について、時期は弥生時代前期末頃とみられ、下甕に壺形土器、上甕に鉢形土器を用いる。他の１基は弥生時代中期に下るものである。いずれも小形棺である。ピットには柱痕を残すものがあり、柱穴と思われる。

また、甕棺をはじめとする遺構が検出された面は縄文土器の包含層となっており、下層に遺構の存在を想定して調査を行ったが、確実に弥生時代をさかのぼる遺構は検出できなかった。

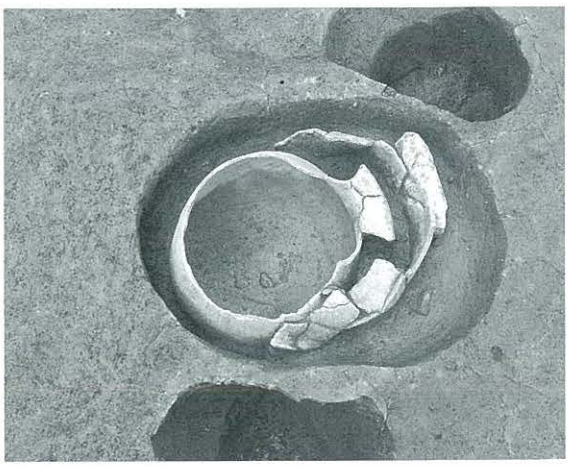
出土遺物　今回の調査で出土した遺物は、ピットから弥生土器・縄文土器が出土した。いずれも細片であり、量も少ない。

まとめ　今回の調査では、甕棺墓・ピットを検出した。全体に削平が激しく遺構の残りは悪い。遺物からみて甕棺墓は弥生前期末頃および中期、ピットは中期まで下ると思われる。本調査区南および東隣接地で調査が行われており、特に南では弥生前期の甕棺墓が検出されている。今回の調査と併せ、周囲の状況を推し量る上での一資料となろう。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置(132　千里　689　1:8000)

2．甕棺群出土状況（東から）



3．甕棺ST02発掘状況（北から）

0432 那珂遺跡群第101次調査(NAK-101)

所在地	博多区竹下５丁目494外	調査面積	６㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	中村 啓太郎
調査期間	2004.6.29～2004.6.30	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡は那珂川と御笠川に挟まれた中位段丘上に立地している。第101次調査は遺跡の南に位置し、道路面で標高9.3m前後を測る。調査区の東に弥生時代終末期の道路状遺構が位置すると考えられ、調査区北側の9・41・70次調査では方形周溝墓群が確認されている。現況は宅地で道路面より約１m程盛土が成されていた。

遺構と遺物　盛土以下の層序は褐色粘質土、暗褐色粘質土（ともに包含層）となり、地山である黄褐色粘質土（鳥栖ローム層）となる。

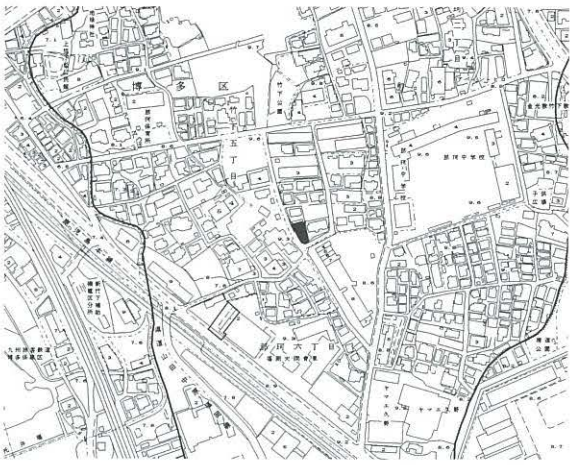
SD-01　南北方向に延び、方位をN-5°-Eにとる。断面形は逆台形を呈する。幅90cm前後、深さ60cmを測る。

１～４は上層出土。１は弥生土器甕で底部に穿孔を施す。２はV様式系の甕で口径14.6cmを測る。胴部にタタキを施し、下位はその上からナデを施す。内面は頸部はケズリ、以下はナデを施す。３・４は須恵器で３は蓋。４は埦高台部。底部にヘラ記号を有する。５は下層出土であるが混入であろう。下層からは他に須恵器の細片が出土している。

SP　３個確認した。径40cm～50cm、深さ30cm程度を測る。覆土はいずれも暗褐色粘質土に地山のブロックが混じる。SP-２から須恵器、土師器の細片が出土している。

弥生土器、土師器、須恵器が前述の遺構、包含層を合わせた総量でコンテナ１箱出土した。

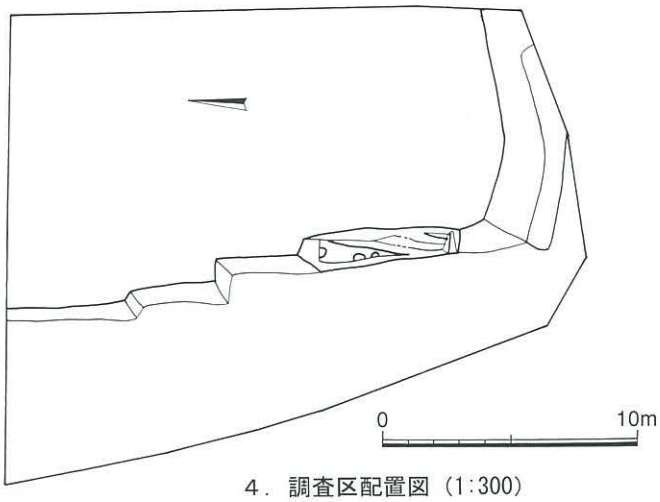
ま と め　今回の調査は擁壁部分のみを対象としたため僅かな面積であったが溝と柱穴を確認することができた。特にSD-１は道路状遺構を構成する西側の溝ではないかと考えたが推定線より西にずれており別の溝の可能性が高いと思われる。これらの時期は概ね古墳時代後期以降と考えられ、その性格については周辺調査の進展を待って検討したい。



１．調査地点の位置(38　塩原　85　1:8000)

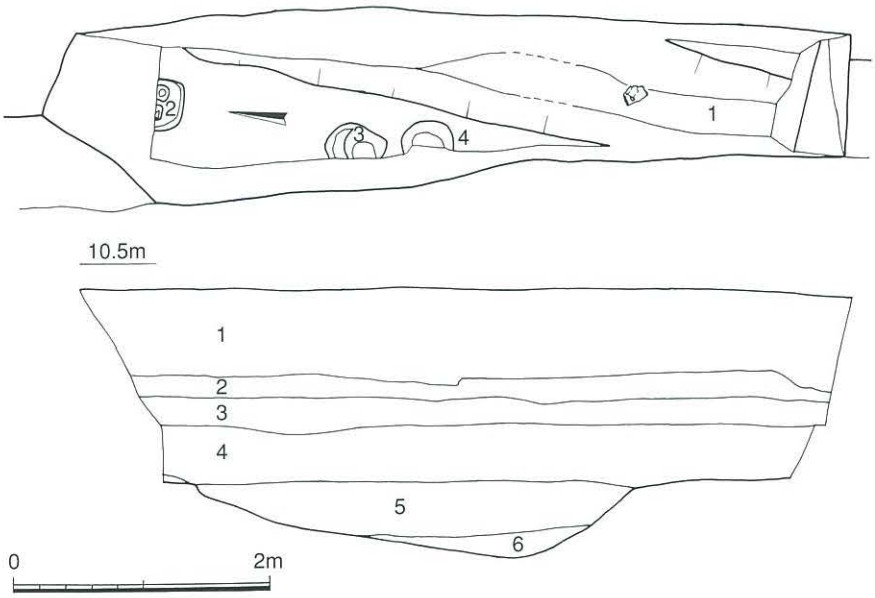
２．調査区全景（南から）

３．調査区東壁土層

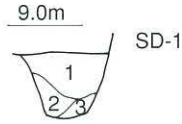


4．調査区配置図（1:300）

6．SD-1土層（南から）



5．遺構配置図及び東壁土層図（1：60）

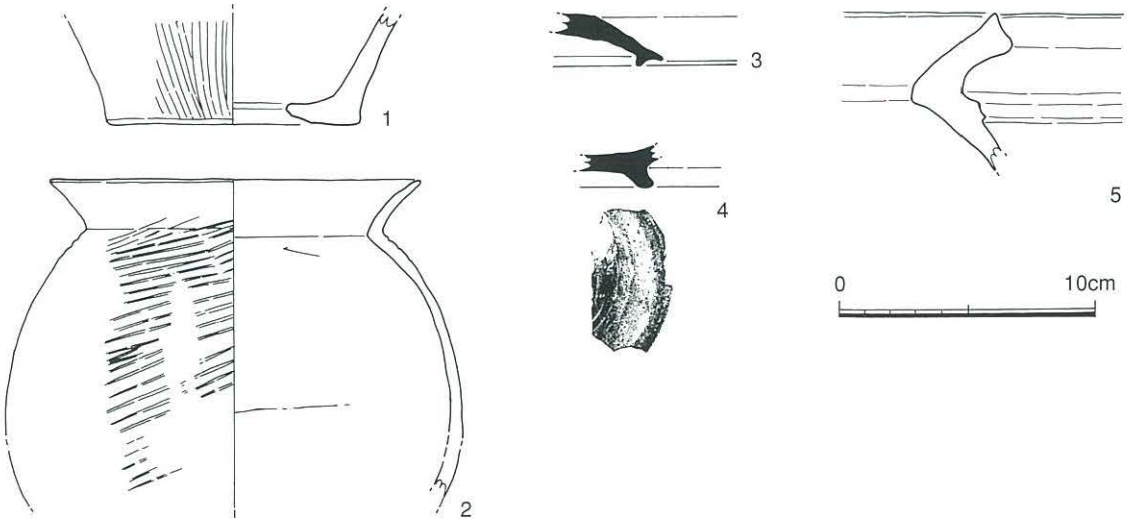


7．SD-1土層図（1：60）

1 暗褐色粘質土に黄褐色粘質土の細かいブロック混じる
2 黒褐色粘質土
3 黒褐色粘質土に黄褐色粘質土の細かいブロック混じる

調査区東壁土層

1 真砂盛土
2 灰黄褐色土（盛土）
3 褐色粘質土（包含層）
4 暗褐色粘質土（包含層）
5 暗褐色粘質土に黄褐色粘質土の細かいブロック混じる
6 黒褐色粘質土に黄褐色粘質土の細かいブロック混じる
7 黄褐色粘質土（地山　鳥栖ローム）



8．出土遺物実測図（1：3）

0433 名島城跡第2次調査(NZE-2)

所在地	東区名島1丁目2405外	調査面積	571㎡
調査原因	公園整備	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2004.7.1～2004.9.1	処置	記録後現状復旧

位置と環境　名島城は福岡市北東部の海岸際の丘陵に立地した海城である。南側には多々良川と宇美川が合流し博多湾にそそぐ河口が広がる。

文書から天正16年（1588）には豊臣政権下のもと筑前国を治めた小早川隆景が築城を開始したことが知られる。その後、慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの後の転封で黒田長政が入城した。また、遺存する絵図によれば調査区は本丸、もしくは天守が描かれた曲輪となっている。

検出遺構　調査区は公園施設が設置される部分を中心に行った。その結果、北西隅に出角の形状を呈した切土を2箇所検出し、石垣も基底面から約5.6mの高さで遺存していることが判明した。さらに、南西隅では2箇所のトレンチから石垣根石を検出し、ここでも出角の形状を明らかにすることができた。2次調査では曲輪内部から建築物跡は検出されなかったが、次年度の3次調査によって現代において厚く客土されていることが判明し、遺構は下部に遺存していると考えられる。

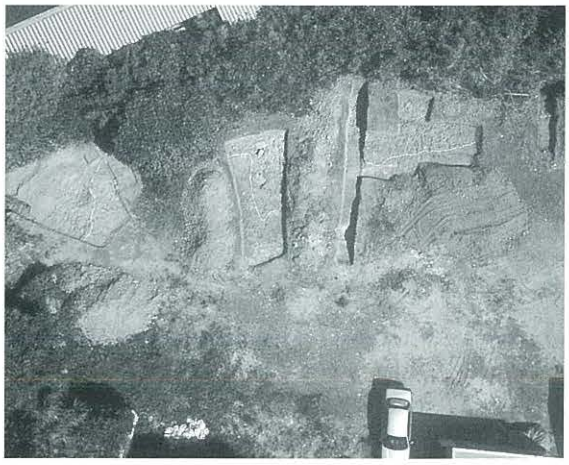
出土遺物　総量にしてコンテナ8箱分が出土した。遺物は中央部からは少なく、西側の曲輪裾部（現在、稲荷神社の参道）に瓦が多く投棄されていた。瓦片には巴文の丸瓦、三葉、宝珠紋の平瓦等が含まれる。南西隅の名島神社との境付近では藤巴文の丸瓦を含む黒田入城以降の瓦片が多い。また近隣で表採された瓦片に違い輪の鬼瓦、金箔がわずかに付着した斜格子のタタキ瓦（朝鮮瓦）、五七桐紋の飾瓦等がある。

まとめ　曲輪の外郭や石垣の状況が明らかになりつつある。中央部も上述の通り遺構が良好に遺存している可能性が高い。

平成17年度に3次調査を実施した。平成18年度以降も継続的に調査を実施する予定である。

1．調査地点の位置(32　名島　115　1:8000)

2．調査区全景（東から）



3．北西部出隅（南上から）

0434 箱崎遺跡第46次調査-20区(HKZ-46)

所　在　地　東区箱崎１丁目４地内　　調査面積　3,995㎡
調査原因　区画整理　　担　当　者　佐藤 一郎・赤坂　亨
調査期間　2004.7.1～2005.3.31　　処　　置　記録保存

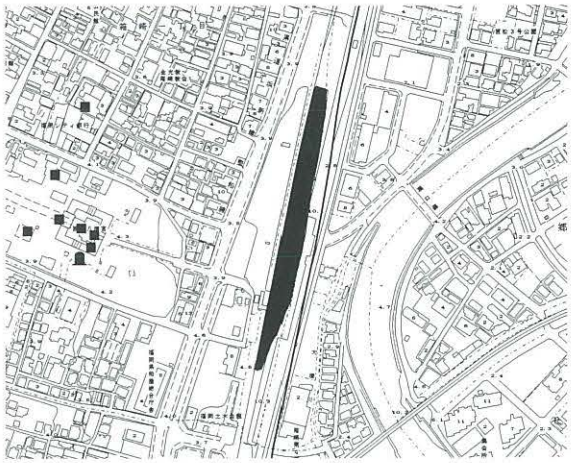
位置と環境　調査地は博多湾岸の多々良川支流、宇美川左岸の砂丘上に立地する箱崎遺跡の南東部、砂丘後背部に位置する。旧JR鹿児島本線架線下にあたり、南北に長大な調査区である。

検出遺構　遺構の時期は11世紀から15世紀にかけてのものが主で、検出された遺構は井戸、溝、土坑・柱穴・ピット状遺構多数である。溝SD02は幅1.5m、深さ0.5mの矩形に画された溝で、南北延長72m、東西延長７mを検出した。４mの間隔で平行して走る南北溝SD04、東西溝SD45と一連のものである可能性がある。他に東西溝５条を検出した。井戸はそのほとんどが桶側の井戸枠をもち、その内上部に方形の井戸枠をもつものを４基検出した。SE220は上部に石組、下部に桶側の井戸枠をもつ。土器溜り遺構は箱崎遺跡の中では少なく、SK01の１基のみで完形の土師器杯・小皿30点が出土した。木棺墓SX25には土師器小皿１、青磁鎬蓮弁碗２・小碗１・皿４が供献されていた。５世紀代の遺構は土坑２基のみで、完形の土師器壺・甕類がまとまって出土した。

出土遺物　溝SD02を中心に多量の瓦片が出土し、出土遺物の大半を占める。井戸埋土中からは１基あたりコンテナ１箱の土師器・陶磁器片が出土した。

まとめ　調査前は遺跡の辺縁部ということから、遺構はそれほど密には分布しないものと予想されたが、遺跡の中心部ほどではないが遺構が密に検出された。遺跡の東側を流れる宇美川の氾濫により東側にのびる遺構が失われたと考えられる。砂丘の後背部にしては古墳時代の遺構が疎らであったのも、河川の氾濫によって浅い遺構が削られ、土坑のような深い遺構のみが残った結果であろう。

調査報告書は平成18年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(34　箱崎　2639　1:8000)

2．調査区20・C区全景（東から）

3．木棺墓SX25（西から）

0434 箱崎遺跡群第46次調査-21区(HKZ-46)

所在地	東区馬出1丁目30	調査面積	273.16㎡
調査原因	区画整理	担当者	赤坂　亨
調査期間	2005.2.21～2005.3.29	処置	記録保存

位置と環境　西鉄バス吉塚営業所の敷地内で旧社員駐車場部分。昨年度調査した19b区の東側にあたる。

検出遺構　包含層・第1面（10～11世紀）・第2面（古墳時代）を設定。包含層で遺構は検出できなかった。包含層の遺物は12～13世紀が中心。

第1面では約2m間隔で一辺2～3mの方形竪穴状遺構を7基検出した。遺構の性格は不明である。時期はおよそ10～11世紀。うち1基からは緑釉陶器1点が出土した。調査区のほぼ中央付近で屈葬した人骨と土師器、青磁・白磁を検出。棺や掘り方は検出できなかったが、釘が数点出土しており木棺墓であろう。隣接する19区の他、箱崎遺跡全域で多く検出される井戸が本調査区では1基も検出されなかった。

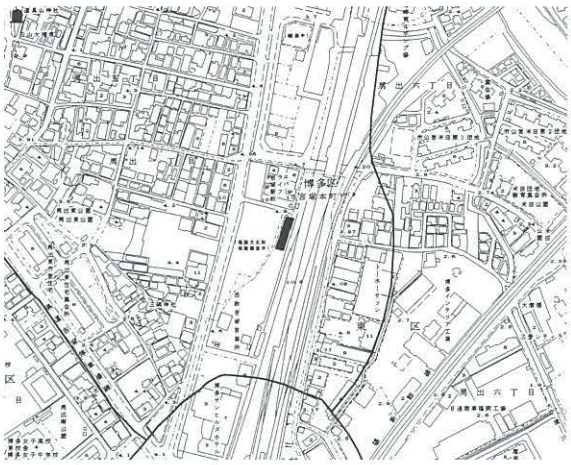
第2面では古墳時代の土師器の出土した溝1条と土壙もしくは住居1基を検出した。どちらも立ち上がりと床面が明確でない。遺物量は少なく、詳細な時期の特定は難しい。

出土遺物　コンテナ20箱の遺物が出土した。

まとめ　本調査区でも遺構が多く検出され、箱崎遺跡の範囲がさらに東側の旧線路敷設部分まで広がるものと思われる。箱崎遺跡の他の調査区でも検出されている方形竪穴状遺構が本調査区で集中して検出された。性格を把握するには到らなかったが分布の傾向の一端をつかむことができた。

隣接する19区で古墳が検出されていることから、古墳時代の土師器を含む土が堆積したものである可能性もある。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(34　箱崎　2639　1:8000)

2．調査区21区全景（南から）

3．木棺墓SX-05（南東から）

0435 元岡・桑原遺跡群第41次調査(MOT-41)

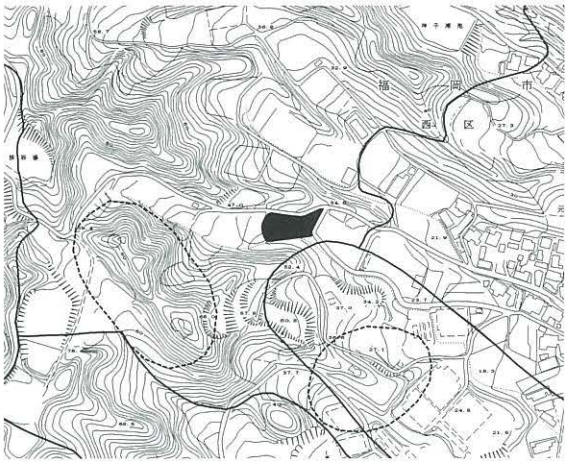
所在地	西区大字元岡字峯	調査面積	2,000㎡
調査原因	大学移転用地造成	担当者	米倉 秀紀
調査期間	2004.5.6～(10月以降中断)	処置	記録保存

位置と環境　糸島半島の中央から東側に伸びるやせた丘陵間の谷奥部に立地する。東側隣接地は31次調査区である。調査区の西半は谷が狭く斜面もきつく、包含層も極めて薄い。東半は谷が広がり包含層は厚く、調査区東端の北側の斜面は緩い。

検出遺構　人為的な遺構はないが、調査区東端北側斜面に鉄滓・炉壁がまとまって出土しており、調査区北側に製鉄炉が存在する可能性が高い。谷の中は調査区南半の谷が広い部分に整地層が確認できるが、柱穴等の遺構は確認できなかった。谷の中の南端下層は淀んだ水性層で、調査区南側に土手等で仕切っている可能性が考えられる。

出土遺物　谷の中からは7世紀から平安時代の須恵器・土師器・緑釉・瓦など10箱、鉄滓・炉壁50箱が出土している。

まとめ　基本的には谷の中の包含層のみであるが、出土遺物中には製鉄炉や官衙の存在を示す遺物を含んでいる。また谷の下部の状況は土手や堤防の存在を示している可能性もある。31次調査の終了後調査を再開する予定である。



1．調査地点の位置(129　桑原　2782　1:8000)

2．調査区全景（西から）

3．SX01（製鉄関連遺構）

0436 博多遺跡群第148次調査(HKT-148)

所在地	博多区冷泉町482-2	調査面積	204㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2004.7.20～2004.9.28	処置	記録保存

位置と環境　博多遺跡群は福岡平野を流れる那珂川、御笠川に挟まれた砂丘上に存在する。調査地点は内陸側の砂丘、いわゆる「博多濱」のほぼ中央部に位置する。

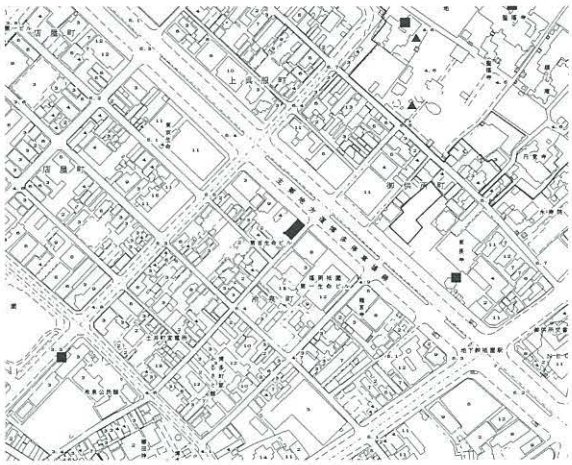
検出遺構　調査は表土および攪乱部分を深さ２m程除去した後、標高４m前後の黄褐色砂層上から開始した。基本的には１面のみの調査であるが、数度にわたる砂層の切り下げを行っている。

遺構には中世・近世の井戸、土坑、ピットが多数存在する。また調査区の隅から、弥生時代終末期の甕棺１基を検出している。今回の調査範囲では、弥生時代に相当する遺構はごくわずかしか存在しておらず、その密度は決して濃いものではないが、周辺には弥生時代を前後する遺構の広がりも想定される。

出土遺物　弥生土器、土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器など、コンテナ110箱分が出土した。白磁の出土量が多く、青磁の出土量は比較的少ない。

まとめ　今回の調査では古代末から中世前半期を主体とする遺構の広がりをみることができた。また、弥生時代の甕棺等、弥生時代の遺構を検出できたことは大きな成果であるといえる。

尚、報告書は平成17年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(49　天神　121　1:8000)

2．調査区南西側全景（北東から）

3．甕棺検出状況（南から）

0437 箱崎遺跡第47次調査(HKZ-47)

所 在 地 東区馬出５丁目地内
調査原因 道路建設
調査期間 2004.7.20～2005.4.15
調査面積 1,000㎡（総調査面積1,071㎡）
担 当 者 中村 啓太郎
処　　置 記録保存

位置と環境　箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置する。本遺跡は概ね南北1000m、東西500mの範囲に分布し、標高2.0～3.5mを測る。第47次調査区は遺跡の南部、筥崎八幡宮の南東100mの地点に遺跡を東西に横断するように３地点が位置する。それぞれ調査順に西側をA区、東側をB区、中央をC区とした。

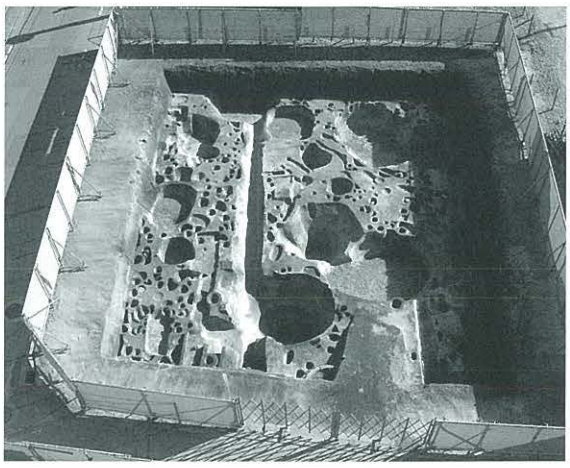
検出遺構　検出した遺構はA区が中世の土坑、溝、柱穴、B区が古墳時代前期の土坑、古代～中世の井戸、土坑、溝、柱穴、C区が中世の井戸、土坑、溝、柱穴などである。

出土遺物　遺物は古墳時代の土師器、古代～中世の土師器、輸入陶磁器類、瓦、板碑等がコンテナ240箱出土した。特に瓦についてはB、C区からまとまった量が出土している。B区の井戸から「賀」、「佐」等の文字を記した打圧痕文字瓦が出土している。C区からは中世の瓦が多量に廃棄された状態で出土した。大半が赤焼けのもので脆く、被熱した可能性も考えられる。本調査においてこれらの瓦を用いたと考えられる建物跡は確認されておらず、ごく周囲に存在する可能性が高い。板碑は頭部が井戸に投棄された状態で出土した。赤変しており被熱したものとおもわれる。先の瓦と合わせると火災の可能性が考えられる。

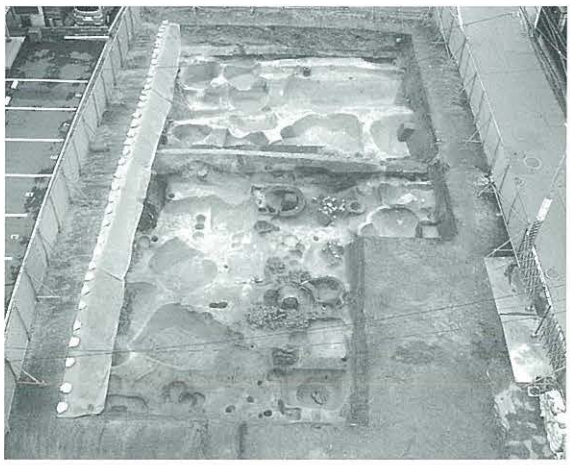
まとめ　今回の調査では遺構については箱崎遺跡通有の状況であったが、遺物、特に打圧痕文字瓦については大宰府や鴻臚館に出土例があり遺跡の性格を考えるうえで重要であると考えられる。

報告書は平成19年度発行予定である。

1．調査地点の位置(34　箱崎　2639　1:8000)



2．B区全景（西から）



3．C区西半区全景（東から）

0438 有田遺跡群第213次調査(ART-213)

所在地	早良区小田部５丁目170-1	調査面積	106㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.7.27～2004.8.12	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は福岡市西南部に位置する早良平野の北部にある最大標高15mを測る独立中位段丘上に立地している。台地は主軸を南北方向に向け、南北１km、東西0.7kmの規模である。台地には深く切り込んだ谷が幾つか存在し、台地は北方向に向かって八つ手状に分岐している。213次調査地点は北西端に延びる長さ約400m、幅約80～120mの舌状を呈する標高５～７m前後の支丘上に位置する。調査地点の現況は駐車場であり、北側道路面より約70cm高い。標高6.2mを測る。西隣は16次、東側は１軒挟んで125次、道路を挟んで北側は175次調査地点がある。

検出遺構　貯蔵穴１基、土坑３基、落ち込み、ピットを検出した。

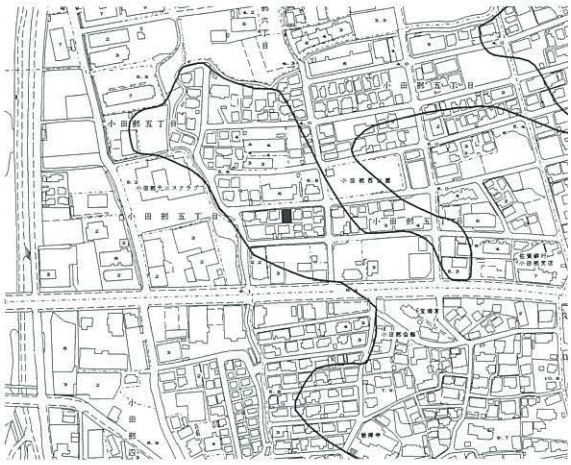
貯蔵穴SU04は３m×2.5mの平面楕円形を呈し、残存壁高30cmを測る。底面はほぼ平らで、主柱穴１カ所と補助柱穴１カ所が検出された。弥生時代前期の壺、甕、黒曜石などが出土した。

調査区南東隅は地山がなだらかに下っていき、調査区内で最大80cm低くなっている(SX05・SX06)。しまりのない暗茶褐色の土で埋まっているが、一部八女粘土と思われる白色粘土が堆積している。遺物は非常に少ないが、龍泉窯系青磁や白磁の破片が出土している。

出土遺物　遺物は貯蔵穴を中心にコンテナケース２箱分出土した。

まとめ　本調査地点は支丘の尾根線上に位置しているため、かなり削平を受けているようで、検出された遺構は少ない。弥生時代前期と中世の生活痕跡を発見した。

報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(82　原　309　1:8000)

2．調査区東側（西から）

3．貯蔵穴SU04（西から）

0439 蒲田部木原遺跡群第8次調査(KHH-8)

所在地	東区蒲田３丁目522-1外	調査面積	78.7㎡
調査原因	個人住宅建築（試掘）	担当者	赤坂　亨
調査期間	2004.7.27～2004.7.28	処置	現地保存、一部記録保存

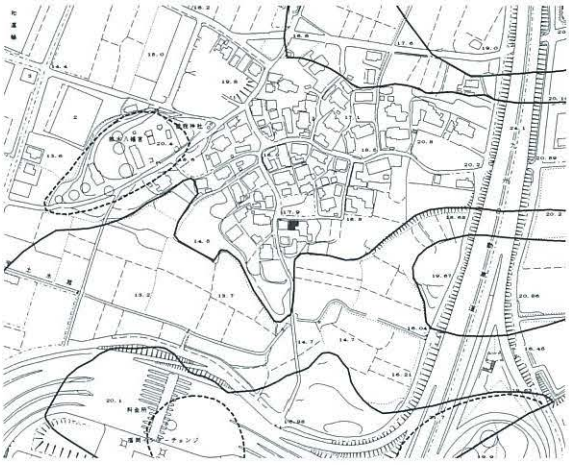
位置と環境　蒲田部木原遺跡は福岡市の東端、多々良川が形成した沖積地に向かって東から張り出した低丘陵の先端付近に位置している。現在の行政区分上では福岡市と糟屋郡粕屋町にまたがっている。調査地の南側は急な斜面で落ちている。北西約1.6kmには部木八幡古墳群がある。

検出遺構　試掘の際、弥生時代甕棺２基、祭祀土坑１基を検出し、試掘を延長して処置した。その他に遺構を６基確認したが、そのまま埋め戻し現状保存した。甕棺と未掘遺構は北東－南西方向に二列に並んでいるように見える。甕棺Ａは成人棺で単棺である。弥生時代中期中葉の須玖式である。甕棺Ｃは小児棺であるが残存状況が悪く、時期は不明。

出土遺物　甕棺は須玖式の成人棺と小児棺を併せてコンテナ４箱分出土した。祭祀土坑からは弥生時代中期中葉の須玖Ⅱ式土器が完形のものも併せてコンテナ３箱分出土した。

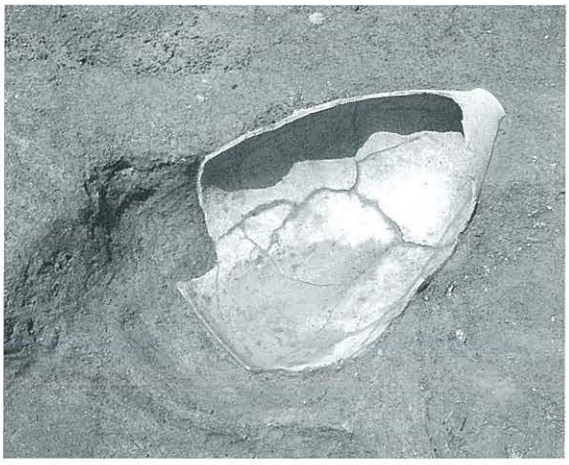
まとめ　蒲田部木原集落のある丘陵上はこれまで調査が行われていなかったが本調査の結果、弥生時代中期の甕棺墓群が展開している可能性が考えられる。調査地西方の蒲田遺跡や、蒲田水ヶ元遺跡において甕棺が検出されており、この周囲ではかなり広範に弥生時代中期の集落が展開していたようである。

調査報告書は平成18年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置(2　蒲田　3　1:8000)

2．祭祀土坑B-３土器出土状況（東から）



3．甕棺Ａ（南西から）

0440 羽根戸古墳群第9次調査(HDK-9)

所　在　地　西区大字羽根戸字大原734－1外　調査面積　333㎡（古墳1基）
調査原因　農業用倉庫建設　担　当　者　松浦 一之介
調査期間　2004.8.2～2004.9.16　処　　置　記録保存

位置と環境　羽根戸古墳群は、早良平野の西端を画する山塊の内、飯盛山から派生する丘陵上に立地する。本古墳群は、総基数約140基からなり、A～Qの17支群に分けられている。今回はその内、N-16号墳の発掘調査を実施した。

検出遺構　発掘調査開始以前に、既に造成工事が開始されており、墳頂部付近は重機で削平されており、周溝や墳裾などは大規模に埋め立てられていた。調査はまずこの埋土を重機で除去してから発掘を開始した。石室を精査した後、その主軸に沿って３本のトレンチを設定して、墳丘の規模と構造を確認した。その結果、本古墳は直径20mの円墳で、墳丘の盛土は高いところで約1.4m程度遺存しており、一部に外護列石が巡ることが判明した。内部主体は横穴式石室で、西側の尾根上に向かって開口する。玄室は、長さ・幅ともに一辺２m前後の正方形に近い平面を呈する。腰石が遺存するのみで、床面は大きく撹乱されていた。羨道は、長さ約3.5mで、小振りな石材が使用されている。

出土遺物　石室内が撹乱されており、原位置をとどめる副葬品は皆無であった。墳丘裾部からは、須恵器や土師器が供献された状態で出土した。特筆すべき遺物としては、皮袋形須恵器が１点出土している。出土遺物の総量は、コンテナケース７箱分である。

まとめ　本古墳の築造年代は、出土遺物や石室の形態などから６世紀後半代と考えられる。墳丘規模が直径約20mと比較的大きく、羽根戸古墳群でもH-１号墳に次ぐ規模のものであると推定される。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。

1．調査地点の位置(105　叶岳　564　1:8000)

2．墳丘Ⅰ区遺物出土状況

3．N-19号墳全景（東から）

0441 羽根戸古墳群第10次調査(HDK-10)

所在地	西区大字羽根戸字大原733-1	調査面積	369㎡（古墳2基）
調査原因	個人資材置場建設	担当者	松浦 一之介
調査期間	2004.8.23～2004.11.19	処置	記録保存

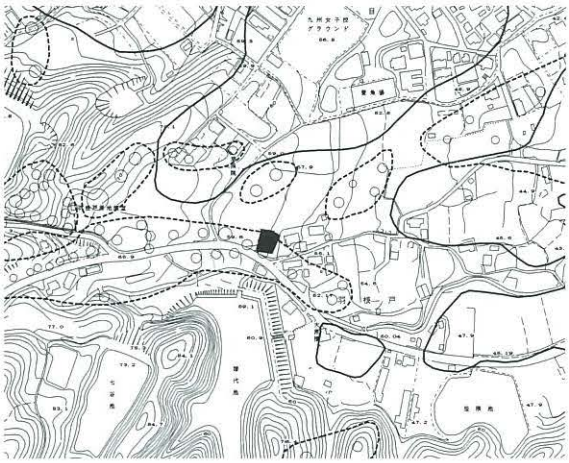
位置と環境　羽根戸古墳群は、早良平野の西端を画する山塊の内、飯盛山から派生する丘陵上に立地する。本古墳群は、総基数約140基からなり、A～Qの17支群に分けられている。今回はその内、N-20、21号墳の発掘調査を実施した。

検出遺構　20号墳は、隣接する道路建設の際に大きく削平され、石室石材が露出していた。21号墳は、墳頂部が一部重機によって掘削されていた。調査はまず両基ともに石室を精査したのち、その主軸に沿って１～３本のトレンチを設定して墳丘の規模と構造を確認した。その結果、20号墳は直径約15m程度の円墳、21号墳は直径11m程度の円墳であり、前者には一部外護列石が巡ることが判明した。また、21号墳の墳丘裾部から20号墳石室は、奥壁と両側壁の一部を留めるのみで、全体の規模や構造は不明である。21号墳石室は竪穴系横口式石室であり、玄室長2.7m、奥壁幅1.2mを測る。床面には敷石が敷設されるが、前半部は撹乱されている。

出土遺物　21号墳石室の床面からは、鉄刀、胡籙金具、鉄鏃片などの武具類、耳環、ガラス製玉類などの装身具類、鞍金具の磯金具片などが出土した。このほか、墳丘の盛土内部からは縄文時代から弥生時代にかけての土器片が比較的多く出土したが、当該期の明確な遺構は検出されなかった。出土遺物の総量は、コンテナケースに４箱分である。

まとめ　本古墳の築造年代は、出土遺物や石室の形態などから、20号墳が６世紀中葉、21号墳が５世紀後半代と推定される。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(105　叶岳　564　1:8000)

2．21号墳石室全景（南から）

3．調査区全景（南西から）

0442 周船寺遺跡群第17次調査(SSJ-17)

所在地	西区大字飯氏968-1外	調査面積	306.8㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	阿部 泰之
調査期間	2004.8.4～2004.9.3	処置	記録保存

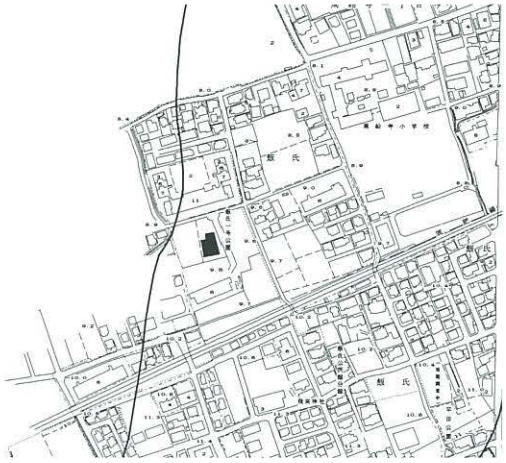
位置と環境　本調査区は、糸島平野の東部、周船寺川によって形成された沖積微高地上に位置する。この微高地上には縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡が分布し、今回の調査においても当該期の遺構・遺物が検出された。

検出遺構　今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物1棟、ピット多数である。大きく削平を受けており遺構の残りは悪い。建物は1×2間の東西棟で、遺物はほとんど出土しなかった。また、遺構検出面からは少数ながら縄文土器・黒曜石が出土した。そのため下層の存在を想定して調査を行ったが、調査区西端にうすい包含層が検出された以外、遺構は検出できなかった。

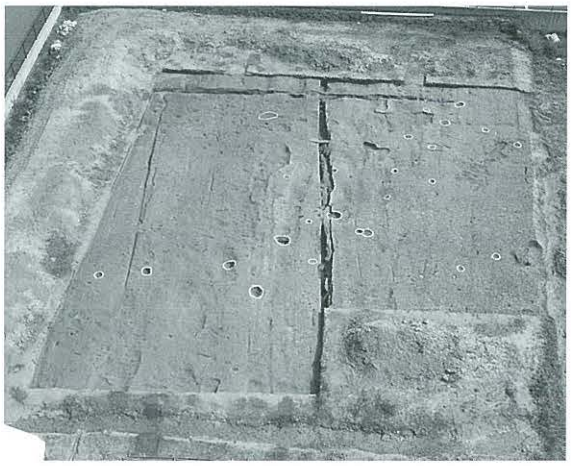
出土遺物　遺物は、遺構検出面から弥生土器・縄文土器が出土した。いずれも細片であり、量も少ない。

まとめ　今回の調査では、掘立柱建物・ピットを検出した。全体に削平が激しく遺構の残りは悪い。試掘で遺構が検出された例は調査地周辺ではほとんど無く、河川によって周囲の微高地が浸食されている可能性が高い。

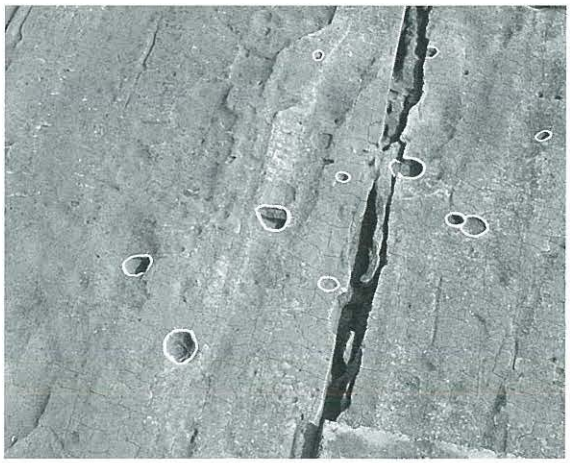
調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(131　泉　689　1:8000)



2．調査区全景（北から）



3．掘立柱建物（北から）

0443 警固丸山古墳第1次調査(KGM-1)

所在地	中央区警固２丁目2-1、2-2、5	調査面積	112㎡
調査原因	学校グランド造成	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2004.8.3～2004.10.7	処置	記録保存

1．調査に至る経過と調査体制

警固丸山古墳は筑紫女学園中高等学校内に所在した古墳である。墳丘自体は学園の校舎建設(昭和32年)で既に消滅し、実体は不明であった。平成15年８月、学園よりグランド建設に関わる埋蔵文化財の事前調査願いが提出され、試掘調査を実施した。その結果、古墳造成に伴う丘陵切断痕跡が確認され、学校側と協議を行い、費用を原因者負担で記録保存の調査を行うこととなった。

発掘調査は平成16年８月３日から開始した。当初植栽を残して調査する予定であったが、植栽部分にも遺構が続くことが判明した為、植栽移植後の二期に分けて行い、10月７日まで実施した。調査に当たっては原因者である筑紫女学園や工事関係者から協力を受けた。記して感謝の意を表します。

調査の体制	調査委託者	学校法人筑紫女学園理事長	井浦　順爾
	調査主体	福岡市教育委員会	
	調査総括	文化財部埋蔵文化財課長	山口　譲治
		調査第２係長	池崎　譲二
	調査担当	主任文化財主事	山崎　龍雄
	事務担当	文化財整備課管理係	御手洗　清

2．遺跡の立地と歴史的環境（図１・２）

警固丸山古墳は標高100mの鴻巣山から北に延びる小丘陵上に立地する。現地標高は15m前後を測る。この古墳の墳丘は校舎建設で既に消滅しているが、東側の丘陵部には警固茶臼山古墳という前方後円墳が現存している。これらの古墳は江戸時代の編纂資料『筑前国続風土記』（註１）などに記録が残り、旧地形が分かる古い地図や現地踏査で確認されていたものである。当地の北側直線距離で400m離れた福岡城跡には鴻臚館跡が所在し、そこの調査でも古墳が確認されており、元々一帯の丘陵上には古墳が散在していたことが考えられる。

3．調査の概要（図３・４、写真１・２）

現状は校舎建設時に段状に造成を受けており、地形は東が高く、西が一段落ちる地形である。堆積土は表土・撹乱(20～30cm)、赤褐色粘質土（炭化物・近世以降遺物含む）の下が赤橙色の頁岩質風化粘土の基盤となる。今回の調査目的であった古墳の丘尾切断面は調査区中央東寄りから傾斜が強くなり、そこから西側が古墳の整形面となる。その東側は基盤が削平を受けているようである。調査の結果、古墳の地山整形面と、古墳時代

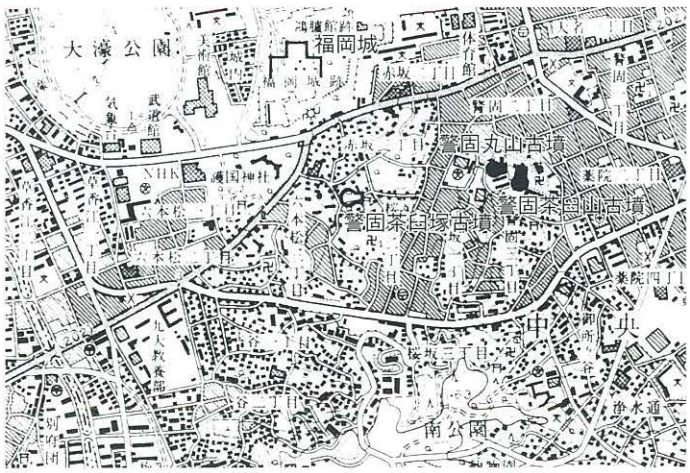


図1 警固丸山古墳位置図（1/25,000）

1．警固丸山古墳
2．警固茶臼山古墳
3．明応二年銘板碑
　一字一石経

図2 調査区周辺地形図（1/1500）

写真1 調査区全景（南から）

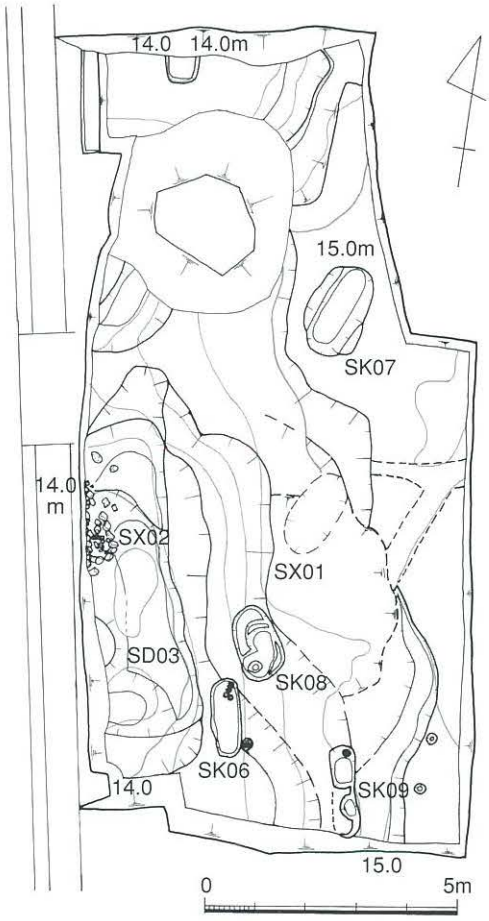


図3 調査区全体図（1/150）

写真2 植栽部分（南から）

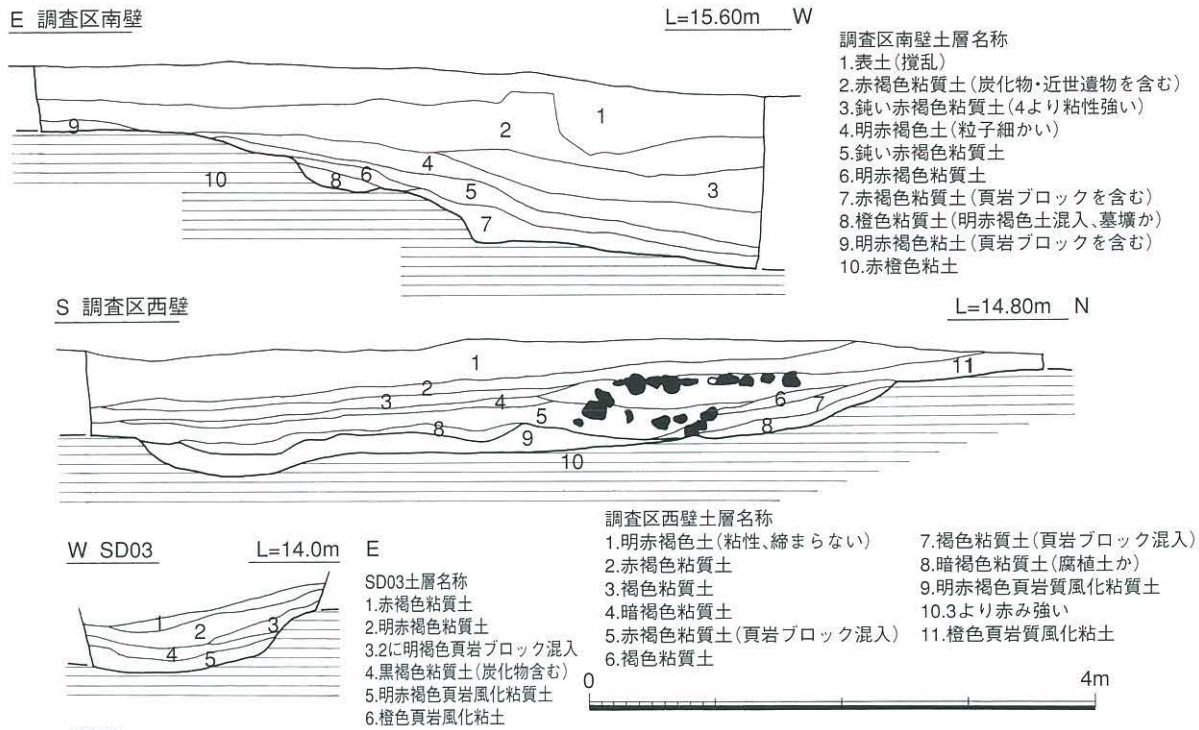


図4 南壁・西壁・SD03土層図 (1/60)

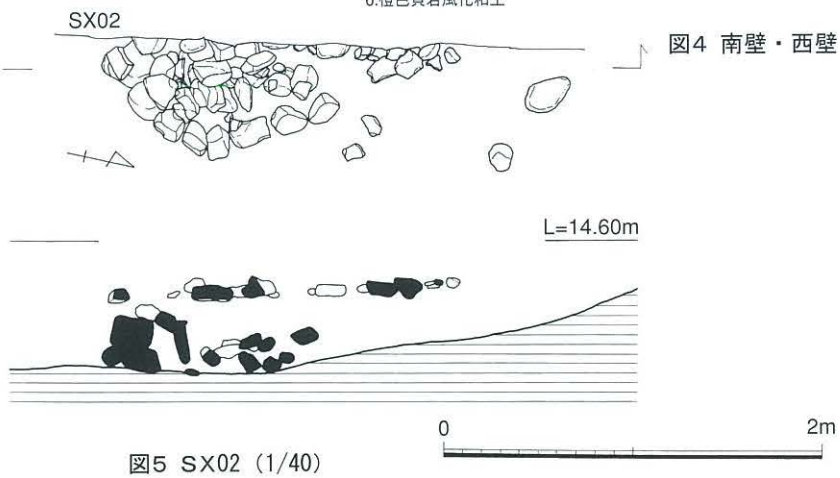


図5 SX02 (1/40)

後期から中世初めの土壙墓２基、木棺墓１基が検出された。

4．遺構と遺物

SK06（図６・７、写真４・６）　古墳地山整形面で検出したほぼ南北に長軸を取る隅丸長方形状の墓。規模は長軸長1.55m、短軸長0.58m、残存深さ0.26mを測る。埋土は明黄褐色～赤褐色粘質土である。北東隅側に土師器坏・皿・青磁碗が副葬品で供えられていた。

１は長沙窯系の完形の青磁碗。口径は13.1㎝、器高は4.6㎝、底径は4.5㎝を測る。見込みから体部下半にかけて施釉。灰白色の薄い下地釉の上に浅黄色の不透明釉が掛かるが、焼成不良で発色が悪く、釉は剥落する。底部は露胎で蛇の目状に削り出す。土の影響を受けたのか赤っぽい。２は土師器小皿。復元口径10.3㎝、器高1.0㎝を測る。全体に摩滅する。３～７は土師器の坏。口径は11.7～12.7㎝、器高は3.4～3.7㎝を測る。器壁は摩滅が著しいが体部は回転ナデで、外底部には板状の圧痕が残る。M1は鉄器の刀子の刃部片か。断面二等辺三角形で残存長4.4㎝、刃幅0.7㎝、最大厚0.3㎝を測る。錆はひどい。

SK07（図６・７）　高所部で検出した長楕円形状の土壙。主軸は南北方向に取る。規模は長軸長1.90m、短軸長1.12m、最大深1.05mを測る。壁は直に近いが南側は途中で屈折する。埋土は明赤褐色粘質土で単質な埋土である。

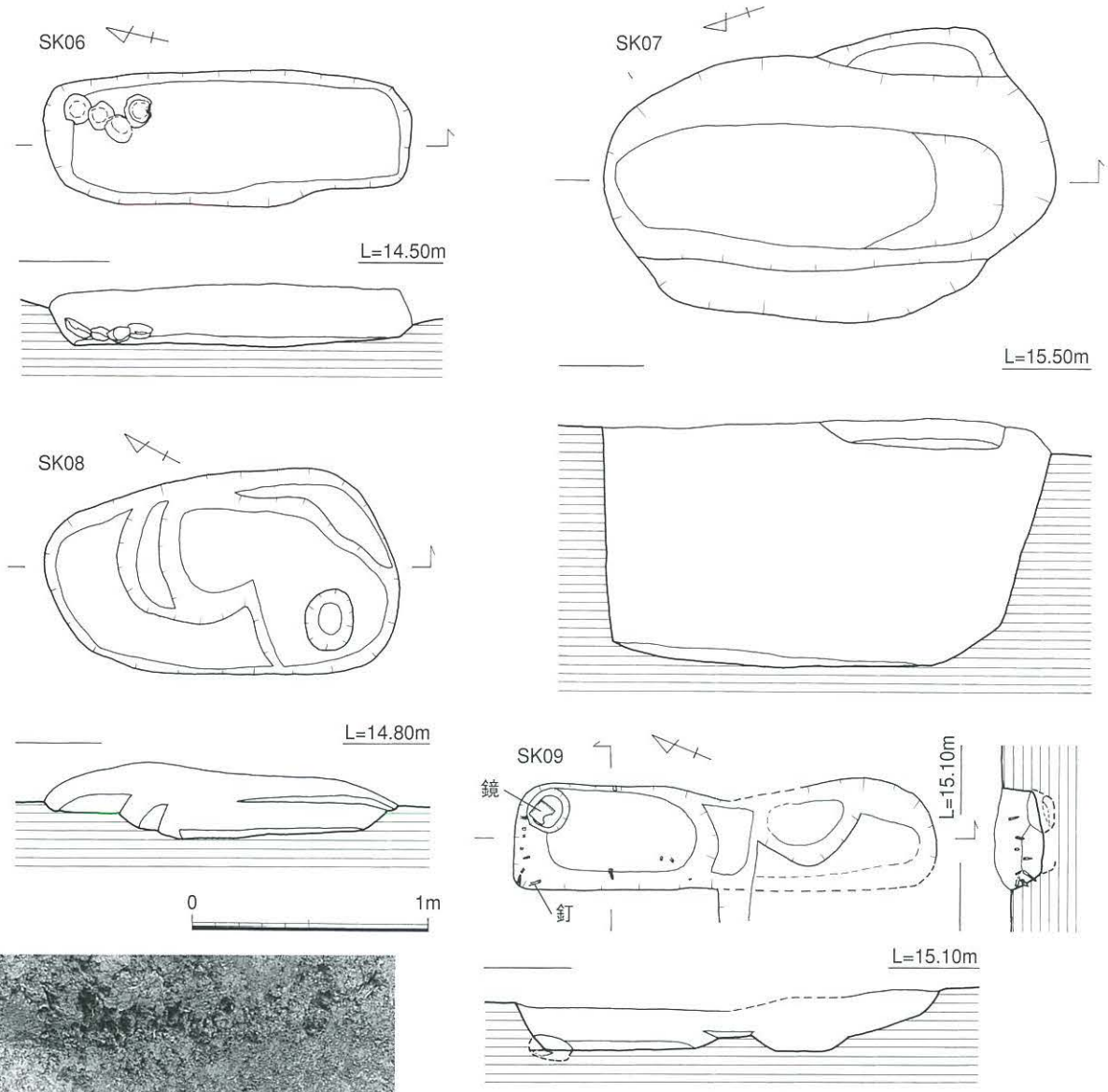


図６　SK06～09(1/40)

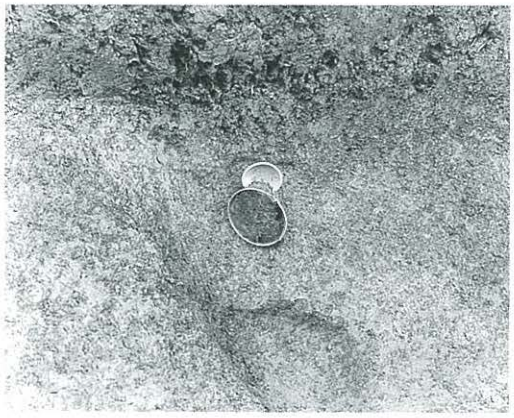


写真３　SK09遺物出土状況（南から）

写真４　SK06（西から）

写真５　SK09（南から）

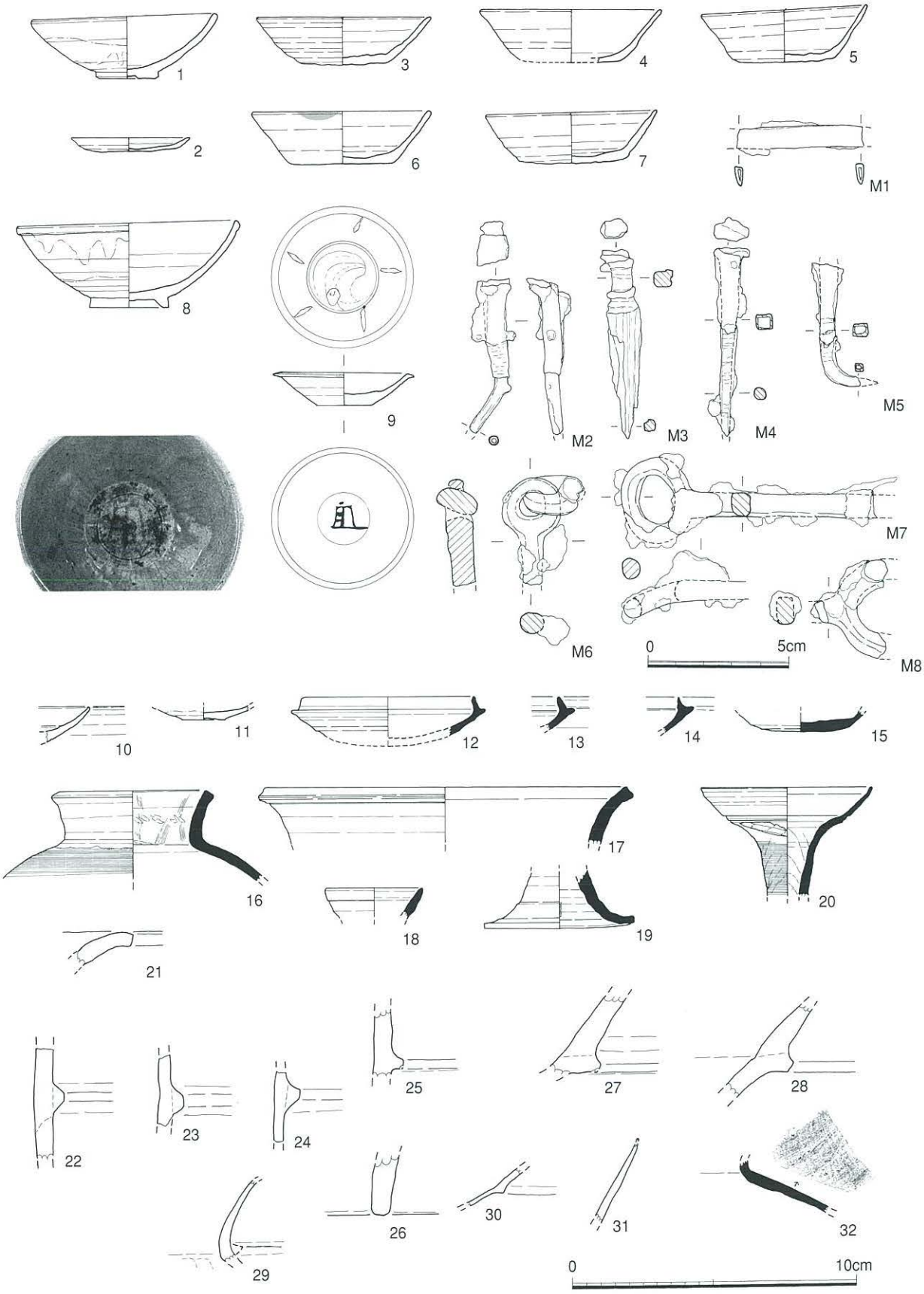


図７　各遺構出土遺物1（1/2・1/4）

副葬品などはないが、形態から墓壙の可能性がある。中間あたりから瓦の小片や鉄製馬具が出土している。M６～８は馬具の銜か引手金具の一部。形態から３個体分ある。いずれも端部に直径２～3.5cmの環が付く。他に図示していない細片が２点ある。全体に腐蝕がひどい。

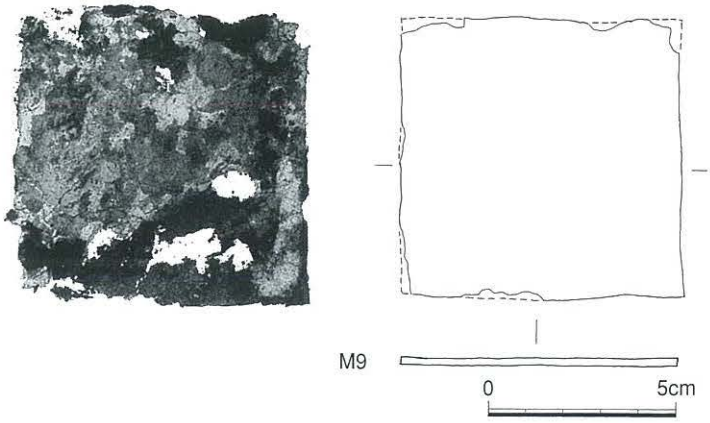


図8 SK09出土鏡（1/2）

SK08（図６）　地山整形面で検出した、主軸は北西から南東方向に取る隅丸長方形状の土壙。規模は長軸長1.50m、短軸長0.87m、最大深0.32mを測る。北側はテラス状に高くなる。埋土は明赤褐色粘質土である。南側に浅い円形ピットがあり、内面に炭化物を薄く含む。遺物の出土はない。

SK09（図６・７、写真３・５・６）　調査区南壁沿い、地山成形面で検出した長方形の土壙墓。南壁際の最初のトレンチ部分で白磁碗が出土していたが、墓とは分からず植栽部分の調査で北側部分を確認して墓と認定した。主軸を北からやや西に振り、規模は長軸長1.78m、短軸幅0.45m、深さ0.21mを測る。底面は南側半分が一段高く、又北側壁面には棺材に打ち込まれた鉄釘が23本検出された。釘は残りの良いもので長さ6.6cm、断面は方形、最大のもので1.0×0.65cmを測る。腐蝕はひどく、粘土や木質が付着している。頭は曲っている。M２～M５と主なものを図示している。釘は北半分で検出されたのみで、南側では検出されていないので、底面の状況や、埋土は北側が褐色粘質土、南側が赤褐色粘質土でやや異なることから２基の墓の重複も考えられる。北東側隅床面では直径17cm程の円形小ピットがあり、その中から湖州鏡M９が１面出土した。鏡背面には木質が残っていたので、容器に入れて置かれていたものと思われる。副葬品は南隅の白磁碗と皿、北側の鏡１面である。

８は完形の白磁碗で、博多分類ではⅡ-１類のもの。口径は15.7cm、器高6.1cmを測る。体部外面下半まで不透明な黄橙色釉が厚めに掛かる。高台部は露胎でケズリ後ナデである。やや軟質で中国南部の広東省周辺産か。９は完形の白磁皿で、博多分類のⅣ-2類のもの。口径は9.9cm、器高は2.4cmを測る。外底部以外に灰白色の発色の悪い釉が厚めに掛かる。内面は白堆線で５分割される。外底部には花押と思われる墨書がある。同様のものは博多遺跡群築港線第５次地点でも出土している。この他に古墳時代後期の須恵器片が少量出土している。

M９は中国産湖州鏡。方形の形態で一辺7.4cm、厚さ2mmを測る。腐蝕が進み脆く、補強処理して取上げたので、鏡背の状況は不明だが、X線写真で見ると幅約３mmの縁が巡り、中央には鈕が２ヶ所認められた。鏡背部には木質が付着していた。

SX01（図４・５、写真１）　古墳に伴う地山整形。古墳自体は西に延びるが、北側は後世の撹乱を受ける。南半分は造成面とその下に墳丘の裾を巡る幅約２mの周溝SD03が確認された。周溝の埋土は上層が赤褐色粘質土、下層は黒褐色粘質土で炭化物を含む。周溝の端部は北側調査区中央で立ち上り、墳丘に通じる陸橋状を呈す。西壁沿いで最大人頭大の自然礫が集中する礫群SX02を検出した。他にも埋土から、拳～人頭大の大きさの自然礫が含まれており、葺石があった可能性がある。

10・11は白磁皿細片。10は上層出土の口縁部から体部片。外面下半は露胎、内面は浮彫り状の沈圏線が巡る。11は下層出土の底部片で、平底皿０-１類か。底径3.0cmを測る。内底部には釉が掛かるがかなり剥落する。外底部は露胎。12～20は須恵器。12～14は小田富士雄編年のⅣ-A期の坏身で下層出土。12は1/6片で、復元口径12.0cmを測る。調整は回転ナデ。13・14は口縁部細片。15は下層出土。坏身か壺底部。調整はナデである。色調は赤褐色を呈す。16は上層出土の壺口縁部小片で、復元口径は11.4cmを測る。口縁部は回転ナデ、肩部にはカキ目を施す。口縁部内面にはヘラ工具痕が残る。17は上層出土の甕口縁部1/12片。復元口径は25.6cmを測る。調整は回転

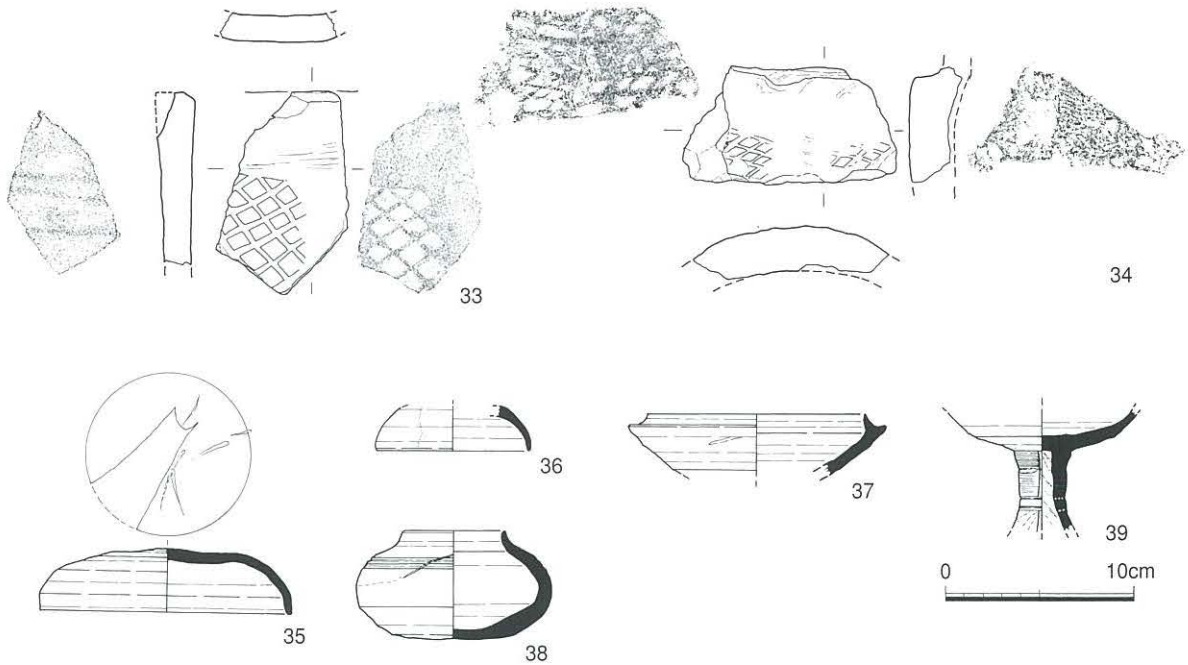


図９　出土遺物2（1/4）

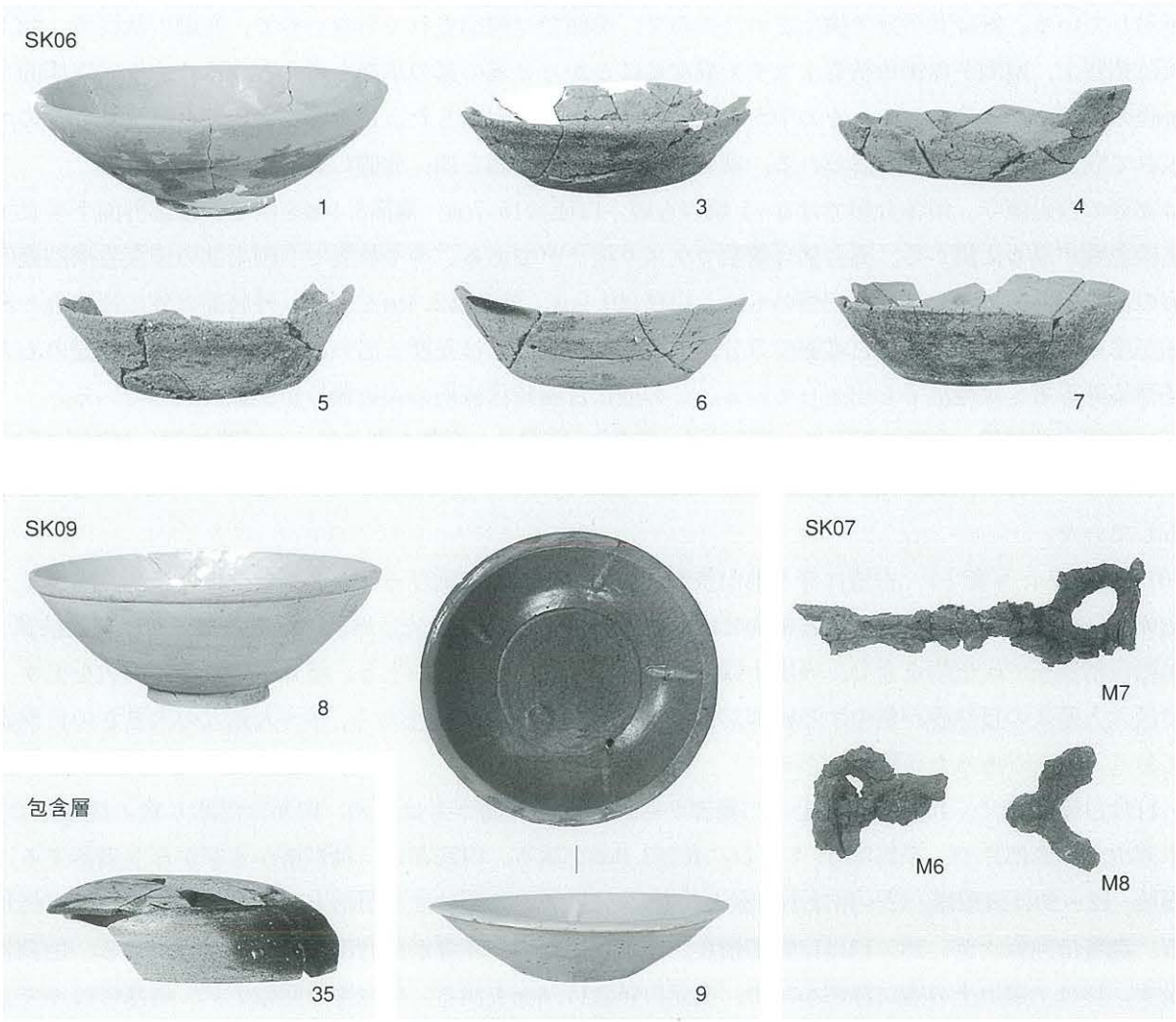


写真６　各遺構出土遺物

ナデ。18は最下層出土。平瓶などの口縁部細片。復元口径は6.8cmを測る。19は高坏脚部１/２片で、やや歪むが復元脚径10.4cmを測る。回転ナデ調整。20は瓶の口縁部片で、口径は12.0cmを測る。口頸部の境には焼成時に付着したのか須恵器の破片が付着する。頸部外面はカキ目、内外面にはシボリ痕が残る。胎土に白色微砂粒を多く含む。21は朝顔形埴輪の口縁部細片か、摩滅し調整は不明。22～26は円筒埴輪の細片。いずれも細片で全容は分からない。器厚は0.7～1.8cm、突帯は台形状で、基底部幅1.7～２cm、上部幅0.6～0.8cm、高さ0.8～１cmを測る。調整は磨滅がひどく不明。26は基部片。27・28は朝顔形埴輪の口縁部細片。いずれも摩滅し調整は不明。22・23・26は上層、24・27は下層、28はSX02から出土している。29～31は周溝SD03出土。29は壺形埴輪の口縁部片か。頸部に突帯が付くと思われる。30は二重口縁の壺形埴輪の細片か。31は直口壺の口縁部細片。いずれも摩滅し調整は不明。古墳時代前期で、南側の前期古墳の茶臼山古墳に伴う遺物の可能性がある。32はSX01下層出土。須恵器の壺肩部細片。内面ナデ、外面平行タタキ後ナデ。５世紀後半代で古墳と同時期のものか。

その他遺構出土遺物（図９）　33・34は撹乱SX04から出土した古代瓦。33は平瓦。凸面は格子目叩き、凹面はナデ仕上げ、焼きは橙色を呈し、酸化焼成か。34は丸瓦細片。凸面には格子目叩き痕がかすかに残る。凹面には布目痕が残る。色調は灰オリーブを呈す。

35～39は表土出土の須恵器。35は坏蓋。口径は13.2cm、器高は3.4cmを測る。天井部は回転ケズリ、その他は回転ナデ。天井部にはヘラ記号がある。胎土には微砂粒を多く含む。36は蓋1/4片。復元口径8.0cmを測る。内外面回転ナデ。胎土に白色･黒色微砂粒を多く含む。37は坏身1/5片。復元口径は11.6cmを測る。外底部は回転ケズリ、その他は回転ナデ。外面工具による線刻がある。38は小型壺１/2片。短頸で口径は5.4cmを測る。体部上半には２条の沈線が巡る。体部下半から底部は雑な回転ケズリ、体外面から内面は回転ナデ調整。外面に重ね焼き痕が残る。胎土に５mm内の粗砂粒を多く含む。39は高坏脚部１/3片。脚部にはヘラで切込んだ細い透かし。外面はカキ目である。

５．まとめ

今回の調査での成果は大きく２点ある。第１点は警固丸山古墳の地山整形面を確認し、古墳の存在が確認出来たことである。墳丘には周溝状の浅い溝が巡る。墳丘には葺石があり、埴輪が樹立されていた。古墳の時期については数少ない小片の円筒埴輪の形態から川西宏行編年のⅣ期に相当し、５世紀後半から末に相当する。古墳の形態は溝のあり方から帆立貝式前方後円墳(方形の造出しを持つ円墳)であった可能性がある。周溝内からは須恵器のⅢB期～ⅣA期のものが出土しており、東側に後期の墳墓があった可能性がある。また周溝から出土した前期の土師器は警固茶臼山古墳に伴う可能性がある。第２点は古代後半から中世初めの墳墓が確認されたことである。すぐ西隣には移設されたものではあるが、明応二(1493)年銘の供養板碑もあり、このことから、一帯が中世後半代まで継続的に墓所として土地利用が行われていたことが想定出来る。

註1　筑前国続風土記（巻之六）那珂郡下

警固村　いにしへに警固所爰に在りし故、その村に名付けしや。もしは警固大明神鎮座の地なる故、村の名とせしや。この社を今の薬院の地にうつせし事、既に福岡警固社の所に載たり。今この社には産霊の社なし。福岡の城も本丸より東は警固村の境内也。警固村の上に丸山という山あり、この山の周り径１尺ばかりの壺、其数二三百埋めり。つらなりてめくれり。その壺は皆釉薬をかけすして、素焼きにせるなり。内には土あり。いつの時又いかなる故にうつめしと云事をしらす。常陸國志に曰、寛文三年の秋、常陸國平磯村の人、古塚をあはきて、石棺を得たり。棺の内に甲冑太刀なと、種々の器あり。塚の廻り百間許か間、皆陶器を埋めり。宅の廻に垣をしたる跡の如しと云。是又同し類なり。

0444 五十川遺跡群第13次調査(GJK-13)

所在地	南区五十川２丁目地内	調査面積	129㎡
調査原因	道路建設	担当者	吉武　学
調査期間	2004.8.2～2004.8.31	処置	記録保存

位置と環境　五十川遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた南北約800m、東西240m、標高９～11mほどの洪積中位段丘面上に立地し、鞍部を挟んで北に那珂・比恵遺跡群、谷を挟んで南に井尻B遺跡群が隣接する。遺跡の南西端を貫通して新設される都市計画道路建設に伴う事前調査として、平成14年度より継続して調査を実施している。

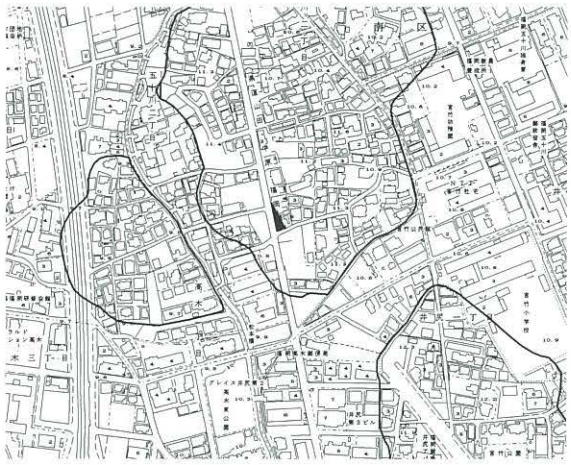
第13次調査地点（H区）は、第10次調査A区の道路を挟んだ北側に位置し、宅地と現道路に挟まれた南北に長い三角地である。東側隣接地の店舗は第９次調査地点（民間開発に伴う調査）で、この店舗への出入り口を確保したため調査区が南北に分かれた。

検出遺構　奈良時代の井戸１（底面に把手のとれた提瓶１を置く）、中世後期の大溝１、中世（詳細時期不詳）の地下式土壙１・土坑１・井戸１・溝１、およびピット少数（多くは木根とみられる）である。

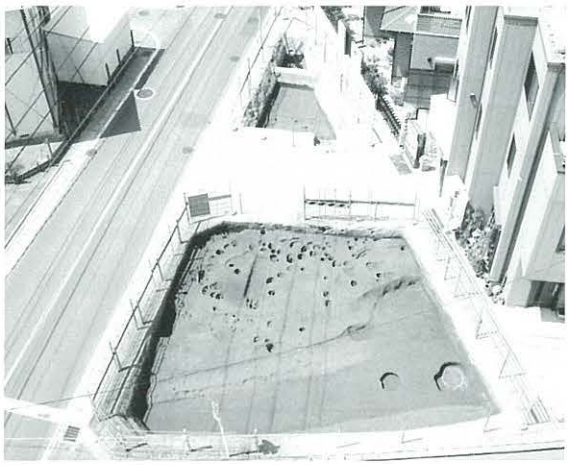
出土遺物　古代～中世の土師器・須恵器・陶磁器などがコンテナ６箱分出土した。

まとめ　南北の調査区で遺構面に0.9mのレベル差があり、北側が低い。大正末～昭和初期の地図ではここに水田の段差が記されており、東隣の第９次調査や、現道路を挟んだ西側の第10次調査D区でも段差や中世溝を確認しており、これに続くものであろう。

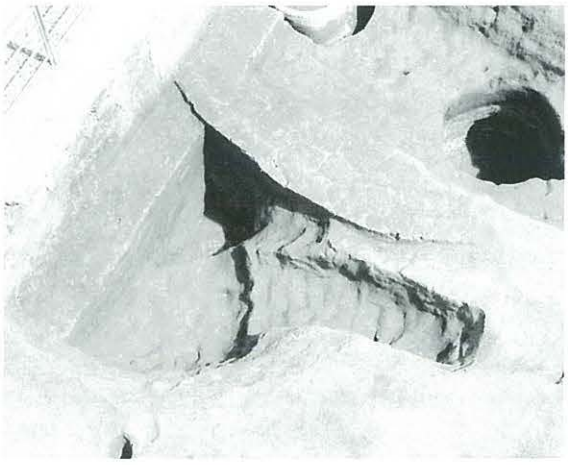
継続調査のため、報告書は遅れて平成20年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（24　板付　88　1:8000）



2. 調査区全景（南から）



3. 地下式土壙と井戸（北西から）

0445 雑餉隈遺跡群第16次調査(ZSK-16)

所在地	博多区昭南町２丁目13	調査面積	92㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	長家　伸
調査期間	2004.8.3～2004.8.6	処置	記録保存

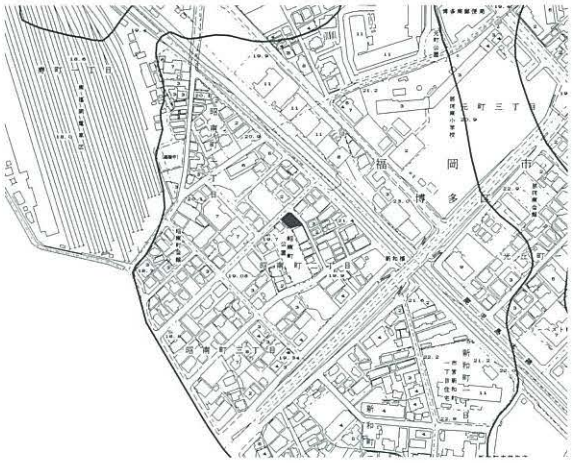
位置と環境　調査地点は須玖丘陵の北東部に延びる洪積丘陵上に立地し、春日市との市境付近に位置する。本遺跡においてはこれまでの発掘調査において、旧石器時代、弥生時代～中世の多くの遺構・遺物が確認されている。また申請地の南側50mほどの地点では第12次調査が行われており、奈良時代の生活遺構が確認されている。

検出遺構　遺構面は現地表下0.5mの鳥栖ローム層(阿蘇山噴火火砕流）上面に設定した。遺構面はこれまでの切り下げにより、本来の状況を失っていたが、南西側で奈良時代の竪穴住居跡を２棟確認することができた。平面は共に一辺3.5m前後の正方形で、住居の一辺に竈を造り付けていた。

出土遺物　土師器・須恵器がコンテナ４箱出土している。

まとめ　今回奈良時代の竪穴住居跡を確認することができた。遺構面が削平されていたことを考えると、本来は更に多くの竪穴住居が存在したものと考えられる。本遺跡群では該期の生活遺構が広く分布しており、本調査地点もその一部を構成するものである。

報告書は平成17年度以降刊行予定。



1. 調査地点の位置（13　雑餉隈　54　1:8000）

2. 調査区西半部全景（東から）

3. 竪穴住居跡（東から）

0446 住吉神社遺跡第1次調査(SYJ-1)

所在地	博多区住吉３丁目44-１外	調査面積	381㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	長家　伸
調査期間	2004.8.9～2004.9.27	処置	記録保存

位置と環境　調査地点は住吉神社参道南側に隣接している。住吉神社は筑前国一の宮として知られ、文献上は奈良時代前半代の記事を初見として現在に至っている。現在は海岸線よりやや離れた那珂川右岸部分にあたるが、古代・中世では大きく湾入した博多湾の最深部に位置していたものと考えられる。

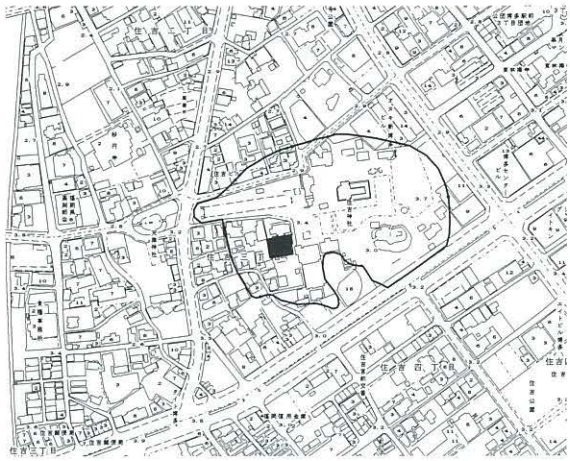
検出遺構　遺構面は河川性堆積物の黄褐色シルト～粗砂層である。確認した遺構は中世の井戸５基・溝３条・土坑・ピット（建物の柱穴）、近世の瓦組み井戸４基、溝１条外である。

遺構は調査区全体に濃密に分布しており、その掘り方主軸方向は現在の住吉神社本殿・参道の軸にほぼ揃うものであり、少なくとも中世前半代以降は現在に残る地割によって建物が配置されてきたことがうかがえる。また今回の調査では10世紀以前の遺構・遺物が極僅かしか確認できておらず、古代の状況については不明なままである。

出土遺物　各遺構から出土した遺物はコンテナ50箱である。外底面糸切りの土師器坏・皿類、陶磁器類のほか、石製品・鉄製品等が僅かに含まれる。

まとめ　今回の調査により中世前半代以降の住吉神社周辺の様相の一部が明らかとなった。12世紀代の区画溝は、現在の神社参道・本殿の企画に沿うものであり、少なくともこの時期以降現在まで方位・区画を踏襲して施設が配置された可能性が高いと考えられる。また本地点で遺構・遺物が確認されるのはおおよそ12世紀に入ってからであり、これ以前のものはほとんど確認できていない。古代の様相については周辺の調査結果を待ちたい。

報告書は平成17年度刊行予定。



1. 調査地点の位置（49　天神　2820　1:8000）

2. 調査区全景（西から）

3. 井戸（北から）

0447 比恵遺跡群第92次調査(HIE-92)

所在地	博多区博多駅南５丁目108-4	調査面積	74.9㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	赤坂　亨
調査期間	2004.8.3～2004.9.3	処置	記録保存

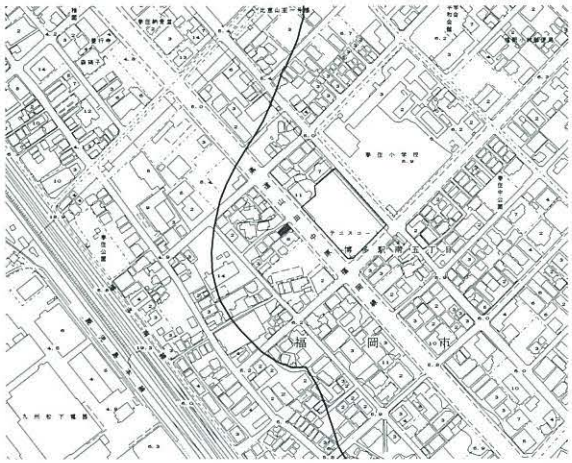
位置と環境　比恵遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に位置しており、本調査地点はその北西端にあたる。調査地の南側で比恵第69次調査(弥生時代の貯蔵穴・井戸）が、東側で８次・72次調査（古墳時代～古代の生活遺構・倉庫群・柵、国指定史跡）が行われている。

検出遺構　弥生時代前期後半の貯蔵穴３基、弥生時代後期の井戸１基、時期不明の掘立柱建物１軒以上、ピット多数を検出した。ピットは略北方向に並ぶようである。貯蔵穴SK-06は断面がフラスコ状を呈する。

出土遺物　井戸からはほぼ完形の弥生時代後期後半の土器がコンテナ３箱分出土した。貯蔵穴からは土器片と少量の黒曜石片が出土した。ピットからは顕著な遺物は見られなかった。遺物は合計コンテナ７箱分出土した。

まとめ　住居建設の際に大きく削平を受けていることが予想されたが、遺構の残存状況は良好であった。遺構はほぼ全てが弥生時代のもので、南側の69次調査と同内容である。東側の８・72次に見られた古墳時代～古代の倉庫群や柵は検出されなかった。69次でも同様の知見が得られており、官衙的建物群は現在の道路を超えて東側には広がらないようである。また69次で辰砂が出土したことから、注意して発掘に当たったが検出されなかった。

調査報告書は平成18年度以降に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)

2. 調査区東半全景（南西から）

3. 貯蔵穴SK-16西半完掘状況（東から）

0448 有田遺跡群第214次調査(ART-214)

所在地	早良区小田部5丁目60の一部	調査面積	128㎡
調査原因	分譲住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.9.2～2004.9.16	処置	記録保存

位置と環境　有田遺跡群は福岡市西南部に位置する早良平野の北部にある最大標高15mを測る独立中位段丘上に立地している。台地は主軸を南北方向に向け、南北1km、東西0.7kmの規模である。台地には深く切り込んだ谷が幾つか存在し、台地は北方向に向かって八つ手状に分岐している。214次調査地点は台地北部より北に延びる支丘上の付け根付近に位置する。調査地点の現況は建物解体後の更地であり、北側道路面より約1.8m高い。標高は10.5mを測る。南側に80次、172次、北側に67次、98次、166次調査地点が近接する。

検出遺構　ピットのみを検出した。柱痕の残るものが多い。

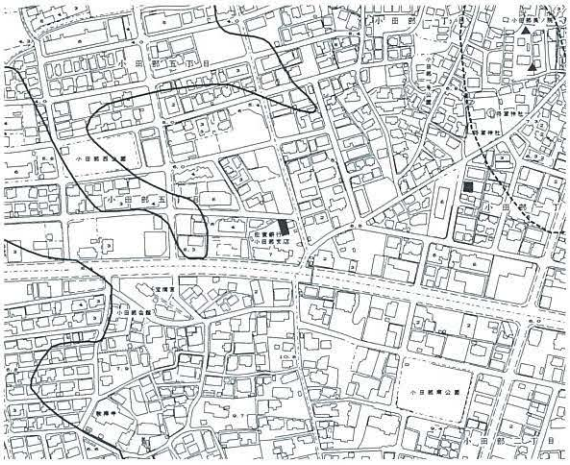
建物としてまとめられたSB01は3×3間以上の規模で発掘区東側へのびる。建物の軸は方位にほぼ合っている。柱間の距離は1.8m。古代以前の建物であろう。

ほかに建物の可能性があるもの1棟、竪穴住居の可能性があるもの1カ所がある。

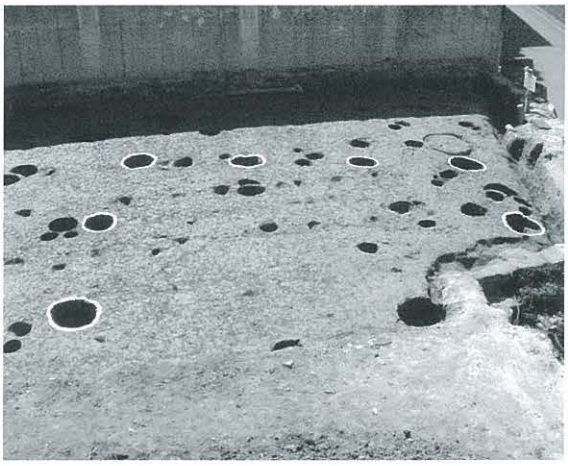
出土遺物　遺物は柱穴からコンテナケース1箱分出土した。

まとめ　本調査地点は支丘の尾根線上に位置しているため、若干の削平を受けているようで、検出された遺構は柱穴のみで少ない。しかし周囲の調査結果から、弥生時代の竪穴住居が存在した可能性が高いと考えられる。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(82　原　309　1:8000)



2. 調査区北側全景（東から）

3. 調査区南側全景（北から）

0449 比恵遺跡群第93次調査(HIE-93)

所在地	博多区博多駅南４丁目217-1外	調査面積	89㎡
調査原因	貸事務所建築	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2004.9.15～2004.10.7	処置	記録保存

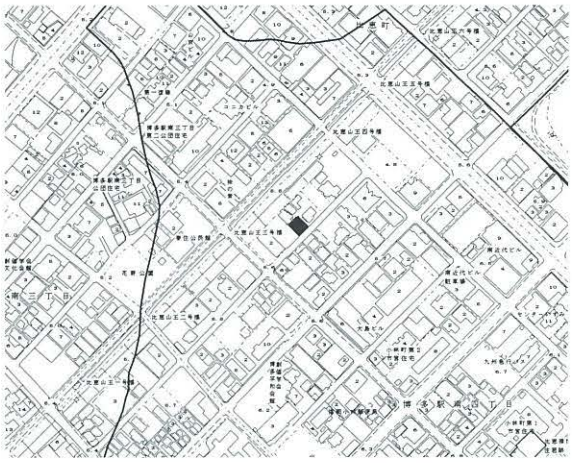
位置と環境　比恵遺跡群の北西部に位置する。北東約50mの位置には弥生前期末の木器を多く含む谷部が抉り込んでいる。検出面のローム層は標高6.16mを測るが、１m以上の削平が推定される。また、現状の検出面は平坦であるが、西側へ下降していた可能性がある。

検出遺構　検出した主な遺構は弥生前期の円形貯蔵穴５基、古墳初頭の溝３条、柱穴である。貯蔵穴は深さ約１mが遺存し、下底は径約２mの円形プランを呈す。壁はややオーバーハングするか、直である。古墳初頭の２条の溝は調査区を略東西方向に走向する。２条はほぼ同方向で西側で両溝間が狭まる。分岐したものか、時期を異にして堀変えられたものかは調査区内では不明である。下底のレベルは調査区内ではほぼ同じであるが、砂の堆積から西側に流水していたものと考えられる。

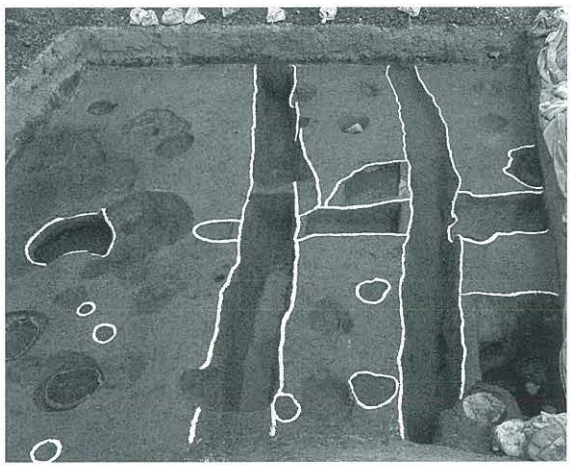
出土遺物　出土遺物は総量にしてコンテナ５箱分が出土した。

まとめ　東約70mの第30、31、37次調査で前期の貯蔵穴約40基が集中するが、分布状況から本調査区で検出された貯蔵穴群とグループを異にする可能性がある。近似した形状の古墳初頭の溝も第30次で検出されている。第31次調査でも並列した同方向の溝が検出されているが、区画溝や水路などとしての具体的な機能は不明である。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)



2. 調査区東半全景（西から）

3. 調査区南半全景（北西から）

0450 比恵遺跡群第94次調査(HIE-94)

所　在　地　博多区博多駅南４丁目220の一部　調査面積　36㎡
調査原因　個人住宅建築　担　当　者　荒牧 宏行
調査期間　2004.9.15～2004.9.22　処　　置　記録保存

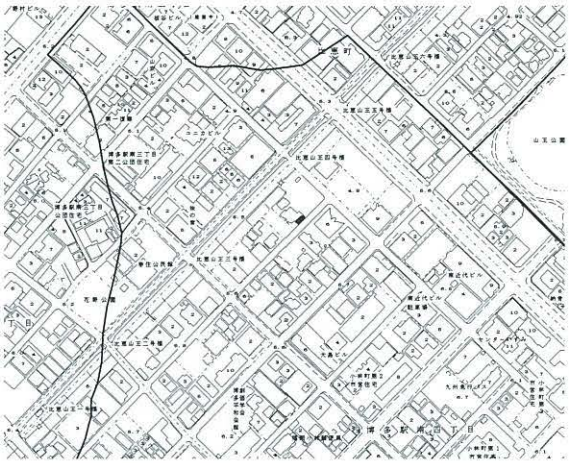
位置と環境　比恵遺跡群の北東部に位置する。北側約50mには弥生前期の遺物を多く含む谷部が抉り込む。東側隣接地は弥生前期の貯蔵穴が29基検出された第30次調査地点である。遺構は表土下20cm（標高5.8m）の鳥栖ロームで検出された。

遺構と遺物　SC01　削平され貼床土によって確認された。プランは明確ではないが、方形とみられる。中央付近に遺物が集中していた。その集中した位置から出土した１、２は弥生中期初頭の壺である。内面頸部にミガキがみられるが、外面は器面が剥落して不明。３は玄武岩製の石斧未製品とみられる。４は土器が集中していた付近で出土。安山岩製の台石とみられる。図示した面の周縁に剥離が施され中央部は窪む。側辺は直に近く折れ平坦面を呈す。裏面は自然面を残しあばた状。

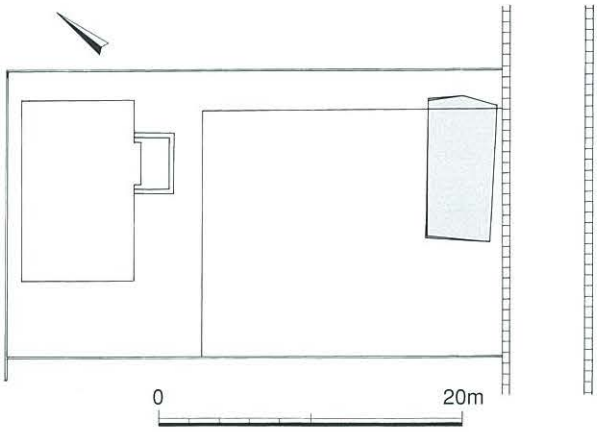
SK02　径120～140cmの円形プランを呈す。井戸もしくは貯蔵穴とみられるが、工事中の緊急調査で期間が限られ、また工事掘削が浅い為に40cm程度の掘り下げにとどめることになった。出土遺物の５は接合面から剥離した甕底部である。６は無軸羽状文が施された壺体部

SK11　径160cmの円形プランを呈す。SK02同様に完掘していない。出土遺物の７は須恵器坏身、８は弥生前期末～中期にかけての甕片。体部はナデ調整、外底部はわずかに浮く。９は黄灰白色の堆積岩と思われる石材の石器未製品である。断面三角形の柱状を呈す。

ま　と　め　上述のように貯蔵穴の可能性がある２基の円形土壙は完掘していないので、明確ではないが30次の前期貯蔵穴群は本調査区の中央部が西限と考えられる。また西側約70m離れた第93次調査地点では別の前期貯蔵穴群が営まれている。次段階の中期になると本調査区で検出されたように竪穴住居が構築される。

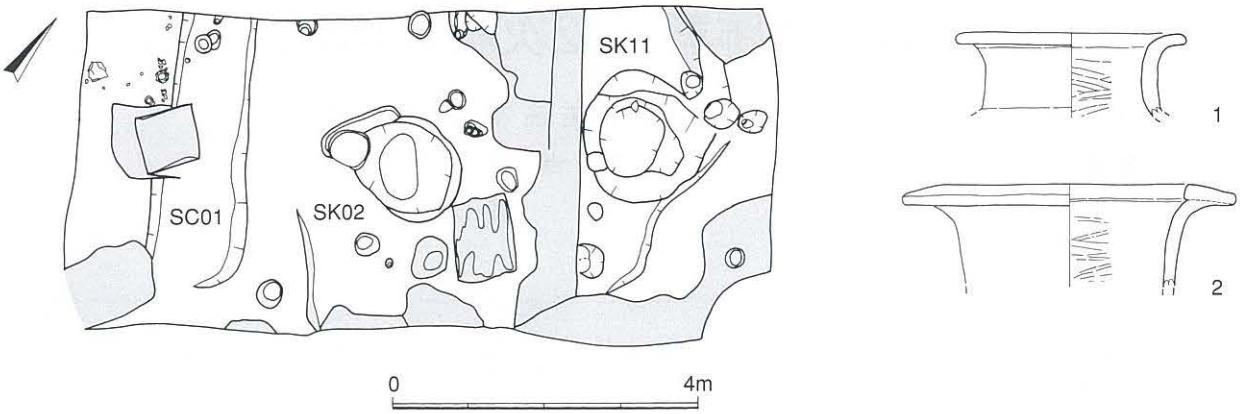


1. 調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)

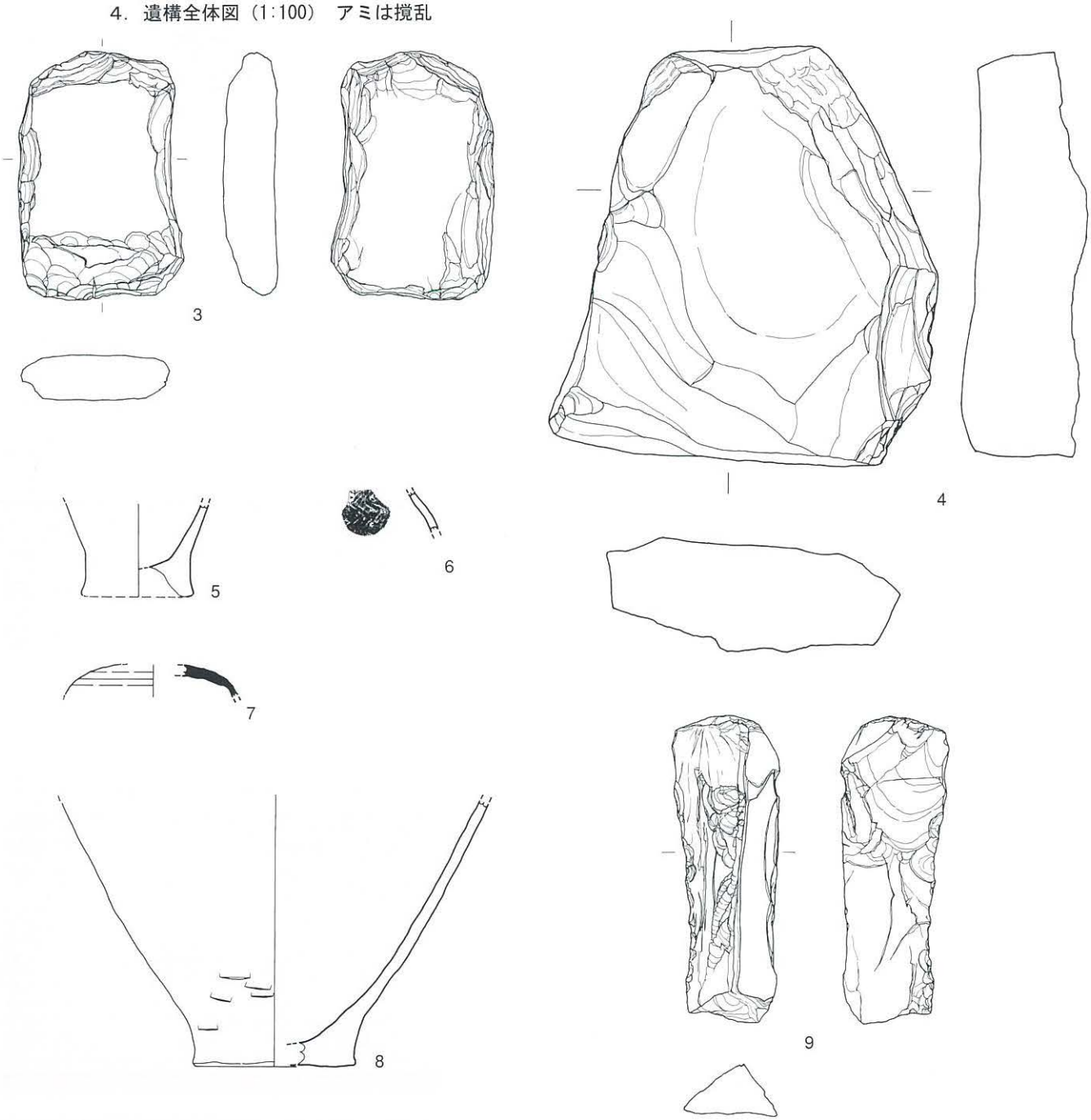


2. 調査区位置図（1:500）

3. 調査区全景（北から）



4．遺構全体図（1:100）　アミは撹乱



5．出土遺物実測図（1～4はSC01、5・6はSK02、7～9はSK11出土、縮尺は3・9が1/3、他は1/4）

0451 元岡・桑原遺跡群第42次調査(MOT-42)

所在地	西区大字元岡字二又	調査面積	1,000㎡
調査原因	大学移転用地造成	担当者	米倉 秀紀
調査期間	2004.10.1～継続中	処置	記録保存

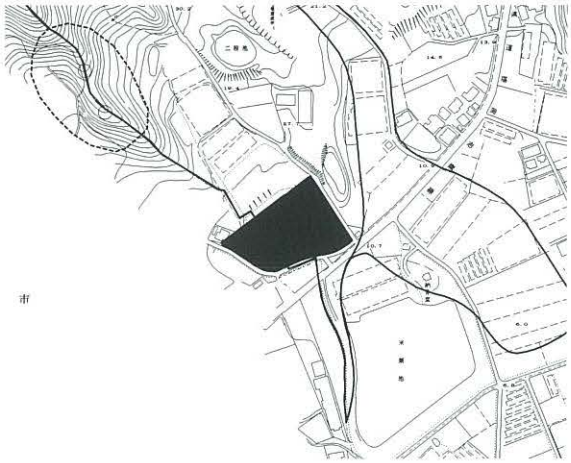
位置と環境　糸島半島の中央から南側に伸びるやせた丘陵間の谷の中に調査地全面が立地する。前面100m先は古今津湾である。調査地のすぐ西は前原市で、西側隣接地の台地部で弥生時代中期の掘立柱建物群が発見されている。今年度は8000㎡の内東側半分の調査を実施した。

検出遺構
出土遺物　東側で検出したのは自然流路１本とピットである。ピットは未掘のため詳細不明。自然流路は最大幅30m前後、深さ1.5m前後の大きなものである。下層は砂礫層で水が流れる。上層は腐植土層で水の流れは止まっていたと考えられる。下層はおおむね弥生時代中期後半から後期前半、上層は弥生時代後期後半から古墳時代前期である。自然流路の岸には上記の時期の累々たる土器群があり、総数は5000箱を超えるものと思われる。上層と下層の間で、径10mの中に小銅鐸２点、銅製鋤先１点、貨泉１点、銅鏃１点、ガラス玉２点、土製勾玉４点が出土した。水が流れなくなる時期で、水の祭祀に関連するものと思われる。

３月までにすでに1000箱近い遺物が上がっている。弥生土器・土師器のほか上記の青銅器類、及び木製品である。

まとめ　ほぼ福岡市全域から１年間で出土する遺物量が出土しそうである。そのほとんどが廃棄の状態であるが、多くは完形近くまで接合しそうである。現在の調査区内ではピットは若干あるが、集落・墓地はなく今後調査区を広げる中で検討していきたい。

調査報告書の刊行は未定である。



1. 調査地点の位置(140　元岡　2782　1:8000)

2. 古墳時代前期土器群

3. 2号小銅鐸出土状況

0452 席田大谷遺跡群第7次調査(OTN-7)

所在地	博多区東平尾3丁目地内	調査面積	363㎡
調査原因	道路建設	担当者	吉武　学
調査期間	2004.10.5～2004.11.19	処置	記録保存

位置と環境　月隈丘陵から西へ派生する支丘の南斜面に立地し、東側に赤穂ノ浦遺跡が近接する。道路を挟んで北側に第6次調査地点が位置する。

検出遺構　工事工程の都合から調査区を南北に二分した。調査面積は北側Ⅰ区が176㎡、南側Ⅱ区が187㎡である。標高は地表面が9m強、遺構面が8m弱で、基盤土は粘土やバイラン土等の沖積層で、開田により水平に削平されている。

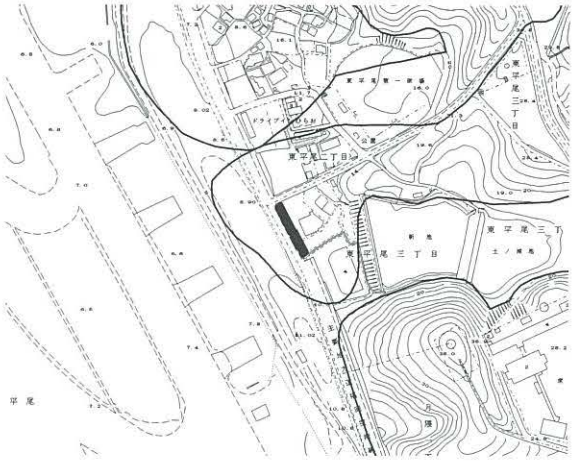
Ⅰ区は地表下1.5mで基盤土となり、杭列やピット等があるが、肥前系染付などが少量出土し、いずれも近世以降の水田造営に関わるもの。

Ⅱ区は地表下1.2～1.1mで基盤土となり、地形は南へ下るが、遺構面は逆にⅠ区よりⅡ区が20cm強高い。ほぼ全域に遺構が認められ、弥生時代中～後期のピット、弥生時代後期の井戸1基・掘立柱建物1棟・土坑3基がある。井戸は深さ1.6mで、上層に弥生時代中～後期の土器が多量に投棄されていた。掘立柱建物は1×2間で、柱穴が他よりひとまわり大きく、周囲の遺構を全て切る。他のピットはいずれも浅く、少なくとも50cmほどの削平を受けており、直列するものが少ないので、時期的にみて円形竪穴住居跡の柱穴と思われる。また、Ⅱ区の南側には谷部があるはずだが、今回の調査区内ではその落ち際は確認できなかった。

出土遺物　コンテナ15箱。井戸から出土した弥生土器を中心に、陶磁器等を少量含む。

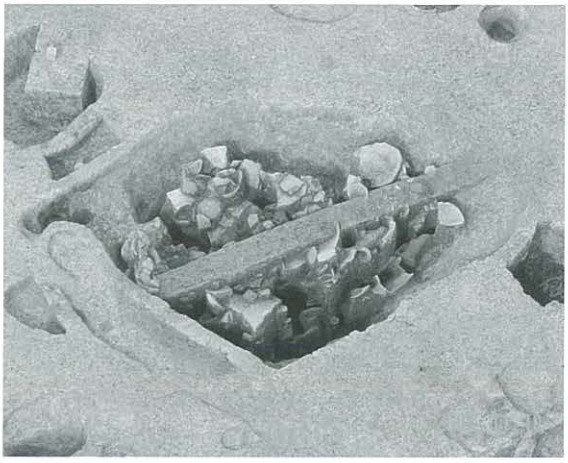
まとめ　第6・7次調査の状況と周辺地形から、東側の赤穂ノ浦遺跡あたりから伸びてくる丘陵の尾根がⅠ区付近にかかっていたものと想定されるが、近世・近代にこれを大きく切り崩して水田開発を行ったものとみられ、Ⅰ区では特に遺構の残りが悪かった。

調査報告書は平成17年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（23　雀居　24　1:8000）

2. Ⅱ区全景（南から）



3. Ⅱ区井戸（南から）

0453 重留村下遺跡群第4次調査(SGM-4)

所在地	早良区重留1丁目500-1	調査面積	241㎡
調査原因	店舗付共同住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.10.4～2004.11.12	処置	記録保存

位置と環境　重留村下遺跡は早良平野南東部に位置し、油山から西にのびる丘陵の先端部に接する緩やかな微高地上に広がっている。今回の調査地点は遺跡の北部に位置し、現標高28mである。

検出遺構　現地表面から60～80cm下げると黄白色粘土もしくは茶褐色混砂土になり、暗茶褐色土を覆土とする遺構が検出できた。

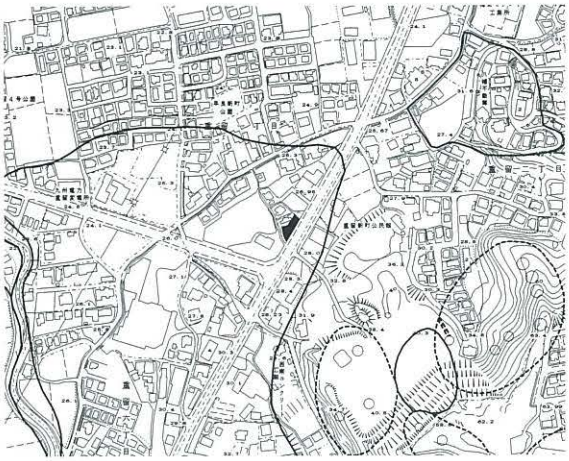
竪穴住居4軒、溝2条、土坑8基、ピット多数を検出した。

竪穴住居SC06は3.8m四方の方形で北側に竈をもつ。残存壁高は10cm。主柱穴は4カ所確認された。竪穴住居SC07は3.9×3.3＋αmで西側が発掘区外にのびる。北側に竈をもつ。残存壁高は5cm。主柱穴は確認できなかった。竪穴住居SC08は4.1m四方で北側に竈をもつ。残存壁高は15cm。主柱穴は4カ所確認された。竪穴住居SC09は1.9＋α×3.0＋αm。北側と西側は調査区外にのびる。残存壁高は10cm。主柱穴は確認できなかった。SC08に切られる。竪穴住居からは須恵器坏、土師器甕、高坏などが出土している。古墳時代後期の竪穴住居群である。溝SD03は8°ほど西にずれる南北方向の溝で9m分確認した。北側は調査区外にのび、南側は浅くなり確認できなくなる。北側での深さは15cm。黒色土器や鉄滓が出土している。平安時代の溝である。

出土遺物　竪穴住居を中心に土師器、須恵器などコンテナケース5箱分出土した。

まとめ　重留村下遺跡の北部には古墳時代後期の集落が広がっていることが追認された。しかし、南側の1・2次調査で確認された弥生時代の遺構は検出されなかった。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(84　重留　324　1:8000)

2. 南側調査区全景（北から）

3. 北側調査区全景（北から）

0454 那珂遺跡群第102次調査(NAK-102)

所在地	博多区東光寺町２丁目23～26	調査面積	7,000㎡
調査原因	大型複合店舗建設	担当者	堀苑 孝志(岡三リビック㈱埋蔵文化財調査室)
調査期間	2004.10.15～2005.4.15	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は福岡平野のほぼ中央に位置し、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵に立地する。当該調査地点は、標高５m前後を測る御笠川の左岸上にあたる。ここは最近まで工場として稼動しており、大規模な造成により旧来の地形を見出すのが困難な状況であった。

検出遺構　主な遺構の構成は、弥生時代終末から古墳時代にかけての土坑群や井戸跡で、総数130基余を確認した。これらの遺構は、調査区の中でも窪地状の狭く低い箇所に重複し、集中する傾向が認められる。土坑の掘り込みは歪な楕円形で、浅いものが多い。遺物は土器の小破片が、二次的に混入したと考えられるものばかりである。井戸跡については、完存品の土器が出土し、ウリ科の種子もまとまって検出できる点から、廃絶時の祭祀行為を窺わせる。

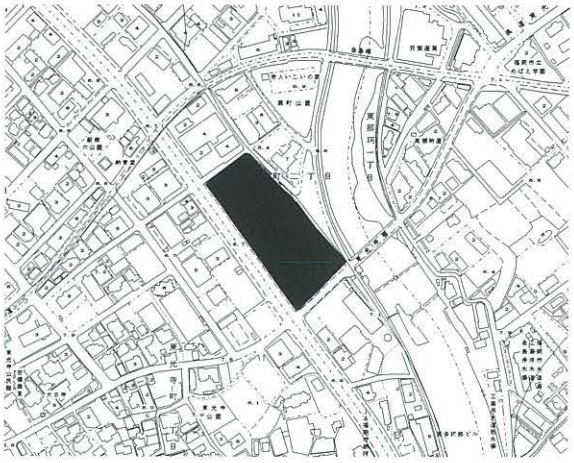
これら以外では、古代官道の西側溝が延長約100mに亙り確認できた。路面の大部分と東側の溝は、調査区外に並行してあるものと考えられ、心々の規模は不明である。以前の調査において、これに前後した延長線上でも同様の溝が確認されており、ほぼ一直線に繋がることが想定される。

出土遺物　井戸跡からは土器以外にも、多くの木製品が出土している。その種類も、部材をはじめ、槽・平鍬・三又鍬・大足の木枠など豊富である。

まとめ　井戸が存在する環境からも人々が集住していたと思われるが、住居跡等を発見するには至らなかった。これについては居住の場が、比較的に高い位置を占めていたからと思われる。それが後世の削平で消失し、影響の及ばなかった低地の谷部分に、見かけの上で遺構が集中するかのように映るのではないだろうか。

官道についてはほぼ一直線に延びる事例から、このまま南進すると直ちに御笠川に突き当たる。すると往事とは流路が異なっていたのか、或いは対岸に渡河する地点が存在したのか興味あるところである。

報告書は平成18年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　85　1:8000)

2. SE120井戸跡遺物出土状況（東側から）

3. 官道西側溝検出状況（南東側から）

0455 那珂遺跡群第103次調査(NAK-103)

所在地	博多区竹下５丁目425	調査面積	350㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	長家　伸
調査期間	2004.10.18～2004.11.25	処置	記録保存

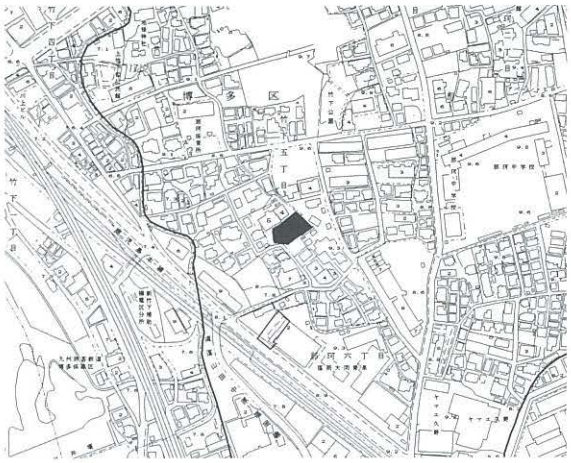
位置と環境　那珂遺跡は福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた丘陵上に立地する遺跡である。調査地点は那珂遺跡群の南西側に位置する地点である。周辺部分においても共同住宅建設に伴う調査を中心として多くの発掘調査が行われている。特に北側隣接地の75次調査では古墳時代の竪穴住居跡が多く認められ、この時期に集中して住居群が営まれていることが確認されている。

検出遺構　遺構面は現地表下30～60cmの鳥栖ローム層上面に設定した。確認できたのは古墳時代の竪穴住居跡、奈良時代の井戸、中近世の地下式土坑などである。また東側では近世に使用されていたと考えられる水路を確認した。遺構の主体は古墳時代後期の竪穴住居跡で、確認できたのは５棟前後であるが、柱穴数から考えると本来は10棟を大きく越える数の住居が営まれていたであろう。奈良時代の井戸については特に調査地点の北側で同じ時期の建物がまとまって確認されており、これとの関係も考えられる。更に中世の遺構については、75次調査地点で館を囲むような濠が確認されており、これと関係するものであろう。

出土遺物　土師器・須恵器を中心にコンテナ24箱分出土している。

まとめ　古墳時代後期の竪穴住居跡については北側に隣接する75次調査地点においても多く確認されており、本調査地点周辺がこの時期に生活域の中心として使用されていたことが判明した。また古代・中世の段階においても連続して生活の場として使用されており、中世には館が営まれていた可能性も考えられる。

調査報告書は平成17年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（38　塩原　85　1:8000）

2. 調査区全景（西から）

3. 井戸（北東から）

0456 那珂遺跡群第104次調査(NAK-104)

所在地	博多区那珂３丁目10-１	調査面積	19.4㎡
調査原因	学校施設増築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2004.10.18～2004.10.25	処置	記録保存

位置と環境　調査地点は那珂丘陵の東側に位置し、現在の那珂小学校の敷地内にある。道路（筑紫通り）を挟み、調査区の西側では那珂40次調査が行われている。

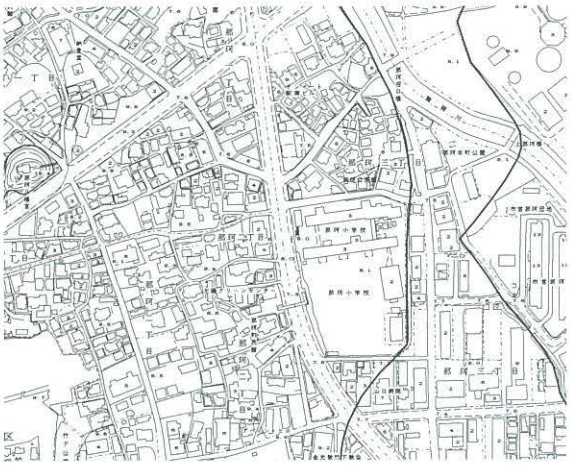
検出遺構　遺構は表土下30～50㎝、標高約８ｍの鳥栖ローム上で検出した。種類は溝（SD）２、ピット１である。溝は一見土坑状を呈しているが、所見より方形周溝墓の一部に相当すると考えられるため（後述）、ここでは溝（SD）と表記している。埋土はいずれも黒～暗褐色土。シルト質で粘性が強く、堅くしまっている。

溝は調査区内で途切れており、その間には陸橋状の地山の高まりが存在する。調査区の南側に存在するものをSD01、北側に存在するものをSD02とする。SD02は深さ0.6m、幅2.5m、SD01は深さ１ｍを測る。近在する樹木撤去時に立ち会いを行い、その際SD01の一部を確認したが、その際の所見を考慮すればSD01の幅は３ｍ程になるだろう。

出土遺物　土師器、弥生土器がコンテナ２箱出土した。１～３はいずれも弥生土器で、中期後葉～後期前葉に位置づけることができる。４は石包丁。暗赤褐色を呈する。５～10は甕口縁部。11は小形丸底壺の胴部片。12～14は高杯。15～17は二重口縁壺で、16、17には一部丹塗が残る。これらの資料はいずれもSD02から出土した。

まとめ　SD01・02の形状および配置、そして出土遺物をみれば、これら遺構は方形周溝墓の一部に相当する可能性が高い。出土した土師器は総じて久住猛雄氏による土師器編年ⅡB期に相当し（註）、古墳時代前期前葉に位置づけられる。また、溝内から出土している弥生土器は周辺における当該期集落の存在を示唆している。

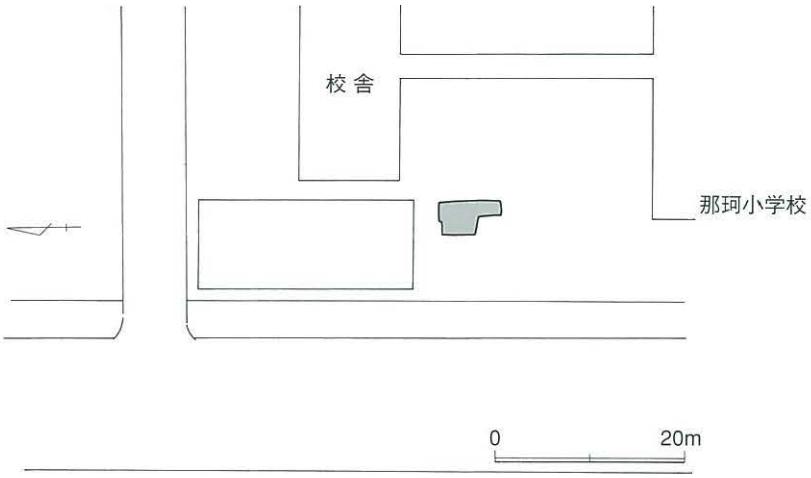
（註）久住猛雄1999「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』19



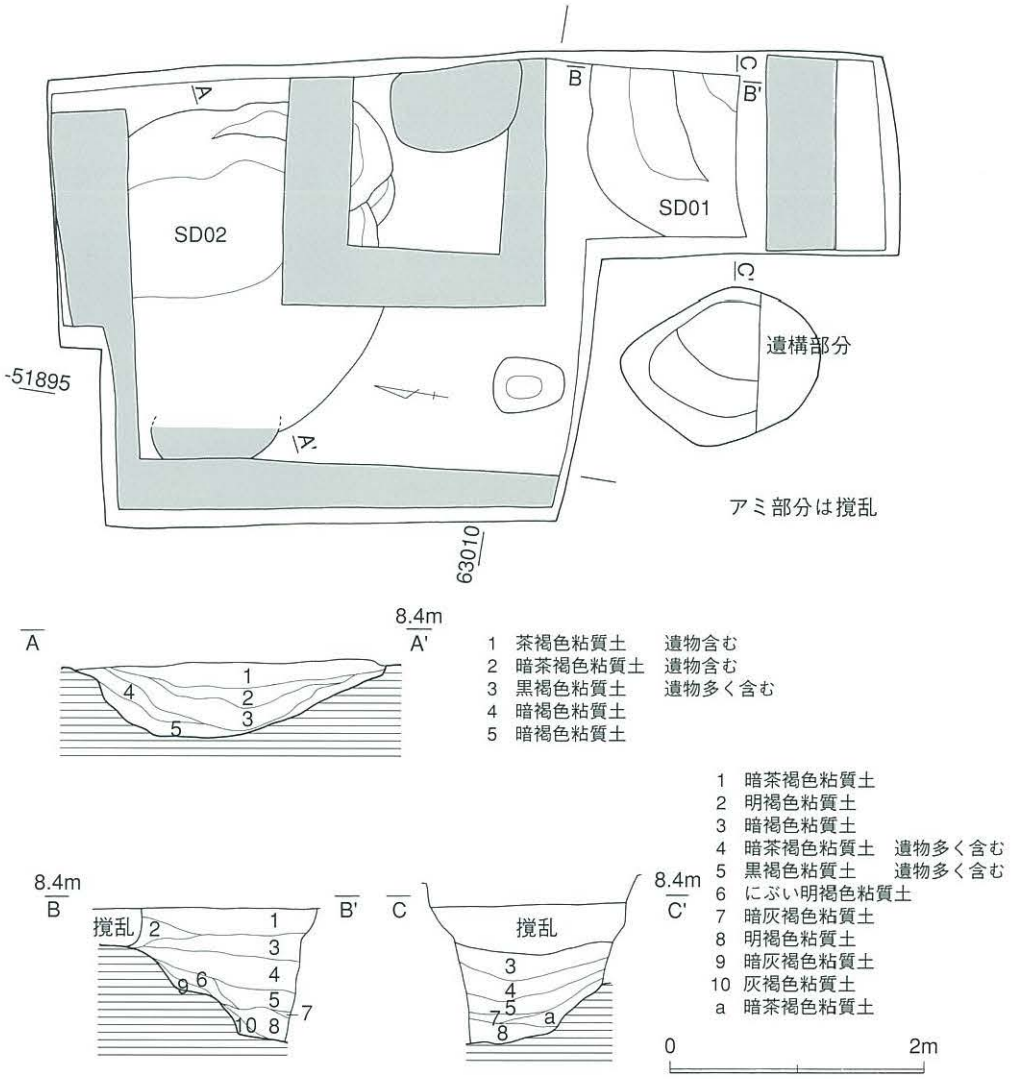
1. 調査地点の位置(23　雀居　85　1:8000)

2. 調査区全景（北から）

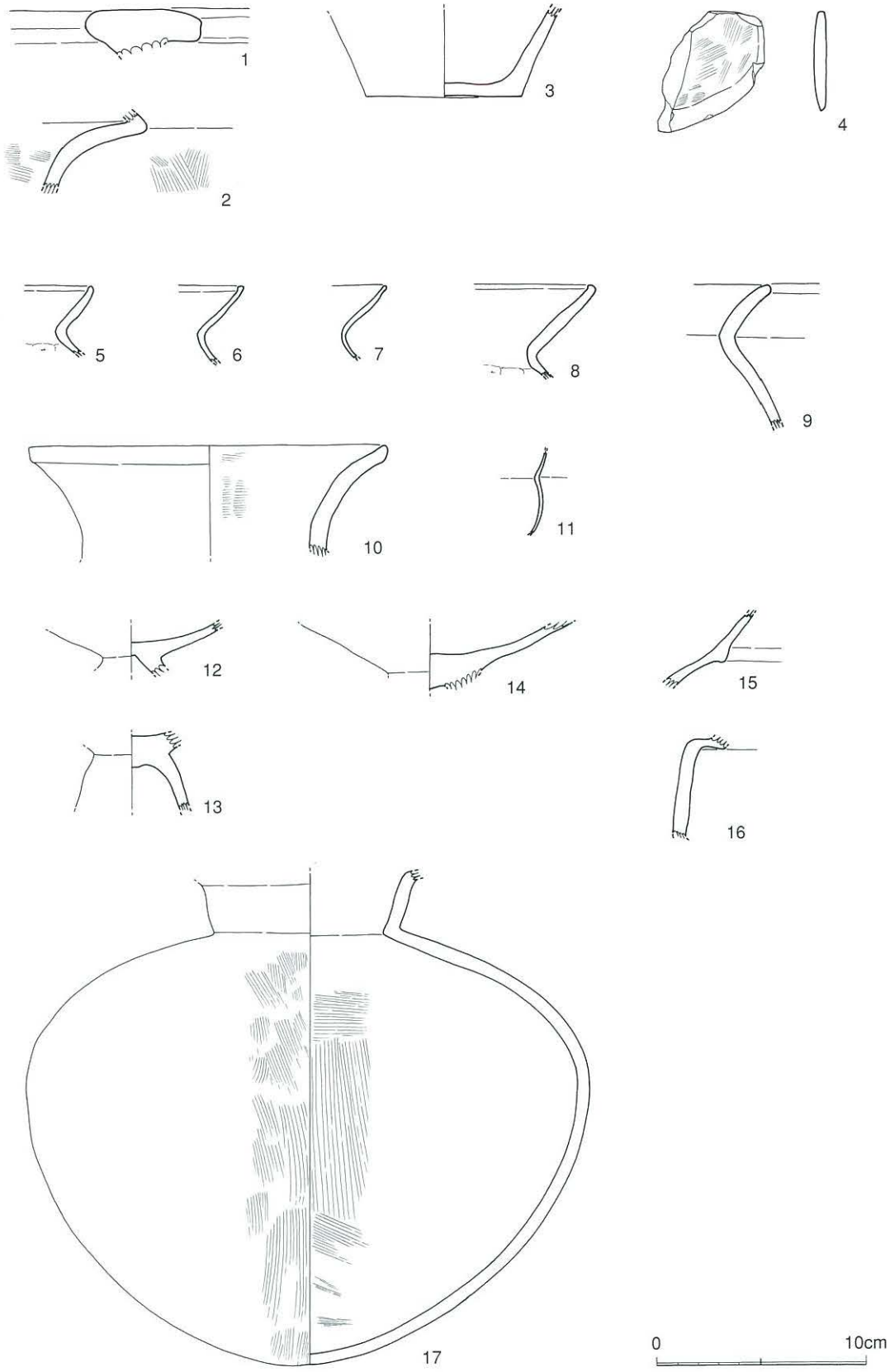
3. SD02（北から）



4. 位置（1：800）



5. 遺構配置・土層（1：60）



6. 出土遺物（1：3）

0457 那珂遺跡群第105次調査(NAK-105)

所在地	博多区竹下５丁目59-１	調査面積	745㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2004.10.18～2005.1.7	処置	記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた中位段丘上に立地する遺跡である。本調査区は那珂遺跡群の西側縁辺に位置し、東側150m程離れた場所には前期古墳の那珂八幡古墳が所在する。調査区南側は竹下駅前に通じる道路建設に伴って調査され、弥生時代から中世にかけての各時代の遺構・遺物が検出されている。

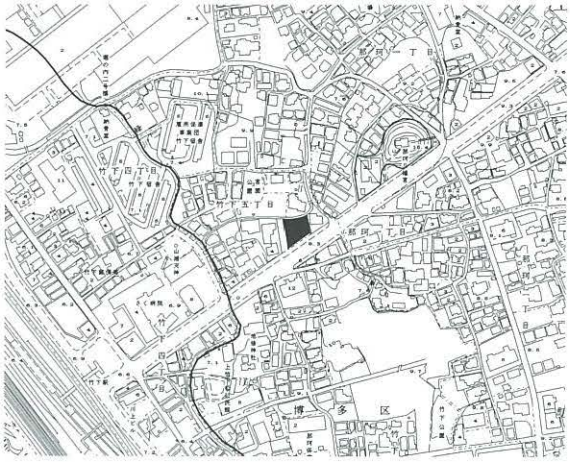
検出遺構　調査区は敷地のほぼ全域で、廃土処理の関係から調査区を東西側に二分割して行った。遺構面は鳥栖ローム土である。調査区は南西側が高く、北と東側に向かって下傾する地形で、標高は高所部で９mを測る。

検出した主な遺構は古墳時代後期竪穴住居跡８棟、掘立柱建物跡３棟、古代から中世の溝跡３条、中世井戸跡３基、中世大形土坑10基、近世井戸跡１基、多数の柱穴である。竪穴住居跡はいずれも竈を持っていたようである。中世の大形土坑は一辺が２m以上で、形態から地下式土坑と思われる。

出土遺物　弥生時代から近世までの遺物が出土した。総量はパンコンテナ39箱で、遺物としては古墳時代から中世のものが多い。特に注目するものとして古代の瓦片が多く出土している。他に住居跡から滑石の玉類なども出土している。

まとめ　調査区東側で検出した南北溝は、途中で東に曲り、第62次調査で検出された溝に繋がるものである。調査区周辺には「堀の内」という小字名が残り、周囲の調査状況と合わせて見ると、当地一帯には堀を巡らした中世後期の屋敷地群があったと考えられる。

本調査の成果は平成18年度に刊行の予定である。



1. 調査地点の位置(38　塩原　85　1:8000)

2. 調査区東側全景（西から）

3. 調査区西側全景（東から）

0458 都地泉水遺跡第1次調査(TZS-1)

所　在　地　西区大字吉武地内
調査原因　圃場整備
調査期間　2004.12.1～継続中
調査面積　5,760㎡
担　当　者　宮井 善朗・木下 博文
処　　置　記録保存

位置と環境　都地泉水遺跡は、福岡市の西端、飯盛山の東南麓、室見川の左岸に位置する。標高47～50m前後の舌状台地上に遺構が展開する。周辺には西側に装飾古墳のある金武古墳群吉武K群、新羅土器が出土した吉武G群、南側に乙石H群などの群集墳、東側に都地遺跡など、弥生～古墳時代の墓地遺跡が多数展開する。

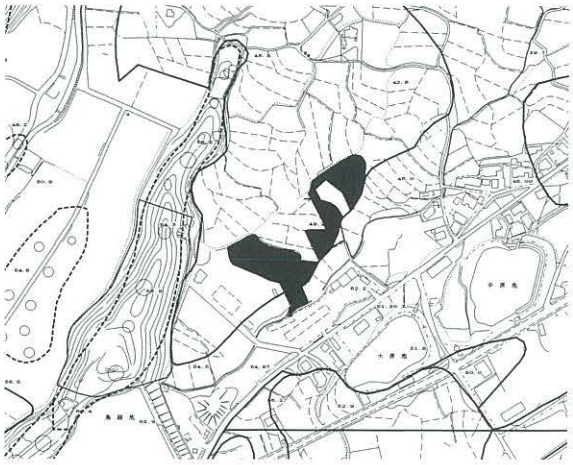
検出遺構　本調査は、重機による約30cmの水田耕作土・床土の除去から始めた。遺構面は表土直下、黄橙色粘土層上面で、標高47～50m前後である。焼土坑11基、カマド付き竪穴住居1基、製鉄炉1基、3間×2間以上の掘立柱建物1棟、建物としてまとまらない径20～30cmの円形柱穴群が検出された。焼土坑は最大で長1.9m、幅1.4mの隅丸方形を呈し、深さ30～40cm、側壁が赤く焼け締まり、底に炭が堆積する。竪穴住居は水田の段差で削られているものの、約4.5m四方の略方形で南側に外に張り出す形でカマドが作られている。製鉄炉は台地東斜面の落ち際に作られており、炉床が残るとともに、付近に鉄滓を廃棄したと見られる土坑を伴う。柱穴の深さは40～50cmである。

出土遺物　古墳時代後期以降の土師器・須恵器、鉄滓などコンテナ約10箱分がある。

まとめ　都地泉水遺跡の本格的な調査は今回が最初である。周辺には弥生～古墳時代の墓地遺跡が多数所在しており、その埋葬者が暮らした集落の有力な候補地であるが、現状では建物や住居の検出例、遺物の出土量も調査面積に対して少なく、集落と断言できる程度の資料が揃っていない。しかし、遺跡の範囲が従来よりも広がること、数カ所の舌状台地の間に谷が入り込む地形であること、その台地ごとに製鉄炉のような生産遺構と建物が点在することが明らかとなってきた。

調査は継続中であり、今後全体で3万㎡以上の調査を予定している。それらの成果も合わせることで遺跡の全容が明らかになるであろう。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(93 都地　421　1:8000)

2. 調査区全景（南から）

3. 製鉄炉（東から）

0459 山王遺跡第2次調査(SNN-2)

所在地	博多区山王1丁目9	調査面積	2,835㎡
調査原因	浸水対策施設建設	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2004.11.1～2005.3.30	処置	記録保存

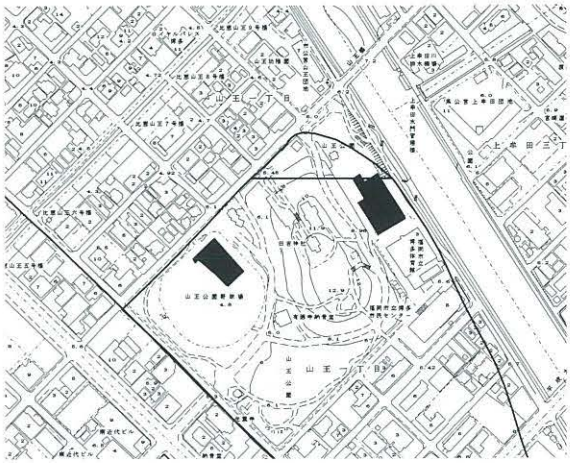
位置と環境　調査地点は御笠川左岸流域に位置し、以前、山王甕棺遺跡として登録されていた範囲を含む。山王遺跡群は山王公園内に座した日吉神社(標高10.5m)の第四紀小丘陵とその周辺の御笠川の営力による沖積地を含む範囲である。西側の比恵遺跡群との間には幅およそ100mの谷を挟み遺跡が区切られる。

検出遺構　調査区は東西２地点に分かれる。御笠川河畔近くの調査区では西側の丘陵裾部が大きく削平され、遺構が消滅していたが、東側では蛇行した流路が検出され、それに沿った水路も検出された。また、この流路近くでは削平を免れた古墳～中世の柱穴や井戸状の土壙７基が検出された。西側の野球場地内の調査区では比恵遺跡群との境になる谷の右岸を検出した。谷の左岸は野球場地内では検出されず、既往の調査成果と照合すれば幅はおよそ100mになる。谷の縁辺には護岸の杭が打ち込まれていたが、遺物は全く出土していないので、埋没時期は不明である。他に中世と思われる水路が３条検出された。この内の２条は氾濫による砂で埋没していた。他に柱穴状の小穴が検出されたが、多くは木根とみられる。

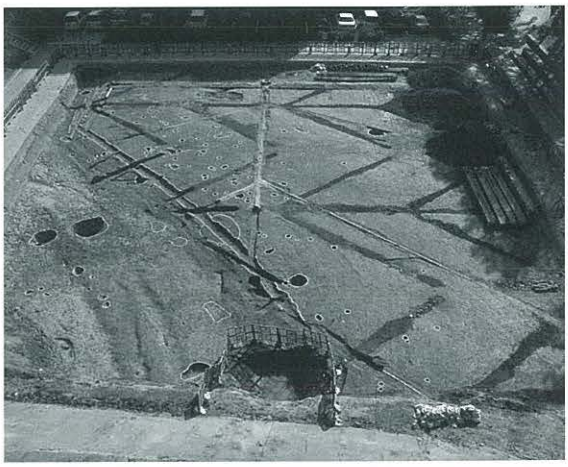
出土遺物　遺物は総量にしてコンテナ12箱分が出土。

まとめ　検出された遺構は少なかったが、地形や、土地利用の変遷の概略を把握することができた。東側調査区では日吉神社から広がる丘陵裾部を恐らく造成を加えて集落が形成された。その時期は古代に遡り、中世を通し営まれていたものと考えられる。以後、近世以降に流路が変わり、流路に沿った水路が築かれ水田化していったものとみられる。西側調査区では集落が形成された状況はみられず、水田化した時期は早いものと考えられる。

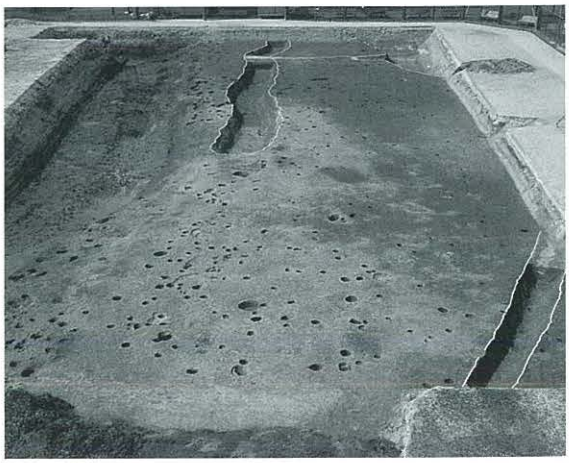
調査報告書は平成17年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　2379　1:8000)



2. Ⅰ区全景（北西から）



3. Ⅱ区全景（南から）

0460 雑餉隈遺跡群第17次調査(ZSK-17)

所在地	博多区新和町１丁目102-１	調査面積	428㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	赤坂　亨
調査期間	2004.11.1～2004.11.30	処置	記録保存

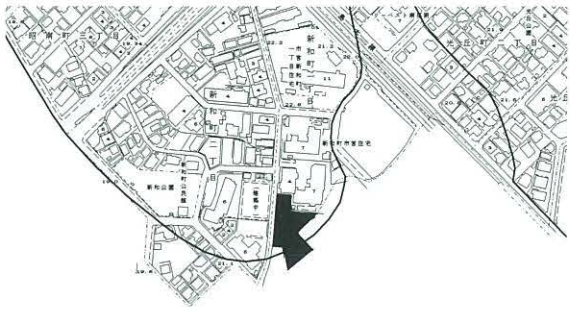
位置と環境　雑餉隈遺跡は須玖丘陵の北東に延びる台地上にあり、福岡市と春日市との市境に位置している。本調査地点はその最南端にあたる。本来は傾斜地であったが、現況では水平に整地され、宅地となっている。道路を隔てた西側が第14・15次調査地点で、北側約30mに第５次調査地点がある。

検出遺構　奈良時代の方形の竪穴式住居跡２基、性格不明の円形遺構１基、溝状遺構１基を検出した。調査区の北側はローム面まで大きく削平を受けており遺構は残存していなかった。南側も遺構の残存状態は良好でなかった。南端では市境にそって石垣の基礎が残り、裏込部から大きく削平されている。また石垣の南の春日市側は池跡であり、遺構は存在しなかった。

出土遺物　遺物は奈良時代の土師器・須恵器がコンテナ３箱分出土した。また住居址内と遺構面の全体下げ時に黒曜石が２点出土した。

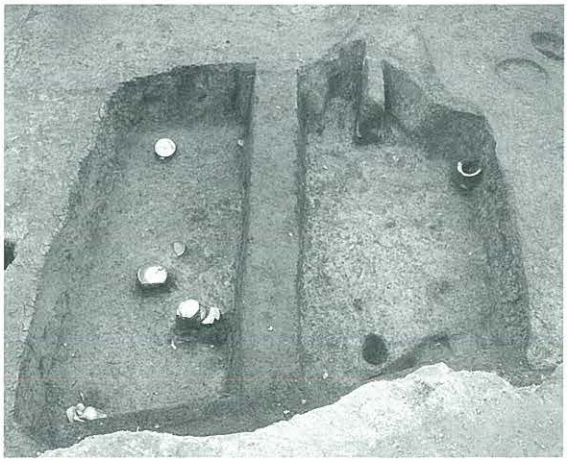
まとめ　東側の14次調査で旧石器時代の遺物が出土しており、本調査地でも存在する可能性があったが、今回の調査地では確認できなかった。また弥生時代の遺構も東側の15次調査で確認されており、やはり存在する可能性があったが確認できなかった。奈良時代の遺構は５・14・15次調査で確認されている通り、本調査地でも２基の竪穴式住居を検出した。雑餉隈遺跡は大規模な奈良時代集落が形成されていたようである。また、旧池に近づくにつれ遺構は存在しなくなる。本調査地が奈良時代の雑餉隈遺跡の南限を示すものといえよう。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(13　雑餉隈　54　1:8000)

2. 調査区全景（南から）



3. 竪穴式住居SC-01（西から）

0461 藤崎遺跡第34次調査(FUA-34)

所　在　地　早良区藤崎１丁目64　　調査面積　203.9㎡
調査原因　共同住宅建築　　担当者　阿部 泰之
調査期間　2004.11.1～2004.11.30　　処　置　記録保存

位置と環境　藤崎遺跡は、早良平野の海岸部、博多湾岸に沿って形成された砂丘上に立地する。今回の調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地とされる区域の西部に位置し、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が検出された。

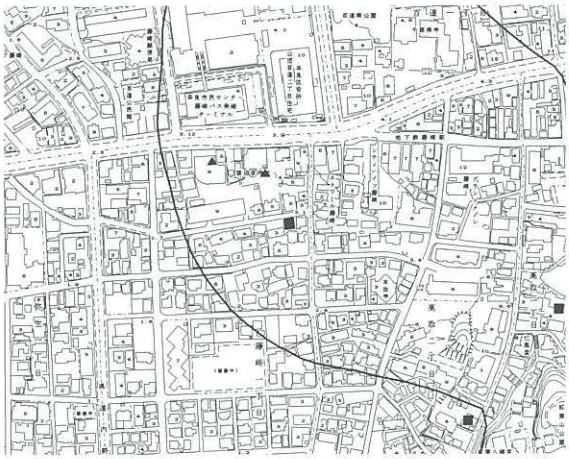
検出遺構　遺構は現地表面から－80cm、黄褐色砂層上にて検出した。遺構は検出面の上層である暗褐色土層から切り込むが、遺構検出は困難であったため、基盤の砂層まで掘り下げ、遺構検出を行った。

今回の調査で検出した遺構は、３間×３間の掘立柱建物１棟・溝４条・井戸１基・土坑８基、ピットである。時期は、遺物僅少のため詳細は不明であるが、溝は中世前半、建物・井戸・土坑はそれより新しいと思われる。

出土遺物　遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・陶磁器・石鏃が出土した。いずれも細片であり、量も少ない。弥生土器は中世の遺物に混じり少数出土する程度である。

まとめ　今回の調査では、中世と思われる建物・溝・土坑が検出された。溝は２条平行するものが認められ、周辺の調査例とあわせ12～13世紀代の区割溝に関わる遺構と思われる。建物・井戸はこれを切り、なおかつ主軸方位を異にしている。区割溝は短期間で埋没し、新たに区割が行われたものと考えられる。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(81　室見　307　1:8000)

2. 調査区北半全景（南から）

3. 調査区南半全景（東から）

0462 三苫遺跡群第6次調査(MTM-6)

所在地	東区三苫６丁目1268	調査面積	194.6㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2004.11.2～2004.11.19	処置	記録保存

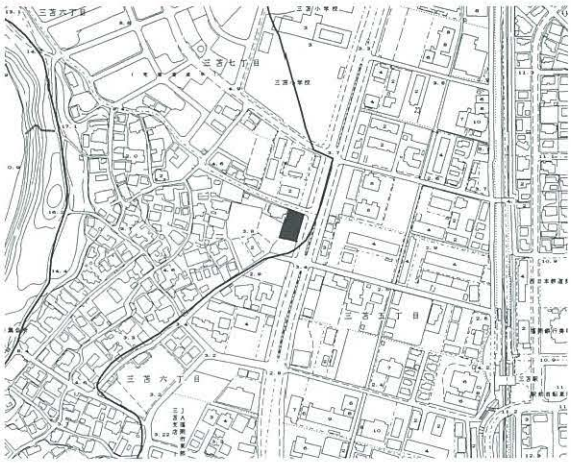
位置と環境　三苫遺跡群は福岡市の北端部にあり、博多湾に伸びる海の中道の基部、北側に広がる遺跡である。調査地点はこの三苫遺跡群の東端部にあたり、海岸に沿ってのびる丘陵の東側裾部に位置する。近隣では４次調査が行われている。

検出遺構　遺構には土坑と溝、ピット群がある。出土遺物をみれば、中世後期から近世にかけての遺構といえるだろう。各土坑の中には大形のものが２基存在する。土坑１は2.5m×1.3mの隅丸長方形を呈し、深さ40cmを測る。土坑２は2.5m×1.9mの長方形を呈し、深さは40cmである。いずれの土坑も出土遺物は少なく、時期を特定するには至っていない。ピットは多数検出されているが、建物等の柱穴というより、杭もしくは柵列等の痕跡とみた方が良いだろう。

出土遺物　出土遺物はごく少ない。土師器や国産陶磁器を中心とし、コンテナ１箱程度である。

まとめ　今回の調査では中世後期から近世にかけての遺構を数多く検出することができた。東隣で行われた第４次調査における成果とあわせ、当該期における三苫地域の歴史を考える上で、貴重な資料となるだろう。

尚、調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(28　三苫　108　1:8000)

2. 調査区南東側全景（北から）

3. 調査区北側全景（西から）

0463 コノリ遺跡群第4次調査(KNR-4)

所在地	西区拾六町団地	調査面積	2,025㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	田上 勇一郎
調査期間	2004.11.17～2005.3.31	処置	記録保存

位置と環境　コノリ遺跡群は早良平野と今宿平野を画す山塊の叶岳からのびる丘陵の北東に位置する。北東－南西方向の幅90m、長さ250mの丘陵が存在していたが、団地建設時の造成で頂部を削り、谷部を埋め、平坦地となっている。現標高は14m前後である。

検出遺構　調査区は削平されていない３ヵ所に設定された。A区は調査対象地の西部で、北西に開く谷、B区は対象地北東部の東側に開く谷、C区は対象地南東部の旧丘陵南側斜面である。地山は花崗岩風化土である。

A区では土坑２基、溝１条、ピット多数を検出した。ピットからは土器が出土するも人為的な掘り込みかどうか不明。

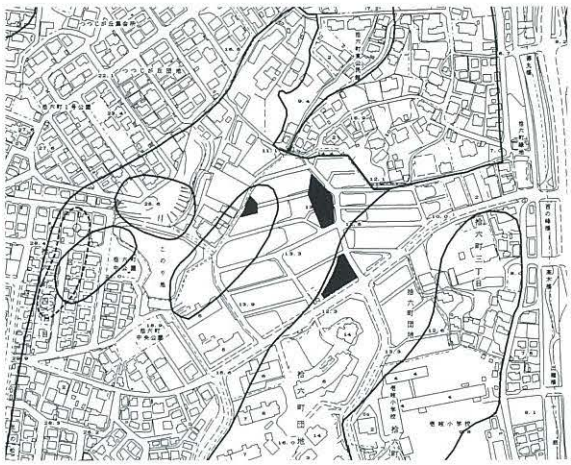
B区では掘立柱建物４棟以上、竪穴住居８軒、溝５条、土坑５基、ピット多数を検出した。弥生時代後期、古墳時代後期、中世後期の遺構群である。竪穴住居は斜面上の同標高に切り合って存在している。弥生時代後期５軒、古墳時代後期３軒である。

C区は奈良時代に斜面を削り込んで段造成を行っている。掘立柱建物３棟以上、竪穴住居１軒、溝５条、土坑８基、ピット多数が検出された。古墳時代後期から奈良時代、中世の遺構群である。

出土遺物　弥生土器、土師器、須恵器、石斧、石錘などコンテナケース50箱分が出土した。

まとめ　旧丘陵の中央部は削平されているが、残存する東側の斜面で弥生時代から古代の濃密な遺構の分布が認められた。また、斜面によって遺構の時期や様相が異なっている。製鉄関連は鉄滓がわずかに出土したのみである。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(104　拾六町　2831　1:8000)

2. B区全景（上空から・左が北）

3. C区全景（北から）

0464 箱崎遺跡第48次調査(HKZ-48)

所　在　地　東区馬出５丁目461-１　　調査面積　39㎡
調査原因　確認調査　　担　当　者　池崎 譲二・吉留 秀敏
調査期間　2004.11.18～2004.11.22　　処　　置　埋め戻し保存

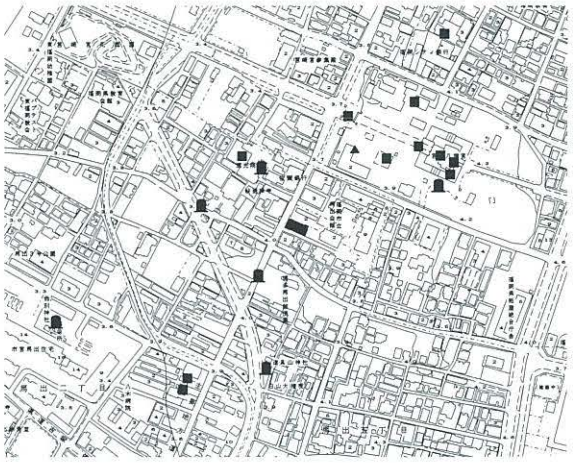
位置と環境　箱崎遺跡は、博多湾東岸に形成された古砂丘上に立地し、古墳時代以降の遺跡が営まれる複合遺跡である。古代末以降筥崎八幡宮の門前町として発達した。当該地は筥崎八幡宮の南約70m、大学通りに面した住宅地商業地域である。

当初慎重工事対応をしたものの、基礎の設計変更により、遺構面の深さと遺構遺存状況等を確認するため調査を実施したものである。

検出遺構　地表下0.9～1.0mで遺構面に達するが、屋敷地の坪庭に当たる部分で近世～近現代の井戸が集中し、その掘方が調査区の大半を占める。このため中世遺構のほとんどが攪乱を受け、わずかに包含層が確認できたに過ぎない。

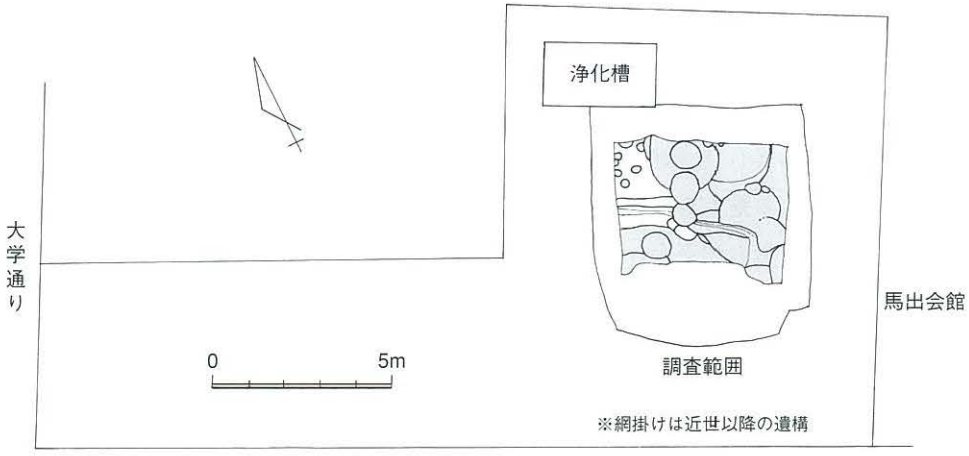
出土遺物　中世遺物としては土師器皿、中国陶磁破片が微量出土したが、調査の性格上取り上げは行っていない。

まとめ　筥崎宮隣接地であり、重要な遺構の存在も想定されたが、今回の調査の結果、設計変更による基礎の影響は最小限にとどめられることが確認されたため、慎重工事とし、現状で埋戻保存することとした。



1. 調査地点の位置(34　箱崎　2639　1:8000)

2. 調査区全景（南東から）



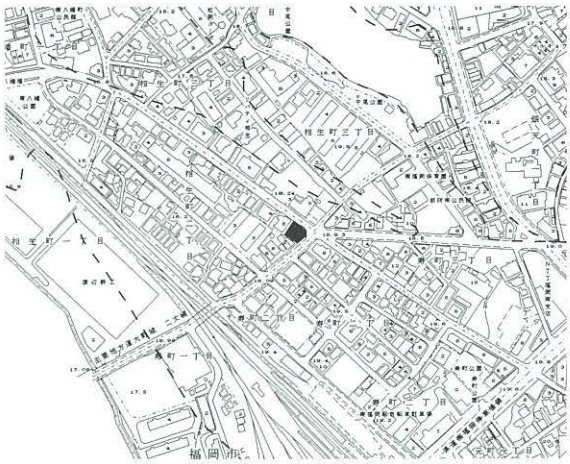
3. 調査区全体図

0465 南八幡遺跡群第13次調査(MHN-13)

所　在　地　博多区相生町２丁目28　　調査面積　6.6㎡
調査原因　店舗建設（看板工事）　　担　当　者　久住 猛雄
調査期間　2004.11.22　　処　　置　記録保存

1　位置と環境

南八幡遺跡群は福岡市の南端部、雑餉隈丘陵上に立地する。雑餉隈丘陵は諸岡川などによる開析により谷部が複雑に入り込み、段丘の支丘がやつで状に展開している。南八幡遺跡群はこれらのうち複数の支丘上に立地し、旧石器時代および弥生時代以降の遺構が展開している。調査地点は遺跡群の北西部にあり、段丘尾根部にあたる。周囲の標高は18.9m前後を測る。



1. 調査地点の位置(25　井尻　51　1:8000)

2　調査に至る経緯

店舗建設を原因とする埋蔵文化財についての事前審査申請が平成17年10月21日に提出されたが、周囲のこれまでの調査成果から、比較的浅い深度において遺構が検出される可能性が高いと予想された。そのため11月２日に試掘調査を行ったが、予想通り第２トレンチにおいて表土直下の浅い深度で遺構を検出した。試掘調査の結果を受け、関係者と協議した結果、店舗建設部分については盛土により基礎工事底面が遺構検出面に影響が及ばないように設計を変更することで合意したが、店舗建設に伴う看板建設部分についてはその基礎工事の内容から遺構面への影響が避けられないため、看板基礎工事範囲についてのみ発掘調査を行うこととなった。

2. 第2トレンチ試掘調査状況（西から）

3　検出遺構

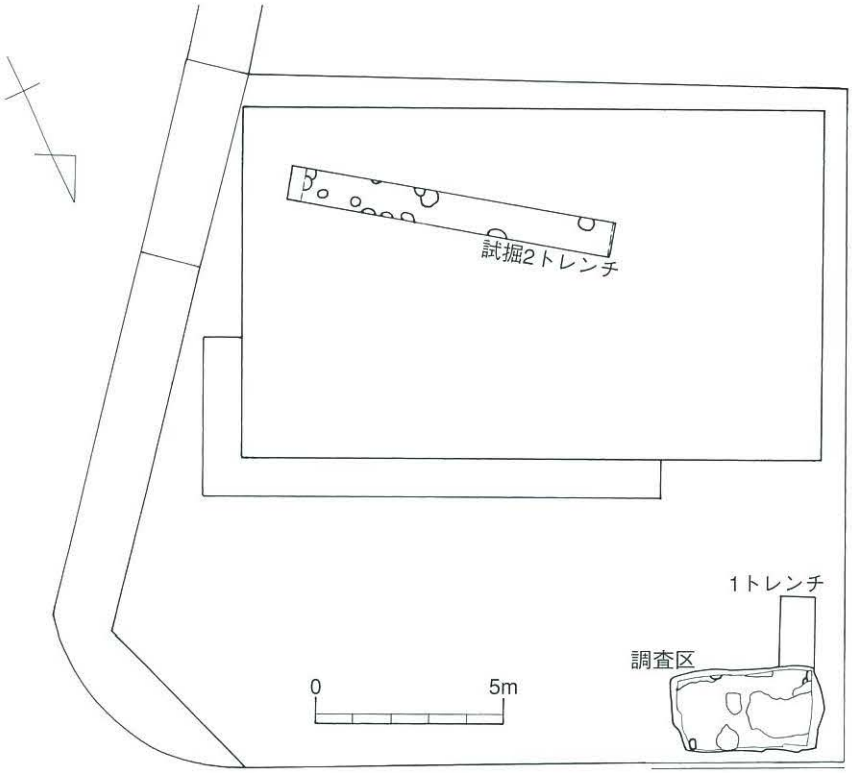
調査は建設工事側の重機による表土剥ぎから行った。地表下-40～50㎝までの瓦礫混じりの表土を除去すると橙褐色のローム地山となり、この上面で精査を行った。調査区内は近代以降の攪乱が多く、遺構面の削平が著しいと思われたが、黒色土を覆土とする柱穴がわずかに３カ所検出された。いずれも小規模で浅いものであり、調査区が狭く建物などは不明である。なお遺物の出土は無かった。

3. 調査区全景（南西から）

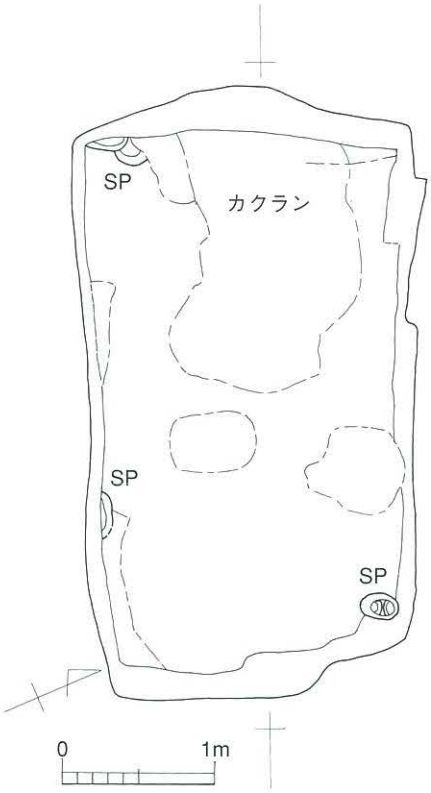
4　まとめ

検出遺構はわずかであったが、試掘調査の結果と合わせ、南八幡遺跡群における遺構の広がりの一端を明らかにするこ

とができた。本調査および試掘調査における遺構の覆土は主に黒色土（一部暗褐色土）であり、遺物の出土は無かったものの、周囲調査の傾向から奈良時代前後のものである可能性が考えられる。調査範囲は小さかったが、このような調査を丹念に行っていくことにより地域の歴史が明らかになっていくものと思われる。なお店舗建設部分は遺構検出面が本調査実施部分よりもさらに浅く、設計変更によってもなお工事の影響が懸念されたため、その基礎工事実施時には立会を行い、遺構面への影響がないことを確認している。



4．調査区・試掘トレンチ位置図（1：200）



5．調査区全体図（1：50）

0466 有田遺跡群第215次調査（ART-215）

所在地	早良区小田部５丁目60の一部	調査面積	48㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2004.12.1～2004.12.9	処置	記録保存

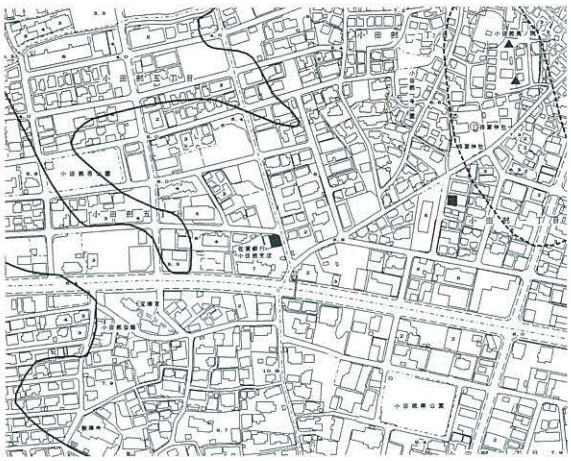
位置と環境　有田遺跡群は、早良平野を北に流れる室見川と金屑川に挟まれた洪積世独立段丘上に位置する複合遺跡である。本遺跡が立地する台地は、かつて小丘陵とその間の谷部が八つ手状に展開する地形であったが、現在では大規模な区画整理が行われており、旧地形が理解しにくい。本調査区は、有田遺跡群北西側の台地上に位置している。

検出遺構　重機で表土を除去した後、人力による掘削を行った。遺構面は、現地表面から約20cm程度掘削した標高10.2m付近の鳥栖ローム層面で検出した。検出した遺構は、ピット数個、土坑１基である。全体に削平が著しく、遺構の遺存状況は良好でない。本調査区の西側に隣接する第214次調査地点では、掘立柱建物跡が検出され、この建物の一部が本調査地点に延びるものと予想され、遺構面を精査したが、検出には至らなかった。調査区北側で検出された土坑は、撹乱に切られているが、規模が100cm×150cm程度の隅丸長方形を呈する。

出土遺物　出土遺物は僅かで、弥生土器片、土師器片、須恵器片など、総量はコンテナケース１箱に満たない。

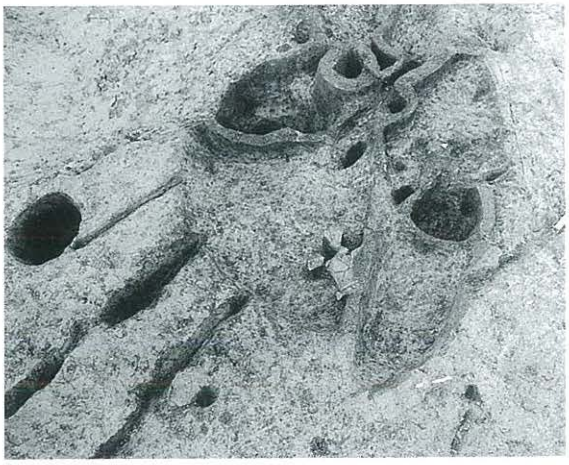
まとめ　先述したように、遺構面の削平が著しく、隣接する調査区から延びると予想された掘立柱建物の検出されなかった。しかしながら、遺構面のレベルは第214次調査区と大差なく、その建物自体が本調査区に延びない可能性が高い。検出する遺構の帰属時期は、出土遺物が僅少で決定しがたいが、概ね古墳時代から古代であると推定される。

調査報告書は平成17年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置（82　原　309　1:8000）

2. 調査区全景（南から）



3. SK-01（東から）

0467 比恵遺跡群第95次調査(HIE-95)

所　在　地　博多区山王１丁目10-31　　調査面積　315㎡
調査原因　社屋建設　　担　当　者　藏冨士　寛
調査期間　2004.12.1～2004.12.16　　処　　置　記録保存

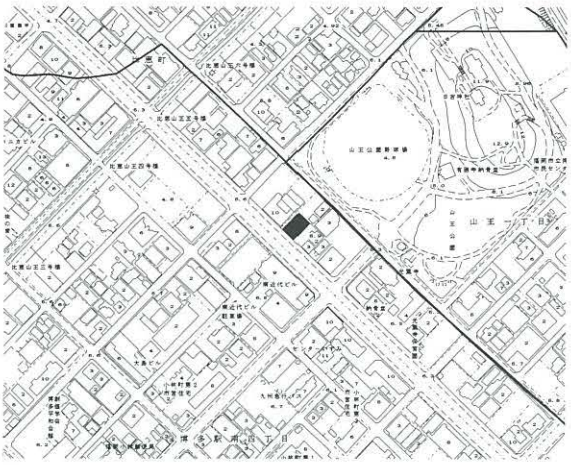
位置と環境　調査地点は筑紫通りの東側に面した比恵遺跡群の北東端部にあたる。台地の縁辺部に近い位置といえるだろう。調査区の北側では第71次調査が行われている。

検出遺構　現地表下１ｍの鳥栖ローム上で、遺構を検出した。標高は４ｍ程である。攪乱が激しく、調査区の大部分に及んでおり、また遺物包含層（暗赤褐色シルト土）の堆積もごくわずかである。検出された遺構も少なく。井戸１、溝、ピットがあるのみである。ピットは散発的で、有意な配列をみることはできない。井戸は径１ｍほどの円形を呈し、検出面からの深さは1.5ｍを測る。底面からは袋状口縁壺がほぼ完形の状態で出土した。

出土遺物　遺構に応じて遺物も少なく、コンテナ３箱に過ぎない。そして井戸からの出土がその大半を占めている。先述の壺形土器の他、甕棺片を含む弥生土器片、木器等が出土した。

まとめ　遺構の状況から見れば、当調査地点はまさしく比恵遺跡群の縁辺部に相当するといえるだろう。井戸から出土した遺物は、総じて弥生時代中期後半～後期頃の特徴を示し、他の遺構も同時期に比定することができる。

尚、調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)

2. 調査区北西側全景（南西から）

3. 井戸（西から）

0468 山王遺跡第3次調査(SNN-3)

所在地	博多区山王２丁目13-3	調査面積	274㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	吉武　学
調査期間	2004.12.1～2005.1.12	処置	記録保存

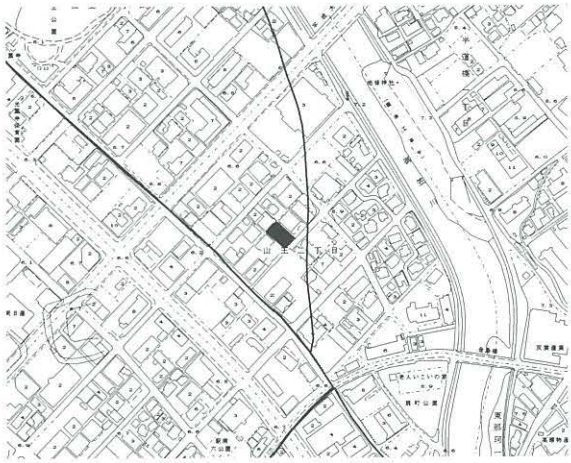
位置と環境　山王遺跡は博多駅南から那珂方面に連なる洪積中位段丘面上に立地しており、谷部を境として西側の比恵遺跡群と区分している。第３次調査地点は、第１次調査地点（旧称「比恵甕棺遺跡」）の南東に隣接する一区画で、旧地形は南東へ向かって落ちていたと考えられ、遺構面までの深さは北側で約1.5m、南側で約２mを測る。地表面の標高は6.7m。３分割して調査を行った。

検出遺構　地山はAso-４火砕流堆積物である鳥栖ロームないし八女粘土で、調査区中央を境に南東へ落ちる。中世以降に開田により強く削平を受けたものと思われ、北側では遺構の残りが悪いが、南側では中世の遺物包含層が残り、遺構も深い。検出遺構は、古墳時代（６世紀頃）の土坑４基以外は全て中世に下り、いわゆる波板状遺構１、溝５（うち１条は道）、井戸３、土坑少数、開田によると思われる段落ち、ピット多数である。主として白磁を出土する12世紀前半代と考えられるものと、青磁片を出土する13世紀代以降と考えられるものがあり、鎌倉時代を中心とする数時期に区分されるようである。

出土遺物　コンテナ約20箱。古墳時代の須恵器・土師器、中世の土師器・陶磁器の他、越州窯系青磁片が数点出土した。弥生中期後半の甕棺片や弥生土器片がこれらに混じって散漫に出土しているが、弥生時代の遺構は確認できなかった。

まとめ　調査地の南東100m弱で実施した比恵遺跡群第79次調査では、水城東門から博多方面へ伸びる古代官道（いわゆる東門ルート）の西側側溝と見られる溝が検出され、中世前半にも道路としての利用を受けていた。今回検出した中世前半の波板状遺構や溝（道）はこれとほぼ同じ時期のものであり、関連する遺構と考えられる。

調査報告書は平成17年度に刊行予定。



1. 調査地点の位置（37　東光寺　128　1:8000）

2. 南西側調査区全景（南東から）

3. 南東側調査区全景（南東から）

0469 蒲田部木原遺跡群第9次調査(KHH-9)

所在地	東区蒲田２丁目1084-1	調査面積	450㎡
調査原因	公民館建築	担当者	長家　伸
調査期間	2004.11.26～2005.1.6	処置	記録保存

1　位置と環境

蒲田部木原遺跡群は若杉山・三郡山地～宝満山及び月隈丘陵で区画されたいわゆる粕屋平野内に位置する。本遺跡群は九州縦貫道の東側の山地から派生する台地部分と部木八幡神社西側に広がる沖積地上に立地している。これまでの調査においても台地上からは弥生時代～中世の生活遺構（竪穴住居跡･掘立柱建物等)、古墳などが確認され、沖積地上では弥生時代～古墳時代の生活遺構のほか、弥生時代の甕棺墓も調査されている。今回調査対象となったのは遺跡群の北西端部で、久原川近くの沖積地部分である。

2　検出遺構

調査は土砂を場内処理しなければならないことから、対象地を３分割して発掘調査を行っている。まず北側部分の調査を行い、続いて中央・南側の順で調査を進めていった。遺構面は現地表下160～180cmの黄褐色シルト層上面に設定した。遺構面は比較的安定しており、50cm程掘り下げると湧水が始まる。確認した遺構は柱穴がほとんどである。本来は掘立柱建物を構成するものと考えられるが、今回の調査では建物の復元はできなかった。また遺構面直上に暗褐色土の遺物包含層が認められたが、遺物量が少なく形成時期については不明である。

3　出土遺物

摩滅を受けた土器小破片数点、黒曜石剥片２点、サヌカイト剥片１点等が出土した。

石器（図７）

何れも定型石器ではないが記録・観察を踏まえた結果、ある程度の時期比定が可能となった。

１は中間区トレンチ出土の剥片の基部破片である。石材はサヌカイトであり、背面に残された自然面はアバタ

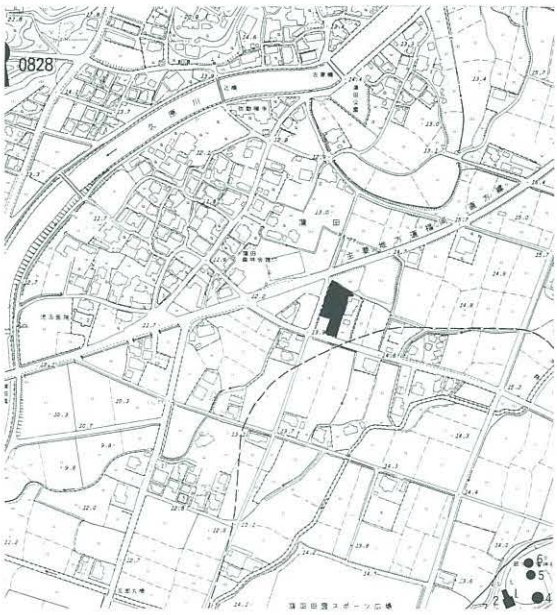


図１　調査地点の位置(2　蒲田　3　1:8000)

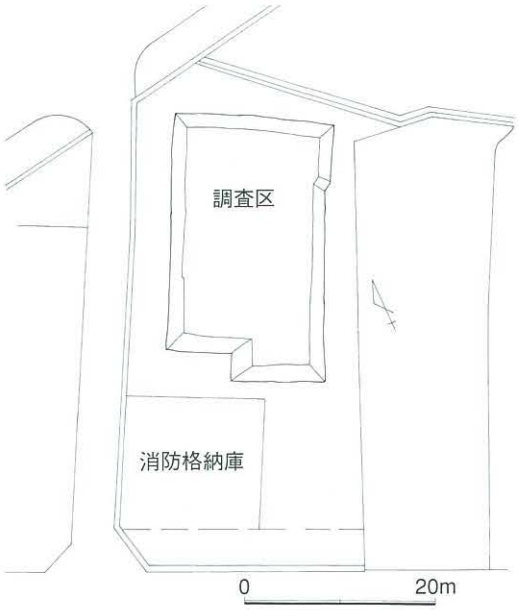


図２　調査区位置図(1:800)

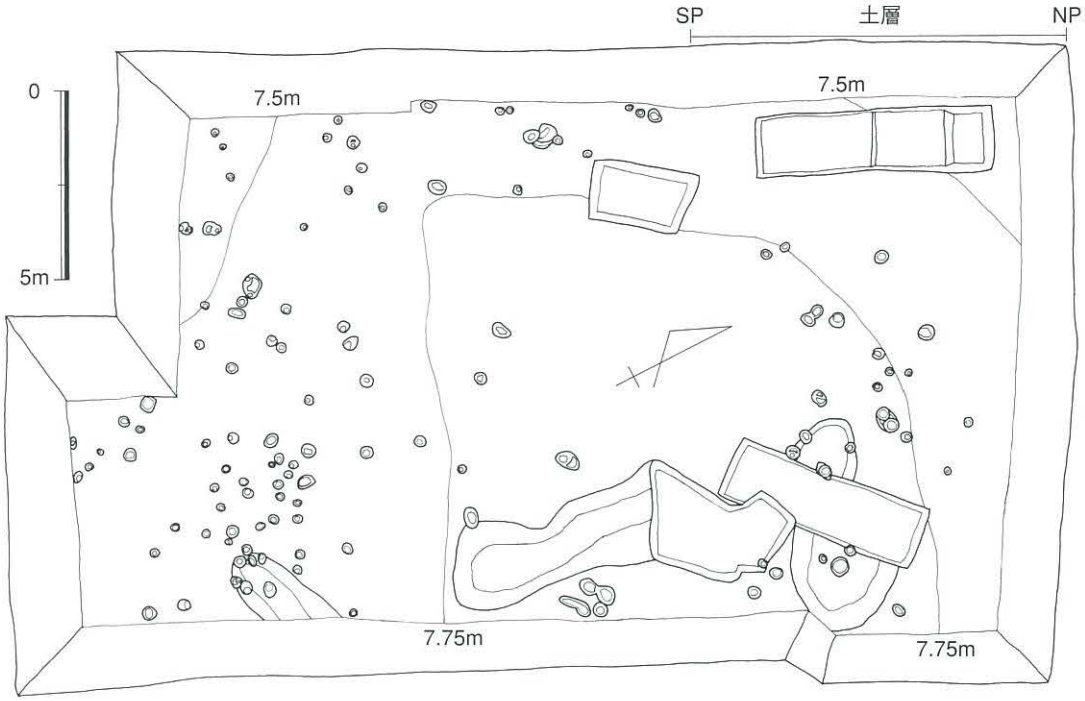


図3　調査区全体図（1:200）

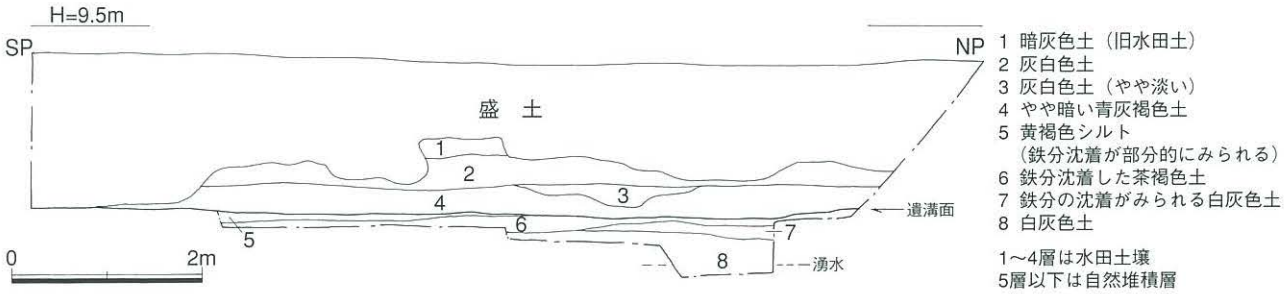


図4　調査区西壁土層（1:80）

図5　調査区南半全景（北から）

図6　西壁土層

状の凹凸が著しく、拳大程度の円～亜角礫であったと見られる。表面に転磨などによる摩滅は認められないが、風化は進んでいる。打面は自然面であるが、頭部右側には剥離面であり、調整打面への進行段階とみることもできる。背面中央の先行剥離は、同じ打面を用いるが、両側は自然面表皮で、目的剥片ではなく表皮除去を目的とする調整剥離と見られる。本剥片は剥片剥離作業初期の剥片か、調整剥片と見ることができる。先端は折損するが、背面の剥離面状況から縦長剥片ではあるが、寸つまりの形態であろう。基部側の刃縁に微細剥離が認められるが、使用によるものかは不明である。現状で長さ3.5cm、幅４cm、厚さ0.8cmを測る。

２は漆黒色黒曜石を素材とする縦長剥片である。背面右側には平坦な自然面がある。伊万里市腰岳産黒曜石に類似する。背面には大きく３面の剥離面が残る。先行する２枚の剥離は下方から、最後に１枚とこの剥片剥離は上方からの剥離と途中で打面を180度転移している。何れの打面も剥離面による平坦打面である。現状で長さ3.3cm、幅1.7cm、厚さ0.8cmを測る。表面の風化は著しい。

３は中央遺構面の茶褐色土中から出土した漆黒色黒曜石を素材とする縦長剥片である。自然面はなく、剥離面で構成される打面は平坦である。基部片縁には背面からの調整が施され、両側縁にには微細剥離が認められ、刃縁の削器状の利用が推定される。表面の風化は弱く、光沢が著しい。

以上の剥片のうち、剥片３は風化度合、利用状況から縄文時代晩期から弥生時代中期に位置付けられる。周辺では部木遺跡群や江辻遺跡など当該期遺跡が多く、関連が考えられる。また、剥片１と２は風化度合、剥片剥離状況から見て後期旧石器時代後半期から縄文時代草創期に位置付けられるものである。それぞれより詳細な時期比定は困難であるが、後者は黒曜石に打面形成や転移が認められることから、後期旧石器時代に遡る可能性が高いといえる。本遺跡周辺の多々良川中流域では蒲田遺跡や戸原遺跡など後期旧石器時代遺跡が多く、それぞれの遺跡での石器・石材組成と比較しても矛盾のない資料といえる。本遺跡では石器群としての良好な保存状況ではないが、今後周辺での発見が期待される。

4　まとめ

今回の調査地点では遺跡縁辺部分の状況の一端が明らかとなった。遺構の分布は散漫で東側の沖積地高所部分とは様相を異にしている。今回の調査では遺物量が少なく詳細な時期は明らかにしえなかったが、柱穴の存在から沖積地の縁辺部分まで生活域として利用していたものであろう。

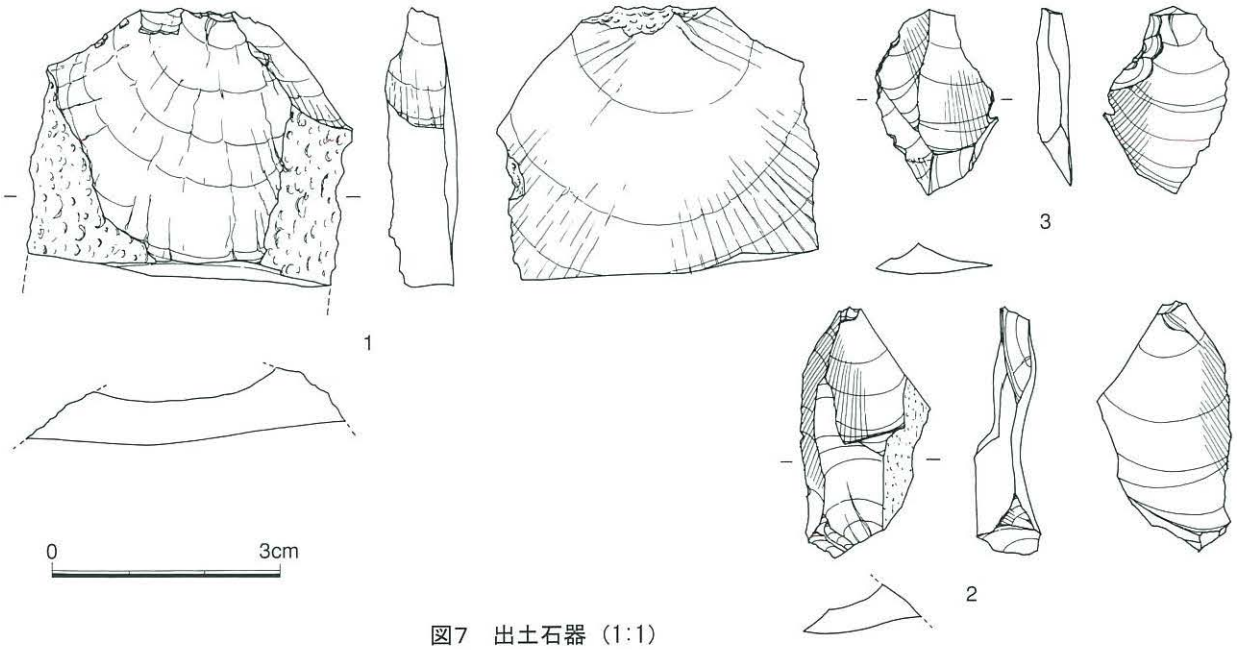


図7　出土石器（1:1）

0470 脇山A遺跡第8次調査（WAK-8）

所在地	早良区大字脇山1729、1730	調査面積	78㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	加藤 良彦
調査期間	2004.12.8～12.18	処置	記録保存

1．調査に至る経緯

本調査は、早良区地域整備課が早良区脇山地内において県道入部・中原停車場線歩道設置工事を計画するにあたって、埋蔵文化財の有無の照会のため平成14年９月４日事前審査願いが埋蔵文化財課に提出されたことにより始まる。申請面積は385㎡、受付番号は13-１-193である。

確認したところ、申請地が脇山A遺跡内であり周囲50m以内の範囲で第５．６次調査が実施されているため、平成15年１月28日試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認した。このため事前に緊急調査を実施することとなり、平成16年12月８日より、遺跡の確認された申請地北半部の78㎡を対象に発掘調査を実施した。

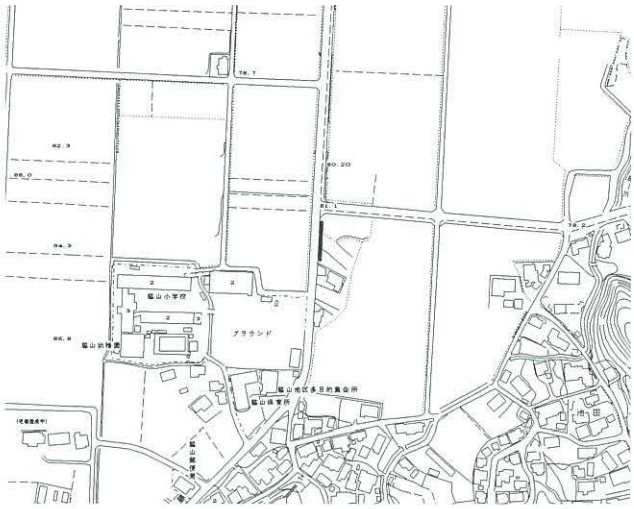


図１　調査地点の位置（早良10　脇山　774　1:4000）

2．位置と環境

調査地点は、福岡市西部の早良平野を貫流する室見川上流部に位置し、背振山麓に近い荒平山・西山・金山に囲まれた、室見川と支流の小笠木川・椎原川等が合流し形成された扇状地平野上に立地する。標高は80.3～81.5mである。周辺では第５次調査F地点・第６次調査１区の調査が実施され、12世紀後半～13世紀にかけての焼土壙を中心に土壙・掘立柱建物が検出されている。現況は水田・畑地である。

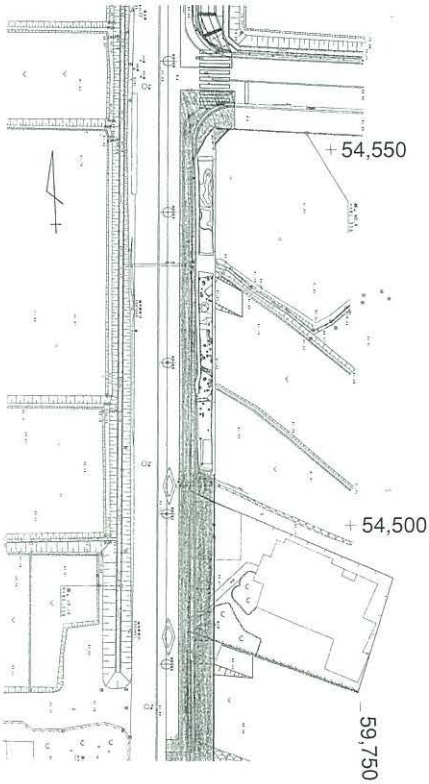


図2　調査区位置（1:1000）

3．基本層序

９図は調査区南北方向の柱状図で、傾斜を強調するため垂直方向を2.5倍に拡大して図示している。基本層序はGLより20㎝程の耕作土下に、北側に厚く灰色～暗灰褐色の中・近世の旧耕土が堆積し（１～５層）、直下の黄褐色シルト（10層）上面を検出面とした。10層は第５次調査F地点の500点余りの晩期中頃を中心とした縄文遺物包含層に類似するため期待したが今回は１点も検出されなかった。以下、暗褐色シルト（11層）・淡黄緑色シルト～細砂（12層）・灰白色粗砂礫（13層）の扇状地堆積が続き、南に3.5%勾配で傾斜する。

4．遺構と遺物

検出した遺構は、中世の焼土壙２基・不整形土壙２基・溝１条、近世溝１条、柱穴多数である（図９）。

旧耕土出土遺物（図11）　１・２は２層出土の近世肥前系の陶器。１

は擂鉢片で、器表は暗紫灰色胎土は暗灰色。内面に４㎜間隔の擂目を施し、器面は摩滅。２は青釉皿で、淡緑褐色の透明釉を全面施釉後見込みを蛇の目に高台畳付を面取りに掻き取る。３は４層出土の土師器坏で底径8.4㎝。器表は調整不明。13世紀代。

不整形土壙SX03

調査区北部に位置し、5.1×1.6m＋α、深40㎝を計り床面は礫群が露出する。南に同様のSX05が並列する。

出土遺物（図11）　４は土師器の皿で底径6.2㎝外底は回転糸切り。13世紀初頭前後か。

溝SD06

調査区南側で方位N-86°-Eに延びる幅50㎝、

図３　１区北半部全景（南から）

図４　２区北半部全景（南から）

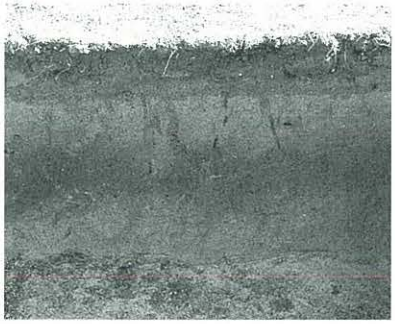


図５　１区トレンチ土層断面（西から）

図６　SD02土層断面（東から）

図７　SK01（南から）

図８　SK04（北から）

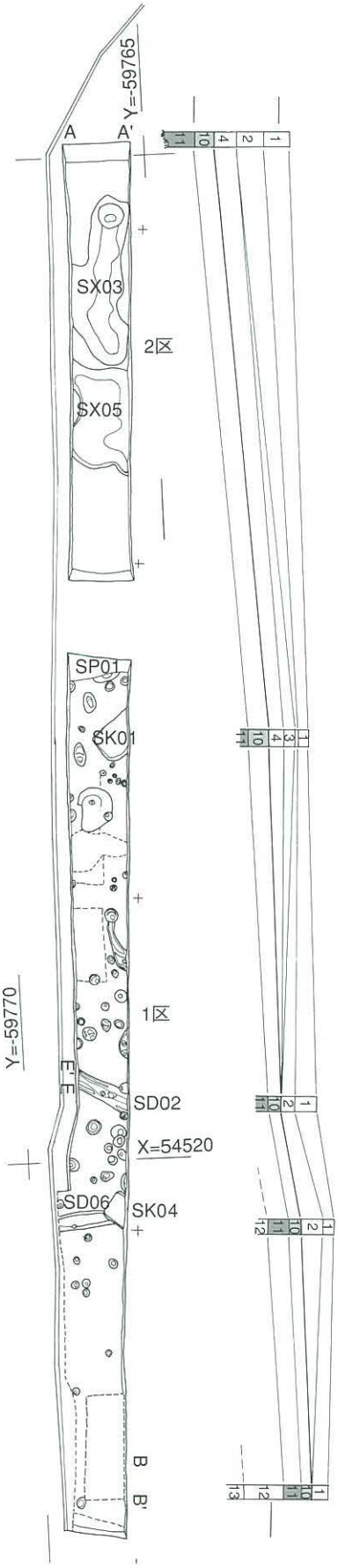


図９　遺構全体・土層柱状図（1/200・1/80）

深15cmの溝で、東側を焼土壙SK04に切られる。覆土は暗灰褐色土で遺物の検出はない。

焼土壙SK01・04（図10）

調査区東壁に掛かって検出。SK01は幅92cm、長143cm＋α、深36cmを、SK04は幅80cm、長73cm＋α、深36cmを測る。ともに床から10～15cm程以上の四壁は厚２cm程赤色に焼ける。床直上とその上位の２面に炭灰層があり、２度焼成が行われる。SK01は４・５層の中世層下にあり、中世以前の可能もある。遺物の出土は無い。

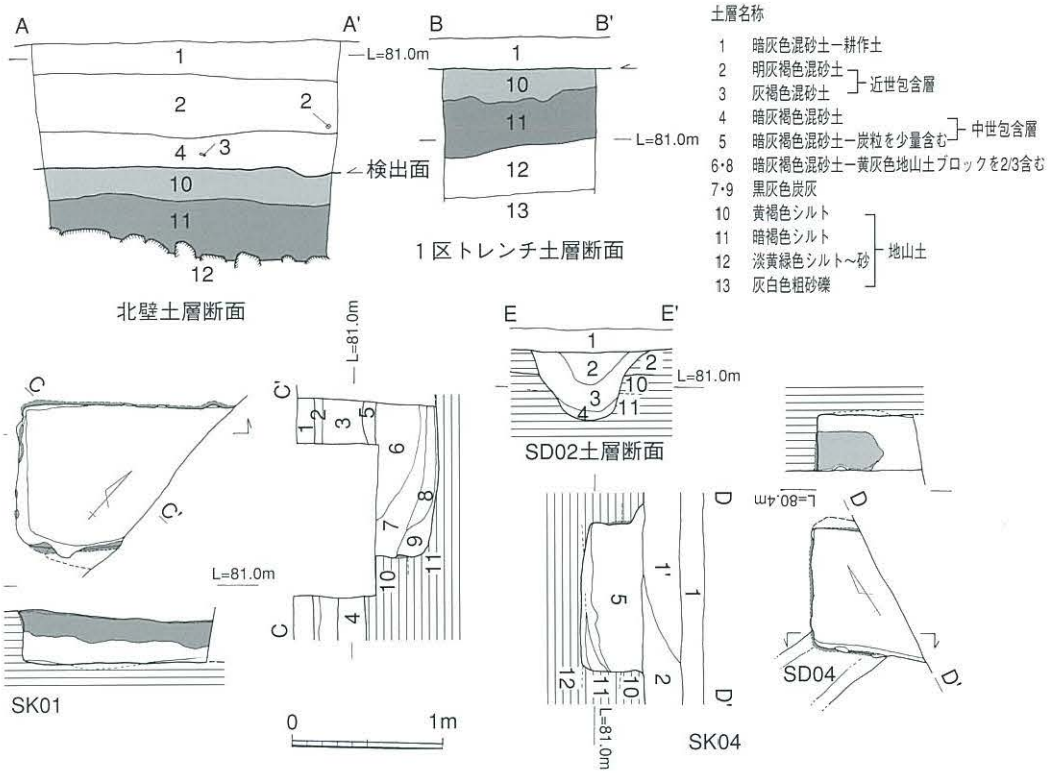


図10　遺構実測図（1/50）

図11の５は柱穴SP01出土の土師器坏底部転用の土器片円盤で、底径10.2cm。外底に回転糸切りと板圧痕が残る。

溝SD02（図10）　北西方向に延びる幅80cm、深40cmの溝。２層上面から掘り込まれ、北から２面目の現畑地の畦に並行する。底面に暗灰褐色の粘質土が堆積する。

出土遺物（図11）　６は上野高取系の甕底部で径10cm。内面・外底は焼締めで暗褐色を呈し、外面底際まで藁灰釉を施す。７は同じく青緑釉の火袋で両面に施釉、胎土は暗灰色を呈す。

８・９は検出面出土で８は中世土鍋の口縁部小片、９は肥前系陶器溝縁皿の小片、10はSD02出土の縄文晩期の使用痕を有する黒曜石剥片である。

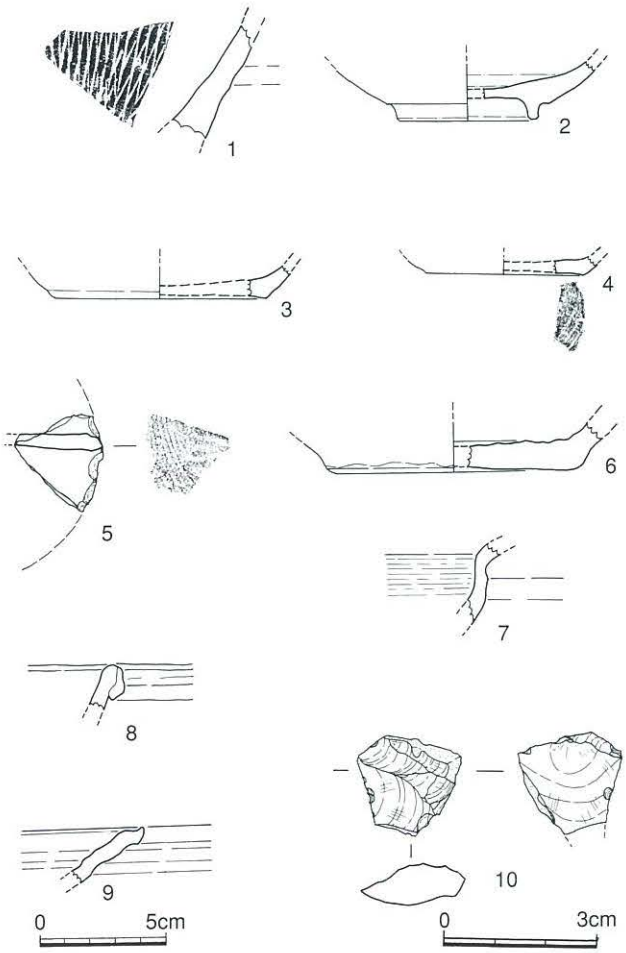


図11　出土遺物実測図（1:3・2:3）

５．まとめ

道路の拡幅にともなう調査で調査区の幅が２ｍと狭い範囲にかぎられ、全貌は明らかでないが、周辺の第５次調査F地点・第６次調査１区で確認された12世紀後半～13世紀にかけての中世集落の一部を検出したものとおもわれる。遺構検出面も第５次調査F-４～F-２地点の検出面の中間に位置し、地形的にもこれに連なる。

0471 干隈古墳群第3次調査(HSK-1)

所在地	城南区梅林３丁目120-10外	調査面積	428.2㎡（古墳１基）
調査原因	宅地造成	担当者	阿部 泰之
調査期間	2004.12.13～2005.1.31	処置	記録保存

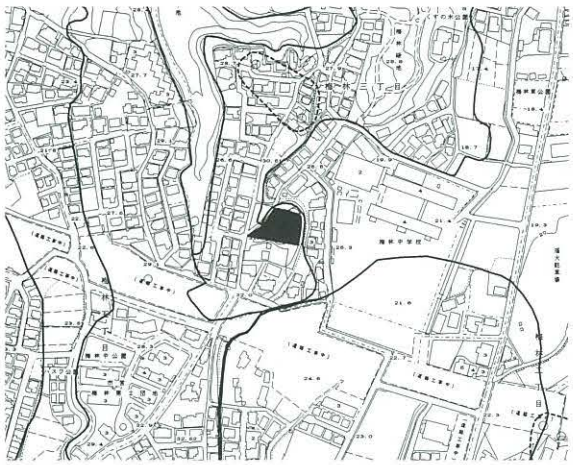
位置と環境　干隈古墳群は、福岡市南部に位置する油山から北に派生する丘陵上に築かれた後期古墳を主体とする古墳群である。今回の調査地点であるD-１号墳は、丘陵の北端部に立地する円墳である。

検出遺構　今回の調査では前述の円墳１基を完掘した。周囲および墳丘下層において弥生時代以前の遺構・遺物の検出が期待されたが、墳丘盛り土から弥生土器・縄文土器の小片が出土したのみである。

出土遺物　弥生土器・須恵器・土師器が出土した。須恵器・土師器はおもに墳丘裾部から破片となって出土した。主体部からは銅製品１・管玉・ガラス小玉が出土した。墳丘中位からは須恵器甕が２個体、据えられた状態で出土した。

まとめ　今回の調査では、円墳１基を完掘することができた。墳丘は径13.3mを測るが、周辺は大きく削平されており、さらに大きくなる可能性もある。主体部は横穴式石室で、天井石は抜去され、床面は攪乱されていたが、やや奥壁が広い羽子板状の玄室平面プランとハの字に開く短小な前庭部を有することがわかる。周溝は、南面をのぞき検出されなかった。削平されたものと思われる。時期は、墳丘裾部出土の須恵器から、田辺編年TK47併行期頃と思われる。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(74 七隈　260　1:8000)

2．調査区全景（南から）

3．墳丘遺存面遺物出土状況（西から）

0472 田島A遺跡群第7次調査（TZA-7）

所在地	城南区田島１丁目443	調査面積	147㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2005.1.27～2005.2.17	処置	記録保存

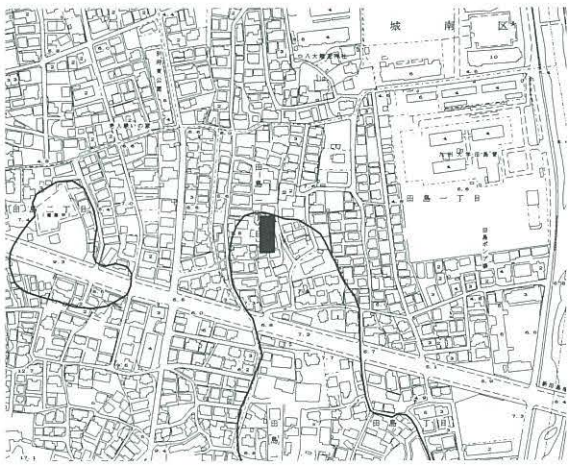
位置と環境　田島A遺跡は、油山から派生する丘陵群の西側先端部に立地する。この丘陵群は、小河川によって更に小さい尾根に開析されている。調査地点は、田島A遺跡の北端部付近に位置し、標高は８m程度を測る。

検出遺構　遺構面は、表土直下で検出した。畑の耕作などにより上面が大きく削平されており、遺存状況は良好でない。検出した遺構は、掘立柱建物跡６棟、溝１条、柵列２列、ピットなどである。掘立柱建物跡は東西棟、南北棟があり、規模は２間×３間、２間×２間、１間×２間のものがある。掘立柱建物跡のうち、前者は30㎡前後のものが中心で、後者は15㎡前後のものである。溝は上面の削平により、ごく底部が遺存するに過ぎない。断面は浅いU字形を呈し、丘陵に弧線を描くように延びる。この他、近代の遺構としては、戦時中に実際使用された屋敷（庭園）内の防空壕１基を検出した。

出土遺物　出土遺物は、土師器、瓦器を中心に、白磁、青磁、滑石製品などコンテナケース１箱分が出土した。出土遺物自体ごく僅かで、このうち輸入陶磁器の点数はきわめて少ない。

まとめ　本調査区の南側約200mの地点で調査された第１・２次調査地点では、弥生時代から13世紀にかけて断続的に経営された集落や墓地などが検出されている。本調査区では出土遺物が少ないことなどから建物の時期などに不明な点が多いが、概ね10～12世紀頃の集落遺跡の一部と考えられる。また、復元した掘立柱建物跡から、２間×３間の主屋１棟と、２間×２間もしくは１間×２間程度の納屋や倉庫と推定される附属棟１棟程度からなる家族が数件集まった中世村落の一部であろう。

調査報告書は平成17年刊行予定である。



1．調査地点の位置（72　荒江　199　1:8000）

2．調査風景

3．調査区全景（北から）

0473 中村町遺跡第3次調査(NMM-3)

所在地	南区野間3丁目117、118	調査面積	844㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	長家　伸
調査期間	2005.1.11～2005.2.28	処置	記録保存

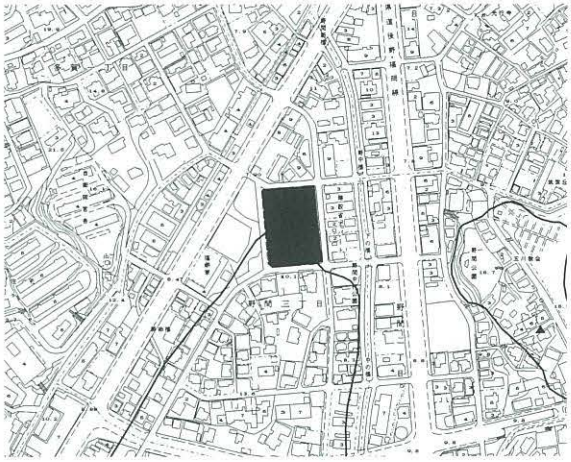
位置と環境　中村町遺跡は片縄山から北・北東部に延びる台地の先端部分に位置し、低地部を挟んだ北側には鴻巣山（100m）を中心とする丘陵が分布している。今回の調査地点は沖積地に面した台地の最先端部分にあたる。中村町遺跡でのこれまでの調査では古墳時代後期・古代の竪穴住居跡群、大型建物が確認されている。

検出遺構　台地は縁辺部が大きく削り取られ、低地部の埋め立てに用いられていた。また台地高位部分も削平が著しく、遺構が残存する範囲は比較的限定されたものとなっている。遺構はこの削平された丘陵高位部分の南東側でまとまって検出した。ここでは弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴住居跡が最低14棟重複した状態で確認されている。台地の削平状況を考えると本来的にはこれを大きく上回る数の住居が存在していたものと考えられる。またこの他古墳時代後期の土坑・ピット（柱穴）等を確認している。

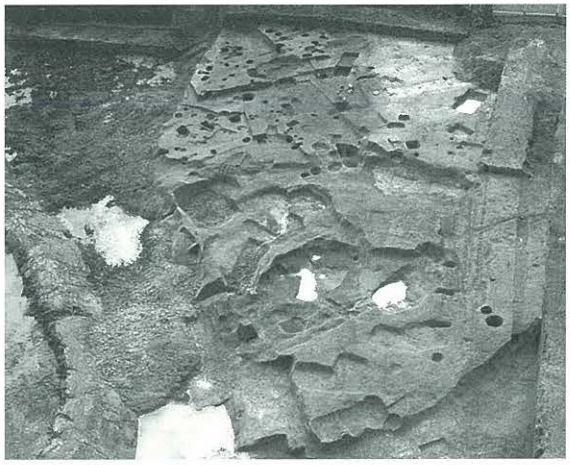
出土遺物　弥生土器・土師器・須恵器がコンテナ25箱出土している。また住居内土坑よりガラス小玉が出土している。

まとめ　今回の調査地点では遺構の残存状態はあまり良好ではなかったが、弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴住居跡が密集した状態で確認できた。削平が大きいことを考えると、この時期にかなりの規模の集落が形成されていたものと考えられる。また以前の調査では古墳時代後期・古代の遺構も確認されており、台地上で継続的に生活が営まれていたことが想定できる。

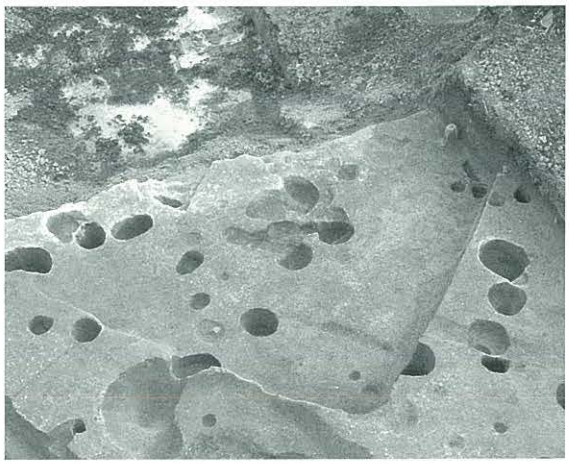
調査報告書は平成17年度刊行予定。



1．調査地点の位置（51　高宮　0167　1:8000）



2．調査区全景（北から）



3．竪穴住居跡（西から）

0474 井尻B遺跡群第23次調査(IGB-23)

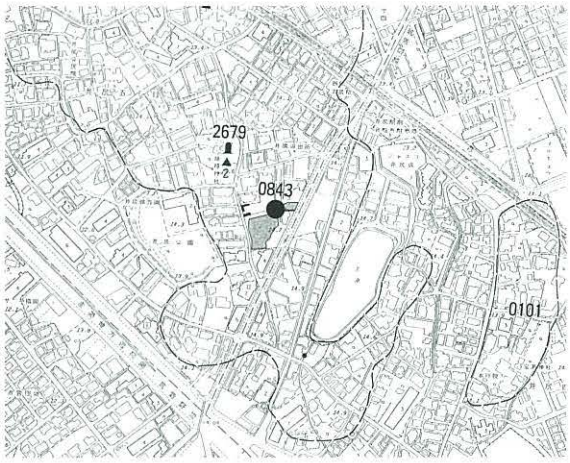
所在地	南区井尻５丁目163-3	調査面積	21.8㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	藏冨士　寛
調査期間	2005.1.11～2005.1.14	処置	記録保存

位置と環境　井尻B遺跡は那珂川と諸岡川に挟まれた須玖丘陵の先端部付近にあり、本調査区は井尻B遺跡の中央部に位置する。周辺は市街地となっており、地形の改変が著しい。周辺では、調査区南隣において２次調査、東側では５次調査がそれぞれ行われている。

検出遺構　重機による表土剥ぎを行い、40cm程の表土直下の鳥栖ローム上にて遺構を検出した。遺構面の標高は約11mである。調査面積は小規模で、かつ攪乱部分も多いため、検出遺構はピットのみである。遺物は少なく遺構の所属時期は不明だが、埋土の違いにより、複数時期のものが存在していることがわかる。

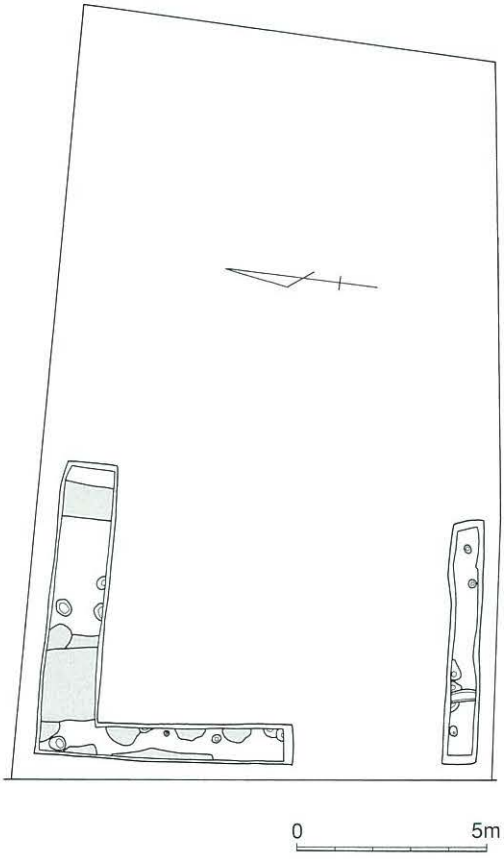
出土遺物　ピット内より、土器片が数点出土している。いずれも小片であり、図化に耐えるものではない。

まとめ　小規模の調査であったが、２次調査地点からの遺構の広がりは確認することができた。また、ローム層の切り下げも行ったが、２次調査で確認されている旧石器時代の状況を明らかにすることができなかった。今後の課題としたい。



1．調査地点の位置（25　井尻　90　1:8000）

2．南側調査区完掘（東から）



3．遺構配置（1:200）

0475 博多遺跡群第149次調査(HKT-149)

所在地	博多区上呉服町116、117、118	調査面積	75㎡（総調査面積110㎡）
調査原因	共同住宅建築	担当者	星野 惠美
調査期間	2005.1.11～2005.4.28	処置	記録保存

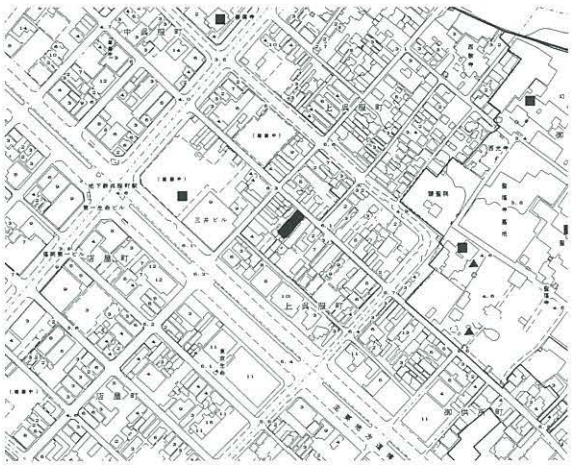
位置と環境　博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地し、西を博多川、東を石堂川、南を那珂川に挟まれ、地形的に独立した一角を成す。今回の調査地点は、内陸側の「博多濱」と呼ばれる砂丘上の北東端部に位置する。

検出遺構　整地層や焼土層、砂層、灰色粘質土、地山で遺構面を設定し、10面の調査を行った。第１面は標高６ｍを測る近世の面である。遺物量は多く、東西方向に走る敷石遺構や土坑を検出した。第２面（標高5.4m）から第７面（標高4.4m）にかけては灰緑色粘土を用いた整地が行われていた。焼土と粘土が細かな互層となり、13世紀後半から14世紀前半にかけて、１ｍ程厚く堆積した状況が窺える。桶を井戸側に用いた井戸、土坑、道路状遺構を検出し、土坑からは銅滓や漆器、大量の炭化米が出土する。第８面（標高4.1m）、第９面（標高3.7m）は灰色粘質土を遺構面とし、検出した遺構は11世紀後半から12世紀にかけての土坑、柱穴である。最下面の第10面は標高3.6mを測る黄褐色砂の地山である。７世紀末から９世紀のもので、検出した遺構は主に柱穴である。柱穴からは墨書がある土師器の蓋と甕等が出土する。

出土遺物　土師器・土師質土器・国産陶器・輸入陶磁器の他、漆器、胴滓、鉄製品、獣骨、炭化米が出土し、遺物は総量コンテナ250箱を数える。

まとめ　７世紀末に遺構が形成され始め、９世紀後半から11世紀前半にかけて遺構は減少する。再び遺構、遺物量が増加するのは、13世紀になってからである。本調査地点は12世紀末から13世紀にかけて創建された「聖福寺」の寺内町の一角と推定されており、これに関連して14世紀前半まで繰り返し整地が行われ、町が形成されていったと考えられる。

調査報告書は平成18年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（48　千代博多　121　1:8000）

2．調査区第３面（南から）

3．漆器出土状況（南から）

0476 那珂遺跡群第106次調査(NAK-106)

所在地	博多区那珂1丁目837-1	調査面積	333㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2005.1.11～2005.2.16	処置	記録保存

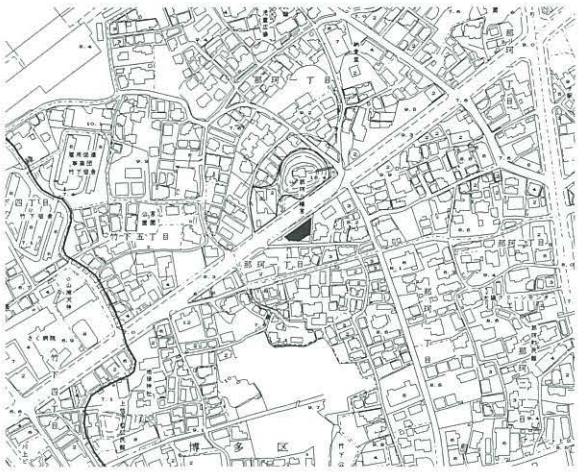
位置と環境　那珂遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた中位段丘上に立地する遺跡である。本調査区は那珂遺跡群の中央部に位置し、標高は現況で約9ｍを測る。調査区の北側には市内最古期の前方後円墳の那珂八幡古墳が所在する。調査区北側の道路建設に伴う第32・34次調査では、弥生時代から戦国時代にかけての遺構・遺物が検出されている。また調査区南西側の第62次調査区では古墳時代初めの方形周溝墓が調査されている。

検出遺構　本調査区は旧国鉄時代の官舎建物の基礎が多く残り、遺構の残りは不良である。また基礎によって調査出来なかった部分もある。遺構面は表土下20～30㎝の鳥栖ローム土である。検出した遺構は弥生時代中期後半から弥生時代終末期頃の井戸跡4基、古墳時代前期の土坑2基、室町・戦国時代の溝跡1条などである。

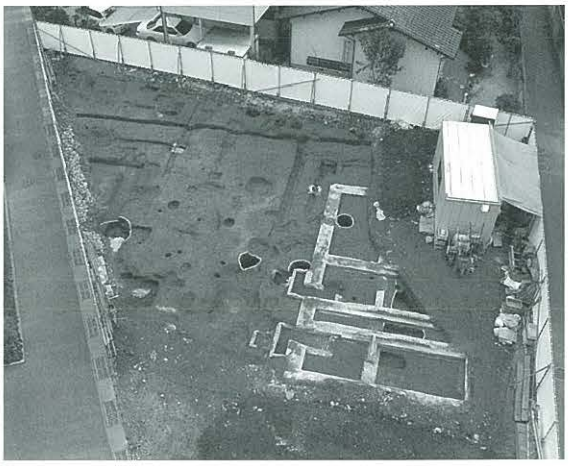
出土遺物　遺物は井戸を中心にパンコンテナで34箱出土した。弥生時代から古墳時代の土器が大半で、完形のものも多い。特に井戸SE02は弥生時代中期後半の井戸であるが、上層には多量の土器が廃棄されていた。また井戸からはヒョウタンなどの植物種実や木材なども出土している。

まとめ　本調査区で検出した遺構は弥生時代中期から室町・戦国期のもので、周辺と同じような調査状況であった。また室町・戦国期の溝は周辺でも多く確認されており、一帯に展開する屋敷地の区画溝の可能性が高い。

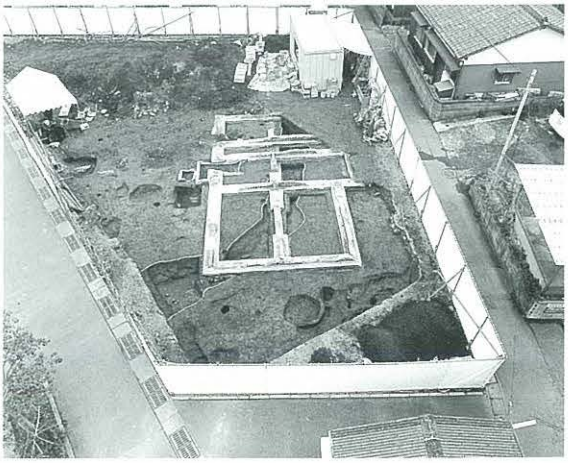
本調査の成果は平成17年度の報告である。



1．調査地点の位置(37　東光寺　85　1:8000)



2．調査区東側全景（西から）



3．調査区東側遺構検出状況（西から）

0477 那珂遺跡群第107次調査(NAK-107)

所 在 地 博多区東光寺町１丁目11の一部　**調査面積** 175㎡
調査原因 共同住宅建築　**担 当 者** 赤坂　亨
調査期間 2005.1.17～2005.2.9　**処　　置** 記録保存

位置と環境　那珂遺跡は那珂川と御笠川にはさまれた洪積台地上に立地する。本調査地は那珂遺跡群の北東端に位置し、台地の縁辺部にあたる。周辺では西側で第29次調査が行われた。また、東側の工場跡地では調査中に併行して第102次調査が行われていた。現況は宅地で、標高は6.3mを測る。

検出遺構　弥生時代後期～古墳時代前期の溝４条、長楕円形土壙１、落ち込み（溝?）１、柱穴１、中近世の溝４条、時期不明ピット６を検出した。

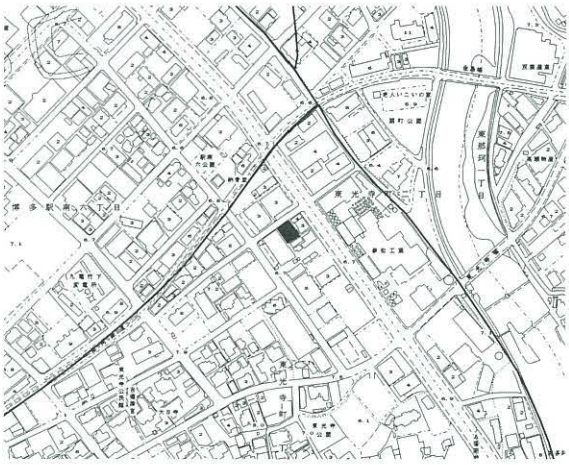
出土遺物　遺物は弥生土器、甕棺片、土師器・須恵器（古墳～古代）、白磁・青磁片、黒曜石剥片が出土した。遺物の量は合計でコンテナ４箱分である。

ま と め　台地は調査区の南東にわずかに残るのみであり、調査区の大半は台地から落ちた部分であった。台地縁辺にそって中近世の水田溝と弥生時代の溝をめぐらしてあり、那珂遺跡の台地縁辺における土地利用の一端が判明した。

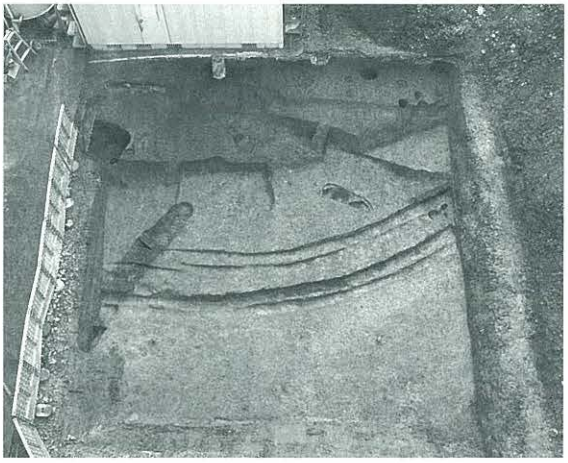
北端では地山のロームが落ち込み、弥生時代中期の土器を含む黒色土が堆積していた。反対側の立ち上がりも見えないので溝であるかは不明である。

また、台地上に残る溝は直角に曲がって南側の調査区外へ伸びており、環濠もしくは周溝墓の可能性が考えられたが、遺物も少なく残存状態も悪かったことから性格把握にはいたらなかった。溝が伸びていく先は低層住宅になっており、破壊もあまり受けていないようである。要調査地点として今後注意が必要である。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(37　東光寺　85　1:8000)



2．調査区東側ａ区全景（北から）

3．弥生時代溝ＳＤ-07（東から）

0478 比恵遺跡群第96次調査(HIE-96)

所在地	博多区博多駅南４丁目43～48	調査面積	42㎡
調査原因	店舗看板設置	担当者	大塚 紀宜
調査期間	2005.1.17～2005.1.21	処置	記録保存

１．調査に至る経緯

平成16年12月３日付けで、法城建設株式会社より博多区博多駅南４丁目43～48地内に関する埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である比恵遺跡群の範囲内で、周辺で埋蔵文化財が確認されていることから、埋蔵文化財課では工事が遺構面に影響を及ぼすと判断し、記録保存のための発掘調査を実施した。

２．立地と環境

本調査地点は、比恵遺跡群のほぼ中央部付近にあたる。現地は台地上に立地しており、現況での標高は６ｍ前後である。旧況は畑地で、周囲は造成による削平が進み、旧地形を推定することは困難である。

３．調査の記録

（１）１区

最も西側の調査区である。表土の下は黒色粘土層となり、この黒色土層の下部で、台地基盤層である八女粘土層に達し、その上面で遺構を検出する。検出した遺構は土坑・ピット・溝である。

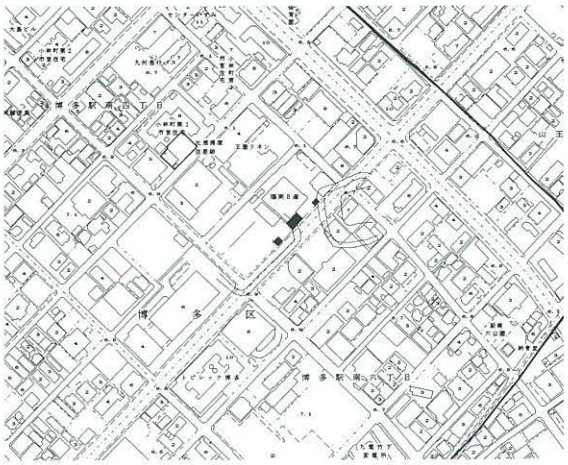
SK-01　調査区中央で検出された小型の土坑で、平面形は楕円形で、遺構断面は浅い皿状を呈する。覆土は黒色粘土で八女粘土ブロックをやや多く含む。

SK-02　調査区北側で検出された土坑で、遺構北半分は調査区外に及ぶ。遺構覆土は黒色粘土。平面形は楕円形とみられ、断面形は浅い皿状を呈する。

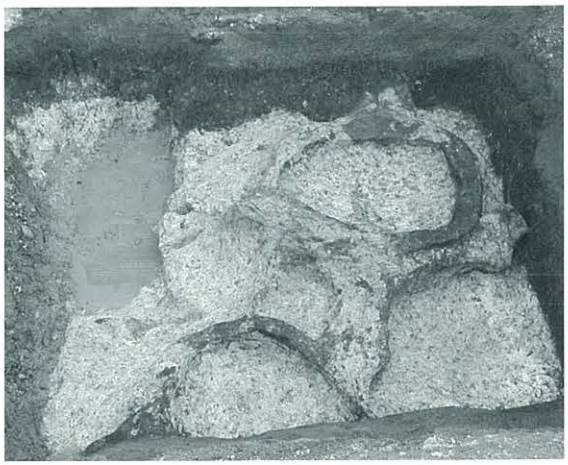
SK-03　調査区北西隅で検出された遺構で、遺構の一部は調査区外に及ぶ。遺構覆土は黒色粘土で八女粘土の小ブロックを若干含む。遺構平面形は隅丸長方形とみられ、床面は平坦で壁は緩く立ち上がる。

（２）２区

３地区のうち、中央の調査区に該当する。表土直下で鳥栖ロームに達し、本来存在していたはずの旧耕作土や黒色土層が削平されており、造成によって本来の地表面がかなり削られていると考えられる。また、調査区の東側と西側は最近の工事によって撹乱されており、全体に遺構の遺存状態は非常



１．調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)



２．１区全景（北西から）

３．３区全景（南西から）

に悪い。

検出した遺構は柱穴２、土坑１である。遺構面の標高は約6.0mである。

SK-01　調査区ほぼ中央部付近で検出した土坑で、平面形は楕円形を呈する。遺構覆土は黒色土で、明褐色粘土ブロックを多く含む。

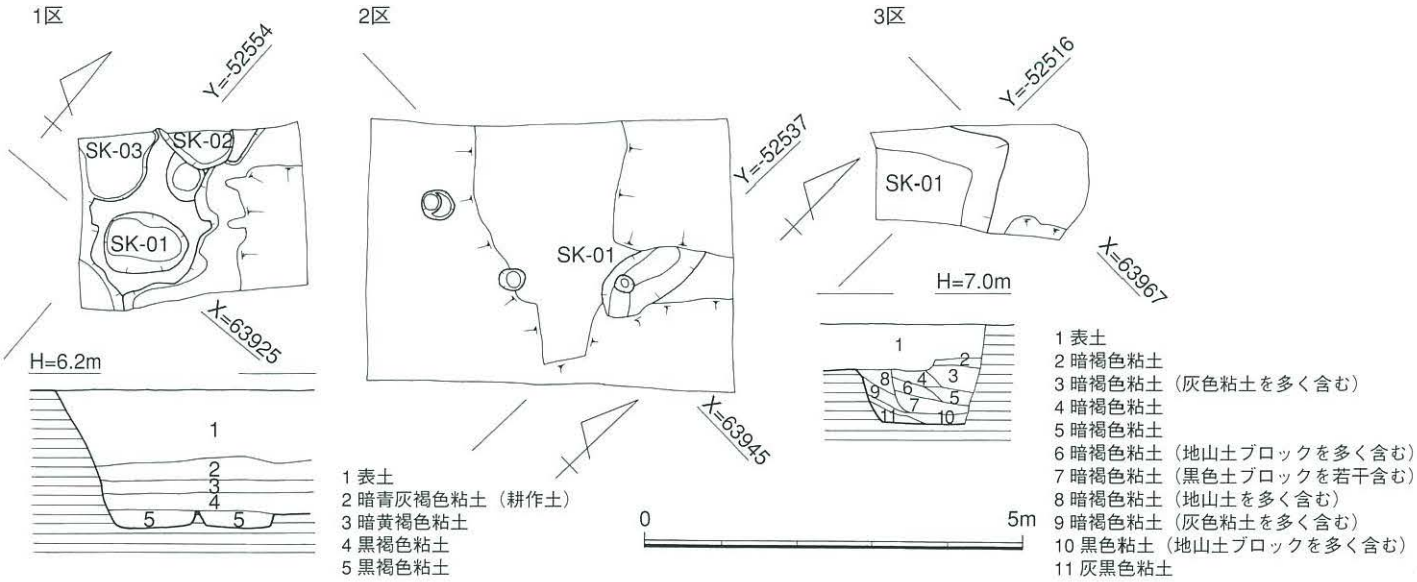
（３）３区

最も東側の調査区である。３区も２区と同様に表土下で鳥栖ロームに達するため、本来の地表面が削平されていると考えられる。遺構面の標高は約6.0mである。調査区内で検出した遺構は、直角コーナーをもつ土坑または溝状遺構１基のみである。

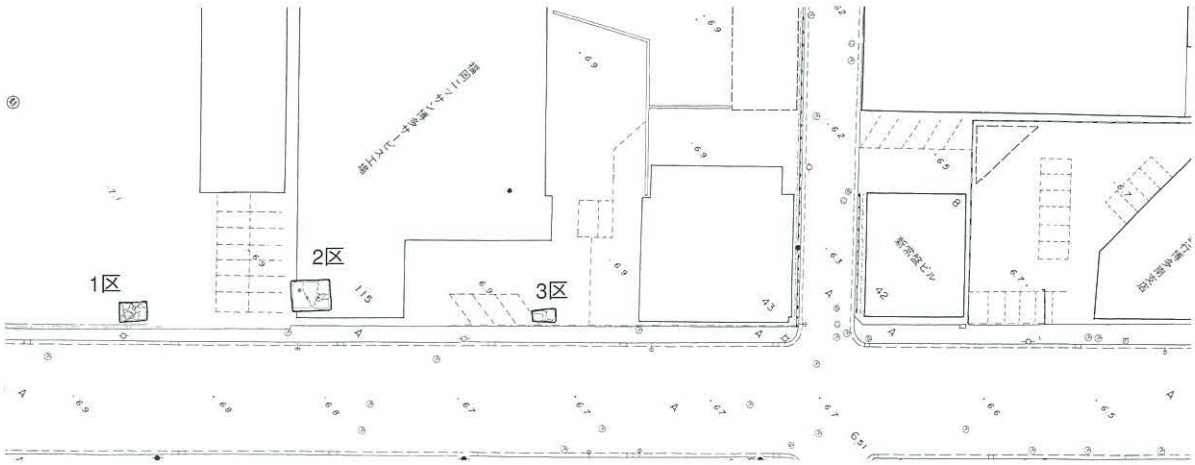
SK-01　遺構の壁面は直線的で、床面は平坦で、極めて整然とした形状である。遺構の検出面から遺構の床面までの深さは70cmを測る。遺構内から出土した遺物は少量で、土師器や弥生時代の土器の小片が出土している。遺構は調査区の外まで延びており、遺構の全体像は不明だが、土坑または溝の端の部分である可能性もある。遺構内から出土した遺物は少量で、土師器や弥生時代の土器の小片が出土した。

４．小結

今回の調査は調査範囲が狭く、周辺の状況を詳細に語れる状況ではない。３区SK-01は９次調査SD-01と形状や規模が近似し、一連の遺構とも考えられる。



４．１区～３区平面図・１区土層図・３区南壁土層図（1:100）



５．調査区位置図（1:1000）

0479 博多遺跡群第150次調査(HKT-150)

所　在　地　博多区中呉服町66　　調査面積　119.8㎡
調査原因　共同住宅建築　　担　当　者　藏冨士 寛
調査期間　2005.1.17～2005.3.29　　処　　置　記録保存

位置と環境　博多遺跡群は福岡平野を流れる那珂川、御笠川に挟まれた砂丘上に存在する。調査地点は海側の砂丘、いわゆる「息浜」の内陸側端部にあたり、北西側では第98次・第100次調査が行われている。

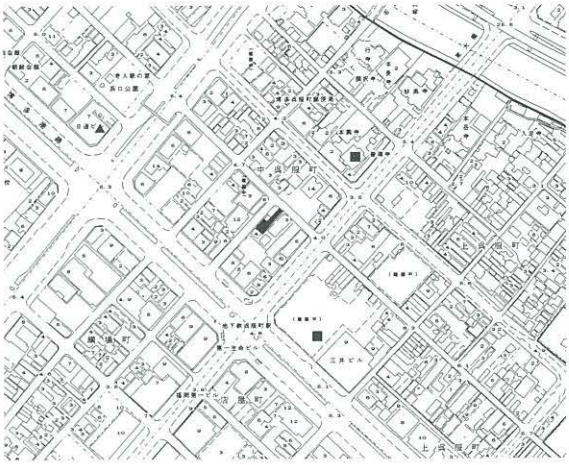
検出遺構　表土および攪乱部分を深さ２m程、除去した後、標高1.5m前後の暗褐色砂層上から調査を開始した。遺構には井戸、溝、土坑、ピットがあり、合計３面の調査を行っている。１・２面においては近世から13・14世紀までの遺構を中心とし、最下層の３面ではこれらに加えて、12世紀代の遺構が含まれている。

３面で検出した２本の溝は12世紀後半に位置づけられるもので、幅３m程を測る大きなものである。いずれの溝も北西－南北方向に走り、一部切り合いながら平行して調査区外へのびている。同様の溝は第100次調査時にも検出されているが、今次調査の溝は、第100次調査のそれと直交する関係にある。

出土遺物　輸入陶磁器・国産陶磁器、土師器等、コンテナ45箱分が出土した。

まとめ　今回の調査では３面を中心として、息濱では顕著ではない中世前半期の遺構を検出することができた。

尚、報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(48　千代博多　121　1:8000)

2．調査区南西側第３面全景（西から）

3．調査区北東側第３面全景（西から）

0480 比恵遺跡群第97次調査(HIE-97)

所在地	博多区博多駅南５丁目133、134	調査面積	242㎡
調査原因	個人兼共同住宅建築	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2005.2.1～2005.3.8	処置	記録保存

位置と環境　調査地点は比恵遺跡群の北西縁辺近くに位置する。東約50mには国史跡となった第８次、72次調査地点が位置する。ここでは柵状の柱列で区画された範囲に大型倉庫が並列し、日本書紀にいう「那津官家」との関連で注目されている。本調査地点の遺構面は標高5.4～5.8mを測る鳥栖ローム面で、削平されているが北側に下降している。

検出遺構　検出された主な遺構は弥生中期～後期の井戸５基、掘立柱建物跡１棟、古代の大型総柱建物跡１棟、大型建物跡１棟、その他柱穴多数である。

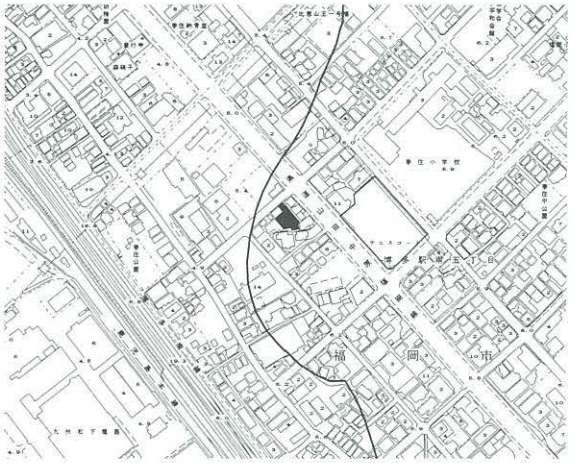
遺構面は地表から極めて浅いため削平されているが、遺構の密度は濃い。井戸は比較的浅く、最も深いものでも遺構面から160cm位で八女粘土に達していない。弥生中期の掘立柱建物跡は１×２間で、その掘方は70×90cmの方形を呈し大きい。古代の総柱建物跡は３×４間以上で、西側に別の建物跡が並列している可能性がある。大型建物跡は梁行き３間、桁行は調査区内では１間しか確認できない。柱間は芯心で230cm、柱痕は径30cm、掘方も90cm四方の大型である。

出土遺物　遺物は総量にしてコンテナ７箱分が出土。

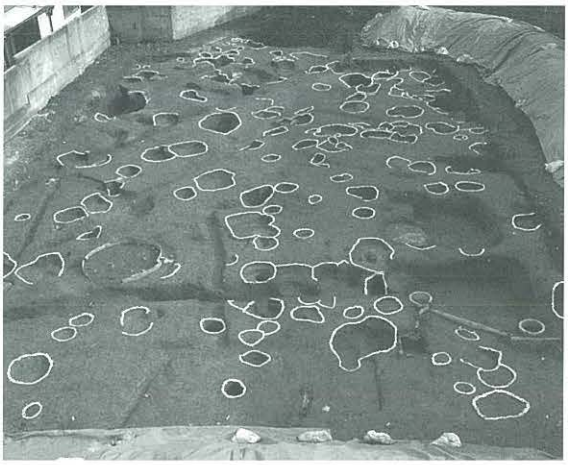
まとめ　第８次、72次で検出された倉庫群と関連するとみられる大型建物跡が検出され、その広がりの一端がみられた。

検出された古代とみられる大型建物跡２棟は主軸を異にし、時期が異なると思われる。現在の町並みに近い方位をとる第８、72次調査の倉庫群とも少し異なり、時期の違いとともに、ブロックごとに地形に即した方位をとっている可能性が考えられる。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(37　東光寺　127　1:8000)



2．調査区全景（北から）

3．大型建物跡（南から）

0481 五十川遺跡群第14次調査(GJK-14)

所 在 地 南区五十川２丁目地内　　**調査面積** 480㎡（総調査面積960㎡）
調査原因 道路建設　　**担 当 者** 吉武　学
調査期間 2005.1.24～2005.6.3　　**処　　置** 記録保存

位置と環境　五十川遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた南北約800m、東西240m、標高９～11mほどの洪積中位段丘面上に立地し、鞍部を挟んで北に那珂・比恵遺跡群、谷を挟んで南に井尻B遺跡群が隣接する。遺跡の南西端を貫通して新設される都市計画道路建設に伴う事前調査として、平成14年度より継続して調査を実施している。

第14次調査地点（I区）は第10次調査A区の南側隣接地で、南側は谷を挟んで井尻B遺跡となる。約1,200㎡を対象としたが、南端部では遺構が認められず、調査面積が縮小した。

検出遺構　地表面の標高は約11mでほぼ平坦だが、遺構面は緩やかに南へ下っており、標高10.6～10.2mを測る。南端部は開田により削平されて0.6mの段差があり、遺構は存在しない。地山は鳥栖ロームで、直上を黒色粘質土が覆うが、遺物はほとんど含まない。

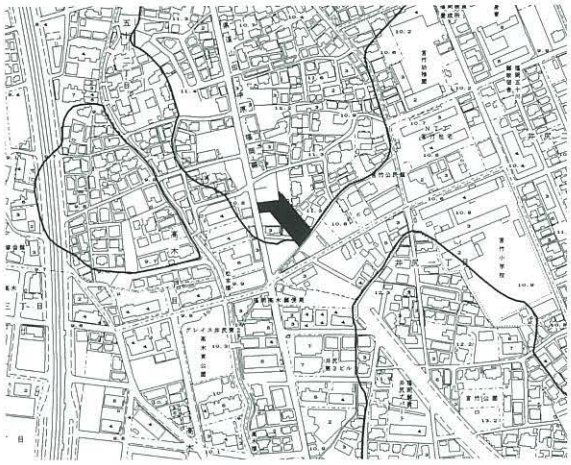
検出遺構は、弥生時代のものと思われる貯蔵穴１、古墳時代前期の長方形土坑６・井戸１、古代の土坑１、中世の土坑１、時期不詳の掘立柱建物１である。この他、倒木痕や木根とみられる小ピット多数を検出した。

出土遺物　コンテナ10箱程度で、大半が土器細片である。

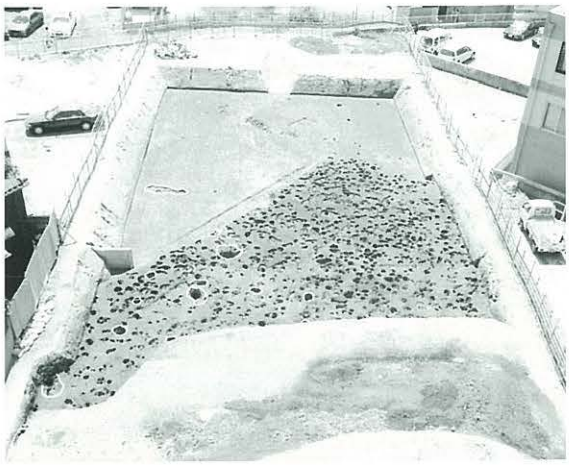
まとめ　無数の木根や倒木痕から、一帯がかつて森林であった景観をうかがわせ、一列に並ぶ古墳時代前期の長方形土坑は、けもの道に仕掛けられた落とし穴を想定させる。

また、鳥栖ロームの一部を掘り下げて先土器時代の調査を行った結果、黒曜石や安山岩のフレイク・チップが少量出土した。しかし、出土状況は散漫で、定型的な利器が含まれていないため、その時期や性格の位置付けは困難である。

継続調査のため、調査報告書は遅れて平成20年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（24　板付　88　1:8000）



2．南半部全景（北西から）

3．北半部全景（北西から）

0482 博多遺跡群第151次調査(HKT-151)

所在地	博多区上呉服町85、86	調査面積	162.8㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	大塚 紀宜
調査期間	2005.2.7～2005.3.23	処置	記録保存

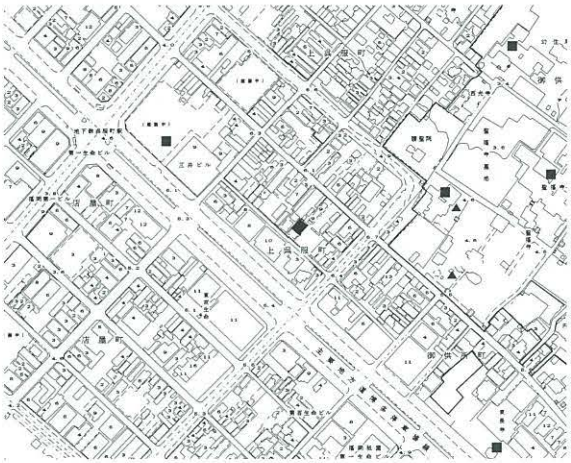
位置と環境　博多遺跡群のほぼ中央部に位置する。聖福寺の西側にあたり、通称「博多浜」の北側砂丘鞍部に立地する。現況の標高は6.7mで、南にごく緩く傾斜する。

検出遺構　計５面の調査を実施した。上面より第１面は標高５mで、16～18世紀の遺構・遺物が検出される。近代以降の攪乱が多く、検出された遺構も不整形の用途不明土坑が多い。第２面は標高4.4mで、整地層群の最上面に設定する。第２面では14～15世紀の遺構・遺物を検出する。町筋に関係するとみられる石敷きの溝状遺構が検出される。検出された土坑は第１面と同様に用途不明の不整形土坑が多い。第３面は標高3.9mで、整地層群の中位に設定する。第３面では13～14世紀の遺構・遺物を検出する。土壙墓とみられる幅１m長さ1.5m程度の長方形の掘り込みが多数切り合う。切り合いの程度からみて、かなりの墓葬が密集していたとみられる。第４面は標高3.6mで、整地層群最下面、黒褐色砂質土層上面で設定する。井戸・土坑・柱穴などが検出される。井戸は桶枠で検出面からさらに２m以上掘りこまれる。第5面は標高3.1mで明褐色砂丘層上面に設定する。ピット・井戸を検出する。井戸は２基でいずれも桶枠とみられる。遺構内からの遺物の量は少ない。

出土遺物　第２面区画溝内から板碑破片が検出される。第３面土壙墓から完形の碗・土師皿、刀子などが土壙墓内から検出される。そのほか、総遺物量は96箱にのぼる。

まとめ　土壙墓群は近在する聖福寺との関連で考えることができる。確認できた最も古い遺物は11世紀後半～12世紀前半の玉縁口縁をもつ白磁碗破片であるが、この地点の遺構群の上限はさらに上る可能性がある。

調査報告書は平成17年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(49　天神　121　1:8000)

2．第２面全景（南から）

3．第４面全景（南から）

0483 吉武遺跡群第18次調査(YST-18)

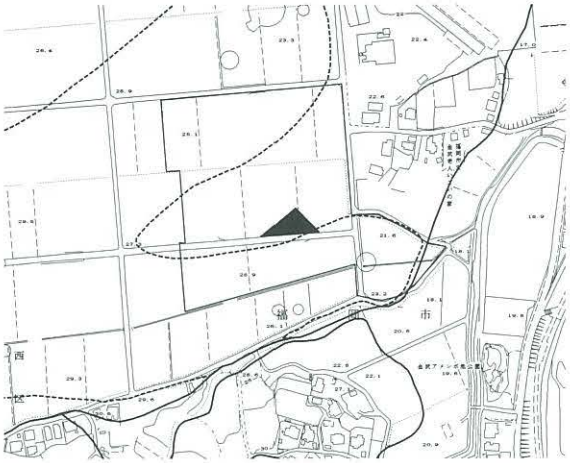
所　在　地　西区大字吉武183外　　調査面積　720㎡
調査原因　史跡整備に伴う確認調査　　担　当　者　宮井 善朗
調査期間　2005.1.26～2005.3.9　　処　　置　現状保存

位置と環境　吉武遺跡群は室見川西岸の扇状地上に位置する大規模遺跡で、特に弥生時代の墳墓群からは豊富な青銅器類を初め、多数の副葬品が出土している。今回の調査値は「早良王墓」として話題となった高木地区墓群の墳丘の有無、墓群の広がりを確認するため、小規模のトレンチ調査を行った。

検出遺構　基本層序は南側の高い部分では床土直下に黒褐色土層、その下に礫を多く含む淡褐色土層であるが、北側部分では、基盤の礫層上に、グライ化した暗青灰色土がのる。甕棺はこれらの層上で検出されている。北側では部分的に中期土器を包含する包含層がこの層の上に広がる。包含層は田面に水平で、これが該期のものか、水田造成時のものかは考慮の余地がある。

甕棺墓は棺を検出したものが８基（内１基はトレンチ外、１基は８次調査１トレンチで新たに発見)、円形掘方で存在が予想されるものが３基。また墓域の中央部に主軸を北西－南東にとる2.5×3.5mの長方形掘方がある模様で、木棺墓の可能性がある。もしそうならこれのみ主軸を直交させており、最初の、かつ中心埋葬である可能性があろう。

まとめ　今回の調査では盛り土が検出されず、墳丘の有無を直接確認することはできなかった。これについては南側の調査を進めるとともに、甕棺墓の埋葬レベル、旧地形の復元等、他の方法でのアプローチも必要であろう。



1．調査地点の位置(93　都地　405　1:8000)

2．調査区全景(南から)

3．144号甕棺(西から)

0484 有田遺跡群第216次調査(ART-216)

所　在　地　早良区小田部２丁目91外
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2005.2.1～2005.4.26
調査面積　937㎡（調査総面積1405.3㎡）
担　当　者　阿部 泰之
処　　置　記録保存

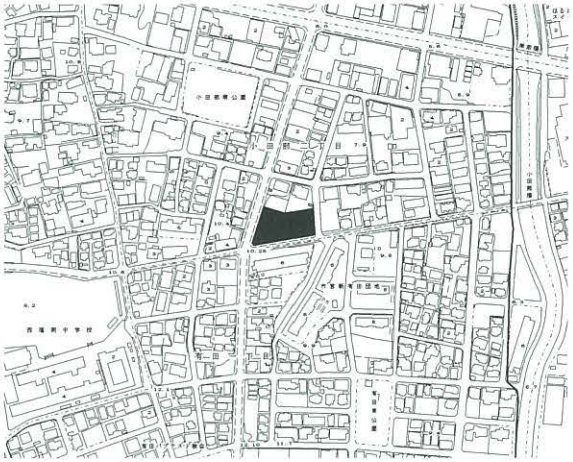
位置と環境　有田遺跡群は、早良平野のほぼ中央部、最高所で標高15m前後を測る低丘陵上に位置し、旧石器時代から中世にわたる時期の遺構・遺物が確認されている。今回の調査地点は、ヤツデ状に広がる尾根の北端に近い部分に位置する。

検出遺構　今回の調査では、掘立柱建物５棟・竪穴住居１軒・溝２条・ピットを検出した。掘立柱建物は１×２間・２×２間の側柱建物である。竪穴住居は円形住居・方形住居各１軒である。

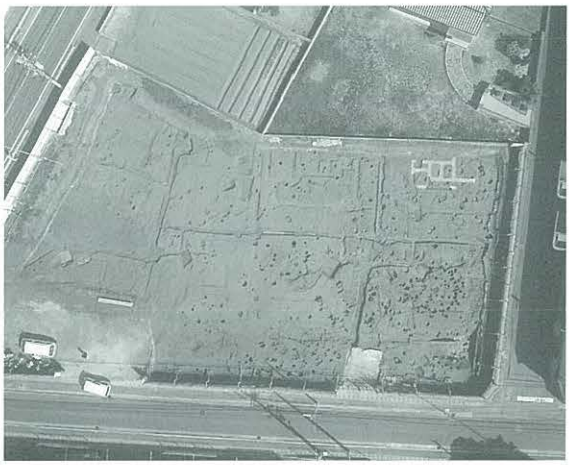
出土遺物　弥生土器・須恵器・土師器・黒曜石片が出土した。溝は、上層に古代の遺物が含まれ、中世の陶磁器片もごく少数見られる。その他、古墳時代の小型丸底壺が柱抜き痕から出土した柱穴がみられた。

まとめ　今回の調査では、掘立柱建物５棟・竪穴住居１軒・溝２条・ピットを検出した。掘立柱建物は概して小規模で、時期は弥生時代中期頃と思われる。うち１棟は埋土が方形住居と似ており、時期もこれに近いと思われる。竪穴住居は、円形住居は周壁を削られ、柱穴の並びからそれと認定したものである。方形住居には竈が設けられ、古墳時代後期頃の所産と思われる。溝のうち古代の遺物が主に出土する１条については第３次調査の大溝と併せ道路側溝とする見方があるが、路面が検出されないなど削平がひどく、それと認定するには至らなかった。

調査報告書は平成18年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(82　原　309　1:8000)



2．調査区全景（南から）

3．円形住居跡（東から）

0485 上広瀬遺跡群第2次調査(KHI-2)

所　在　地　早良区大字西字広瀬地内　　調査面積　1,350㎡
調査原因　圃場整備事業　　担　当　者　加藤 良彦
調査期間　2005.1.13～継続中　　処　　置　記録保存

位置と環境　遺跡は福岡市の西部、早良平野を貫流する室見川の上流部南岸の河岸段丘上に立地する。南北を河川に開析され、北東に延びる舌上台地上の第１次調査区の南、山麓側に隣接する。標高134～143m。遺構は耕作土下の赤橙色粘土上面で検出される。

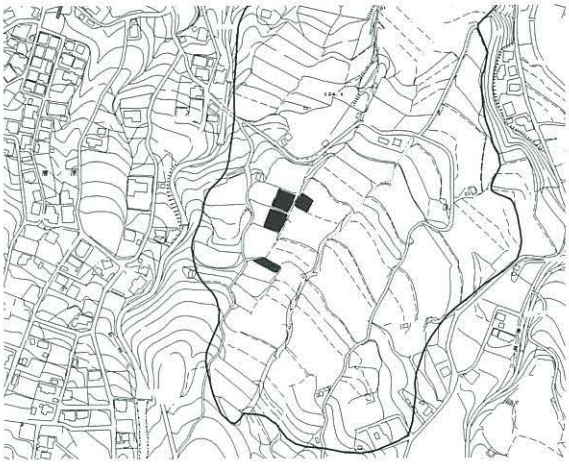
検出遺構　遺構は、縄文時代の土壙１基・柱穴・倒木痕１基、中世溝２条・焼土壙９基・柱穴、近世水田開墾時の廃石土壙１基･柱穴で､幅10～15mをあけて東西両側を中世以降の大規模な土石流が覆っている。

出土遺物　遺物は、倒木痕を中心に縄文土器・石器を、中世溝を中心に土師器坏・皿・貿易陶磁器などコンテナ１箱分を検出している。

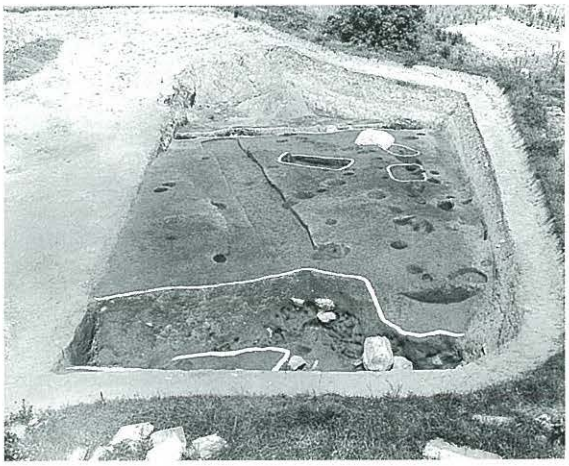
まとめ　縄文時代は地山礫層を深さ１m弱掘り込んだ貯蔵穴状の土壙を１基検出した。詳細な時期は不明。他に明確な生活遺構は検出されない。倒木痕も該期に属すと思われる。

中世の遺構は、簡易な炭焼遺構と思われる焼土壙が殆どで遺物は炭化材以外殆ど伴わない。本調査区下方の１次調査区では13世紀前後の建物群が検出されるが、当該区では焼土壙以外４区で２条の溝が検出されるのみで居住域としての内容は希薄であり、中世の開墾以降、畑地を中心とした耕作地であったと思われる。

調査報告書は平成18年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置(早良18　西　801　1:8000)



2．調査４区遠景（東から）

3．炭の残る焼土壙ＳＫ03（北から）

0486 元岡・桑原遺跡群第43次調査(MOT-43)

所　在　地　西区大字元岡字石ヶ原634-2外　　**調査面積**　38.87㎡（古墳１基）
調査原因　消防署用地造成　　**担　当　者**　池田 祐司
調査期間　2005.2.7～2005.3.8　　**処　　置**　記録保存、一部保存

位置と環境　丘陵の南側に派生する支尾根の末端に位置する元岡古墳群A群では一基の円墳が知られていた。今回、その南側に接する円墳を確認した。径６m、比高差１mほどの墳丘が残存し、その中央は陥没する。敷石が残っているようである。今回の調査では削平を受ける部分について行った。

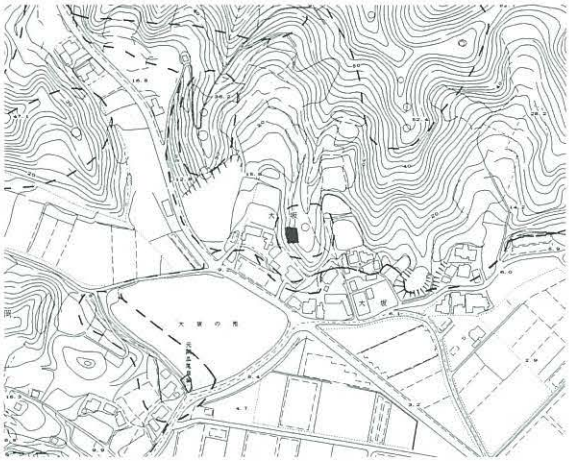
検出遺構　西側にほぼ直線的に延びる墓道を検出した。段落ちで削平を受けた箇所まで10mを測る。幅は上端で２mから2.8m、底で0.5mから0.8m、また深いところで1.3mを測る。覆土は上層が暗褐色粘質土、下層は黄茶褐色土との互層となる。

出土遺物　遺物は下層上面で出土した。須恵器の坏、蓋、甕、高坏等、土師器の甕片でコンテナケース１箱ほどである。また、少量の黒曜石、安山岩の剥片も出土している。

まとめ　検出した墓道は、掘削が深く顕著である。遺物は石室近くで正置された状態で出土した須恵器の坏が３点あり、６世紀末から７世紀初めのものである。

また、石器の出土から周辺に縄文または弥生時代の遺構が存在する可能性がある。

調査報告書は平成21年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(130 太郎丸　2782　1:8000)

2．調査区全景（南西から）

3．墓道土層（西から）

0487 那珂君休遺跡群第9次調査(NKR-9)

所在地	博多区那珂４丁目240	調査面積	700㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2005.2.10～2005.3.31	処置	記録保存

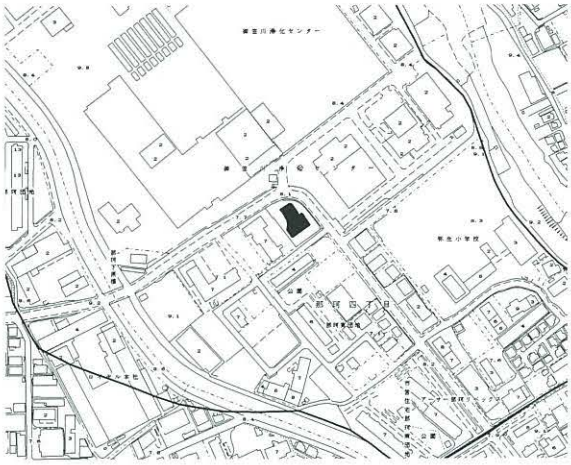
位置と環境　那珂君休遺跡は諸岡川と御笠川に挟まれた沖積地に立地する。本調査区は遺跡のほぼ中央部に位置し、現地標高は約８ｍを測る。本遺跡の南側には板付遺跡、西側には那珂・比恵遺跡群、北東側には雀居遺跡など著名な弥生遺跡が所在する。

検出遺構　廃土処理の関係から調査区を南北二分割して調査を行った。試掘では上下２面の水田面が確認されていたが、調査期間の関係から下層水田面の調査とし、深さ１ｍ前後迄重機で鋤取りし、調査を行った。主な検出遺構は水田跡、溝跡３条である。南側調査区で検出した大溝には大畦が伴い、４ヶ所の水口が確認出来た。水田面には洪水砂が堆積し、足跡などが残っていたが、水田内部を区画する小畔は確認出来なかった。水田面の調査後、一部基盤面まで掘下げ、下部遺構の調査を行った。南東側で小溝などの遺構を検出し、東側から北側は谷部となることを確認した。

出土遺物　遺物は主に大溝から出土した。出土量はパンコンテナ12箱である。遺物の時期としては弥生時代前期から中期頃の土器が多い。木製品では農耕具、杭などが少量出土している。

まとめ　遺構の時期としては須恵器などの古墳時代中期以降の遺物の出土がなく、検出した溝・水田は新しくても古墳時代前期以前と考える。また時間不足から確認出来なかったが、この水田面下に古い水田があった可能性がある。

本調査の成果は平成18年度報告の予定である。



1．調査地点の位置(24　板付　86　1:8000)

2．南側調査区全景（上から）

3．北側調査区全景（上から）

0488 藤崎遺跡第35次調査(FUA-35)

所在地	早良区高取２丁目219-2外	調査面積	200㎡（総調査面積412㎡）
調査原因	共同住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2005.2.17～2005.5.17	処置	記録保存

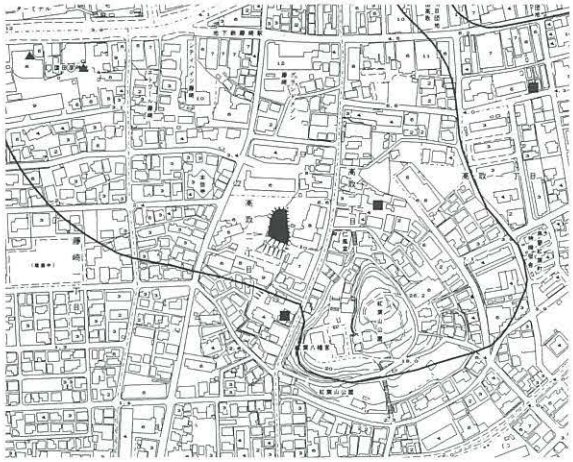
位置と環境　本調査地点（高取西皿山）は、樋井川と金屑川に挟まれた早良平野北部に位置する標高28m程度の独立丘陵上に立地する。現況は、近年の開発によって切り立った断崖状を呈しているが、元来は東の紅葉山と一続きの丘陵であったものと考えられる。ここより東に約500mの地点には、藩窯・東皿山推定地がある。

検出遺構　検出した遺構は、整地層、物原、焼土坑、性格不明遺構などである。整地層は、地山を雛壇状に削り出し、その上面に粘質土を10～40cm程度貼って造成している。整地層中には、陶器片やトンバリ片などを多量に含んでいる。また整地層中からは、壷の内部に鳥骨を収めて擂鉢で蓋をした性格不明遺構１基を検出した。鳥骨には、鋭利な刃物痕が認められ、また各部位の主軸を揃えていることから、整地に伴う何らかの祭祀遺構と考えられる。物原は、調査区の全体に広がり、高さは最大で４ｍを測った。ガラス瓶の出土などから、近代以降に形成されたと考えられるものの、『文政十一年』と刻書された匣の出土などから、近世の所産と考えられる遺物を多く含んでいると考えられる。

出土遺物　高取焼の焼損品、窯道具、銅銭（寛永通宝）等コンテナケース約380箱分を回収した。器種は擂鉢、甕、神仏具用花入、壷などの日常雑器が中心である。窯道具にはハマ、トチン、匣等があり、陶工名を記したものも見られる。

まとめ　今回の調査では、窯本体の検出には至らなかったが、雛壇状の整地や祭祀遺構の検出など、何らかの窯業施設の一部と推定される。整地層の形成時期は、包含する遺物から西皿山開窯以降の近世と考えられる。また、周辺は地形の改変が著しく、本調査で検出された物原がどのように形成されたか検討を要する。

調査報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置(81　室見　307　1:8000)

2．調査区全景（北から）

3．物原東壁断面（南西から）

0489 井尻B遺跡群第24次調査(IGB-24)

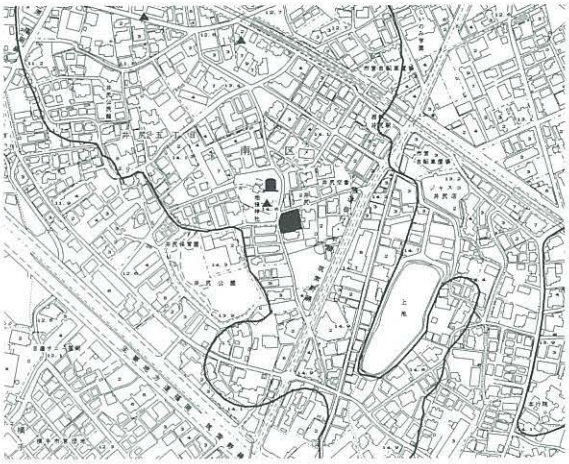
所在地	南区井尻５丁目163-4外	調査面積	66㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	吉武　学
調査期間	2005.2.15～2005.2.25	処置	記録保存

位置と環境　井尻B遺跡群は、御笠川と那珂川の間に形成された洪積中位段丘面上に立地する。第24次調査地点は井尻B遺跡群の南部にあたり、かつて鉄鎌が出土したという地禄神社の南東側に道路を挟んで隣接する。１軒家屋を挟んで南側に第23次調査地点、更に南側約30mには第２次調査地点が位置する。調査前は個人宅地で、共同住宅の給排水設備設置工事により破壊を受ける敷地周縁部分のみを調査対象とする。地表面の標高は14.7mで、遺構面までの深さは30㎝前後。

検出遺構　地山は鳥栖ロームで、最上層には暗褐色ロームが一部残る。ローム直上には深黒色粘質土の遺物包含層が乗り、古代の土器が出土するが量は少ない。前宅地の排水管埋設溝や、家屋解体時のものとみられる攪乱坑により、遺構面のほとんどが破壊を受けており、検出した遺構は断片的に過ぎない。土坑と思われる落ち込み２、溝１のほか、ピット約20がある。また、先土器時代包含層の存在が予想されたため、暗褐色ロームの一部を掘り下げたが、検出面の５㎝下で黒曜石チップ１点が出土したに留まる。

出土遺物　出土遺物は極めて少なく、コンテナ1/2箱。弥生土器・土師器・須恵器などの土器小片と、黒曜石片２点がある。１～３は弥生土器、４は古墳時代の須恵器杯、５は古代の土師器椀、６は同じく古代の須恵器杯である。１は土坑SK-005、３はピット、他は攪乱坑等から出土した。図化していない他の土器片は弥生土器が大半を占め、古式土師器を数点含む。７は黒曜石剥片で僅かに使用痕が認められる。攪乱坑出土。

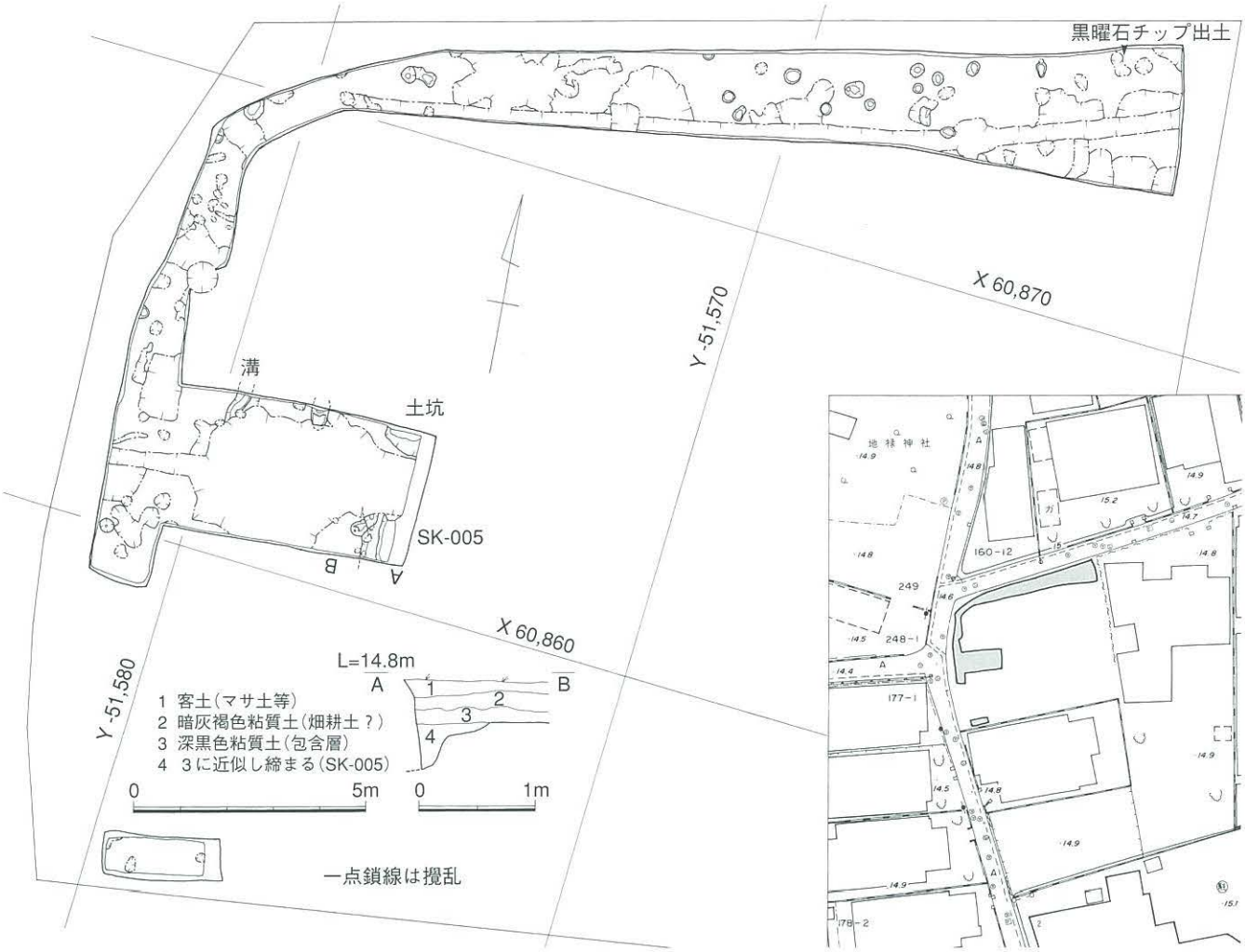
まとめ　土坑・溝は出土遺物が少ないが覆土からみて古代、ピットの大半は弥生時代の遺構であろう。調査区が狭く、遺構の残りも悪いが、弥生時代後期と古代を中心とする遺構が広がっているものとみられる。



1．調査地点の位置（25　井尻　90　1:8000）

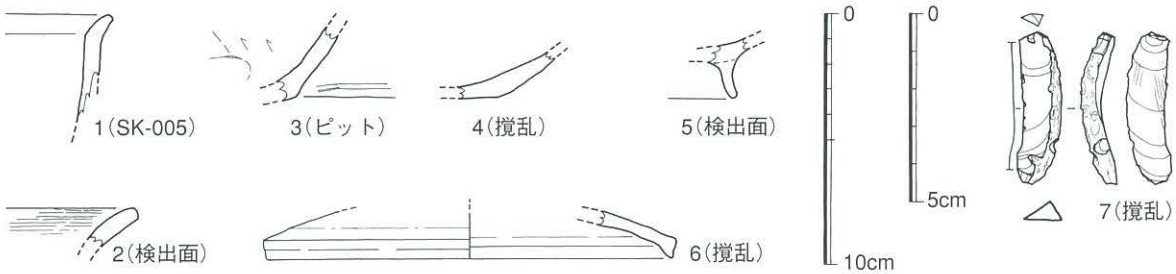
2．調査区北側（西から）

3．調査区西側（北から）



4．遺構の配置（1:150）

5．調査区の位置（1:1000）



6．出土遺物（1:3、1:2）

7．調査区西側（東から）

8．調査区南側（東から）

0490 那珂遺跡群第108次調査(NAK-108)

所在地	博多区竹下３丁目1-1	調査面積	454㎡
調査原因	工場建設	担当者	長家　伸
調査期間	2005.3.8～2005.3.18	処置	記録保存

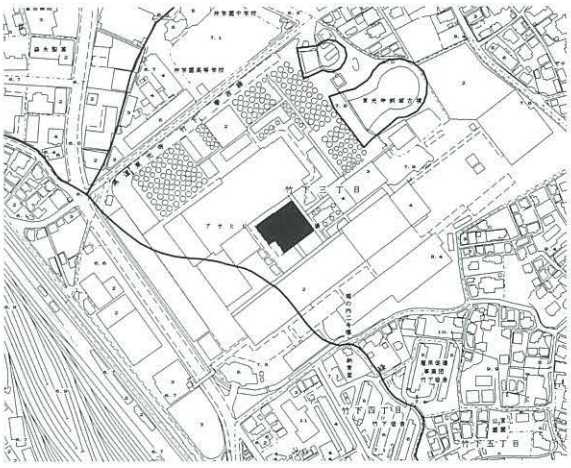
位置と環境　調査地点は那珂遺跡群の北西に位置する。本工場内での調査においては、弥生時代貯蔵穴群や甕棺墓・土坑墓等の埋葬遺構群、前方後円墳である東光寺剣塚古墳、古代の地域内の政治的中心である官衙的遺構群、中世館を構成すると考えられる堀等、多種多様の遺構・遺物が確認されている。

検出遺構　調査区内では旧レンガ棟の基礎による撹乱・削平が著しく、遺構面は現地表から150～250cmの盛土を除去した鳥栖ローム層最下位及び八女粘土層上面で、遺構面標高は南側で6.4m、北側で5.3mである。調査区北側隣接地では第50次調査が行われており、この時に第50次調査地点の南側には谷地形が入り込んでいることが確認されており、今回の調査でもこの谷部の延長が確認できた。第50次調査では弥生時代～中世に位置付けられる多くの遺物が出土しているが、今回は谷部堆積土からほとんど遺物は出土していない。この他不整形の土坑が検出され、弥生時代中期の遺物が出土している。

出土遺物　弥生時代中期後半～中世の遺物がコンテナ１箱出土している。

まとめ　今回の調査地点では遺物出土量は少なかったものの、丘陵を侵食する谷地形の一部を確認することができた。

報告書は平成18年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37　東光寺　85　1:8000）

2．調査区南東部全景（北東から）

3．調査区北西部全景（南東から）

0491 板付遺跡群第70次調査(ITZ-70)

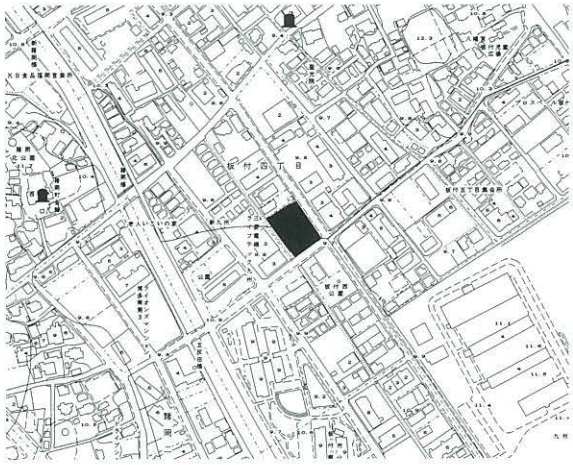
所在地	博多区板付４丁目6-4	調査面積	240㎡
調査原因	共同住宅建築（試掘）	担当者	吉留 秀敏
調査期間	2005.2.9～2005.2.10	処置	記録保存

位置と環境　板付遺跡の南西縁辺部にあたり、近年まで諸岡川右岸の水田であった。現在の標高は約10mである。当初の試掘で時期不明の水田面が発見されたため、改めて試掘調査を実施した。

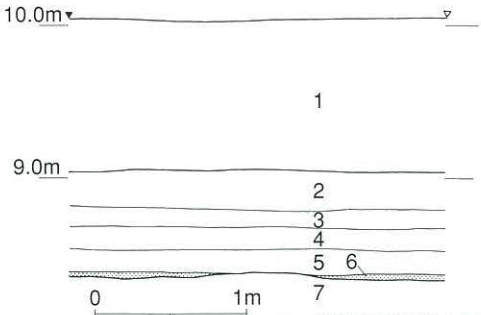
検出遺構　調査は工事予定建物に沿ってT字形の範囲である。遺構は７層上面で畦畔、水田面を検出した。畦畔の上面には砂の被覆がなくやや削平されている。畦畔法面と水田面は６層粗砂に被覆され、保存状態はよい。水田面は緩い凹凸があるが、足跡、株痕などは検出できなかった。畦畔は高さ５～10cmあり保存状態は良い。南北からやや西に振りおおよそ並行した３条とそれに直行する２条を検出した。調査区西側には畦畔が認められず、西端で７層が下がり粗砂層の厚い堆積をある（図中網部）。水路の可能性があるものの、調査区端で湧水と壁面崩落の恐れがあり、掘り下げを断念した。水田面で全面を検出できたものはないが、範囲内では何れも幅５m前後、長さ７～10m程度の広さであり、30～50㎡の小規模な田面とみられる。畦畔の１カ所が途切れており、水口とみられた。

出土遺物　水田面や上下の堆積土中からの遺物はなく、２～３層中から近世磁器片や中世瓦片を少量出土したのみである。

まとめ　検出した水田面の時期は不明であり、中世～弥生時代の範囲とし、厳密な時期比定は今後の周辺調査に委ねたい。

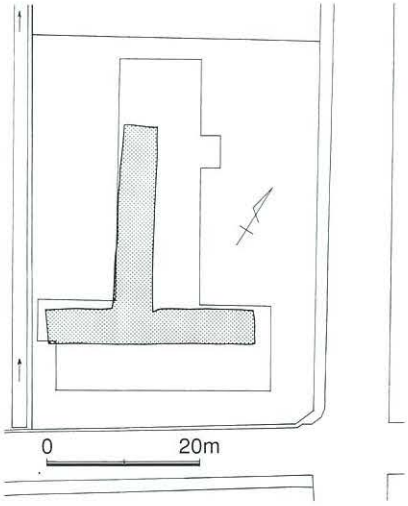


1．調査地点の位置(24　板付　313　1:8000)

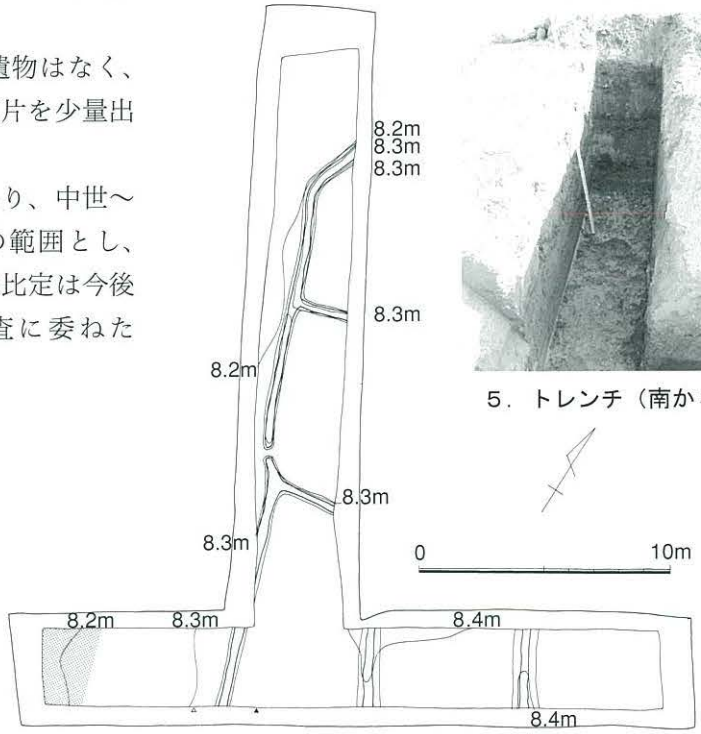


4．調査区南壁土層図（1:50）

5．トレンチ（南から）



2．周辺地形図（1:1000）



3．遺構平面図（1:300）

0492　原東遺跡群第3次調査(HRH-3)

所　在　地　早良区飯倉４丁目267-7　　調査面積　36.00㎡
調査原因　共同住宅建築（試掘）　　担　当　者　吉留 秀敏・本田 浩二郎
調査期間　2005.3.4　　処　　置　記録保存

位置と環境　原東第３次調査地点は、昭和53年度に調査を行った第１次調査点の東側に位置する。調査地点の現地表面の標高は5.60m前後で、60㎝前後の盛土によって水田は造成される。水田以下に床土が形成され、以下に洪水時の堆積層が検出される。遺構面上には遺物包含層は形成されておらず、過去の水田開発時に削平されたものと考えられる。検出された遺構も上部が大きく削平され、遺存状況はやや不良である。遺構面は標高4.2m前後の厚さ10㎝程度の黄褐色粘質土層面上となり、以下は粗砂混じりの八女粘土層が検出される。

検出遺構　調査の結果、甕棺墓１基・土壙墓１基・方形区画溝２条を確認した。いずれの遺構も過去の削平により遺存状況は悪い。甕棺墓は合口の成人棺で、上甕は口縁部のみが検出された。ほぼ水平に埋置され、主軸はN-20°-E方向を採る。第１次調査で検出された甕棺墓の列埋葬の一部であろう。土壙墓は平面形が隅丸の長方形を呈し、短軸50㎝前後、長軸は調査区内で1.0m分が検出された。検出面から土坑底面までの深さは20㎝前後を測り、埋土は暗灰褐色粘質土が堆積する。土坑埋土から土器小破片が１点出土したのみである。土器片が１点のみ出土した。方形区画溝は第１次調査で検出されたSD-52と同一遺構と考えられ、埋土からはまとまった量で土器が出土する。埋土は上層に暗褐色～暗灰褐色粘質土、下層に黒褐色～青黒褐色粘質土が堆積する。祭祀溝に伴う遺構か。

出土遺物　出土遺物を図８示した。

１・２は甕棺である。３～９はSD-03より出土した遺物である。いずれの遺物も器面は摩滅しており、調整痕はほぼ失われているが、８・９の外器面には丹塗痕が残る。10・11はSD-04より出土した遺物である。

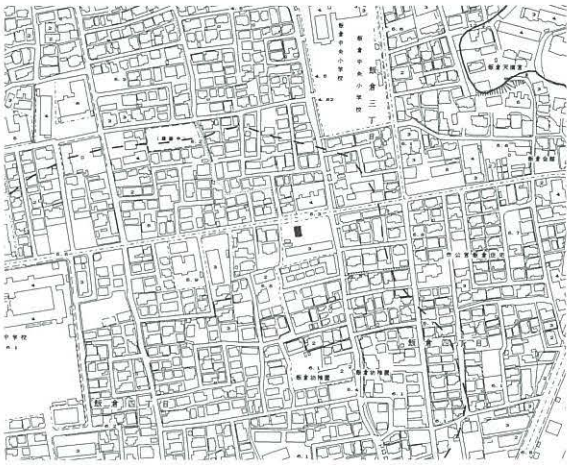


図１　調査地点の位置(82　原　313　1:8000)

図２　調査区全景（北から）

図３　甕棺墓完掘状況（南東から）

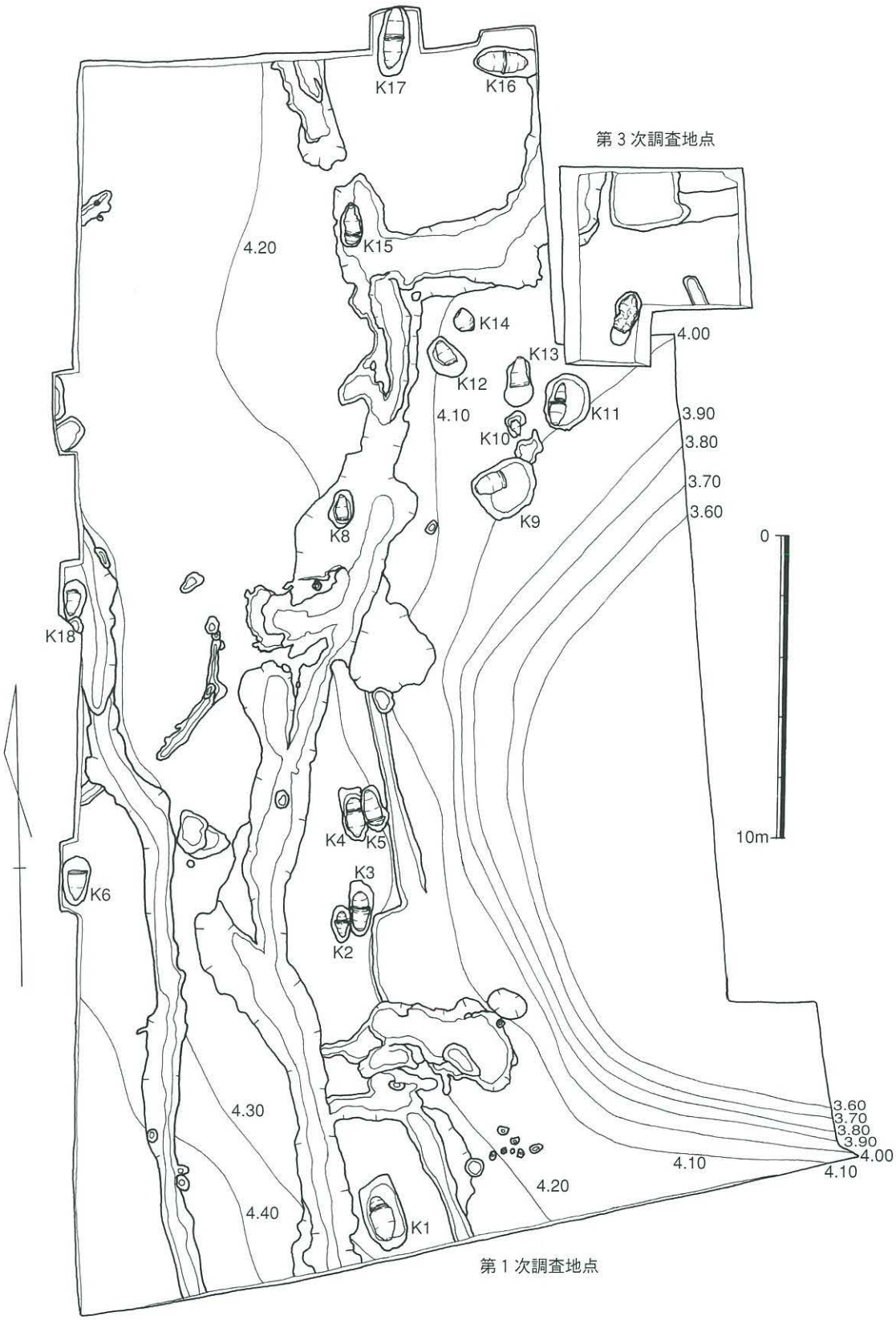


図４　調査区位置図（1/200）

ま と め　今回の調査により谷の落ち際まで甕棺墓の列埋葬が展開していることが確認された。この列埋葬は南北方向にベルト状に配置されており、当時の地形復元を行う上で重要な知見である。今回の調査範囲より東側については、試掘調査・遺構検出状況より遺構の存在の可能性は低いものと考えられる。今回の確認調査は、未調査部分で影響の及ぶ範囲33.56㎡について行った。これより東側については谷の内部に位置することが前回の試掘成果から予想されており、今回の遺構検出状況からも遺構の存在の可能性は低いと判断し、調査範囲からは除外している。

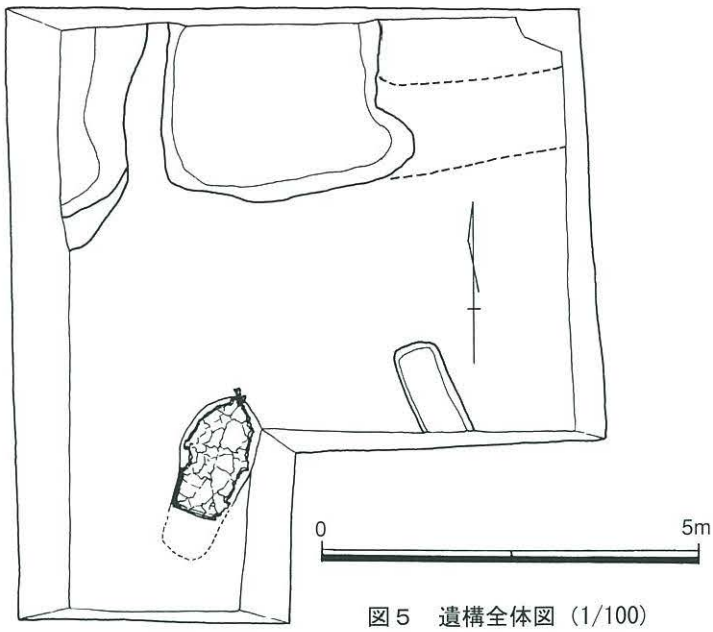


図５　遺構全体図（1/100）

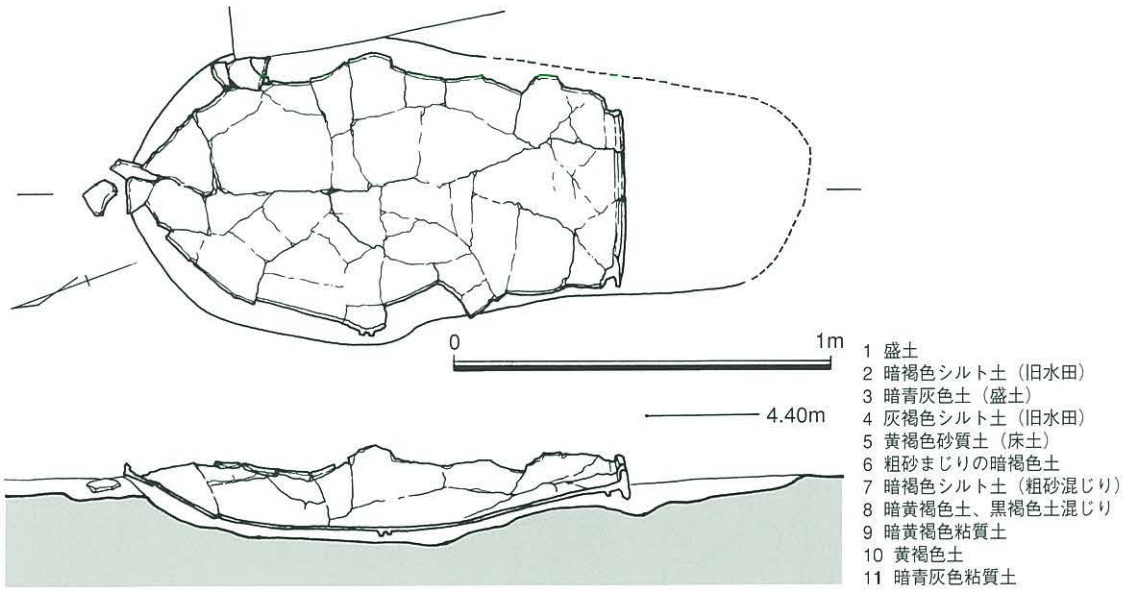


図６　甕棺墓実測図（1/20）

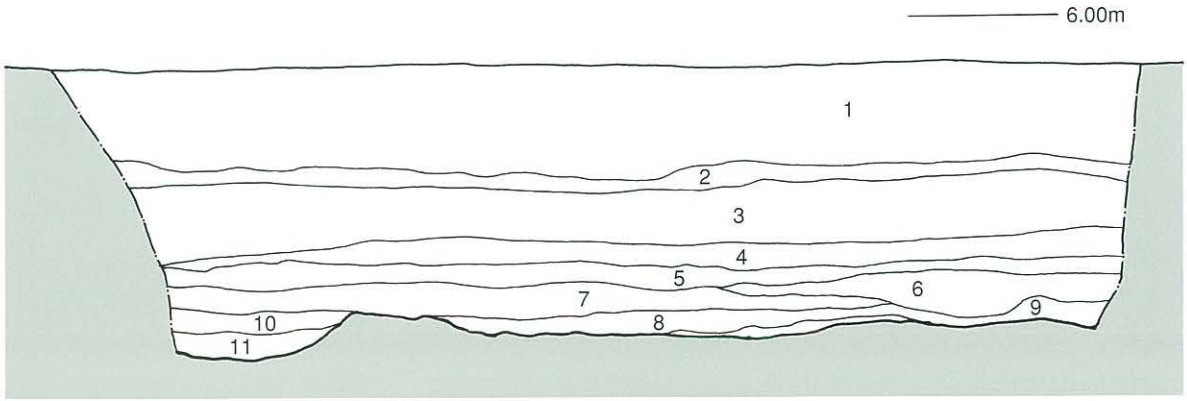


図７　調査区土層実測図（1/50）

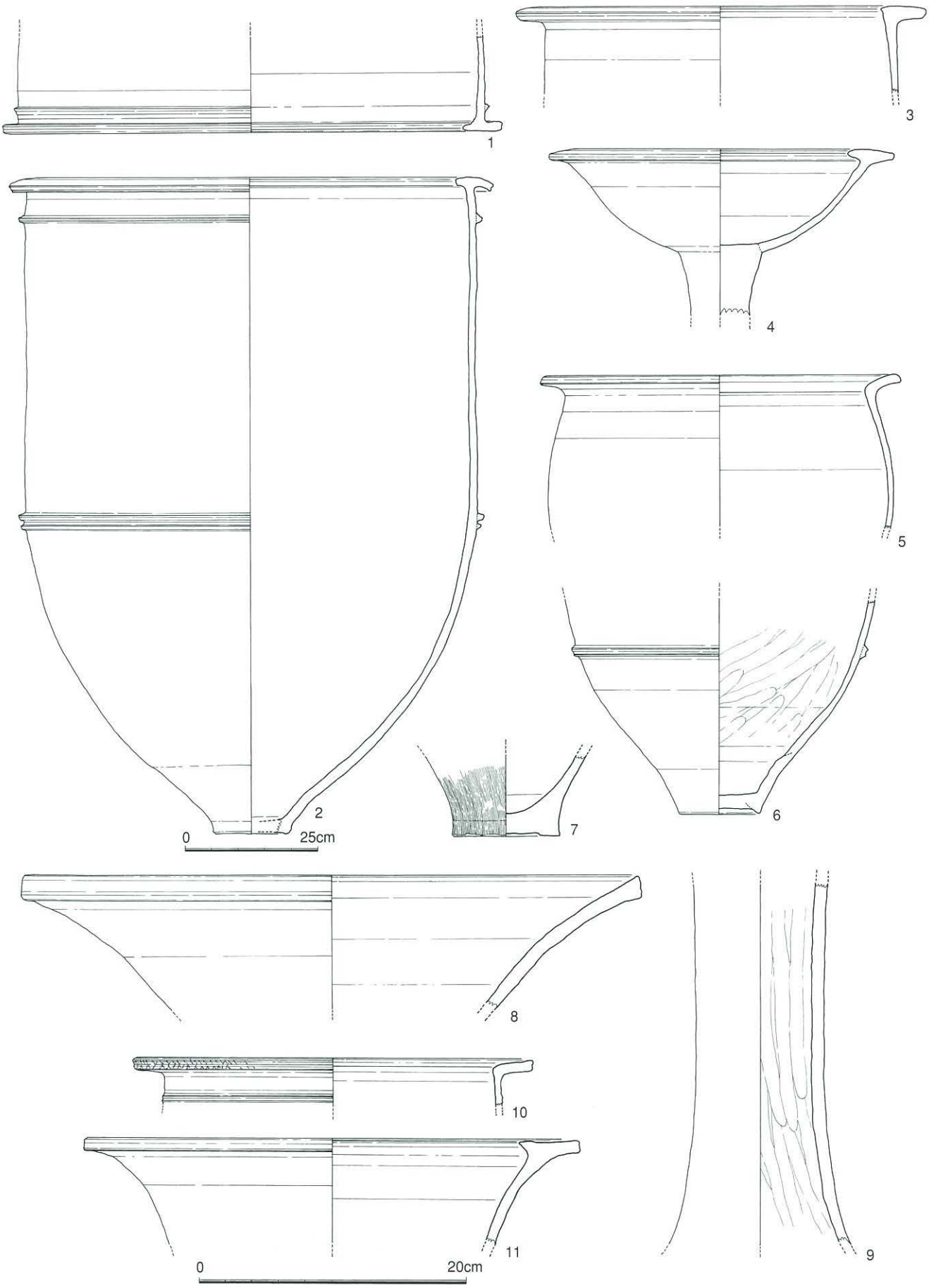


図８　遺物実測図（1/4、1/10）

0493 今宿地区古墳群確認調査（第1次）

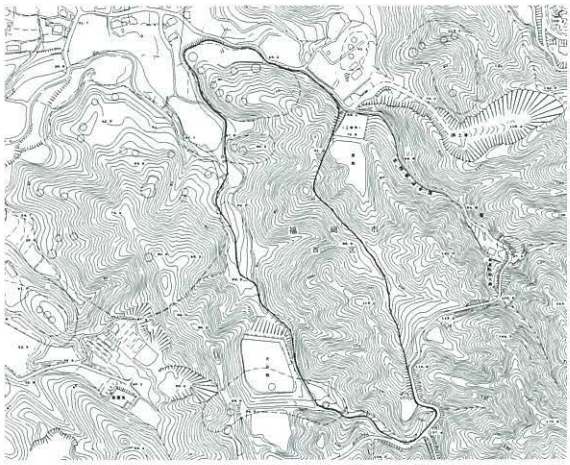
所在地	西区大字飯氏地内	対象面積	250,000㎡
調査原因	詳細分布調査	担当者	加藤 良彦
調査期間	2005.3.15～2005.3.28	処置	現状保存

位置と環境　今宿古墳群は、福岡市の西部に位置する今宿平野を望む、高祖山の北麓から派生する小支丘群上に分布する350基を超える群集墳からなる。この中に鋤崎古墳や丸隈山古墳を含む13基の前方後円墳が分布している。これらは現在までに確認調査が終了し、首長系譜を構成する全古墳の時期・内容のおおよそが判明している全国的にも希有な古墳群であり、主要な前方後円墳が一括で平成16年国史跡に指定されている。

調査概要　周辺地域は九州大学移転事業や伊都地区区画整理事業等大規模開発が進み民間事業者の開発事業も増加する傾向にあり、埋蔵文化財の破壊の懸念が高まっている。これらを未然に防ぎ、適切な保護と活用を図るため古墳群全体の保存計画を早急に進める時期にきており、首長墓群と他の群集墳との関連・新たな首長墓の確認等基礎的な資料を得るため、今年度は高祖山西麓、飯氏地区（飯氏古墳群）で調査を実施した。

人力で現地踏査を行い、確認した古墳毎に墳形・規模・外部施設・内部主体・現況の各項目で調査を実施し、位置に関しては各古墳の詳細な分布地図を作製するためリファレンシャルGPS受信機を導入し、確認した古墳毎に測定を実施しデータを集積した。

確認した古墳は21基にのぼり、飯氏古墳群C群で新たに円墳４基・飯氏古墳群F群で新たに円墳１基・F群南200mの支丘上で新たな古墳群で円墳２基、さらに南で２基を新たに確認した。また、C群の丘陵尾根線上で前期古墳の可能性がある高まり３ヶ所を確認した。それぞれ頂部に盗掘痕跡があり、石材が露出しないため木棺直葬の可能性がある。このうちA･B２基は南東に前方を向けた25～30m前後の前方後円墳の可能性も考えられる。



1．調査地点の位置（121　飯氏　700他　1:8000）

2．調査風景

3．飯氏Ｉ－３号墳（西から）

V　平成16年度刊行報告書一覧

集	書　　名	副　題　等	調査番号	編　集
832	比恵遺跡群37	第82次調査報告	0308	岡三リビック 堀苑孝志
833	兜塚古墳2	飯氏古墳群A-1号墳　墳丘確認調査	0325	藏冨士寛
834	井尻B遺跡13（14が正）	市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告書Ⅲ－井尻B遺跡第17次調査(B区)の報告－	0027	屋山　洋
835	今山遺跡	第8次調査－石斧製作址と縄文時代前期から平安時代までの遺構・遺物の調査－	9951	米倉秀紀
836	蒲田部木原7次		0328	中村啓太郎
837	空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告書4　　久保園遺跡3	第3次調査報告	0350	吉武　学
838	鴻臚館跡15	平成14年度発掘調査報告書	0218・0309	大庭康時
839	下月隈C遺跡Ⅴ	福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈C遺跡第6次調査発掘調査報告	0018	山崎龍雄
840	次郎丸高石2	次郎丸高石遺跡第6次調査報告	0315	池田祐司
841	那珂37	那珂遺跡群第66次調査報告	9818	瀧本正志
842	那珂38	那珂遺跡群第93次調査報告	0348	長家　伸
843	那珂39	那珂遺跡群第94次調査報告	0361	長家　伸
844	那珂40	那珂遺跡群第96次調査報告	0413	長家　伸
845	長垂大谷遺跡	長垂大谷遺跡第1次調査報告	0307	加藤良彦
846	西新町遺跡8	西新町遺跡第16次調査報告書	0322	松浦一之助
847	博多101	博多遺跡群第126次調査報告	0030	杉山富雄
848	博多102	博多遺跡群第142次調査の概要	0332	大塚紀宜
849	博多103	博多遺跡群第143次調査報告	0333	荒牧宏行
850	博多104	博多遺跡群第144次調査報告	0334	星野惠美
851	博多105	博多遺跡群第145次調査報告	0342	本田浩一郎
852	筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅳ　　箱崎22	箱崎遺跡第22次調査報告（2）	0022	榎本義嗣

集	書　　名	副　題　等	調査番号	編　集
853	筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅴ　　箱崎23	箱崎遺跡第26次調査報告（2）	0108	佐藤一郎
854	箱崎24	箱崎遺跡第39・41・44次調査	0302・0343・0368	中村啓太郎
855	比恵38	比恵遺跡群第83次調査報告	0312	荒牧宏行
856	比恵39	比恵遺跡群第85次調査報告	0321	長家　伸
857	比恵40	比恵遺跡群第87次調査報告	0353	荒牧宏行
858	比恵41	比恵遺跡群第90次調査の概要	0364	大塚紀宜
859	麦野Ａ４	麦野Ａ遺跡群第14次調査報告	0367	荒牧宏行
860	九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書　元岡・桑原遺跡群４	第12、15、24次調査の報告	9902・9923・0034	菅波正人
861	九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書　元岡・桑原遺跡群５	第13・17・25・29・37次調査の報告	9903・0052・0204・0365	星野惠美
862	浦江古墳群第1号墳	彩色壁画を有する古墳の調査-浦江遺跡第5次調査3-	0144	藏冨士寛
863	浦江遺跡	第5次調査2-甕棺墓地区の内容確認調査報告	0144	常松幹雄
864	吉武遺跡群ⅩⅦ	飯盛・吉武圃場西武関係調査報告書11-古墳時代生活遺構編2-	8335・8416・8535	加藤良彦
865	広瀬遺跡1	広瀬遺跡第1次調査1	0326	加藤良彦
866	金武地区農村振興総合整備統合補助事業関係調査報告2　　金武2	浦江遺跡第5次調査4・城田遺跡第2次調査報告1	0329	藏冨士寛
867	中南部（8）	麦野Ａ遺跡第6・7・11・13次調査　麦野C遺跡4・7～9次調査　雑餉隈遺跡第11・13次調査　寺島遺跡第2次調査	9628・9824・9916・9972・0139・0156・0208・0234・0304・0305・0306	本田浩一郎
868	雑餉隈遺跡		0243・0349	岡三リビック 堀苑孝志
	福岡市埋蔵文化財年報Vol. 18	2003年度	0317・0319・0338・0347・0354・0358	濱石哲也

福岡市内の遺跡調査として福岡県教育委員会から下記の報告書が福岡県文化財調査報告書第200集として刊行されている。

県200	県立修猷館高校改築事業関係埋蔵文化財調査報告書5　　西新町遺跡Ⅵ	福岡県福岡市早良区西新所在西新町遺跡第14・15次調査報告書	0161・0241	県教委 岡寺未幾

Ⅵ　平成16年度福岡市新指定文化財

福岡市教育委員会では、平成17年２月７日の福岡市文化財保護審議会の答申を得て、同年３月24日、「京ノ隈経塚出土品」など以下の５件を新たに福岡市指定文化財として告示しました。これで福岡市指定文化財は146件、2,972件になります

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者、保持者又は保持団体
有形文化財	考古資料	京ノ隈経塚出土品	197 点	博多区井相田二丁目1番 94 号（福岡市埋蔵文化財センター） 早良区百道浜三丁目１番１号（福岡市博物館）	福岡市
無形文化財	武術	双水執流柔術	—	博多区上呉服町３番３号	舌間　萬三
		為勢自得天真流柔術	—	中央区六本松一丁目１番５号	三舟　統一郎
民俗文化財	無形民俗	金隈の鳶の水	—	博多区金隈一丁目	金隈の鳶の水保存会
		石釜のトビトビ	—	早良区大字石釜	石釜のトビトビ保存会

指定文化財の概要

１．有形文化財「京ノ隈経塚出土品」

1974(昭和49)年、城南区田島３丁目の宅地造成に伴う事前の発掘調査によって確認された平安時代後期(12世紀前半)の２基の経塚の出土品。経塚とは、仏教の経典を写経して、地中に埋納した施設で、末法思想が広まったこの時代に多くが築かれた。

１号主体は小さな石室の中に国産の甕と中国製の陶器を合わせた容器を据え、その中に銅板製の経筒を納めている。２号主体は、同様の石室内に石製の経筒が置かれていた。それぞれから、中国製の青白磁の容器や鉄製品などの副納品が多数出土した。

２．無形文化財「双水執流柔術」

保持者　第十六代舌間萬三氏（昭和22年12月３日生）

福岡藩伝来の武術の一つ。柔術とは武器を持たず、あるいは小武器を利用し、突く・当てる・打つ・蹴る・投げる等々の技で相手を負かし、また相手の攻撃を回避する武術。二神流を興した豊後竹田藩士二神半之助を流祖とする。二神半之助は舌間氏の斡旋により黒田家に仕え、その後、双水執流の名で代々舌間氏に継承され現在に至っている。宗家舌間萬三氏は流祖から数えて十六代目になる継承者。

3．無形文化財「為勢自得天真流柔術」

保持者 第十六代三舟統一郎氏（昭和24年12月17日生）

福岡藩伝来の武術の一つ。流祖は福岡藩士藤田長助麓憲貞（天保15年・1844没）。藤田は笠原流、揚心流、良以心当流の三流派の皆伝を得た後、自ら為勢自得天真流を興し、娘婿庄林藤原道一が流名を自剛天真流と改め継承、その道統は玄洋社附属道場で学んだ横田正米潔慶（明治27年-昭和47年）に引き継がれた。第十六代宗家三舟統一郎氏（昭和24年12月17日生）は十二歳で横田正米師範に入門、当流の極意と秘術を相伝され現在に至っている。

4．無形民俗文化財「金隈の蔦の水」

所在地 福岡市博多区金の隈一丁目

暮から小正月にかけて行われる来訪神行事の一つ。特に小正月と呼ばれる一夜（正月十四日）には扮装した青少年たちが、家々を訪れ、祝言を述べて廻る行事が全国各地で広く行われ、ナマハゲ・ホトホト・コトコト・トビトビ・カセドリ・カセダウチ等々様々な名称で呼ばれている。金隈では正月二日の午前中に行われ、金隈の観音堂から出発し、棕櫚皮で編んだ蓑と菅笠を着けた年長者（中学生）の水がかり（水かぶり）と子供たちが町内各戸をお祝いして廻る。

5．無形民俗文化財「石釜のトビトビ」

所在地 福岡市早良区大字石釜

以前は正月十四日の晩に行っていた小正月の来訪神行事。トビは上部を括った藁束であり、被れば蓑を着けた恰好になる。蓑は神様の衣装とされる。トビは、各戸に輪（輪注連）を配って廻るが、男の子が生まれた家には藁馬を、女の子が生まれた家には藁海老を届けてお祝いする。家人はトビに餅やお菓子の祝儀を渡してから用意した水を柄杓などでトビにかける。輪は神棚に供えたり屋根に投げ上げて家内安全を祈願するという。

福岡市埋蔵文化財年報
VOL. 19
ー平成16（2004）年度版ー

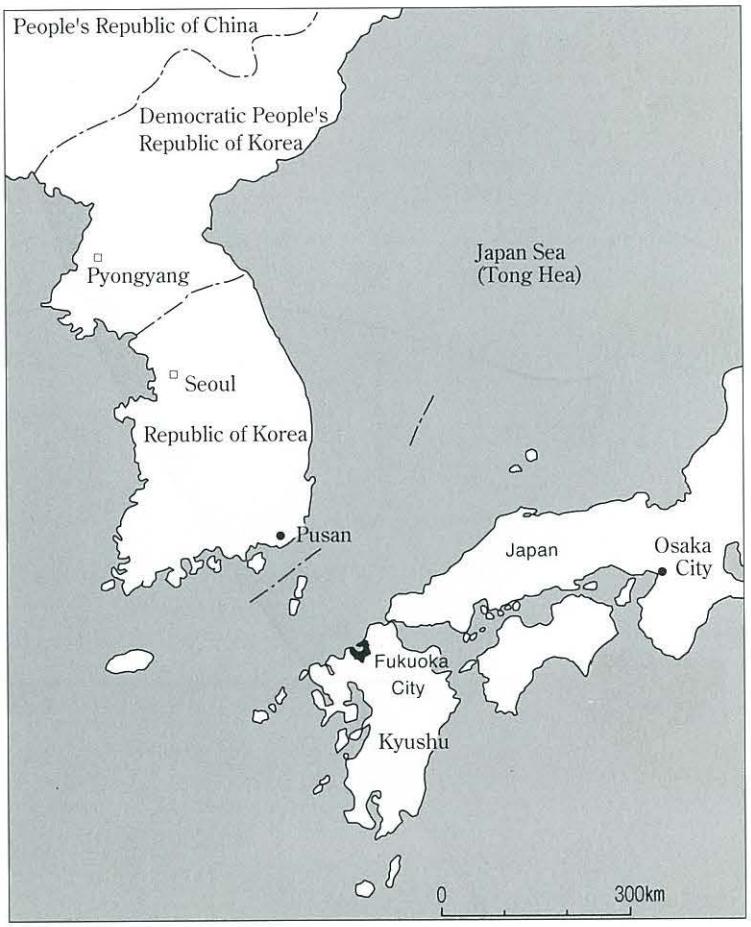
発　行　日　平成18年3月31日
編集・発行　福岡市教育委員会文化財部
埋蔵文化財課
福岡市中央区天神1丁目8-1
印　　刷　株式会社ドミックスコーポレーション
福岡市博多区博多駅南6丁目6-1

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 19



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2006

JAPAN